

# 方言文法調査 ガイドブック

大西拓一郎編  
2002年



# 方言文法調査ガイドブック

大西拓一郎編

2002年

科学研究費基盤研究(B)(2)

「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」  
(1998-2001年度, 課題番号 10410097) 研究成果報告書

科学研究費基盤研究(B)(1)

「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」  
(2002-2005年度, 課題番号 14310196)

研究代表者 大西拓一郎(国立国語研究所)

研究分担者 三井はるみ(国立国語研究所)

井上優(国立国語研究所)

井上文子(国立国語研究所)

日高水穂(秋田大学)

小林隆(東北大学大学院)

小西いずみ(東京都立大学)

沖裕子(信州大学)

渋谷勝己(大阪大学大学院)

木部暢子(鹿児島大学)

研究協力者 伊豆山敦子



# 方言文法調査ガイドブック

## 目 次

総論	大西拓一郎	1
可能	渋谷勝己	7
自発	渋谷勝己	29
ヴォイス（受動文を中心に）	日高水穂	37
テンス・アスペクト	木部暢子・沖裕子・井上文子	65
条件表現	三井はるみ	85
接続詞	沖裕子	103
格助詞	小林隆	109
モダリティ	井上優	133
活用	大西拓一郎	151
琉球の視点	伊豆山敦子	207



## 総論

# 総論

大西拓一郎

### 1. ガイドブックのねらい

本書は方言文法を調査・記述する際の主要な視点を具体的な項目や資料とともに提示するものである。このガイドブックを利用することで、各地方言におけるそれぞれの文法分野の中核的部分が、ひととおり記述できることをめざしている。

大学の修士課程レベルはもちろん、学部レベルでも高度の研究に挑もうと考える人、また、一般の人でも論点の把握につとめれば、文法上の問題点をおさえながら一定のレベルでの研究が進められると期待する。

### 2. 各章について

本書は文法分野別に独立して章立てしている。それぞれがステップを踏んで進んでいくという性質にはない。したがって、読者の関心に従って、必要な箇所を読み進み、研究を進めればよい。

なお、琉球に関しては、各文法分野が本土方言と同レベルで扱えるとは限らないことから、別立てにして章を設けている。しかしながら、普遍的な問題点に大きな差はないはずで、琉球を対象にする人も関連分野の章を参照し、また、本土を対象とする人も琉球の章に一度目を通しておくとよいだろう。

### 3. 分野の設定

本書は、文法に関するすべての分野をカバーしているわけではない。本書で扱わなかった分野であっても研究上、重要な分野は存在する。例えば、推量・様態などといった分野は、独立した形では扱っていないが、これらも十分に研究対象となる分野である。関連する章(例えばモダリティ)を参照しながら平行的に問題点を整理し、挑戦していくことを望む。

### 4. 調査項目の利用・改変

それぞれの章で具体的な調査項目が設定されているが、それらは絶対的なものではない。対象となる方言にはそれぞれの体系上の背景があるはずで、それが、本書の調査項目とは微妙にずれることは十分に予想される。また、各自の研究テーマにおける問題の設定と本書の項目が適合するとも限らない。各地方言や研究者自身の事情にあわせて改変して利用することを推奨する。

なお、以上の改変を含めて本書の利用は自由であるが、利用のむねを論文・著書に記載していただくと幸いである。

## 5. その他

本書は、文法記述を念頭において編集している。文法記述のためには対象となる方言の音韻の記述は、クリアしていることが前提である。音韻記述がなければそれぞれの方言の表記ができない。最低限、それぞれの方言で区別のある音は聞き分け、書き分ける能力をもって臨んでほしい。また、文法記述とは言っても語彙、その他の言語事象から完全に独立しているとは考えないでほしい。場合によっては、言語行動や生活事情が有意味に機能することもあるはずだ。それぞれの地域に入ったら、面倒がらず、広くさまざまなことに興味を持って地域に接してほしい。ひいてはそれが、文法問題の解決に結びつくこともあるはずだ。そんなことからこそフィールドワークの面白さが実感されるものなのである。

## 6. ガイドブック作成の経緯

本書は科学研究費基盤研究(B)(2)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(1998-2001年度、課題番号 10410097)研究成果報告書である。

科研費の報告書としては、いっぼう変わっているが、このような報告書に至った経緯を簡単に説明しておく。

この研究課題ではメンバーが集まって、方言文法に関する問題点をさまざまに持ち寄り「方言文法調査委員会」(略称 DGC=Dialect Grammar Conference)と証する研究会を年数回開催していた。この DGC は、1998 年 7 月から 2002 年 1 月まで、合計 9 回にわたって開催された(発表件数 28)。その他に科研費の開始前から所内のメンバー(時には所内に滞在していた木川行央氏やピーターヘンドリクス氏といった在外研究員もまじえて)で 2～3 月に 1 回の割合で DGT と称する小研究会を開催していた(T は茶話会に基づく)。小研究会の方は、その後、所内のメンバーが極めて多忙になってしまったため、先細りしてしまっただが、メンバー相互の関心のありかを気楽に語りあえる研究会で、意外に知られていない方言文法上の事実が発見されたりして、面白いものであった。その他、科研費の分担者に協力者も加わったメーリングリストを開催したりもした。

このように研究発表を重ねるうち、課題初年度の終りごろだったと記憶するが、研究発表を続けるだけでよいのか、全体としての目標を定めるべきではないかという声があがった。声をあげたのは、渋谷勝己氏ではなかったかと記憶する。

そのころ大西も自身が国立国語研究所でおもな仕事としている『方言文法全国地図』の項目設定に問題を感じており、将来的な全国方言の調査のための項目設定の準備の必要性を感じていた(大西 1998b)。そのような項目の設定には、基礎研究に裏打ちされた、つまり、研究上の位置付けが明瞭な項目を作成する必要がある。ある意味で恣意的な項目設定は後世を迷わせ苦労させることを身に染みて感じていたからである。

ここから具体的な項目を持つ方言文法に関するガイドブックが発想された。課題期間 2 年目にあたる 1999 年 8 月の第 4 回と 2000 年 3 月の第 5 回の DGC で大西がこの点について発表している。

## 総論

そしてそれをもとにしながら、メンバーそれぞれの専門分野を中心に分担して作成にあたった。

ところで、大西の将来的な調査の構想は、ネットワークによる調査、JDnet 構想につながっている(大西 2000,2002)。この構想の中の標準項目(SI=Standard Items)の設定が、ガイドブックに収めた各項目に結びつくものである JDnet 自体がまだ実現していないこともあって、本書の執筆メンバーも十分に認識しているかどうかあやういではあるが、実は、未来に向けた研究の流れ全体の中では、本書はこのような位置付けにある。

本研究は、時に迷走しながら(初年度の代表は、井上優氏であったが、2年目に氏が中国に出張することになり、大西に代表が交替、その後氏は研究協力者として参加)、またメンバーをふくらませながら進展してきた。協力者についてふれておくと、本書の執筆メンバーのうち、沖裕子氏は2000年度途中(当時、国語研究所に内地留学中)からDGCに参加している。また、小西いずみ氏(大西の章の資料作成に協力した)は、2001年1月から参加した。伊豆山氏は、研究の立ち上げ時から協力者として参加してきた。

DGCは研究会として開催し、常に予定時間を大幅に超過しながら実施して来た。中には長時間にわたるため(また、午後5時に切れる国語研究所の空調に悩まされつつ)、いらいらしながら参加したメンバーもいたかもしれない。しかし、ほぼ制限時間なしで続けられる議論は、このような基礎研究を固めるためには不可欠で、実際のところかなり役立ったのではないだろうか。

本書の内容は、文法調査のガイドブックとしては、まだまだ不十分である。これは章立てをメンバーの関心に従って設定したことに起因する。3.にも記したように推量や様態といった典型的なモダリティ項目が独立しては扱われていない。待遇も扱われていなければ、命令や意志もない。このような不十分な点は、もし許されるなら、DGCを継続する形で補い、新版、または、第2巻、第3巻として、ガイドブックを改めるか、継続させることを考えたい。

最後になったが、本書のテンス・アスペクト関係の項目は、工藤真由美氏の研究に負うところが大きい。本書への利用を許可いただいた工藤氏に感謝する。

## 7. 成果

メンバーから申告を受けた科研費課題期間4年分の成果を列挙する。各自執筆の章と結びつく内容のものもあるだろう。参考にしてほしい。なお、期日までに申告が間に合わなかった成果もあるはずなので注意してほしい。

[井上優]

井上優(1998)「富山県砺波方言「ジャ」の意味分析」『日本方言研究会第66回研究発表会発表原稿集』

井上優(1998)「方言の終助詞の意味 富山県砺波方言を例に」『言語』27-7

井上優(1998)「富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述」『日本語科学』4

井上優(2002)「方言終助詞の記述研究のために」『日本語学』21-2

## 総論

### [大西拓一郎]

大西拓一郎(1998a)「動詞活用の対応と比較」『言語』27-7

大西拓一郎(1998b)「文法地図の課題と将来 サ変動詞「する」の東北方言における分布と解釈をめぐって」『国立国語研究所創立50周年研究発表会資料集』

大西拓一郎(2000)「方言研究とネットワーク JDnet 構想」(第89回変異理論研究会,安田女子大学)

大西拓一郎(2002,印刷中)「全国型資料と調査の課題 JDnet 構想」『方言地理学の課題(グローターズ神父追悼論文集)』(明治書院)

### [小林隆]

小林隆(1999)「種子島方言の終助詞「ケル」」黒田・中村『ことばの核と周縁 日本語と英語の間』(くろしお出版)

小林隆(2000)「仙台市方言の文末形式「ケ」」遠藤好英『語から文章へ』(東北大学国語学研究室)

### [渋谷勝己]

渋谷勝己(1999)「山形市方言の文末詞八」『阪大社会言語学研究ノート』1.

渋谷勝己(2000)「徳島県海部郡方言の可能表現」『阪大社会言語学研究ノート』2

渋谷勝己(2000)「山形市方言の文末詞ズ」『阪大社会言語学研究ノート』2

渋谷勝己(2001)「山形市方言における確認要求表現とその周辺」『阪大社会言語学研究ノート』3

渋谷勝己(2002)「山形市方言の談話マーカ「ホレ・ホリヤ;アレ・アリヤ」」『阪大社会言語学研究ノート』4

### [日高水穂]

日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査(第1集)』秋田大学教育文化学部日本・アジア文化研究室(私家版)

日高水穂(1999)「秋田方言の仮定表現をめぐって バ・タラ・タバ・タツキヤの意味記述と地域的標準語の実態」『秋田大学教育文化学部研究紀要』54

日高水穂(2000)「文法化の過程と地理的分布 対象格助詞コト・トコ類の分布と変遷」『日本方言研究会第70回研究発表会発表原稿集』

日高水穂(2000)「東北方言のテンス・アスペクト体系の分布と変遷」変異理論研究会(編)『徳川宗賢先生追悼論文集 20世紀フィールド言語学の軌跡』

日高水穂(2000)「秋田方言の文法」秋田県教育委員会編『秋田のことば』(無明舎出版)

日高水穂(2001)「方言研究への招待 文法の調査法<その2> 文法的な意味・機能についての調査」『言語』30-5

### [伊豆山敦子]

伊豆山敦子(1999)「八重山・宮良方言動詞言い切りの形と意味・用法 琉球方言のテンス・アスペクト・モダリティー研究のために」『獨協大諸学研究』2-2

伊豆山敦子(1999)「琉球方言動詞言い切り形の比較研究 動詞成立史研究のために」『マテシ

## 総論

- ス・ユニウェルサリス』(獨協大学外国語学部言語文化学科)1-1  
伊豆山敦子「琉球・八重山(石垣宮良)方言条件表現のアスペクト・モダリティー的側面」『マテシス・ユニウェルサリス』2-2  
伊豆山敦子(2001)「琉球・八重山・石垣(宮良)方言の動詞言い切りの形」『アジア・アフリカ文法研究』(東京外語大アジア・アフリカ言語文化研究所)29  
伊豆山敦子(2001)「八重山(石垣宮良)方言の「過去」をめぐる問題点」『マテシス・ユニウェルサリス』3-1  
伊豆山敦子(2002)「琉球・宮古(平良西仲)方言の名詞語末音と語形変化」『マテシス・ユニウェルサリス』3-2

### 【付記】

本書は、科学研究費基盤研究(B)(2)「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」(1998-2001年度、課題番号 10410097)の研究成果報告書として当初印刷したものであるが、継続性の高い研究課題、科学研究費基盤研究(B)(1)「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」(2002-2005年度、課題番号 14310196)での利用のため、内容に修訂を加えず増刷したものである。

(2002年12月 大西記)



# 可能

渋谷勝己

## A. 解説

### 1. 可能とは

可能とは、人間その他の有情物(ときに非情物)の動作について、「～することができる、できない」といった、それを実現することの可(肯定文)否(否定文)を述べるものである。可能を表す文を可能文、可能を表す述語形式を可能形式という。

ところでこの規定は、可能文あるいは可能形式を、可能の意味を表すものとするものである。このような、意味を出発点とする規定の常として、この規定もまた、可能文や可能形式にどのようなものを含めるべきか、その輪郭を必ずしも明確に描き出しているとは言えない。そこには次のような問題がある。

(a-1) 可能形式の範囲。共通語について言えば、「話せる・泳げる」などの可能動詞、「見られる・開けられる」などの助動詞ラレル、「勉強できる」などのデキルを可能形式とすることには合意が得られようが、「(見捨て)がたい」「(予想し)にくい」などの難易を表す形式、さらには「(読み)えた」などの意志動詞についたものは別として)無意志動詞に付加した場合の「(有り)うる」のような生起可能性を表す形式を可能形式に含めるかどうかには議論があろう。

(a-2) 可能形式の多義性。また、可能動詞やデキルなど、典型的な可能の意味を担うとされるものでも、ときに可能との区別が明確ではない意味を多義的に表すケースがある。それは、「(駅前にビルが)できる」「(和歌が)できる」のように、当該形式が可能を表すようになる前の起源的な意味であることもあり、また、「(芝生には)入れません」(禁止)のように、可能の意味から語用論的に派生してできた意味であることもある。ちなみに、「やっと書けた」の「書けた」など、書くという動作を実際実現したことを表すものは、「可能」ではないとする意見もあるであろう。

いずれにしても可能文や可能形式、可能の意味は、輪郭が明確な「閉じた体系」というよりも、典型は認められつつも輪郭の不明瞭な「開いた体系」であるということができる。各地方言の可能文を記述し、また言語地理学的にその地理的分布の成立過程や変化の過程を考えようとするときには、「可能」の意味をできるだけ広く捉えておいたほうが、再調査の手間が省けるということをもまず記憶に留めておきたい。

可能

2. 日本方言の可能

可能文にかかわる記述は、可能文のもつ特徴的な形式を明らかにすることを目的とするとき、次の3点に注目して行われることが多い。

(a) 述語形式：それぞれの動詞の活用タイプがとる可能形式の特徴。たとえば共通語では、典型的な可能形式は、基本的には次のような相補分布をなす。ただしラ抜きことばの普及によって、この相補分布は崩れつつある

- (1) a 五段動詞：可能動詞（話す 話せる、書く 書ける）
- b 一段・力変動詞：動詞未然形 + 助動詞ラレル  
        （見る 見られる、来る 来られる）
- c サ変動詞：補充形式デキル（勉強する 勉強できる）

(b) 格パタン：無標の文と対比したときの、可能文の、動作主体を表す助詞と対象を表す助詞のありかた。共通語では、無標の文の格パタン（(2a)）を保持する場合（(2b)）のほか、一方（(2c)）もしくは両方（(2d)）の格が交替することがある。（2e）の組み合わせはない。

- (2) a [ 太郎が 英語を 話す ] こと
- b [ 太郎が 英語を 話せる ] こと
- c [ 太郎が 英語が 話せる ] こと
- d [ 太郎に 英語が 話せる ] こと
- e\* [ 太郎に 英語を 話せる ] こと

(c) 可能の意味の下位分類とそれを表しわけする複数の可能形式。典型とされる可能の意味は、これまで、次の2つにわけられることが多かった。

- (3) a 能力可能：動作主体のもつ能力によって動作の実現が可能・不可能であることを表す。
- b 状況可能：動作主体を取り巻く外の条件によって動作の実現が可能・不可能であることを表す。

この2つの意味は、共通語では同じ形式で表されるが、多くの方言ではそれぞれ別の形式でもって表現しわけられており、経験的な根拠をもつ。各地の方言における使いわけの状況を記せば概略次の通り。

表 各地方言における可能の分節状況（能力・状況）

地域	能力可能	状況可能
東北地方北部	キレル	キルニイー
東北地方日本海側	キレル	キラレル
中部地方	キーエル	キレル
近畿地方	ヨーキル	キレル
九州地方北部	キキル・キーユル	キラレル
沖縄本島	チーユースン	キラレル

### 3. 調査の着眼点

第2節で指摘した3つのポイントのうち(c)で指摘した2つの可能の意味は、方言の可能文について記述し、またそれを言語地理学的に考察するには、参照枠として不十分である。この節では可能の意味を中心として、調査の着眼点をまとめる。

#### 3.1. 可能の意味の分類基準の2種

各地の可能形式の分節のありかたは、次の2つの基準によって考えると捉えやすい。

##### (a) 潜在か実現(完遂)か

潜在：動作の実現の可不可について、その動作を行う力や条件がそろっているかどうかだけを述べるものである。基本的に動作の発動は、確実に行われるものとしては予定(過去の場合、実現)されていない。

(4) きょうは気分がいいから何時間でも泳げるよ。なんなら10時間泳いでみせようか

(5) A：あした大学行ける？

B：行けるけど、どうして？

(6) そのとき、そこに行けたのに行かなかった

実現：動作の実現の有無も含んで述べるもの。動作の発動が予定されているか(未来)、実際に発動されている(過去・現在)。

(7) (スケートをしながら)ほら、今日は体調がいいからこんなにすいすいすべれるよ

(8) そのときようやくそこに行けた

(9) 途中までは走ったが、最後までは走れなかった

ここでは一応、動作の発動(の予定)の有無ということ进行分类の基準とするが、潜在可能と実現可能を形式的に区別する方言があるとき、そのすべての方言についてこの基準が妥当なものであるのかどうか、まだ十分に確認できていない。今後、調査によって確認すべきところである。

##### (b) 可能であることの条件

心情：主体内部に永続的に存在する心情(性格)的な条件(性格や気持ち、勇気など)によって可能・不可能であることを主観的に述べるもの。否定文の場合、「～したくない」といった意味に近い(肯定文については3.2.2(b)参照)。一人称主語の文が典型であり、三人称については感情移入がある場合にこのタイプとなる。

(10) 恥ずかしいから行けない

能力：主体内部にほぼ永続的に存在する能力的な条件によって可能・不可能であることを客観的に述べるもの。この場合の能力には、生得的なもの、学習によって獲得されたものなどがあり、さらに下位分類ができる。

(11) 体力がないから行けない

内的条件：主体内部の、病気や気分などの一時的な条件によって可能・不可能で

## 可能

あることを述べるもの

(12) 今日は気分が悪くて行けない

外的条件：主体外部の条件による可能・不可能を述べるもの(2節(c)の状況可能に相当)

(13) 忙しくて行けない

心情・能力と内的条件はいずれも行為主体内部の条件ではあるが、心情や能力が永続的な条件であるのにたいして、内的条件は一時的な条件である点で異なっている。外的条件は、永続的であることも一時的であることもある。

(14) この魚は毒があるから食べられない(永続的、B項7の属性可能)

(15) 今日は郵便局がしまっているので、手紙が出せない(一時的)

以上(a)(b)に整理した2種類の分類基準について、4点ほど補足する(以下の(a)(b)の記号は、上記記号に対応)。

(a-1)潜在可能文は状態を表すのでテイルが共起しないが、実現可能は達成を表すため、(共通語では)テイルが共起した文を作ることができる。

(16) 太郎は今日もうまく泳げている(進行)

(17) 太郎はうまくケーキが作れている(結果)

(a-2) 実現可能について、各地での分節例をいくつかあげる。

- ・東北地方広範囲：「着れた!」「書けた!」といった、その場ではじめて実現した動作に言及する実現可能形式をもたない。またテイル形をもたない場合もある。
- ・宇和島方言：実現可能に着レル、潜在可能に着レルなどを使用する。
- ・ちなみに英語では、過去表現において、実現可能に was/were able to を、潜在可能に could を用いて区別する。

(b-1) 能力可能と外的条件(状況)可能はかなり普遍的な条件であり、世界の多くの言語で使いわけがある。能力可能は、世界の言語では、能力や知識を表すことばを起源とすることが多いが、日本語の方言では、～エル、～キル、～オーセルなど、「何かを最後まで成し遂げる(完遂)」といった意味を表す補助動詞が起源になることが多い。

(b-2) 心情可能は、能力可能がモーダル化して用いられるようになった特殊なものである。モーダル化しているか否かは、過去の文が作れるか、三人称の文が作れるかといったテストで判断することができる(作りにくくなっている場合、モーダル化が進行している)。大阪方言のヨーなどは、一人称現在の文に限定されつつある。

(b-3) 内的条件可能は、大分方言などで分節されるとの報告がある(種・糸井 1977「大野川流域における可能表現」『大野川 自然・教育・文化』大分大学教育学部)。

### 3.2. 調査票作成上の注意

本項では、3.1で整理した意味をベースにして可能の調査票を作るときのやや細かい注意点を、可能の意味の分類(3.2.1)、肯否(3.2.2)、テンス(3.2.3)の観点にわけてまとめておく。調査項目ごとの注意点についてはB項の注記(印)を参照されたい。

### 3.2.1. 可能の意味について

#### (a) 実現可能の分節

潜在可能については、上にいくつか例をあげたように、「可能であることの条件」によって異なった形式が使われる方言があることがわかっているが、実現可能についても同様に、「可能であることの条件」によって違った形式が使われることがあるかどうかは、まだ十分にはわかっていない。たとえば、「人里離れた山に分け入ろうと試みて、実際に途中まで行った」といった文脈のなかで、

(18) 人気がなくくて怖くて、途中までしか行けなかった(心情)

(19) 体力がなくくて、途中までしか行けなかった(能力)

(20) 体調が悪くて、途中までしか行けなかった(内的条件)

(21) 立ち入り禁止の看板があって、途中までしか行けなかった(外的条件)

といった調査文を設定したとき、例文(18)と(19)は特定の一回的なできごとについて述べている点で、

(22) そんな人気がないところ、昔は怖くて行けなかった(潜在可能、心情)

(22) 昔は体力がなくくて、高い山には行けなかった(潜在可能、能力)

のような、永続的な心情・能力を言う(同じような条件のもとではいつもそのようなことを行うことが(不)可能であるということを使う)潜在可能としての心情可能・能力可能とは違いがある((18)(19)は、先の3.1(b)に述べた定義では、心情・能力可能とは言えない)。(20)(21)も、潜在可能の内的条件可能・外的条件可能と同じ可能形式が使われるかどうかはわからない。実現可能については、今後の調査に待つべきところが多い。

#### (b) 条件の下位分類

前節の「可能であることの条件」の4分類は、あくまで reference point を示しただけのものである。方言によっては、分節のありかたがもっと粗いことや、逆に細かく下位分類されることもある。下位分類の例としては、たとえば能力可能について、

(b-1)「量が多くて動作を成し遂げることができない」ということを特別に分節する方言がある

(23) こんなにたくさんは食イオーセン(静岡西部)

(b-2) その他、能力可能形式のありかたに影響を与える可能性のある能力の下位類には、次のものが考えられる

- ・ 生得能力と獲得能力
- ・ 能力と知識(to know how to)
- ・ 人間の能力と人間以外の能力
- ・ 種の能力(総称)と個体の能力

といったことがある。また外的条件(状況)可能についても、次のような下位分類の可能性を念頭に置いておく必要がある。

(b-3)「時間的余裕がないために動作を行うことができない」ということを特別に分節する方言がある

(24) 時間がなくて行キダサン(九州)

## 可能

(b-4) 外的条件可能は、さらに、主体が行動決定権をもつ場合ともたない場合に二分されうる。「するわけにいかない」に相当するのは前者。典型的な外的条件可能は後者。

(25) 今日は忙しいから手紙が書けない (書くか書かないかの最終的な選択は主体に任されている)

(26) ペンがないから手紙が書けない (書くという選択肢は主体に与えられていない)

以上の諸点については、調査対象となる方言に応じて項目を細かく設定する必要がある。

(c) 語用論的意味と意味論的意味：禁止

潜在可能の外的条件可能について、四国・中国・東北地方の一部では、助動詞レル・ラレルによる否定可能文が禁止表現として文法的・固定的に用いられている。

(27) a そんなことイワレンヨ (= 言ってはいけない)

b そんなことはずかしくてヨーイワン (= 言えない (心情))

c そんなこと、私の立場上イエンヨ (= 言えない (外的条件))

なお共通語でも、次のように可能文が禁止の意味を表すことがあるが、これは語用論的な意味であり、キャンセルできる。

(28) ここはタバコは吸えません

(29) ここは魚は釣れません (立て看板)

(d) 条件の多重性

文によっては、可能の条件が特定できないもの、複数の条件が考えられるものなどがある。たとえば次のようなものである。

(30) 私は道がわからないから会場まで行くことができない (心情・能力)

(31) こんな波の高い所ではこわくて泳ぐことができない (心情・状況)

(32) その川は汚いから泳ぐことができない (心情・状況)

(30)を例にすればこの文は、「道がわからない状況で行くような勇氣は私にはない」といった心情の読みと、「知識がそなわっていないから実行不可」という能力可能の読み、少なくとも二つの読みが可能である。調査では、このような文を採用することはできるだけ避けたい。

### 3.2.2. 肯定文と否定文

(a) 方言によっては、肯定文と否定文で用いる形式が異なることがある。

・東北地方の外的条件可能：書クニイー (肯定)・書カレナイ (否定)

・関西の能力可能：書ケル (肯定)・ヨー書カカン (否定)

(b) 心情可能は、否定文では調査文の作成が容易であるが、肯定文では設定しにくい。

(33) ぼくは度胸があるから夜のお墓だつて行ける

といった肯定文は、

(34) 夜のお墓なんて、怖くて行けない

## 可能

といった否定文とくらべたとき、そのモーダル表現度の度合いにおいて低い、客観的な能力叙述に近い文のように思われる。

(c) 潜在可能の調査は、否定文のほうが容易である。可能文とはそもそも、自身が行いたいと思っている動作や変化について述べるものなので(したがって、「試験に落ちることができる」といった文は通常の解釈ではなりたたない)、可能を表す形式が得やすいのは、次の(36)のような、希望(むずかしい字を読むこと)と実際(その字が読めないこと)のギャップが認知的に顕著な、不可能を表す否定文である。

(35) どんなむずかしいでも読める

(36) こんなむずかしい字は読めない

肯定文の場合には、調査においては単純動詞形が得られることが多く(読メルに対する読ムなど)、このような場合に読メルと読ムの違いをインフォーマントに尋ねると、後者を、

(37) 私は(絶対に)読む

といった意志や決意を述べる文に解釈するケースが多いのか、「後者が強い意味」をもっているといった内省が得られやすい。あくまでも可能形式を引き出すよう注意することが必要である。

(d) 一方実現可能については、夕形において、

(38) 昨日は久々にそこに行けた(実現可能)

のような実際に実現したできごとを、

(39) 昨日は久々に行けたのに行かなかった(潜在可能)

といった実現しなかったできごとと対比しつつ設定することができるので、(c)で述べたこととは逆に、肯定文のほうがインフォーマントに理解してもらいやすい(ル形については次項を参照)。否定文の、

(40) 昨日は結局郵便局には行けなかった

といった文では、実現可能と潜在可能の分類基準を動作の発動(の予定)の有無ということに設定しても、動作の達成がなかったという点では同じであり、その違いをインフォーマントに理解してもらうのはむずかしいかもしれない。もちろん、この基準が可能表現の記述にとって重要な意味をもつかどうかも確認する必要がある。

### 3.2.3. テンス

ここでは可能文のテンスに関して、ル形の問題をまとめる。夕形については、3.2.2(d)に述べた。

(a) 潜在可能

潜在可能文は状態動詞を述語とする文であるので、基本的にル形で現在を表す。

未来については、心情可能や能力可能は、定義上、主体に永続的な属性がある・ないこと(現在)、あった・なかったこと(過去)を述べるものであり、そのような属性が主体に備わるか否かが不明な未来時について可能形式を、

(41) \*来年は悲しくてその映画が見られない

## 可能

(42) \*来年は英語が話せる  
のようにハダカの形で用いて言及することは不自然で、変化を表すヨウニナル・クナル等を下接させる必要がある。

(43) 太郎はあと 10 年もすれば、100 メートル 12 秒では { \*走れない / 走れなくなる } よ

また、一時的 (時間限定的) な未来について言う場合にも、

(44) # あしたは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない

(45) \* あしたはからだが弱くて泳ぐことができない

といった文は非文になる ((42) は実現可能としては可)。

一方内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりうることを述べるものであるために未来時について言及することはできるが、

(46) # あしたは体調が悪くて仕事に行くことができない

のような、予測不可能な未来の内的状態に言及する場合には成り立たない。

(47) 私は足をケガしていてあしたは泳ぐことができない

のような、未来の状態がほぼ確実に予測できる場合には適格な文になる。外的条件可能も同様。

### (b) 実現可能

実現可能は基本的に動きを表すものであるため (したがってテイルが共起する) ル形は、

(48) その仕事、あしたの朝までにはやれる

のように、(達成時について) 未来を表すのがふつうである。

実現可能のル形が現在を表すのは、

(49) (自分 = 行為主体にはむずかしい字は書けないと言う相手に対して目の前で書いてみせながら) ほら書くことができるよ

(50) (ドアをあけようとしながら) このドア、あけられないな

の例のように、動作を伴っている場合、あるいは動作を反復的に実現する場合である。

ただし、未来については、実際に動作が発動する (あるいは現在発動中の動作が達成にいたる) のは未来のことであり、(48) のような文が、動作の発動を予定しつつ仕事の達成段階に言及する実現可能なのか、動作を実行に移すか否かは別として仕事を完遂する能力等の存在のみを言う (= 「その仕事、僕ならあしたまでにはやれる。(やるつもりはないけど)」) 潜在可能なのかは、にわかには判断できない。したがって、調査もむずかしいところである。もちろんそれに先だって、潜在可能・実現可能の対立が、未来を表す可能表現の記述にとっても重要なものであるのかどうか、経験的に確認されなければならない。

## 3.3. さらなる注意点

調査上の注意点を 2 つ、補足して述べる。

### 3.3.1. 可能形式と可能の意味の対応関係

## 可能

まず、方言によって複数の可能形式が使い分けられるというとき、それぞれの可能形式は、アスペクト・テンスにおけるル形・タ形・テイル形・テイタ形のカテゴリカルな対立のように、ある特定の可能の意味を排他的に表すとは限らないということがある。形式と意味の対応関係のありかたとしてはむしろ、ひとつの可能形式が複数の可能の意味を表し、また、ひとつの可能の意味が複数の可能形式によって表されるという、多対多の対応関係にあるのがふつうである。たとえば大阪方言などでは、可能の副詞ヨーは心情・能力・内的条件可能を表すが、これらの意味は可能動詞（肯定）、助動詞（ラ）レル（否定）によって表すこともできる。

ただし、どちらの形式をより使いやすいかという点には違いがあり、副詞ヨーは心情可能に多く用いられやすいといった偏りが観察される。

したがって、調査においては、一つの語形を得たからといってそこで次の項目に進むのではなく、他の語形についても使用の有無を尋ね、複数の併用される場合にはどのように異なるのか、さらに細かく調べる必要がある。

### 3.3.2. 記述の重点

多くの方言について一般化できるほど確認できているわけではないが、可能形式の変遷は、外的条件可能を表す形式が能力可能（・内的条件可能）の意味分野をも表す形式となって拡大していく過程であることが多い。このことを踏まえれば、可能の意味を形式的に区別する方言においては、能力可能形式（と内的条件可能形式）が有標形式であると判断することができる。

したがって、可能の調査においては、典型的な（潜在可能の）能力可能形式がその他のどのような可能の意味にまでまたがって使うことができるかの記述に留意することが大事になる。調査項目を作成する場合には、能力可能・内的条件可能の下位区分（前者については 3.2.1 (b) 参照。後者については、主体の体調・気分・感情など）を詳細に設定する必要がある。

### 3.4. ラ抜きことばの調査など

以上本節では、可能の意味を中心に、調査を行う際の着眼点を述べてきた。

しかし、ラ抜きことばの語彙的伝播など、可能の意味以外の側面を記述する場合には、それに対応した調査項目を設ける必要がある。たとえばラ抜きことばの場合には、動詞の活用タイプや音節数によって使われやすさが異なるため、その実態を捉えるためには、同じ外的条件可能でも、着ル（一音節語幹上一段動詞）・起キル（二音節語幹上一段動詞）・寝ル（一音節語幹下一段動詞）・開ケル（二音節語幹下一段動詞）などの条件の異なる動詞を用いて調査文を作る必要がある。

ただしこれは、社会言語学的な記述調査の場合であり、本ガイドブックがねらう文法的な記述とは、その目的を若干異にする。

### 3.5. 可能文の格を調べる際の着眼点

## 可能

最後に、可能文の格を調べる際の着眼点について述べておく。

可能文の格は可能形式の出自と連動しているので、まずこのことについてまとめておこう。可能形式の出自には、次のようなものがある。

(a) アスペクト系 (完遂相 = 「最後まで成し遂げる」の意を表す)

補助動詞エル・キル・オーセルなど

(b) ヴォイス / 自発系

(ラ) レル (・カナウ)・ナル・デキル

(c) 副詞系

(エ・) ヨー・ナンボなど

(d) 混合系

可能動詞 (補助動詞エルと自動詞の両者が関連)

この出自に対応して、可能文の格は、典型的には次のように現れることが多い。

(a) アスペクト系・(c) 副詞系

[動作主体：ガ][対象：ヲ]

(b) ヴォイス / 自発系

[動作主体：ガ][対象：ガ]

[動作主体：ニ][対象：ガ]

(d) 混合系はいずれの格パターンをもとる。ただし近年は、(b)のヴォイス / 自発系のうち(ラ)レルと動名詞デキルも、(a)や(c)と同じ格をとることが増えている。

なお、格について調査項目を作成する場合には、次の2点に注意することが必要であろう。

( ) 対象については、否定文ではハで取り立てられることが多いので、肯定文のほうが調査がしやすい。しかし、動作主体の格については、肯定・否定ともハで取り立てられやすいので、次のように埋め込み文で調査するなどの工夫が必要である。

(51)[太郎が 英語が 話せる]ことはみんな知っている

( ) そもそも助詞を使用しない地域も多いので、無理に尋ねるとインフォーマントを混乱させることにもなる。注意が必要である。

## 4. 研究の現状

可能についてはこれまで、潜在可能における能力可能と状況可能がどのような形式によって表されるかという点にだけ興味が集中し、格パターンを含めて、可能の体系全般を明らかにするという試みが十分になされているとは言いがたい。

第3節でまとめた視点を踏まえつつ、さらにあらたな視点を加えて、各方言の可能の分節体系を詳細に記述することが求められている。

## 5. 文献

木部暢子他 (1988) 「九州北部の可能表現」『文献探求』21

渋谷勝己 (1993) 「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33-1

可能

## B . 項目

### 【調査項目・調査文作成の方針】

項目立ては可能の意味によって行った。動詞の活用などは考慮していない(A.3.4 参照)。また格を調査するための項目も作成していない。必要に応じて作られたい。

調査文の可能形式は、『方言文法全国地図』などにしたがって、スルコトガデキルにほぼ統一した。

理解(調査)しやすさを考えて、潜在可能は現在否定から、実現可能は過去肯定からあげる(A.3.2.2 参照)。

実現可能については、条件ごとに細かく調べることに意味があるかどうか十分にはわかっていないので(A.3.2.1(a))、条件ごとに項をわけるとはしない。細かく調べる必要がある場合には、例を参考にして調査文を作ってみてほしい。

項目番号は節間でできるだけ対応させるようにしたために、欠けているところがある。各項目には、必要に応じて、によってコメントおよび注を記した。は下位項目(1.1 など)に関するもの、はその項目すべて(1.など)に関するもの。

すでに言語地図や回答語形一覧がある調査文についてはできるだけそれを採用し、調査文例のあとに次のように出典を記した。

表現法 = 『表現法の全国的調査研究』(国研準備調査報告書、1979)

図集 = 『方言文法資料図集(2)』(同、1982)

九州 = 『九州方言の基礎的研究 改訂版』(1991)

GAJ = 『方言文法全国地図第4集』(1999)

### 【項目一覧(目次)】

1. 潜在可能：現在否定
  - 1.1 心情
  - 1.2 能力(1): 生得と獲得
  - 1.3 能力(2):(人間と)人間以外
  - 1.4 能力(3): 総称(と個体)
  - 1.5 内的条件
  - 1.6 外的条件(状況)
2. 潜在可能：過去否定
3. 潜在可能：未来否定
  - 3.5 内的条件
  - 3.6 外的条件(状況)
4. 潜在可能：現在肯定
  - 4.1 心情
  - 4.2 能力(1): 生得と獲得

## 可能

- 4.3 能力(2):(人間と)人間以外
- 4.4 能力(3):総称(と個体)
- 4.5 内的条件
- 4.6 外的条件(状況)
- 5. 潜在可能:過去肯定
- 6. 潜在可能:未来肯定
  - 6.5 内的条件
  - 6.6 外的条件(状況)
- 7. 属性可能
- 8. 実現可能:過去肯定
- 9. 実現可能:現在肯定
- 10. 実現可能:未来肯定
- 11. 実現可能:過去否定
- 12. 実現可能:現在否定
- 13. 実現可能:未来否定

### 1. 潜在可能:現在否定

#### 1.1 心情

- (1) 夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない(一人称)
- (2) ヲレターなんてはずかしくて書くことができない(同)
- (3) うちの妹ははずかしがりやだからヲレターなんて書くことができない(三人称、近)
- (4) 太郎ははずかしがりやだからヲレターなんて書くことができない(三人称、遠)

(1)と(2)は一人称主語の文で心情可能の典型。(3)と(4)は(2)に対する三人称の文であるが、(2)と同じ形式が同じ程度に自然に使える場合には、その形式はモーダル化して(心情可能を表す形式に傾いては)いない。

モーダル化している場合には、感情移入のしやすさから言って(3)のほうに心情可能形式が出やすいことが予想される。A.3.1(b)参照。

#### 1.2 能力(1):生得と獲得(人間・個体主語に限定)

- (5) 私は生れつきからだが弱くて泳ぐことができない(生得能力、一人称)
- (6) 私は酒を少しも飲むことができない(同、GAJ)
- (7) 私は海で10メートル以上はもぐることができない(獲得能力)
- (8) うちの孫はまだ小さくて字を知らないので本を読むことができない(同、GAJ)
- (9) うちの孫はまだ一人では着物を着ることができない(同、表現法)
- (10) 練習しているけどまだ100メートル以上は泳ぐことができない(獲得過程の能力)

## 可能

(11) そんなむづかしい仕事は私にはできない(獲得能力(知識) 図集)

(12) 「ウツ」なんていう字はむづかしくて書くことができない(同)

能力が生得的なものか獲得されたものかといった違いが形式的な使いわけに關与する方言があるか否かは不明である。また、生得と獲得を明確に区別できない例も多い。以下同様。

### 1.3 能力(2):(人間と)人間以外(三人称・個体主語に限定)

(13) このサボテンは花を咲かせることができない

(14) このクレーンは30ト以上のものは持ち上げることができない(道具の能力、7も参照)

(15) この橋は10ト以上の重さをささえることができない(同)

(16) この鉛筆けずりはきれいにけずることができない(同)

(17) この部屋は100人しか収容することができない(場所の能力)

### 1.4 能力(3):総称(と個体)

(18) 人間は空を飛ぶことができない(人間能力総称)

(19) ペンギンは空を飛ぶことができない(動物能力総称)

能力可能は、1.2の生得・獲得能力のうち「個体・人間」主語について述べるものが典型で、能力可能形式がもっとも用いられやすい。1.3の(14)~(17)は道具や場所のもつ能力についての能力可能文としたが、「人はこのクレーンで」といった人間総称能力可能文とみることできる。

方言によっては能力の内容がさらに下位区分され、用いられる形式に反映する場合がある。A.3.2.1(b-1)参照。

(20) こんなにたくさんは食イオーセン(静岡西部)

(付録)九州におけるキルの用法を把握するために

九州北部を中心として分布する能力可能形式キルは、上に述べた能力可能以外にも、その文法化の連続性を反映して、多様な意味を表す。その意味の広がりをつめるための調査文を以下に示す(述語部のみ方言で記す)。記号の意味は、(a) = 能力可能、(b) = 主体内の条件による動きの達成(キルの原義に近いが、必ずしも共通語のキルと同義ではない)、(c) = 外的条件(状況)による動きの達成。以下の文を参考にして、キルの用法、可能とのかかわり等を確認されたい。

#### 1. 有情物主語による動作の完遂

(a) 英語なんて話シキラン(能力:達成限界なし)

(a) こんなむづかしい歌は全然歌イキラン(能力:達成限界不関与)

(b) こんなむづかしい歌は最後まで歌イキラン(完遂能力:達成限界関与)

(b) こんなにたくさんは食べキラン(完遂能力:達成限界関与)

#### 2. 非情物主語による動きの達成(可能関連形式)

可能

- (b) 栄養分が行き渡っていないのか、この花は咲キキラン
- (b) せっかく接ぎ木をしたのに、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) あんなに手入れしたのに、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) 場所が狭すぎて、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (c) 陽が当たらないから、この花は咲キキラン (木部他 1988)
- (b) この洗濯機は力がなくて回りキラン
- (b) もう古くなったから洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (c) 洗濯物を入れ過ぎたから洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (c) コードの接触が悪くて洗濯機が回りキラン (木部他 1988)
- (b) 私の風は上がったけど、あんなのは上がりキラン (木部他 1988)
- (b) 作り方が悪いのか、風が上がりキラン (木部他 1988)
- (c) 風がないので、風が上がりキラン
- (b) なかなか雨が降りキラン (愛宕八郎康隆 1978「肥前長崎地方の『～キル』  
『～ユル』について」『長崎大学教育学部人文科学研究報告』27)

### 1.5 内的条件

- (21) 今日は体調が悪いから仕事に行くことができない (一人称)
- (22) 今日は気分が悪いから泳ぐことができない (同)
- (23) 私は足をケガして泳ぐことができない (同)
- (24) 太郎は足をケガして泳ぐことができない (三人称)
- (25) その白鳥は足をケガして泳ぐことができない (同)

内的条件可能は、その条件が一時的なものである点で心情可能や能力可能と異なるが、その条件が主体内部にある点で両者と共通するため、能力可能形式が比較的用いられやすい。人称については「1.1 心情可能」の注参照。

内的条件可能は、「気分」などのような主観的なことが条件になる場合には、三人称の文は作りにくい(蓋然性のモダリティ形式を下接すれば可能)。「ケガをしている」のような、第三者が外から見てわかることであれば作ることができる。以下同様。

### 1.6 外的条件 (状況)

- (26) 今は用事があるから郵便局に行くことができない (主体による行動決定可)
- (27) 今日は遊泳禁止の旗が立っているから泳ぐことができない (同)
- (28) この着物は小さく(古く)なったのでもう着ることができない (同、表現法・GAJ)
- (29) 忙しくて10時前にはなかなか寝ることができない (同、図集)
- (30) こんなやかましい処では、本などは読めない (同、九州)
- (31) 便せんがなくて手紙を書くことができない (主体による行動決定不可)
- (32) そのプールは改装中で泳ぐことができない (同)
- (33) 電燈が暗いので小さな字は見ることができない (同、図集)

## 可能

(34) 電燈が暗いので新聞を読むことができない(同、GAJ)

(35) 鍵をなくしたのであけることができない(同、図集)

主体による行動決定権という概念については、A.3.2.1(b-4)参照。

方言によっては外的条件の内容がさらに下位区分され、用いられる形式に反映する場合がある。A.3.2.1(b-3)参照。

(36) 時間がなくて行きダサン(九州)

### 2. 潜在可能：過去否定

「1.潜在可能：現在否定」にあげた例文を、副詞などに必要な変更を加えた上で、述部を夕形に変えればよい。たとえば心情可能では、次のようになる。

(37) 小さいころは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった(一人称)

(38) ヲラレタなんてはずかしくて書くことができなかった(同)

(39) うちの妹ははずかしがりやだからヲラレタなんて書くことができなかった(三人称、近)

(40) 太郎ははずかしがりやだからヲラレタなんて書くことができなかった(三人称、遠)

なお、「1.4 能力(3): 総称(と個体)」にあげた総称の文については、主語の普遍的な属性を述べるものが多いので、夕形とはなじまないものがある。

心情可能や能力可能は主体の永続的な属性を述べるものであるから、過去といっても、一時的(時間限定的)な過去を言う場合には不自然である。

(41) \*きのうは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができなかった

(42) \*きのうはからだが弱くて泳ぐことができなかった

内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりうることを述べるものであるために過去時については問題なく言及することができる。

(43) きのうは体調が悪くて仕事に行くことができなかった

(44) 私は足をがしてきょうは泳ぐことができなかった

外的条件可能も同様。

### 3. 潜在可能：未来否定

心情可能や能力可能は、主体に永続的な属性がある・ないこと(現在)、あった・なかったこと(過去)を述べるものであるから、そのような属性が主体に備わるか否かが不明な未来時について可能形式をハダカの形で用いて言及することは不自然である。変化を表すヨウニナル・クナル等を下接させる必要がある。

(45) 太郎はあと10年もすればそんなに速くは{\*走れない/走れなくなる}よ

なお、一時的(時間限定的)な未来について言う場合にも、過去表現と同じように、

(46) #あしたは夜のお墓なんてこわくて一人で行くことができない

## 可能

(47) \* あしたはからだが弱くて泳ぐことができない

といった文は非文になる ((46) は実現可能としては可)

一方内的条件可能については、動作を行うことが可能であるか否かが時間によって変わりうることを述べるものであるために未来時について言及することはできるが、

(48) # あしたは体調が悪いから仕事に行くことができない

のような、予測不可能な主体的状態に言及する場合には成り立たない。

(49) 私は足を<sup>カ</sup>して<sup>カ</sup>いてあしたは泳ぐことができない

のような、未来の状態がほぼ確実に予測できる場合に例文を作ることができる。外的条件可能も同様。

### 3.5 内的条件

(50) 私は足を<sup>カ</sup>して<sup>カ</sup>いてあしたは泳ぐことができない (一人称)

(51) 太郎は足を<sup>カ</sup>して<sup>カ</sup>いてあしたは泳ぐことができない (三人称)

(52) 私は指を骨折して<sup>カ</sup>いて、あしたはパソコンを打つことができない (一人称)

### 3.6 外的条件 (状況)

(53) 明日は用事があるから郵便局に行くことができない (主体による行動決定可)

(54) 明日は忙しくて 10 時前に寝ることはできない (同)

(55) 便せんがなくてあしたは手紙を書くことができない (主体による行動決定不可)

(56) 鍵をなくしたのであしたは金庫はあけることができない (同)

## 4. 潜在可能：現在肯定

### 4.1 心情

肯定文の場合、次のように否定文に対応させて可能文を作ることができるが、

(57) 勇気があるから夜のお墓でも一人で行くことができる (一人称)

(58) 度胸があるから<sup>カ</sup>ラ<sup>カ</sup>でも書くことができる (同)

それが否定文の場合のようにモダリティを表すものに傾いているかといえ、必ずしもそうとは限らず、客観的に能力を表しているようにも思われる。調査によって確認したいところである。A.3.2.2 (b) 参照。

### 4.2 能力 (1): 生得と獲得 (人間・個体主語に限定)

(59) 盃一杯ぐらいの酒なら、私だって飲むことができる (生得能力、九州)

(60) 私は海で 10 メートル以上もぐることができる (獲得能力)

(61) うちの孫は (もう) 一人で着物を着ることができる (同、表現法・GAJ)

(62) 私はどんなむずかしい字でも読むことができる (獲得能力 (知識))

(63) うちの孫は字をおぼえたのでもう本を読むことができる (同、GAJ)

(64) こんな簡単な仕事なら、おれにだってすることができる (生得? 獲得?, GAJ)

(65) こんな簡単な仕事なら、おれにだってできる (同、GAJ。GAJ では動詞<sup>カ</sup>キルに

## 可能

相当する形式を調べるための項目)

### 4.3 能力(2):(人間と)人間以外(三人称・個体主語に限定)

- (66) このサボテンは花を咲かせることができる
- (67) このクレーンは30トンのものを持ち上げることができる(道具の能力、7も参照)
- (68) この橋は10トン以上の重さをささえることができる(同)
- (69) この鉛筆けずりはきれいにけずることができる(同)
- (70) この部屋は100人収容することができる(場所の能力)

### 4.4 能力(3):総称(と個体)

- (71) 人間は未来のことを考えることができる(人間能力総称)
- (72) 鳥は空を飛ぶことができる(動物能力総称)

### 4.5 内的条件

- (73) 今日は体調がいいから何時間でも泳ぐことができる
- (74) 今日はうれしいからいくらでも歌うことができる

### 4.6 外的条件(状況)

- (75) 電燈が明るいので新聞を読むことができる(GAJ)
- (76) 電燈が明るいので小さな字でも見ることができる(図集)
- (77) 忙しい仕事ですんだので、このごろは早く寝ることができる(図集)
- (78) 鍵があればあけることができる(図集)
- (79) この着物は小さく(古く)なったけれどもまだ着ることができる(表現法・GAJ)
- (80) 目覚し時計があるので早く起きることができる(GAJ)
- (81) 車があるので早く来ることができる(GAJ)
- (82) 今は時間があるから郵便局に行くことができる

## 5. 潜在可能:過去肯定

「4.潜在可能:現在肯定」にあげた例文を、副詞などに必要な変更を加えた上で、述部を夕形に変えればよい。たとえば「4.2 能力(1):生得と獲得」では、次のようになる(過去の文にしにくいものは省く)。過去であることを明示するために、ノ二を付ける。

- (83) 盃一杯ぐらいの酒なら、むかしは私だって飲むことができたのに(生得能力)
- (84) 以前は海で10メートル以上もぐることができたのに(獲得能力)
- (85) むかしはどんなむずかしい字でも読むことができたのに(獲得能力(知識))
- (86) こんな簡単な仕事は昔はおれにだってすることができたのに(生得?獲得?)

## 可能

その他、「2. 潜在可能：過去否定」に記した注意を参照。

### 6. 潜在可能：未来肯定

「3. 潜在可能：未来否定」の注意を参照。

#### 6.5 内的条件

- (87) きょううれしいことがあったからあしたは泳いだらきっとすいすい泳ぐことができる（一人称）
- (88) 太郎は最近体調がいいから、あした受験すればきっといい成績を出すことができる（三人称）

蓋然性のモダリティ形式が共起するのがふつう。

(87) を例にした場合、潜在可能の場合には、あした泳ぐかどうかは不問。

#### 6.6 外的条件（状況）

- (89) 明日は時間があるから郵便局に行くことができる
- (90) 明日は仕事が早く終わるから 10 時前に寝ることができる
- (91) 今日便せんを買ったからあしたは手紙を書くことができる
- (92) 今日鍵をもらったからあしたはあけることができる（けどどうする？）

### 7. 属性可能

- (93) この魚は毒があって食べることができない
- (94) このナイフは何でも切ることができる（4.3）
- (95) この万年筆はすらすらと書くことができる（cf. 自発、GAJ）
- (96) このジュースは飲める（＝うまい）
- (97) このナイフは使える（＝役に立つ）

潜在可能の心情可能や能力可能は主体についての属性を述べるものであるが、(93)～(97) は、主体以外の事物を主題として取り立てて、その属性を述べる用法である。このうち道具を取り立てたものが、「4.3 能力(2):(人間と)人間以外」にあげた例の一部と考えることもできる。この用法の場合には、基本的に潜在可能の外的条件形式が使われると思われるが、自発形式が使われるところもある。確認したい。

(96)(97) は、共通語ではスルコトガデキルでは置き換えられない特殊な例（松下大三郎の言う「評価の可能」）。

### 8. 実現可能：過去肯定

- (98) きこのう勇気を出してやってみたら泳ぐことができた（心情、ただし 4.1 参照）
- (99) きこのう勇気を出してやってみたら、彼女に話しかけることができた（心情）

## 可能

- (100)きのう勇気を出してやってみたら、夜のお墓でも行くことができた(心情)
- (101)きのう外国人に英語で話しかけてみたら、結構話すことができた(能力)
- (102)きのうも100メートル10秒で走ることができた(能力)
- (103)きのうは体調がよくて、1回泳ぐことができた(内的条件)
- (104)きのうは天気がよくて、頂上まで行くことができた(外的条件)
- (105)きのう時間ができてやっと郵便局に行くことができた(外的条件)
- (106)(長時間絵を描いていて)かけた! / できた! (完了)

実現可能は一時的(あるいは反復的)な動きについて述べるものであり、心情・能力といっても、実現可能の場合には、潜在可能のような主体の永続的な属性(実際にするか否かは別に、~しようとすればいつも~できる/できない)を述べる文とは異なって、その実際に行う/行った一時的(あるいは反復的)な動きが実現した/実現しなかった原因を言うものである。以下実現可能についてはすべて同様。

心情・能力については、(98)~(101)のように、それまで主体が気づいていなかった属性(心情(上では性格)・能力)が実は主体にあったという発見の意味あいが出ることがある。このような場合、発見して以後は、その心情・能力を潜在可能として述べることができる。

(107) あっ、書けた。僕にも書けるんだ

動作の実現が、主体自身にとっても意図しない、思いがけないものであるとき、意味的に自発に接近する。

### 9. 実現可能：現在肯定

- (108)(自分=行為主体には勇気がないからこの川は渡れないと言う相手に対して渡ってみせながら)ほらわたることができるよ(心情)
- (109)(自分=行為主体にはむずかしい字は書けないと言う相手に対して目の前で書いてみせながら)ほら書くことができるよ(能力)
- (110)(自分=行為主体は今病気だから泳げないと言う相手に、今日は気分がいいから泳ぐと言って実際に泳いでみて)ほら、泳ぐことができるよ(内的条件)
- (111)(錆ついてあかないと言い張る相手に、ドアをあけながら)ほらあけることができるよ(外的条件)

実現可能形式はテイル形をもつことからわかるように(A.3.1(a-1))、動き動詞である。したがってそのル形は、通常未来を表す。実現可能が現在肯定を表すのは、上の例のように、動作を伴っている場合、あるいは動作を反復的に実現する場合である。

### 10. 実現可能：未来肯定

- (112)私は冷静だから、明日はきっとうまくみんなの前で歌うことができる(心情)
- (113)あれだけ勉強したんだから、明日は絶対試験に合格することができる(能力)

可能

- (114)三日も休んだんだから、疲れもとれて、明日は絶対最後まで走ることができる(内的条件)  
(115)いまインクを取り替えたから、明日中に全部印刷することができる(外的条件)

この用法が潜在可能に接近することについては、A.3.2.3(b)参照。

11. 実現可能：過去否定

- (116)きのうの夜の肝試しでは、怖くてゴールまで行くことができなかった(心情)  
(117)きのう彼女に気持を告白しようとしたが、はずかしくてどうしても言うことができなかった(心情)  
(118)きのうあの山に登ろうとして途中まで行ってみたけど、体力がなくて頂上までは行くことができなかった(能力)  
(119)途中で痛みが増してきて、そのまま泳ぎ続けることができなかった(内的条件)  
(120)あの本は時間がなくて最後まで読むことはできなかった(外的条件)  
(121)きのうあの山に登ろうとして途中まで行ってみたけど、崖が崩れていて頂上までは行くことができなかった(外的条件)  
(122)きのうは思いも寄らない雑用が入ってきて、結局郵便局には行くことができなかった(外的条件)

(121)と(122)は、実際に動作が発動したか否かに違いがあるが、この違いが文法的に意味があるものかどうかは確認する必要がある。

(九州などでは、完遂的な意味を起源にもつ形式(キルなど)の使い方について、)(119)のような動きの持続を表す場合と、(118)(120)のような動きの達成を表す場合で異なるかどうか確認したい。

12. 実現可能：現在否定

- (123)(流れの急な川を途中まで渡りながら)こわくてむこうまで渡ることができないよ(心情)  
(124)(むずかしい字を書こうとして途中まで書きながら)どうもうまく書くことができない(能力)  
(125)(ケガをしていながら水に入って泳ごうとしてみてもうまくできずに)やっぱり泳ぐことができない(内的条件)  
(126)(錆ついてあかないドアをあけようと試みて)あけることができないよ(外的条件)

13. 実現可能：未来否定

- (127)私は人前に出るとあがるから、明日ののど自慢大会でも、たぶんあがってしまっ  
てうまく歌うことができない(心情)  
(128)この3年間あまり勉強しなかったから、明日はまちがいなく試験に合格すること

可能

ができない(能力)

(129) 今日疲れていて、夜までには論文を書き上げることができない(内的条件)

(130) 原稿用紙がなくなったから、夜までには論文を書き上げることができない(外的条件)



# 自発

渋谷勝己

## A. 解説

### 1. 自発とは

通常では動作主体の意図にしたがって行う、あるいは行わないはずのある動作が、動作主体の意図にかかわらずに（あるいは反して）起こる、あるいは起こらないといったことを表す文法的なカテゴリーを自発という。共通語では自発というカテゴリーは十分には分化していないが、一部の方言ではそれが盛んに用いられている。

これらの方言における自発文の作り方は、意志動詞を含む文にその意志性を奪い取る役目を果たす自発の助動詞を付加し、同時に格の体制に変更をもたらすというありかたが典型である。

以下、自発については共通語にそのまま対応する適当な形式がないので、「B. 項目」をたてることはしない。かわりに、調査の着眼点を詳細に整理することによって、記述のための方法を提示することにする。

### 2. 日本方言の自発

中古語などの古典語では、自発は、次のように助動詞ル・ラルによって生産的に用いられた。

(1) 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ驚かれぬる（古今・四）

(2) 病は、（中略）はては、ただそこはかとなくて、もの食はれぬ心ち（枕一八〇段）

(2) のような文は、現在のわれわれの目から見れば可能のようにも解釈できるが、この時代、ほかに副詞エが否定文で不可能の意味を表すものとして盛んに用いられていることなどを考慮に入れれば、これも自発と解釈すべきではないかと思われる。

一方、現代共通語の自発文は、次のように、思考動詞や感覚動詞など、ごく一部の動詞に助動詞（ラ）レルが付加して作られるにすぎない。

(3) ぼくにはどうしてもそう思われる

しかも、自発文を作る動詞を意志性といった素性から見たとき、これらの動詞は、命令文が作れないなど、典型的な意志動詞ではない。周辺部にあるものである。また派生された自発文をスタイルといった視点から見ても、話しことばで用いられることはごく限られている。

共通語にはそのほかに、

## 自発

(4) いつのまにか書けてしまった

(5) こらえても、自然に泣けてくる

のような、可能動詞と同じかたちをとる自発形式もあるが、上の2文のように、テシマウやテクルのような補助動詞や、副詞イツノマニカなどの、自発であることを表す別の形式のサポートがないと、可能に解釈されることが多く、単独で自発を表す力は弱い。また共通語では、「(枝が)折れる」「(糸が)切れる」といった非対格自動詞も、自発的な意味を表し、イツノマニカやテシマウなどと共起するが(変化動詞であるためテクルとは共起しない) もともと動作主体は文構造のなかに含まれていないので、ウツカリといった、動作主体の存在を前提とする副詞とは共起しない。

(6) \*うっかり枝が折れた

この点、動作主体を文構造のなかにもっている自発文とは異なっている。

一方、東北地方をはじめとする各地の方言では、自発文が、次のように、盛んに用いられている(山形市方言の例。述部のみ、カタカナで方言形を記す)。

(7) いつのまにかネラタツキヤ(いつのまにか寝てしまったよ)

(8)(写真をとっていて)おっと、ウゴガタ(おっと、動いてしまった)

(9)(禁酒しているときに)気がついたら、酒がノマテスマツタキヤ(酒を飲んでしまっていたよ)

形式面でも、可能や受身とは異なった形式で分化させていることが多い。たとえば山形市方言では、次の通りである(レル・ラレルが尊敬形式として用いられることはない)。

表 山形市方言の自発・可能・受身形式

	書く	着る	来る	する
自発(肯定)	カガル	キラル	クラル	スラル
自発(否定)	カガラネ	キララネ	クララネ	スララネ
可能(肯定)	カグイ	キルイ	クルイ	スルイ
可能(否定)	カガンネ	キランネ	クランネ	サンネ
受身(肯定)	カガレル	キラレル	クラレル	サレル
受身(否定)	カガンネ	キランネ	クランネ	サンネ

上の表に見るように、山形市方言の自発形式は、動詞の未然形にル・ラルを付加して作られる(ル・ラルの活用自身は五段)が、そのほか、岩手県などの東北地方北部や、栃木県・静岡県の一部などでは、サル・ラサルといった、やはり未然形接続の助動詞が自発を表すのに使われている。

### 3. 調査の着眼点

自発の記述は、次のような順序で進めるのが妥当である。

(a) 自発というカテゴリーが当該方言にあるかどうかの確認

(b) 自発というカテゴリーがある場合、そのありかたの記述

(b)は、具体的には次のような手順が考えられる。

## 自発

- (b-1) 自発形式の作り方の整理
- (b-2) 自発文の格パターン
- (b-3) 語彙的自発形式の確認
- (b-4) 自発のテイル形と、受身のテイル形、テアル形との意味の異同の検討

以下、山形市方言を例にして、自発の記述のしかたを、上の順序にしたがって具体的に説明する。なお、山形市方言の例については、自発形式のみをカタカナで記し、その他の部分は読みやすさのために漢字ひらがな交じりで示す。

### 3.1 自発の有無の確認

調査しようとする方言に自発という文法カテゴリーがあるか否かを調べるには、次の手順で確認して見るのがよい。

- (a) 先に述べたように、方言では、五段活用の助動詞ル・ラル、あるいは同じくサル・ラサルなどが使われることが多いが、これらの形式が対象となる方言にあるか否かを調べる。

次に、その方言にこれらの形式があるということが確認された場合には、次の手順によってそれが自発形式であることを確認する。一方、これらの形式の存在が確認されなかった場合には、同じく次の手順によってほかの形の自発形式がないかどうかを確認する。

- (b) よく使われる意志動詞（行ク・飲ム・見ル・スルなど）を選ぶ。
- (c) 一人称肯定表現について、その動詞によって表される動作が実現したことは間違いないが、それは、動作主体が意志的に行ったために実現した動作ではなく、いつのまにか起こっていたことであるといった内容を表す特別な述語形式があるかどうかを探す（ただし、3.2.3 参照）。
- (d) そのような形式には、次のような特徴があるかどうかを検討し、それが自発形式であることをさらに確認する。

- ・イツノマニカ、ウツカリ、テシマウといった自発の意味を表す別の形式と共起する。
- ・責任回避といったニュアンスがついて来る。

(c) で「一人称」の「肯定表現」を選んでいるのは、

- ・自発文は一人称に典型的に現れること。二人称については疑問文の場合、三人称についてはなんらかの感情移入が行われた場合、あるいは両者いずれも客観的な事実として確定している場合に用いられるというように、特別な条件を考える必要があるので、最初の段階では避けたい。
- ・以下の 1. のような否定表現だと、3. の潜在可能の外的条件可能（「可能」の項目参照）との意味的距離が近くなるが、4. の肯定表現だと 6. の（実現）可能との違いが大きい場合があり、自発というカテゴリーを取り出しやすいこと。たとえば飲ムを例にした場合、次のようになる（下線の部分が両者の距離が大きい部分）。

1. 自発否定：飲むつもりがあるのに、その動作が（なんらかの主体外部の力によって）阻まれる。

## 自発

- (10) 酒を飲みたいと思っているのに、なかなかノマラネ
2. 同 : 飲むつもりがなく、かつその動作が(なんらかの主体外部の力によって)阻まれる。
- (11) ここにいと酒がノマラネくっていい
3. 可能否定: 飲むつもりがあるのに、その動作を意志的に実現することができない。
- (12) 酒を飲みたいと思っているのに、なかなかノマンネ
4. 自発肯定: 飲むつもりはないのに、飲むということが実現した。
- (13) 酒を止められていたのに、酒を見るとつついノマテしまった
5. 同 : 飲むつもりがあり、それが(なんらかの主体外部の力によって)実現された。
- (14) 休みがとれて、やっと酒がノマタ(=(口に入れたではなく)口に入った)
6. 可能肯定: 飲むつもりがあり、それを実現することができた。
- (15) 休みがとれて、きのうやっと酒が飲めた(山形市方言にはこれに相当する表現なし)

といったことがあるためである。

### 3.2 自発の記述法

次に、上で自発という文法カテゴリーがあると確認された場合の、記述の方法について説明する。記述すべき点は、(a)形式面での特徴、(b)自発文の格パタン、(c)自動詞との関係、(d)自発のテイル形の意味、などである。

#### 3.2.1 自発形式の作り方の整理

動詞の自発形式が助動詞類によって作られる場合、以下のような点を明確にする必要がある。山形市方言の例を添えて示す。

- (a) 前接する動詞のタイプとその活用形: 前接する動詞が五段活用の場合ル、一段動詞の場合ラルが、その未然形に接続する。来ル・スルはそれぞれクラル・スラルとなる(以上いずれも、動詞はすべて五段化しており、その未然形にルが後接すると考えることも可)。
- (b) それ自身の活用: 五段型。(行くについて)イガル(言い切り)・イガラネ(否定)・イガタ(過去)・イガテル(テイル形)・イガッタ(タによるテイル形)・イガタラ(条件形1)・イガッド(条件形2)など(命令形はない。条件形1、条件形2の説明などは、条件形の記述のなかで行えばよい)。イガタ(過去)、イガテル(テイル形)などは促音便による「ッ」が脱落したものであるが(イガッタ(タによるテイル形)はさらに\*イガタダ(\*は再構形の意)のテが促音化し、ダが無声化したもの)、促音便脱落は自発形式だけではなく、(一部の語彙的な例外を除いて)五段動詞一般について適用される規則であるので(クタ(食った)、ワラタ(笑

った)など) この規則の詳細は動詞の活用のセクションで述べればよい。  
 (c) 可能形式・受け身形式・尊敬形式との形式上の相違：第2節の表参照。

### 3.2.2 自発文の格パターン

自発形式は、意志動詞を無意志動詞に変えるものであるから、その格パターンにも変更を迫るヴォイス的な事象であると位置づけることができる。したがって、自発文の格パターンを(複数ある場合には、その間の意味の違いを)記述しておくことが必要である。

この点について山形市方言では、

- (16) a おれ 酒(バ) 飲ンダ(おれは酒を飲んだ、非自発文)  
 b おれ 酒 ノマタ  
 c ?おれ 酒バ ノマタ  
 d おれサ 酒 ノマタ

といった3つのパターンが使われる。このなかでは(16b)の無助詞による場合がもっとも基本的なものであり、汎用性が高い。一方、対象をバでマークする(16c)は、対象を明示的に示すことによって他動性が高まるためか、やや不自然になるように思われる。また、(16d)の、動作主体をサでマークするパターンは、この例や、

- (17) この靴、おれサ ハガラネ

の例のように、動作主体が移動物の帰着点となる場合、あるいは、

(18) 郵便局は、おれサは イガルが、おまえサは イガラネのはなんでだろう  
 のような対比の場合に多い。前者はすでに動作主体は動作主体として機能していないと考えることもできよう。また後者は、

- (19) 君サは できないよ

のように、能力可能文で能力の持ち主を(対比的に)表す場合にサ(共通語では二)が出やすいといったことと関連して、動作主体を有標的に示すものだと考えられる。

なお、自発文の格パターンということと関連して、自発文は、

- (20) 物ガ + 自発述語

の形で、主語に立つ物の性質を述べる文として使われることがある。山形市方言では、次のような例がある(『方言文法全国地図』第4集では属性可能の地図にこの形が出ている)。

- (21) このペンはまだ書ガル  
 (22) この酒はどんどん飲マル(酒だ)  
 (23) このズポンは、もうハガラネ

ちなみに物の属性は可能文によっても述べることができることが多いので、体系的な記述を試みる場合には、属性叙述用法における可能文(「可能」の項目のB.7参照)と自発文との違いを明確にしておきたい。

### 3.2.3 語彙的自発形式の確認

自発形式は、基本的に意志動詞から作られ、無意志動詞からは作られないが、一部の自動詞(非対格自動詞)からさらに自発形式が作られて用いられることがある。山形市方言

## 自発

ではたとえば、次のようなものがある。

- (24) a (ドアが) アグ アガル  
b (電気が) ツグ ツカル

この場合、

- (25) a この扉は押してもなかなか{アガネ / アガラネ}  
b この博物館は朝 10 時に{アグ / \*アガル}  
(26) a この電気、{ツカネ / ツカラネ}ようになった  
b 街灯は夕方 6 時になると{ツグ / \*ツカル}

のペアに見るように、動作主体の働きかけを伴わない変化を表す場合は、自発形式は不自然になる。なお、

- (27) オレ、この電気、間違ってツケラタ

といった他動詞の自発文は、項として動作主体をとる点で、(25)(26)のようなそれとらない文と異なる。

以上のように、意志動詞から派生するという自発形式の派生規則からは一見例外に見える語彙的な項目があるということも、念頭に置いて記述したい。

なお、これとは別のタイプの語彙的自発形式として、共通語では対応する自動詞をもたない他動詞について、方言では自発形式が、その自動詞の役目を担っていることもある。山形市方言には、次のような例がある。

- (28) a (ひもを) ムスブ (ひもが) ムスバル  
b (洗濯物を) ホス - (洗濯物が) ホサル

### 3.2.4 自発のテイル形と、受身のテイル形、テアル形との意味の異同の検討

共通語では一般に、自発文のテイル形はないと述べられるが、山形市方言などではよく用いられるものである。

- (29) きょうはすいすい泳ガッタじゃないか (主体の動きの進行)  
(30) 太郎はすでに二升も飲マッタ (主体の変化の結果)  
(31) 机の上に花瓶が置ガッタ (対象の変化の結果)

これらの文のうち、対象の変化の結果状態を表す(31)のような例は、受身文のテイル形、あるいはテアル形による対象の状態叙述を述べる文と意味が近似するので、体系的に記述しておく必要がある。

この点について山形市方言では、テアル文は用いられないため、類義表現としては、受身文のテイル形と自発文のテイル形の意味の異同が問題となる。このことについて、

- (32) 看板に変な字が {書ガッデダ (受身文) / 書ガッタ (自発文)}

のような例では、受身文の場合、あくまで話し手あるいは関与者が被害(ホメルのような、内容的にいい意味をもつ語の場合には何らかの影響)を被ったことが含意されているが、自発文では事態を中立的に叙述しているという違いがある。また、受身文の場合、

- (33) 太郎はまたみんなに悪口をカガッデダ (書かれている)

のように、もとの動作主体を明示的に述べることができるが、自発文のテイル形を述語に

## 自発

もつ文ではそれができないといった違いも同時に観察されて、両者に違いがあることがわかる。

なお、山形市方言における自発のテイル形は、ル形の文とは逆に、一人称主語をとりにくい（共通語のイライラスルなどのふるまいと同じ）。

（34）きょうはすいすい歌ワッタ

の主語は、確認要求のダロウ（山形市方言では「べ」）などが付かない限り、話し手以外である。

### 4. 研究の現状

自発という文法カテゴリーが方言に存在することはすでに以前から指摘されていることではあるが、その詳細な記述は自発をもつ各方言において十分になされているとはいえない。また、3.2.3 で述べた語彙的自発形式や、3.2.4 の自発のテイル形の用法、あるいは自発形式の担う意味の範囲には各方言で違いがあること（静岡などではサル形式が自発と外的条件（状況）可能の両方を表す、など）が報告されている。

自発をめぐる各方言内部の体系的な記述、およびその発展としての方言間の対照研究は、今後に残された課題である。

### 5. 文献

加藤昌彦(2000)「宇都宮方言におけるいわゆる自発を表す形式の意味的および形態統語的特徴」『国立民族学博物館研究報告』25-1

竹田晃子(1998)「岩手県盛岡市方言におけるサル形式の意味的特徴」『国語学研究』37

中田敏夫(1981)「静岡県大井川流域方言におけるサル形動詞」『都大論究』18

森山卓郎・渋谷勝己(1988)「いわゆる自発について 山形市方言を中心に」『国語学』152

山崎哲永(1994)「北海道方言における自発の助動詞-rasaru の用法とその意味分析」北海道方言研究会編『北海道方言研究会20周年記念論文集 ことばの世界』



## ヴォイス（受動文を中心に）

日高水穂

### A 解説

#### 1. ヴォイスとは

動詞の形態と格体制に関わる文法カテゴリーをヴォイスという。ヴォイスとは、典型的には、動詞の基本形（辞書形）の取る格関係と、その動詞に接辞（助動詞）や補助用言などを付加した場合に取る格関係に、変化が生じるという現象である。日本語では、動詞の自他、能動／受動、使役、可能、自発、授受などの表現が、広義のヴォイスとして取り上げられることが多いが、このうち、最も典型的なヴォイスの現象と言えるのは、能動／受動、使役（および授受構文のうちのテモラウ）であろう。

日本語の受動文では、項の増減のない受動文の他に、項が一つ増える受動文の存在することがよく知られている。直接受動文と間接受動文の二大別、あるいは、まどもの受け身、持ち主の受け身、第三者の受け身の三大別などが行われる。また、受動文の動作主を表す助詞については、ニ、ニヨッテ、カラの使い分けが問題にされる。創造的行為にはニヨッテ、動作主に起点性の認められる動作ではカラが用いられ、ニは創造的行為以外のほとんどの受動文で用いられる。

使役文では、被使役者を表す助詞に関して、ヲ使役文とニ使役文の違いが取り上げられることが多い。日本語には、ヲ格が二重に出現してはならないという制限があり、ヲ格を取る他動詞の使役文では被使役者が二格で表される。一方、自動詞の使役文では、一般的に、被使役者をヲ格で表す場合は強制的な使役、二格で表す場合は許容・放任の使役という、使役の意味の違いが生じることが指摘されている。

テモラウ文は、構文的には、受動文の性質と使役文の性質を兼ね備えた位置づけがなされる。「太郎からそのことを{教えられた／教えてもらった}」「太郎に仕事を{手伝わせる／手伝ってもらう}」のように、同じ事態を言い換えることができる。テモラウ文は、受動文の迷惑性、使役文の強制性に対して、恩恵性を表現することから、待遇的な配慮によって選択され得る表現である。

#### 2. 日本方言のヴォイス

これまでの日本語の方言文法の記述において、受動・使役は、動詞の活用形の記述の中で触れられることが多く、意味・構文的側面からの調査・記述は、あまり行われてこなかった。形態的側面からも、受動形の接辞が（ラ）レル、使役形の接辞が（サ）セルに由来

## ヴォイス（受動文を中心に）

するものである点では、全国ほぼ一律である（琉球には使役形接辞シムがある）。接辞の形態に地域差が少ないということは、受動・使役が、日本語の構文の根幹をなすレベルのものであり、多様な形式（それに伴う意味）の分化を許すレベルのものではないことを意味するとも言える。

『方言文法全国地図』の受動・使役関連の分布図には、以下のものがある。受動形に関するものは、稿末に【資料1】として略図をあげたので、参照されたい。

### ・『方言文法全国地図』第1集 受動文・テモラウ文の助詞

第26図 息子に手伝いに来てもらった

第27図 犬に追いかけられた

### ・『方言文法全国地図』第3集 受動形・使役形

第115図 悪いことをすると新聞に書かれる【資料1-1】

第116図 留守のときに来られるとこまる【資料1-4】

第117図 壁に落書きをされる【資料1-2】

第118図 孫に窓を開けさせる

第119図 無理に手紙を書かせる

第120図 孫を無理に来させる

第121図 孫に庭の掃除をさせる

第122図 おれに手紙を書かせる

第123図 孫に手紙を書かせた

第124図 息子に手紙を書かせよう

第125図 無理に手紙を書かせられる【資料1-3】

なお、【資料1-5】には、第26図の資料一覧に基づき、「来てもらった」に対応するテモラウ以外の回答の分布図を示した。

## 3. 調査の着眼点

日本語の受動・使役の意味・構文的側面からの記述は、現代語（標準語）についても古典語についても、相当に進んでいる。そこで指摘された現象に関して、方言の側から特に異論が唱えられたということはない。むしろ、標準語文法の記述を踏まえた上での方言文法の記述は、これから進められるべき課題であり、ここでの項目の検討は、その基礎的な作業の一つと言える。受動・使役に関しては、どのような観点が、特に方言を見る際に有効であるかは、未だ模索の段階にある。よって、ここでは、既存の方言資料の分析といくつかの調査例を報告し、今後の調査の着眼点の一端を示したい。

なお、ここでは、受動文およびそれに関連するテモラウ文についての調査を想定して、項目の検討を行う。取り上げる観点は、以下のものである。

- (1) 受動文の種類にはどのようなものがあるか。
- (2) 受動文・テモラウ文の動作主を表す助詞にはどのようなものが用いられるか。
- (3) ある事態がどのようなヴォイス表現で表されるか。

### 3.1 受動文の分類

まず、日本語の受動文の分類を示す。

#### 直接受動文 [まともな受身]

- ・ 太郎が次郎に殴られた。（次郎が太郎を殴った。）

#### 間接受動文

[持ち主の受身] 受動文のガ格が、対応する能動文のヲ格（二格）名詞を修飾するノ格（所有者）であるもの。

- ・ 太郎が次郎に頭を殴られた。（次郎が太郎の頭を殴った。）
- ・ 花子がスリにかばんを取られた。（スリが花子のかばんを取った。）
- ・ ある作家が批評家に新作をけなされた。（批評家がある作家の新作をけなした。）

[第三者の受身] 受身のガ格が、対応する能動文の格成分ではあり得ないもの。

- ・ 太郎が雨に降られた。  
cf. 雨が降った。（×雨が太郎を/に降った。）
- ・ 花子が子供に死なれた。  
cf. 子供が死んだ。（×子供が花子を/に死んだ。）

こうした受動文の分類は、各地方言の受動文においても同様に当てはまるのであろうか。【資料1】の分布図を見ながら、検討する。

【資料1-1】「悪いことをすると新聞に書かれる」は、まともな受け身もしくは持ち主の受け身の解釈（新聞記者が太郎の悪行を新聞に書く 太郎の悪行が新聞記者によって新聞に書かれる / 太郎が新聞記者によって自分の悪行を新聞に書かれる）の解釈が可能なものである。【資料1-2】「壁に落書きをされる」は、持ち主の受け身（子供たちが太郎の家の壁に落書きをする 太郎が子供たちによって自分の家の壁に落書きをされる）の解釈が可能である。【資料1-3】「無理に手紙を書かせられる」は、まともな受け身の解釈（父親が太郎に無理に手紙を書かせる 太郎が父親によって無理に手紙を書かせられる）が可能である。【資料1-4】「留守のときに来られるとこまる」は、第三者の受け身の解釈しか許されない。以上の4枚の分布図を通して、次のことが分かる。

- (1) 受身形の回答がまったく出ていない地点はない。すなわち、受動文をまったく用いない方言はない。
- (2) ある事態を受動文で表すかどうかには、方言差がある可能性がある。
- (3) 第三者の受け身として解釈される受動文は、用いない方言がある。代わりに用いられるのは、能動文（クル/キヤッ 敬語形 /キテクレル）、テモラウ文（キテモラウ）である。

### 3.2 受動文の動作主を表す助詞

標準語の受動文では、動作主を表す助詞としてニ、ニヨッテ、カラが用いられる。以下にその使い分けの基準を示す。

直接受動文の場合 ニ/ニヨッテ/カラ

【二項動詞】[ Xガ ][ Yヲ/ニ ] V [ Yガ ][ Xニ/ニヨッテ/カラ ] V(ラ)レル

- ( a ) 物理的・心理的働きかけを表す動詞： ニ / ニヨッテ / ×カラ  
[ Xガ ][ Yヲ ] 殴る / 殺す / 助ける / おどす / 苦しめる / だます...  
[ Xガ ][ Yニ ] 触る / かみつく / 飛びかかる / そむく / 逆らう...  
Xは働きかけの主体
- ( b ) 感情・感覚の動きを表す動詞： ニ / ×ニヨッテ / カラ  
[ Xガ ][ Yヲ ] 愛する / 嫌う / 憎む / 尊敬する / 見る / 聞く...  
[ Xガ ][ Yニ ] 恋する / あこがれる / 感謝する / 甘える...  
Xは感情主
- ( c ) 創造的行為を表す動詞： ×ニ / ニヨッテ / ×カラ  
[ Xガ ][ Yヲ ] 作る / 建てる / 書く / 直す / (穴を)掘る / (橋を)かける /  
決める / 増やす / 減らす / 演じる...  
Xは創造的行為の担い手

【三項動詞】[ Xガ ][ Y 1ニ ][ Y 2ヲ ] V

A : [ Y 1ガ ][ Xニ/ニヨッテ/カラ ][ Y 2ヲ ] V(ラ)レル

B : [ Y 2ガ ][ Xニ/ニヨッテ/カラ ][ Y 1ニ ] V(ラ)レル

- ( d ) 二者間の物の移動を表す動詞： 送る / 贈る / 与える / 渡す...  
二者間の情報（要求）の移動を表す動詞： 伝える / 教える / 頼む / 命じる...  
A ニ / ニヨッテ / カラ  
B ×ニ / ニヨッテ / カラ
- ( e ) 配置換えを表す動詞： 動かす / 入れる / 落とす / 貼る...  
( A 受動文にすると不自然 )  
B 働きかけの意味の強いもの : ニ / ニヨッテ / ×カラ  
創造的行為の意味の強いもの : ×ニ / ニヨッテ / ×カラ

間接受動文の場合 ニ

・[ 直接受動文 ]

その記事は知り合いの記者 { ×に / によって } 書かれたものだ。

・[ 間接受動文 ]

山田さんは知り合いの記者 { に / ×によって } ゴシップ記事を書かれて憤慨している。

受動文・テモラウ文に用いられる助詞については、地域差のあることが知られている。中でも、カラの用法の地域差は注目される。【資料2】に、受動文・テモラウ文の動作主を表す助詞カラについて、適格性の判断をしてもらうアンケート調査の結果をあげた（日

## ヴォイス（受動文を中心に）

高 1999 参照）。調査地域は、秋田（秋田大学学生）、岩手（花巻南高等学校生徒）、福島（喜多方女子高等学校生徒）、近畿地方（京都橘女子大学学生／神戸山手女子短期大学学生）、熊本（熊本高等学校生徒）である（いずれも当該地域内出身者）。調査は、カラを含む各調査文について、「使う」「使わないが不自然ではない」「使わないし不自然である」のうち、当てはまるものを選んでもらうというものである。このうち、「使う」「使わないが不自然ではない」の回答率を足したものを「許容回答率」と呼ぶことにする。

標準語の場合、「尊敬する」「感謝する」のような感情の動きを表す動詞や、「命じる」「頼む」「教える」のような二者間のやりとりを表す動詞による受動文・テモラウ文では、その動作主をカラで表すことができるが、物理的働きかけを表す動詞（「殴る」「助ける」など）や創造的行為を表す動詞（「書く」「建てる」など）による受動文・テモラウ文では、その動作主をカラで表すことができない（前者では二、後者では二ヨツテが用いられる）。また、第三者の受身では、カラは用いられず、ニが専用される。すなわち、今回の調査文では、(2)(4)(6)(8)(13)が、標準語のカラにとって適格な用法であり、それ以外は不自然なものであると言える。

一方、『方言文法全国地図』では、第 27 図「犬に追いかけられた」において、山形および九州南西部（佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島）でカラが回答されており、また、第 26 図「息子に手伝いに来てもらった」において、秋田・山形・新潟を主な分布域としてカラが回答されている。今回の調査結果にもこうした地域差が反映しており、秋田では、物理的働きかけを表す動詞のテモラウ文（調査文(14)(15)）でのカラの許容回答率がかなり高く、物理的働きかけを表す動詞の受動文（調査文(1)(5)(9)(10)(11)）の許容回答率も高い傾向にある。熊本では逆に、物理的働きかけを表す動詞の受動文の方で他の地域に抜きんでて許容回答率が高く、物理的働きかけを表す動詞のテモラウ文の許容回答率も高い傾向にあると言える。それに対して、岩手・福島・近畿地方の回答結果は、項目によって多少の異同はあるが、物理的働きかけを表す動詞の場合、受動文、テモラウ文ともカラの許容回答率は相対的に低い。ただし、秋田・熊本においても、創造的行為を表す動詞による受動文（調査文(3)(7)）や第三者の受身的な受動文・テモラウ文（調査文(12)(16)）では、カラはほとんど許容されていない。カラの用法が標準語に比べて広いと言われる地域においても、カラの使用は動作の出発点（起点）という意味を拡張できる動詞の受動文・テモラウ文に限られていることが分かる。

### 3.3 ヴォイス表現の選択（1）：授受表現の現れやすい方言、現れにくい方言

ヴォイスの現れ方は、ある事態を誰を主役に据えて述べるかという表現の選択の問題でもある。

【資料 1-5】「息子に手伝いに来てもらった」（「息子に」の助詞の部分が GAJ での調査項目）に関して、『方言文法全国地図解説 1』には、「琉球では、「息子が手伝いに来てくれた」とか「息子が手伝いに来た」など、「息子」を主格に置く表現しか得られない地点が多かった」（p.166）、「また、「息子に」という形をとりながら、使役表現となっている地点が 2 つ（0717.50、1233.52）あった」（同）とある。ちなみに、『日本言語地図 2』

### ヴォイス（受動文を中心に）

第 76 図「もらう」を見ると、沖縄ではモラウ類の語形がまったく回答されず、エル類（IRUN・IIRUN・IYUN・IYUN・YUN・IN・IIN・YUII・II・IIZI・IIZII・IIZILI・IIZIIDIUSI・IIZIU・IZIULI・ZII）、トル類（TUYUN・TULI・TOORARIN・TUIN・SUIN）、クレル類（HUUIN）、その他（HYAN・GIIN）の語形が回答されている。このように、テモラウ文を用いない方言が、琉球地方には存在する。

テモラウ文が日本語の運用の中で不可欠のものでないことは、本土方言の中でも確認できる。既存の方言談話資料の中には、【資料 3】に示したように、方言文では受動文で表現されている内容が、標準語訳においてテモラウ文で訳出されている例が散見される。これらが、青森、岩手、宮城、山形、三宅島、長崎という日本の周辺部の例である点に着目すれば、テモラウ文による恩恵性明示の表現は、中央部において生じた比較的新しい表現であることが予想される。このことは、【資料 4】においても確認できる。ここでは、夏目漱石『坊つちやん』の一節を方言訳した資料において、原文にはない授受表現が方言訳に現れている例が注目される。方言訳では「負ぶさって」を「負うてもらうて」等のテモラウ文で表し、方言訳では「切って見せる」を「切ってみせたる」等のテヤル文で表す方言が、近畿を中心にした中央部にある。

以上をまとめると、次のようになる。

- (1) 琉球方言には、「もらう」に由来する語がない。物の授受（モラウの本動詞用法）では、「得る」「取る」に由来する語を用いて「もらう」の意味領域を表す。行為の授受（モラウの補助動詞用法）では、テモラウに相当する表現を用いず、動作主を主語にした能動表現（恩恵性を付与したい場合はテクレルを用いる）が使役表現で表す。
- (2) 授受構文を頻用する方言とそうでない方言がある。受動表現にテモラウ、能動表現（意志文）にテヤルを用いる傾向が、近畿を中心にした中央部の方言にある。

### 3.4 ヴォイス表現の選択(2): アンケートによる調査例

ヴォイス表現の選択は、事態に関与する者に対する話し手の視点の置き方（共感度）を反映するものでもある。

【資料 5】は、ある二者の間に生じた事態を文で述べる場合に、誰を主役（主語）にして述べるか、さらに、それが恩恵的な行為のやりとりである場合に、恩恵性を含む表現（授受表現）を選択するかどうかを調査したアンケートの結果である。調査は、秋田大学、神戸学院大学の学生に対して行った。秋田大学調査では東日本出身者（東北地方出身者が大半）の回答を集計し、神戸学院大学調査では西日本出身者（近畿地方出身者が大半）の回答を集計した。

絵によって視覚的に示したそれぞれの事態は、次のような場面設定に対応している。

#### ・能動文と受動文の選択

[場面 A] 動作主 人・受け手 人・動作 殴る

[場面 B] 動作主 動物・受け手 人・動作 咬む

#### ・授受表現の使用・不使用

[場面 C] 動作主 人・受け手 人・動作 肩をたたく

#### ヴォイス（受動文を中心に）

##### [場面D] 動作主 人・受け手 人・動作 物を与える

場面Aでは、東日本出身者においては、能動文（動作主を主語にした文：「タダシがマサオを殴った」等）を回答した者と受動文（受け手を主語にした文：「マサオがタダシに殴られた」等）を回答した者の割合がほぼ均衡している。一方、西日本出身者においては、能動文選択者が受動文選択者をはるかに上回っている。

場面Bでは、東日本出身者、西日本出身者とも、受動文（「アキラが犬にかまれた」等）の回答が圧倒的に多い。

場面Cでは、動作主（与え手）を主語にした文（「孫がおばあさんの肩をたたいてあげている/たたいている」等）を回答した者が、受け手を主語にした文（「おばあさんが孫に肩をたたいてもらっている/たたかれている」等）を回答した者よりも多い。ただし、この傾向は東日本出身者に顕著で、西日本出身者では、受け手を主語にした文を回答する率がやや上がる。恩恵性の表現（授受構文）の選択では、動作主（与え手）主語の場合には授受構文を選択しない回答が多く、受け手主語の場合にはほぼ授受構文が選択されている。

場面Dでは、動作主（与え手）を主語にした文（「山田さんが加藤さんにりんごをあげている/渡している」等）を回答した者が、動作の受け手を主語にした文（「加藤さんが山田さんからりんごをもらった」等）を回答した者よりも多いが、東日本出身者においては場面Cに比べて、その差が小さくなっていると言える。恩恵性の表現（授受構文）の選択に関しては、動作主（与え手）主語の場合には授受構文を選択する回答が多くなっているが、授受構文を選択しない回答も一定数見られるのに対し、受け手主語の場合にはすべての回答で授受構文が選択されている。

ここでの調査結果は、現代日本語における、ほぼ一般的なヴォイス表現の選択の傾向を反映しているものと思われる。なお、東日本出身者と西日本出身者の間に見られた差のうち、顕著であるのは場面Aの結果である。この差が方言差を反映したものであるのかどうかは、現時点では不明である。今後の課題としたい。

#### 4. 文献

久野 暉（1978）『談話の文法』大修館書店

佐伯哲夫（1975）『現代日本語の語順』笠間書院

寺村秀夫（1982）『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版

仁田義雄（1980）『語彙論的統語論』明治書院

野田尚史（1991）『はじめての人の日本語文法』くろしお出版

日高水穂（1999）「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査（第1集）』秋田大学教育文化学部日本・アジア文化研究室（私家版）

福嶋秩子（1992）「新潟方言の格助詞「カラ」の用法をめぐって」『日本語学（特集 方言地図と文法）』VOL.11-6

細川由起子（1986）「日本語の受身文における動作主のマーカ―について」『国語学』144

益岡隆志（1987）『命題の文法』くろしお出版

森山卓郎（1988）『日本語動詞述語文の研究』明治書院

## B 項目

以下、GAJ は『方言文法全国地図』を指し、丸数字は巻数、丸数字の後の数字は地図番号を示すものとする。

### 1．受動文の種類

まともな受け身 \_\_\_：受動文でガ格化する格

#### ・ 2 項動詞

- (1-01) 太郎が次郎に殴られた。... [ガ・ヲ] / 直接的働きかけ
- (1-02) 太郎が犬にかみつかれた。... [ガ・ニ] / 直接的働きかけ
- (1-03) 太郎が先生にほめられた。... [ガ・ヲ] / 言語的働きかけ
- (1-04) 太郎が花子に話しかけられた。... [ガ・ニ] / 言語的働きかけ
- (1-05) 太郎がみんなに嫌われるのは、うそをつくからだ。... [ガ・ヲ] / 感情的働きかけ
- (1-06) 太郎がみんなに感謝されるのは、親切だからだ。... [ガ・ニ] / 感情的働きかけ
- (1-07) 無理に手紙を書かせられる。(GAJ 125) ... [ガ・ニ・ヲ] / 使役

#### ・ 3 項動詞

- (1-08) 次郎が太郎によって花子を紹介されることになった。... [ガ・ヲ・ニ]
- (1-09) 花子が太郎によって次郎に紹介されることになった。... [ガ・ヲ・ニ]
- (1-10) 山田さんが知事から感謝状を贈られることになった。... [ガ・ヲ・ニ]
- (1-11) 感謝状が知事から山田さんに贈られることになった。... [ガ・ヲ・ニ]

#### ・ 非情物主語

- (1-12) 大量のゴミが悪徳業者によって空き地に捨てられた。
- (1-13) 大量のゴミがその空き地に捨てられた。
- (1-14) 『源氏物語』が紫式部によって書かれたことは、学校で習った。
- (1-15) 『源氏物語』が平安時代に書かれたことは、学校で習った。
- (1-16) 悪いことをすると（その悪いことが）新聞に書かれる。(GAJ 115)

#### ・ 視点性

- (1-17) 満員電車で誰かが私を押した。... 能動文・<3人称>ガ<1人称>ヲ～スル
- (1-18) 満員電車で私は誰かに押された。... 受動文・<1人称>ガ<3人称>ニ～サレル
- (1-19) 満員電車で私は誰かを押した。... 能動文・<1人称>ガ<3人称>ヲ～スル
- (1-20) 満員電車で誰かが私に押された。... 受動文・<3人称>ガ<1人称>ニ～サレル

持ち主の受け身

- (1-21) 太郎が次郎に頭を殴られた。... 身体部分（中心的）
- (1-22) 太郎が次郎に妹を殴られた。... 身内
- (1-23) 花子が次郎に髪を切られた。... 身体部分（周辺の）
- (1-24) 花子が次郎に人形の髪を切られた。... 所有物
- (1-25) 太郎が次郎に（着ていた）服を破られた。... 所有物

## ヴォイス（受動文を中心に）

- (1-26) 太郎が次郎に（ダンスにしまっておいた）服を破られた。…所有物  
(1-27) 太郎が次郎に居眠りしているところを見られた。…姿  
(1-28) ある作家が批評家に新作をけなされた。…作品  
(1-29) 壁に落書きをされる。（GAJ 117）…所有物  
(1-30) 悪いことをすると（その悪いことを）新聞に書かれる。（GAJ 115）…行為  
第三者の受け身  
(1-31) 太郎は雨に降られて、ずぶぬれになった。  
(1-32) 花子は子供に死なれて、とても悲しんでいる。  
(1-33) 花子は子供に大声で泣かれて、とてもこまった。  
(1-34) 花子は隣で煙草を吸われて、いやがっている。  
(1-35) 山田さんは自宅の隣に高層ビルを建てられて、迷惑している。  
(1-36) 留守のときに来られるとこまる。（GAJ 116）

注：上に挙げた例文は、調査対象とする方言によって、より自然な近似的な表現に改めてもよい。例えば、「殴る」よりは、「たたく」「しばく」などが、より自然に用いられる方言では、「殴られる」を「たたかれる」「しばかれる」などに改める。

## 2. 受動文・テモラウ文の動作主を表す助詞

### 受動文

- (2-01) 「太郎は次郎に殴られた」の「次郎に」。  
(2-02) 「太郎は犬にかみつかれた」の「犬に」。  
(2-03) 「太郎は犬に手をかみつかれた」の「犬に」。  
(2-04) 「太郎はスリに財布を盗まれた」の「スリに」。  
(2-05) 「亀は浦島太郎に助けられた」の「浦島太郎に」。  
(2-06) 「浦島太郎は助けた亀に感謝された」の「亀に」。  
(2-07) 「山田さんは息子たちに尊敬されている」の「息子たちに」。  
(2-08) 「太郎は社長に出張を命じられた」の「社長に」。  
(2-09) 「太郎は母親に留守番を頼まれた」の「母親に」。  
(2-10) 「『源氏物語』は紫式部によって書かれた」の「紫式部によって」。  
(2-11) 「金閣寺は足利義満によって建てられた」の「足利義満によって」。  
(2-12) 「雨に降られてびしょぬれだ」の「雨に」。

### テモラウ文

- (2-13) 「太郎にカメラの使い方を教えてもらった」の「太郎に」。  
(2-14) 「太郎に宿題を手伝ってもらった」の「太郎に」。  
(2-15) 「亀は浦島太郎に助けてもらった」の「浦島太郎に」。  
(2-16) 「この時期に雨に降ってもらうと助かる」の「雨に」。

### ヴォイス（受動文を中心に）

注：予想される形式としては、ニ、ニヨッテ、カラの他に、ニカッテ（主に東北地方）、ンカイ（主に琉球地方）などがある。また、これらの表現を無助詞で表す方言もあり得るので、注意したい。

### 3. ヴォイスの選択（〔絵〕は【資料5】を参照）

#### 能動文と受動文の選択

##### ・人が人を殴る

（3-01）中立視点：〔絵〕場面Aの出来事を他の人に伝えるとすれば、どのように言いますか。人物名を織り込んで、ひとつの文で表現してください。

（3-02）動作主寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Aの出来事を、あなたがタダシの立場に立った場合、どのように表現しますか。

（3-03）受け手寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Aの出来事を、あなたがマサオの立場に立った場合、どのように表現しますか。

##### ・犬が人を咬む

（3-04）中立視点：〔絵〕場面Bの出来事を他の人に伝えるとすれば、どのように言いますか。人物名を織り込んで、ひとつの文で表現してください。

（3-05）動作主寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Bの出来事を、あなたがこの犬の飼い主の立場に立った場合、どのように表現しますか。

（3-06）受け手寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Bの出来事を、あなたがアキラの立場に立った場合、どのように表現しますか。

#### 授受表現の使用・不使用

##### ・行為の授受

（3-07）中立視点：〔絵〕場面Cの出来事を他の人に伝えるとすれば、どのように言いますか。人物名を織り込んで、ひとつの文で表現してください。

（3-08）動作主寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Cの出来事を、あなたが孫の立場に立った場合、どのように表現しますか。

（3-09）受け手寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Cの出来事を、あなたがおばあさんの立場に立った場合、どのように表現しますか。

##### ・物の授受

（3-10）中立視点：〔絵〕場面Dの出来事を他の人に伝えるとすれば、どのように言いますか。人物名を織り込んで、ひとつの文で表現してください。

（3-11）動作主寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Dの出来事を、あなたが山田さんの立場に立った場合、どのように表現しますか。

（3-12）受け手寄り視点：〔絵〕それでは、この場面Dの出来事を、あなたが加藤さんの立場に立った場合、どのように表現しますか。

注：場面Dの絵は、山田さんが与え手とも、加藤さんが与え手とも見ることができるので、回答者がどちらを与え手としてとらえてもよいものとする。

ヴォイス（受動文を中心に）

C 資料

資料1 『方言文法全国地図』受動文関係分布図（略図）

資料1-1 悪いことをすると新聞に書かれる

資料1-2 壁に落書きをされる

資料1-3 無理に手紙を書かせられる

資料1-4 留守のときに来られるところまる

資料1-5 息子に手伝いに来てもらった

資料2 受動文の動作主を表すカラの適格性（アンケート調査の結果）

秋田.....秋田大学学生（秋田県内出身者）

岩手（花巻周辺）.....岩手県立花巻南高等学校生徒（岩手県内出身者）

福島（喜多方周辺）...福島県立喜多方女子高等学校生徒（福島県内出身者）

近畿地方.....京都橘女子大学・神戸山手女子短期大学学生（近畿地方出身者）

熊本.....熊本県立熊本高等学校生徒（熊本県内出身者）

資料3 テモラウ表現で訳出される受動表現

資料4 夏目漱石『坊つちやん』冒頭部分の各地方言訳に見る授受表現

資料5 ヴォイス表現の選択に関する調査

東日本若年層.....秋田大学学生（東日本出身者）

西日本若年層.....神戸学院大学学生（西日本出身者）

資料2・5の秋田大学学生調査は、日高が秋田大学で担当する講義の受講者に対し、ほぼ毎回、出席確認をかねて行っていることばに関するアンケート調査によるものである。また、花巻南高等学校での調査では窪田大介先生、喜多方女子高等学校での調査では桑原瑞夫先生、京都橘女子大学、神戸山手女子短期大学での調査では西尾純二氏（大阪大学）、熊本高等学校の調査では橋本岳範先生、神戸学院大学での調査では野田春美氏（神戸学院大学）にお世話になった。ご協力いただいた各位には、心より、感謝申し上げます。なお、調査結果の一部は、日高のホームページ（<http://cube.ed.akita-u.ac.jp/staff/hidaka/tyousa/tyousa.html>）でも公開している。参照されたい。

【資料1-1】悪いことをすると新聞に書かれる

・ 受身形を回答

非受身形のみ回答

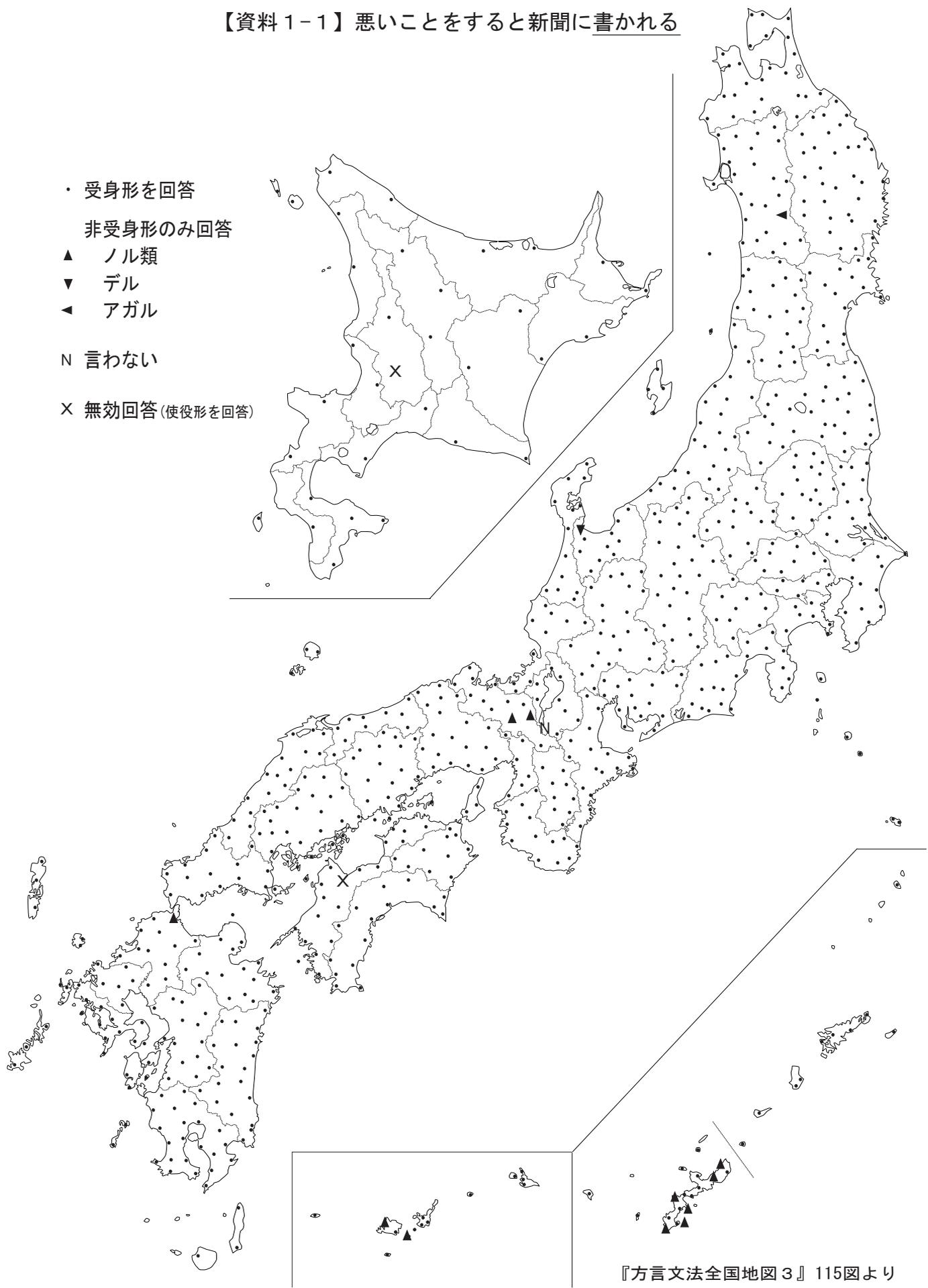
▲ ノル類

▼ デル

◄ アガル

N 言わない

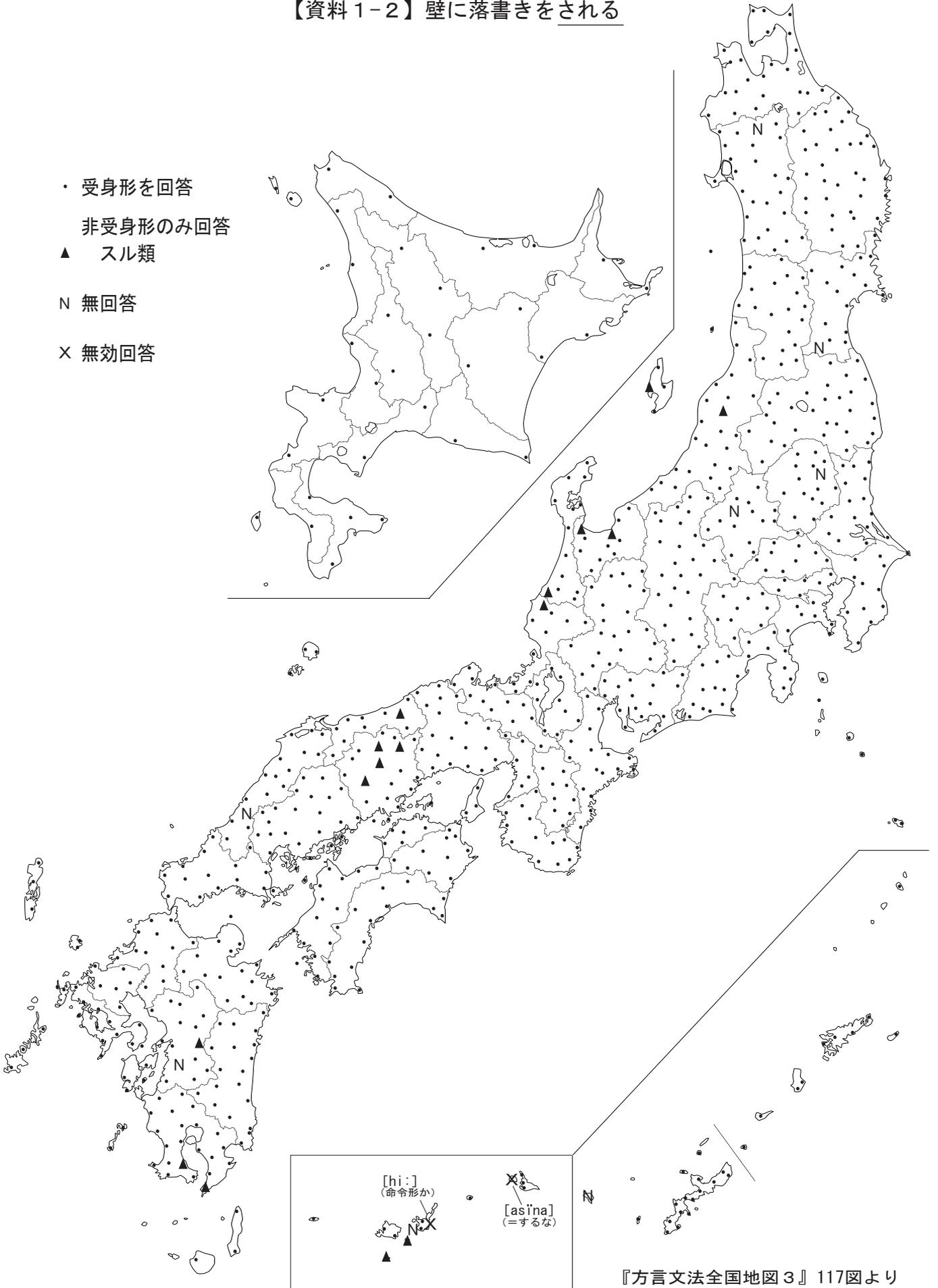
X 無効回答(使役形を回答)



『方言文法全国地図3』115図より

【資料1-2】壁に落書きをされる

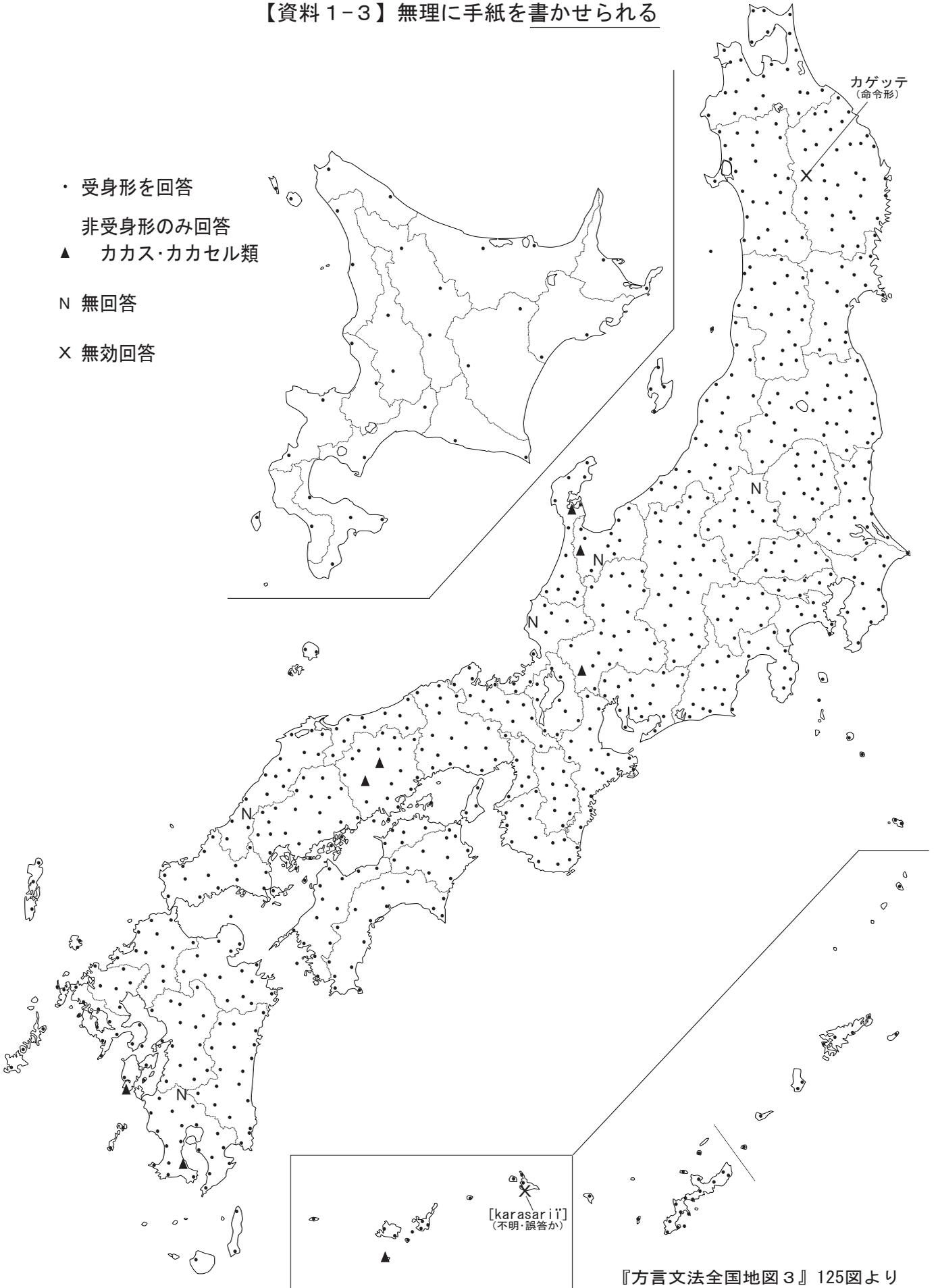
- ・ 受身形を回答
- 非受身形のみ回答
- ▲ スル類
- N 無回答
- X 無効回答



『方言文法全国地図3』117図より

【資料1-3】無理に手紙を書かせられる

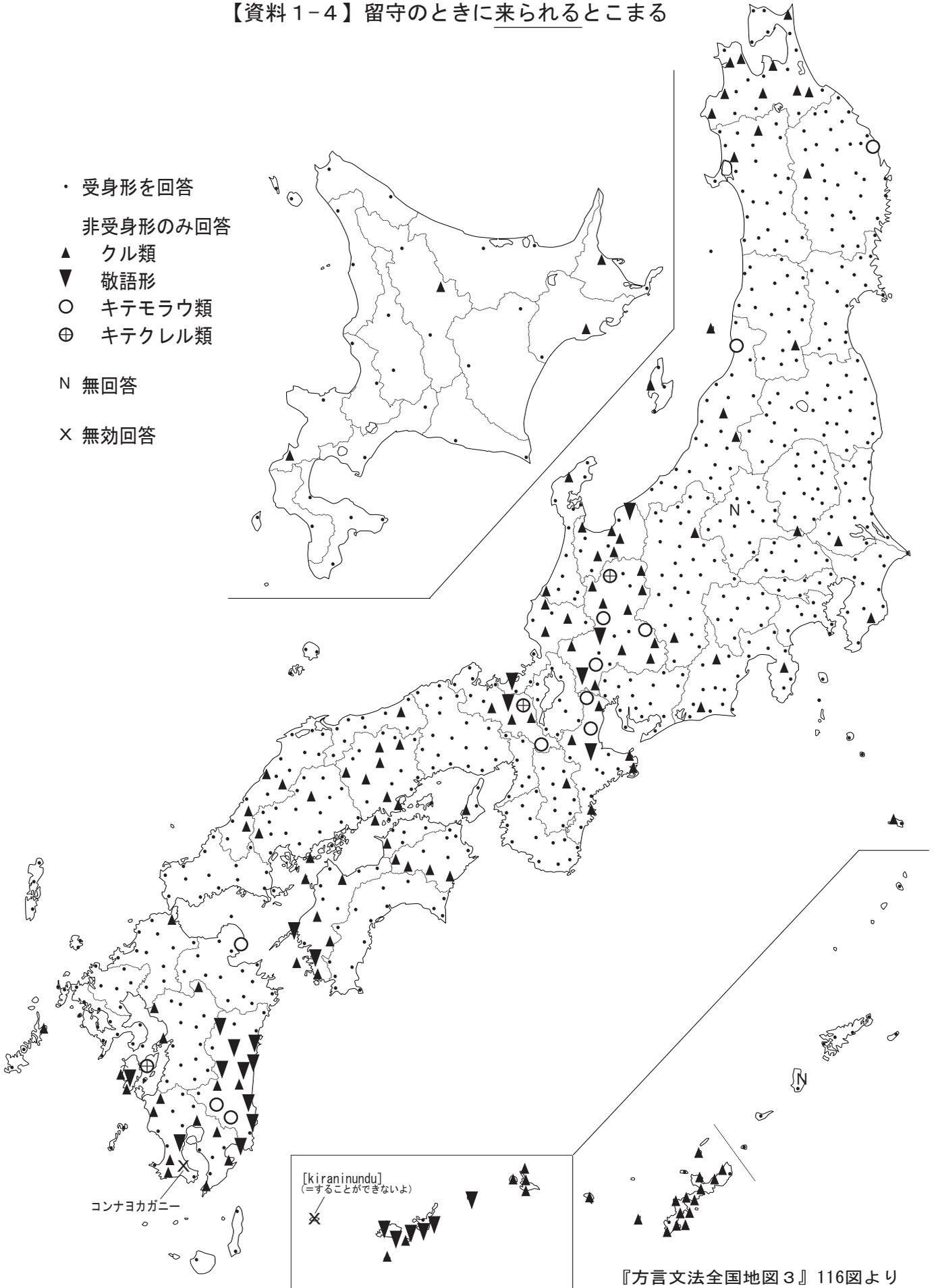
- ・ 受身形を回答
- 非受身形のみ回答
- ▲ カカス・カカセル類
- N 無回答
- X 無効回答



『方言文法全国地図3』125図より

【資料1-4】留守のときに来られるとこまる

- ・ 受身形を回答
- 非受身形のみ回答
- ▲ クル類
- ▼ 敬語形
- キテモラウ類
- ⊕ キテクレル類
- N 無回答
- X 無効回答

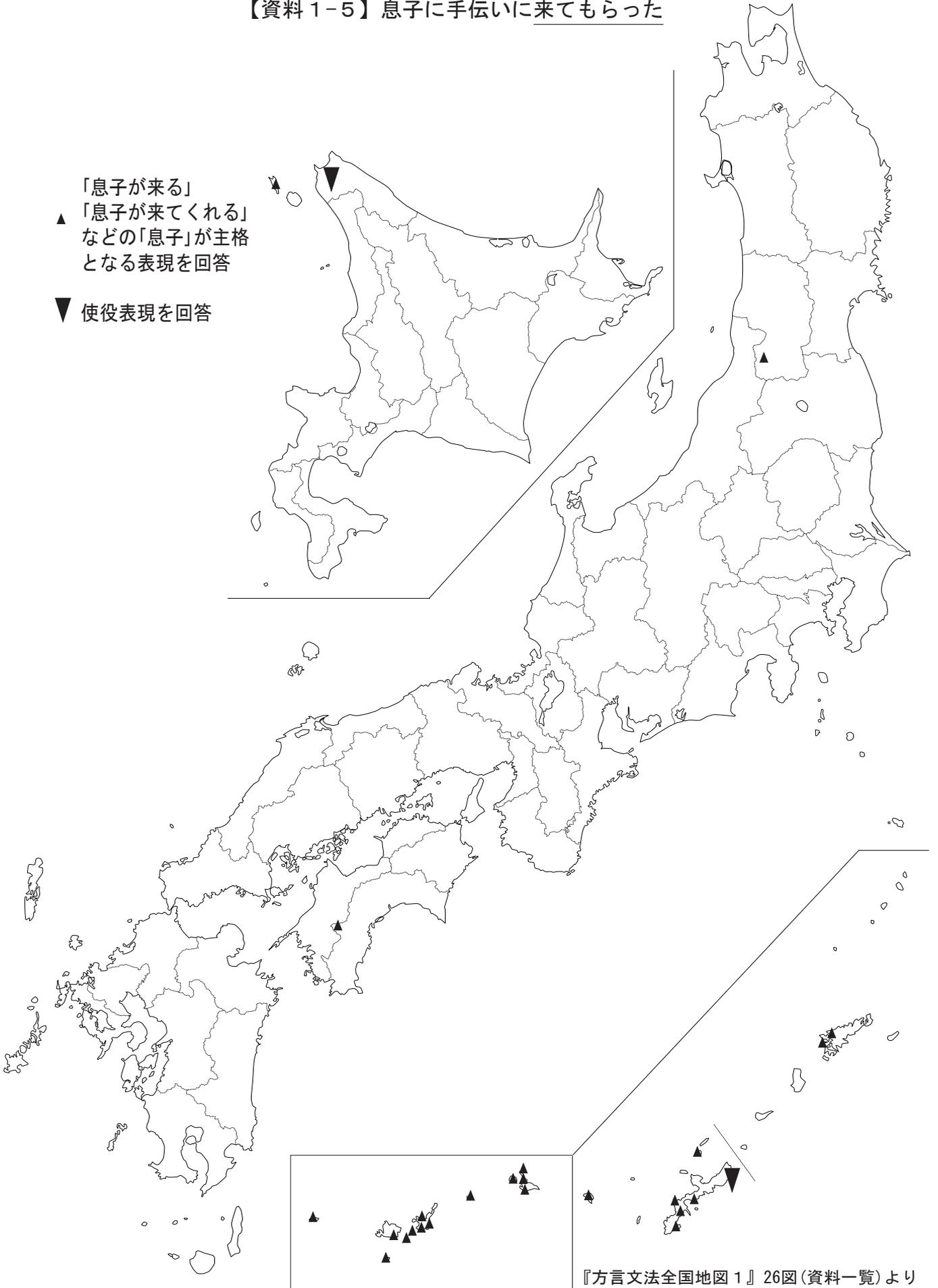


『方言文法全国地図3』116図より

【資料 1-5】 息子に手伝いに来もらった

▲ 「息子が来る」  
「息子が来てくれる」  
などの「息子」が主格  
となる表現を回答

▼ 使役表現を回答



『方言文法全国地図 1』 26図(資料一覧)より

## 【資料2】受動文の動作主を表すカラの適格性

(日高水穂 1999「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査1』から)

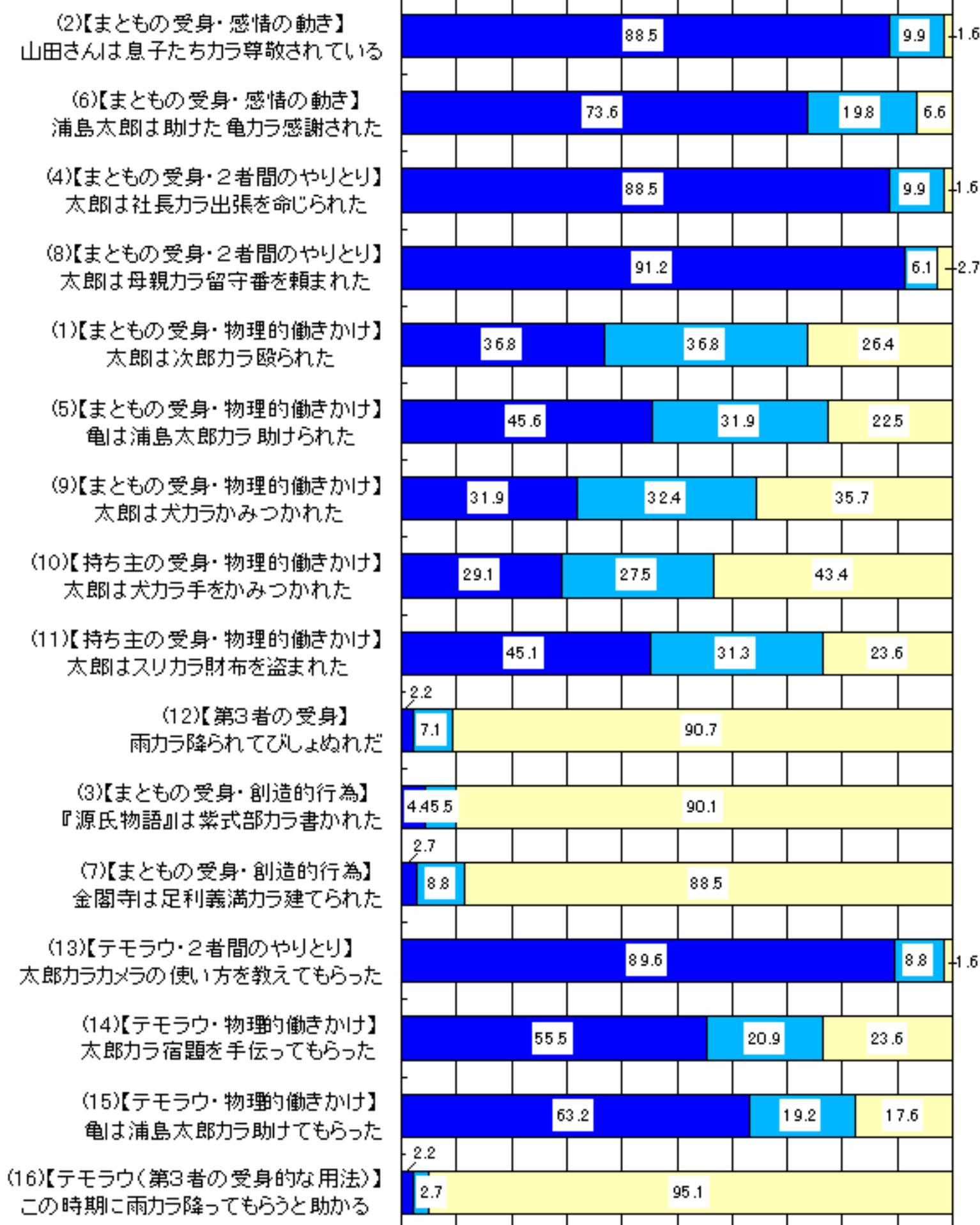
以下の表現について、助詞「カラ」を使うかどうか、「使う」「使わないが不自然ではない」「使わないし不自然である」のうち、当てはまるものにをつけてください。

	使う	使わないが 不自然ではない	使わないし 不自然である
(1) 太郎は次郎カラ殴られた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2) 山田さんは息子たちカラ尊敬されている。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3) 『源氏物語』は紫式部カラ書かれた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4) 太郎は社長カラ出張を命じられた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5) 亀は浦島太郎カラ助けられた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6) 浦島太郎は助けた亀カラ感謝された。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7) 金閣寺は足利義満カラ建てられた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(8) 太郎は母親カラ留守番を頼まれた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(9) 太郎は犬カラかみつかれた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(10) 太郎は犬カラ手をかみつかれた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(11) 太郎はスリカラ財布を盗まれた。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(12) 雨カラ降られてびしょぬれだ。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(13) 太郎カラカメラの使い方を教えてもらった。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(14) 太郎カラ宿題を手伝ってもらった。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(15) 亀は浦島太郎カラ助けてもらった。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(16) この時期に雨カラ降ってもらおうと助かる。.....	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

熊本調査では「殴られた(叩かれた)」、「かみつかれた(食われた)」と併記した。

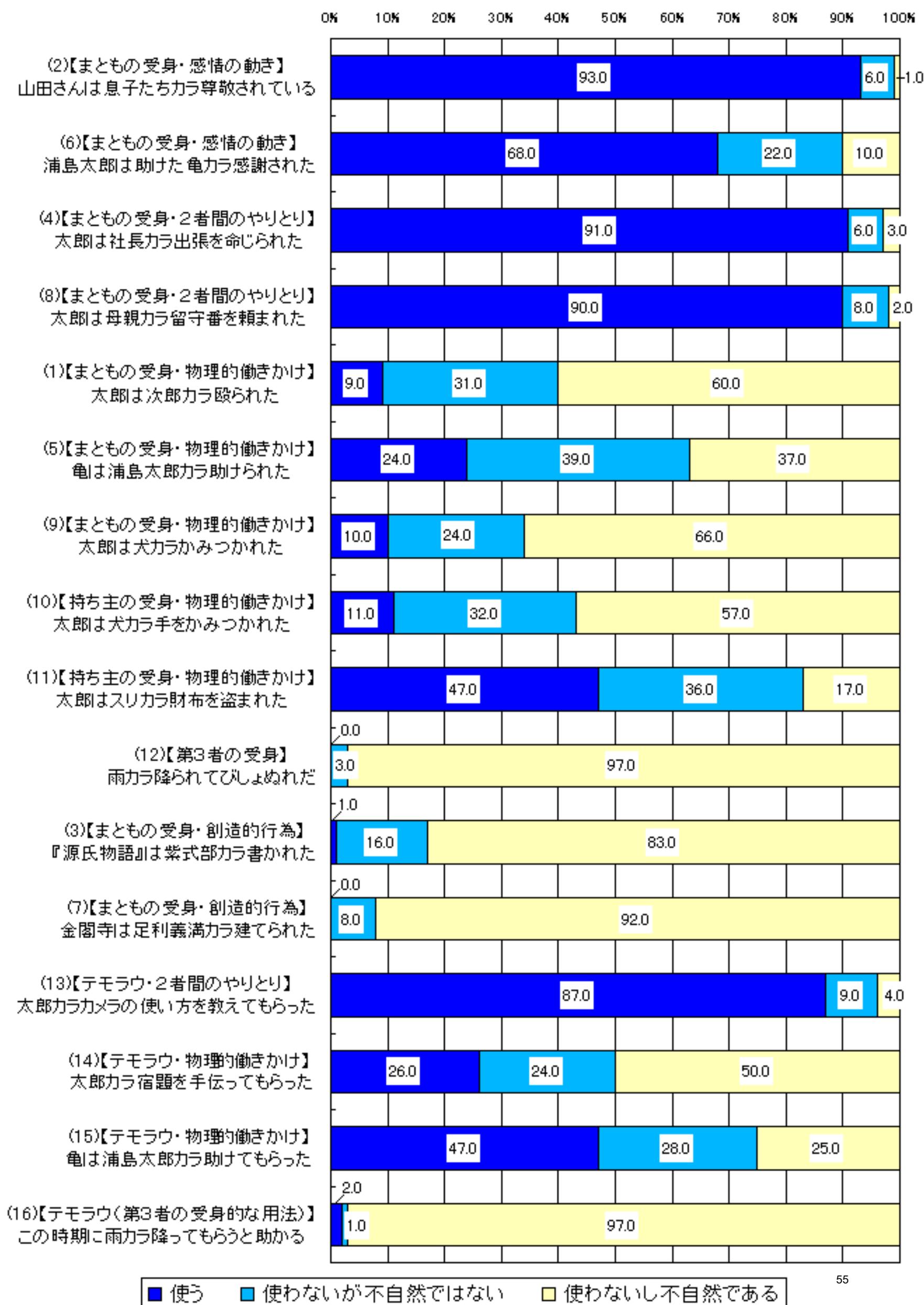
## 受動文の動作主を表すカラの適格性 <秋田>

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

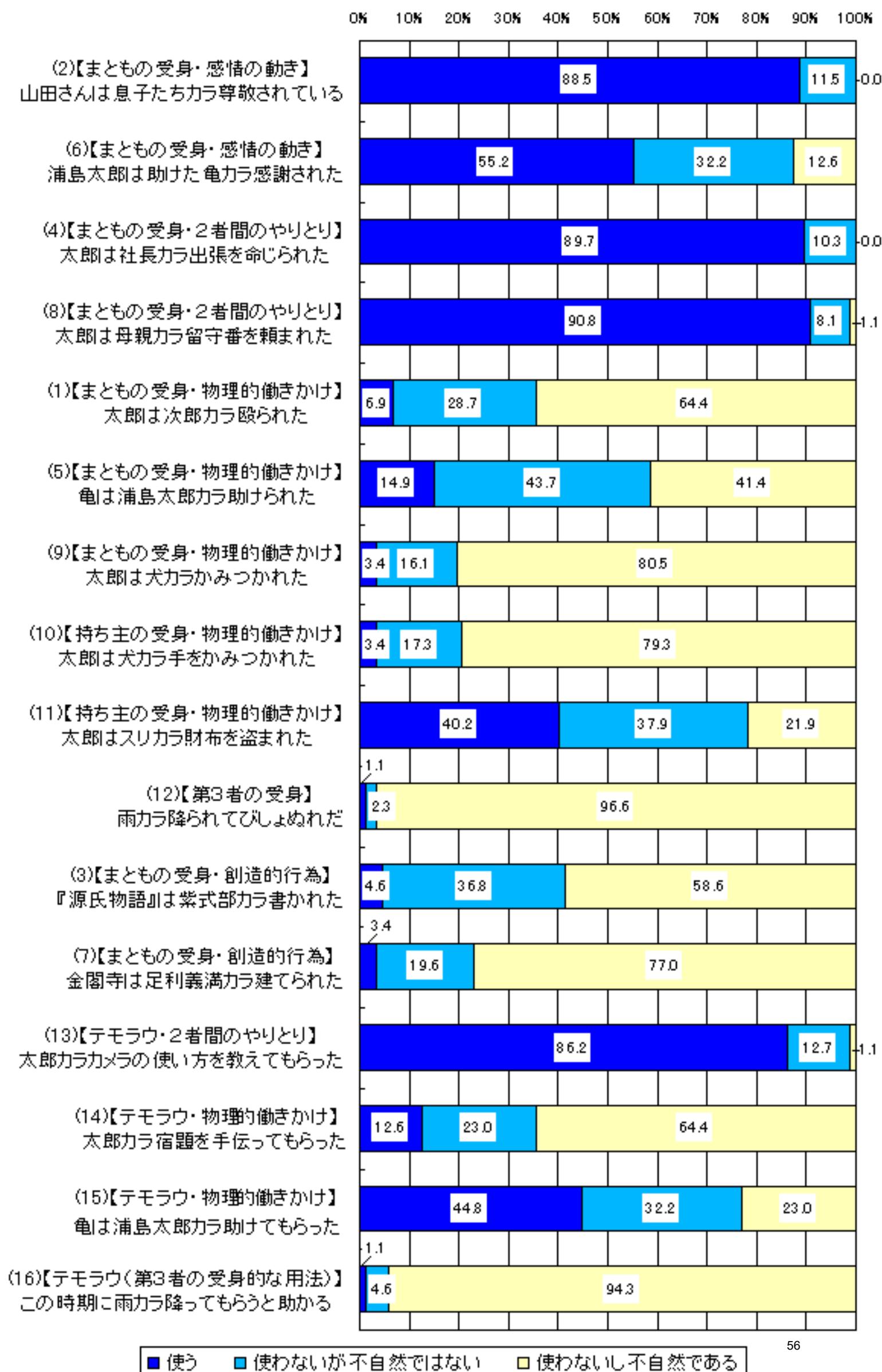


■ 使う □ 使わないが不自然ではない □ 使わないし不自然である

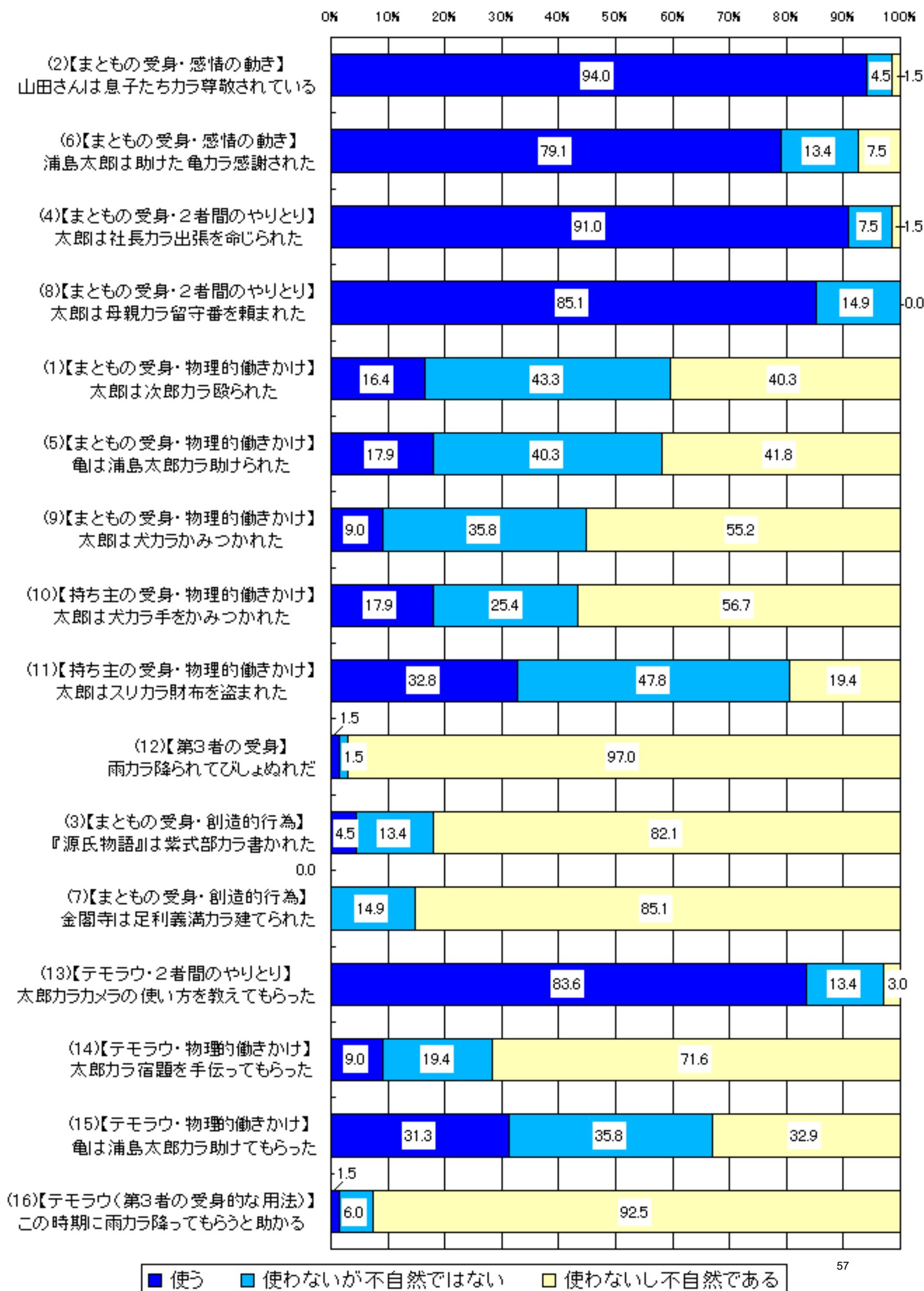
## 受動文の動作主を表すカラの適格性 <岩手(花巻周辺)>



# 受動文の動作主を表すカラの適格性 <福島(喜多方周辺)>

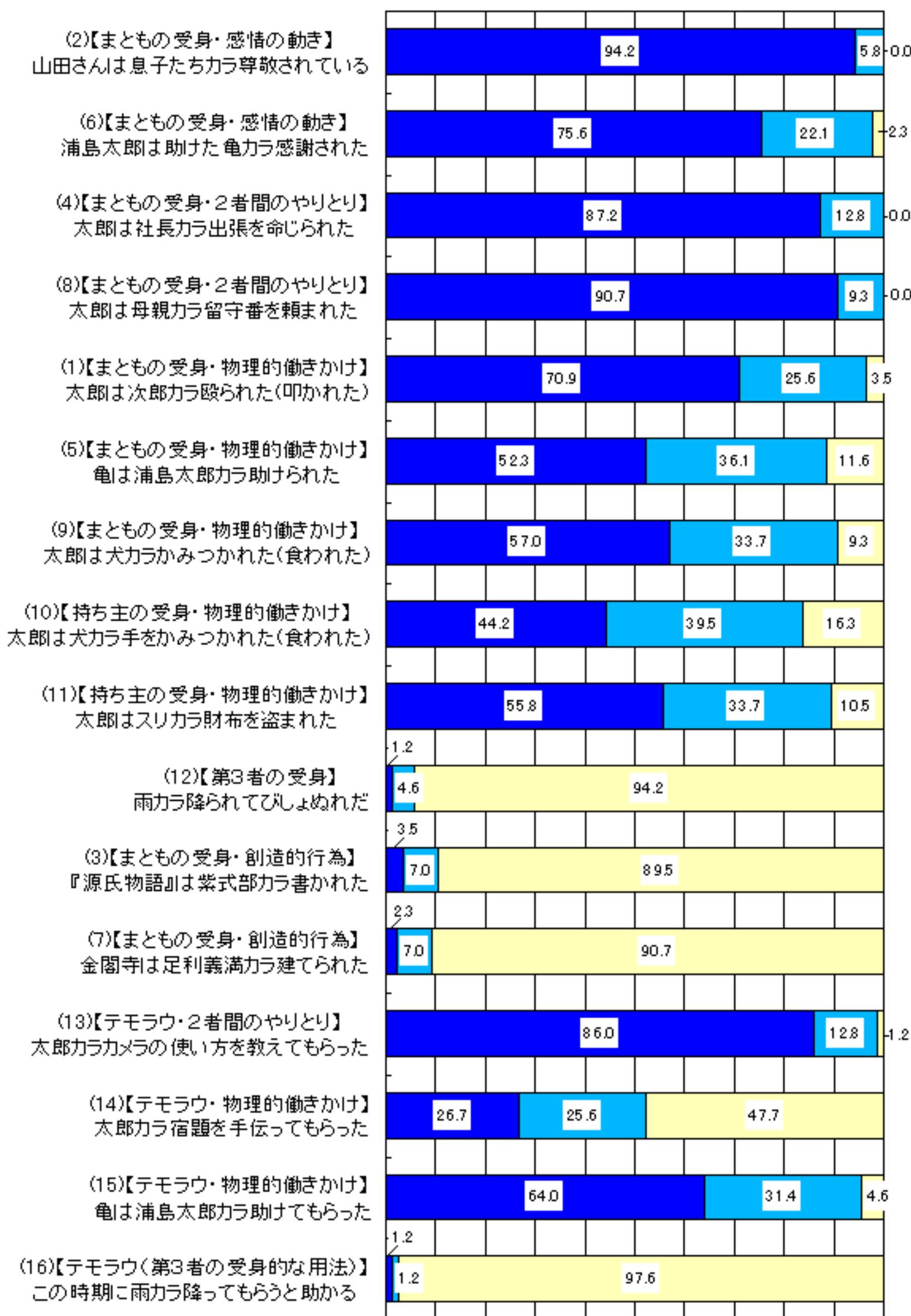


## 受動文の動作主を表すカラの適格性 <近畿地方>



# 受動文の動作主を表すカラの適格性 <熊本>

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 使う    ■ 使わないが不自然ではない    □ 使わないし不自然である

### 【資料3】テモラウ表現で訳出される受動表現

(日高水穂 1997「授与動詞の体系と変化に関する方言対照研究」平成8年度大阪大学博士論文から)

標準語でテモラウ(テイタダク)表現が行われる文脈で、受動表現が行われている例が、談話資料(NHK『全国方言資料』)の中にいくつか見られる。以下、該当の談話部分と標準語訳に下線を付して示す。なお[cf.]は方言談話の下線部分に対応する標準語の表現形式であり、そこに付した「?」は標準語の表現としてはやや不自然であるという文法性判断を示すものである。

- m ドー シラネー フトデモ ネーンダモノ サンビャクゴジューエンニ シテ ヤルベ  
(まあ、知らない人でもないんだからね。350円にしてあげましょう。)  
f ジューエン マケデカエ (10円まけてくださるんですか。)  
m フン ジューエン (ええ、10円。)  
f ヤヤ ヘダラ ジューエン マゲライテ ハー コノ ジェネコア ハ サンビャクゴジューエン  
(まあまあ、それでは10円まけてもらって [cf.?まけられて] このお金は、350円。)  
m 1896生/f 1894生・青森県三戸郡五戸町：『全国方言資料1』p72-73

ハー ネダンワ スラネードモ マー ウリモンニ カエーモンダガラ スコスガ マゲライデ オモ  
otte  
(値段は知りませんが、まあ、売りものに買いものだから、少しはまけてもらいたい [cf.?まけられ  
たい]とって。)  
m 1891生・岩手県宮古市高浜：『全国方言資料1』p102

キョー ナントカステ ミンナニ スケラッテ オモッテキタンダ  
(今日、何とかしてみんなに手伝ってもらいたい [cf.?手伝われたい]とって来たんだ。)  
m 1876生・宮城県宮城郡根白石村：『全国方言資料1』p157

[急に入院した隣人へのお見舞に持って行くために]  
タマゴ コサレニ( ) キタンダツツ キニ トーバカリ タマツテ ネーカヤ  
(卵をゆずってもらいに [cf.?譲られに]来たのだが、10個ばかりたまっていますか。)  
「コス」=寄越す。「頼まれて譲ったり売ったりする。分ける。」(『日本方言大辞典』)  
m 1879生・宮城県宮城郡根白石村：『全国方言資料1』p162

コナエダ スケラレモシテ トンナ オシヨーシナ  
(この間は手伝ってもらいまして [cf.?手伝われまして] たいそうありがとうございました。)  
f 1891生・山形県南置賜郡三沢村：『全国方言資料1』p228

エマノ フットア ソレー オットノ ヒトガラー シェンダクツオ サレテル ンダドーナー( )  
ムカシ ソーデナエ  
(今の人は夫に着物の心配をしてもらっている [cf.?されている] んですねえ。昔はそうではない。)  
「シェンダクオ スル」は「裁縫する」「着物をととのえる」「着物を作る」「着物の心配をする」の意。  
f 1887生・岩手県九戸郡種市町中野『全国方言資料7』p31

オー イー コ モラツテ コレ マー ミンナニ ヨロコバレテ バカリ モー。  
(ああ、いい娘をもらって、これは、まあ、みんなによるこんでいただいて [cf.?喜ばれて] ばかり  
ですよ、もう。)  
m 1885生・東京都三宅村坪田：『全国方言資料7』p176

ヤドモトサネー ソン オコゴオ( ) スクージテナー (中略) ソコデ ホシテ モロータル イツテ  
モロータルシテー ソーヒテ マタ ソルオ ウラツテ カル オコゴ デージャ チューツ デヨーツ ナー  
(宿元にね、おごごをすくって行ってね。そこで干してもらったり、選別してもらったりして、そう  
してまたそれを売ってもらって [cf.?売られて] から、「おごごでえ」だといって、集まったもので  
したねえ。)

「おごご」とは、海岸の岩についている「カイラ」(ふのりの原料で、土地では「おご」という)をかきと  
るとき、とりそこなって海面に浮いたもの。この「おごご」を若い人たちがきそってすくい、その売上げで寄合  
いをするを、「おごごでえ」という。6月の初旬のころの楽しみだったという。  
f 1892生・長崎県上県郡上対馬町鰐浦：『全国方言資料9』p161

【資料4】夏目漱石『坊つちやん』冒頭部分の各地方言訳に見る授受表現

(日高水穂1997「授与動詞の体系と変化に関する方言対照研究」平成8年度大阪大学博士論文から)

<原文>

小使に負ぶさつて帰つて来た時、おやぢが大きな眼をして二階位から飛び降りて腰を抜かす奴があるかと云つたから、此次は抜かさずに飛んで見せませと答へた。

(平井昌夫・徳川宗賢編1969「全国実例方言集」方言研究のすべて、至文堂より)

親類のものから西洋製のナイフを貰つて綺麗な刃を日に磨いて、友達に見せて居たら、一人が光る事は光るが切れぬ事があると云つた。切れぬ事があるか、何でも切つて見せると受け合つた。そんなら君の指を切つて見ると注文したから、何だ指位此通りだと右の手の親指の甲をはずに切り込んだ。

(徳川宗賢1981「方言の実態」日本語の世界8 言葉・西と東、中央公論社より)

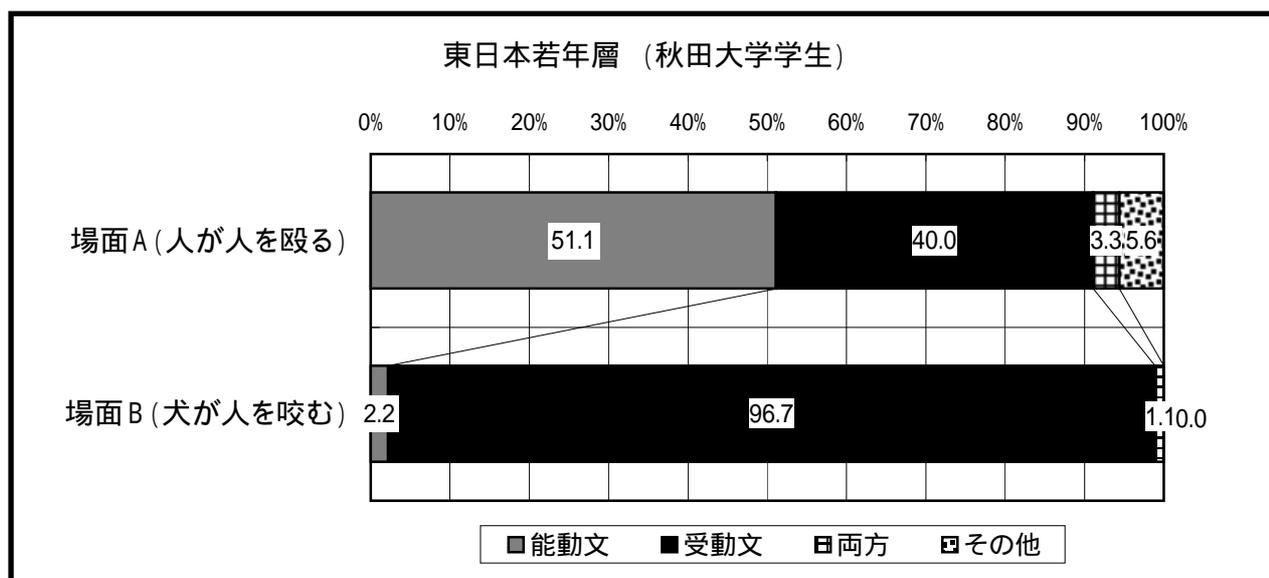
表 夏目漱石『坊つちやん』冒頭部分の各地方言訳に見る授受表現

地域	方言訳	テモラウの有無	方言訳	テヤルの有無
北海道亀田郡戸井町	オンブサツテ	-	キツテミセルト	-
青森県弘前市	オボサツテ	-	キツテミヒエルテバト	-
岩手県盛岡市	オボサツテ	-	キツテメシエルテ	-
岩手県西磐井郡平泉町	バレデ	-	キツテメシエルド	-
宮城県仙台市	オンバッテ	-	キツテミヒエツト	-
秋田県雄勝郡皆瀬村小安	バレデ	-	キツテミシエルツテ	-
山形県東根市泉郷	ンバサツテ	-	キツテメシエルテ	-
福島県伊達郡霊山町	ウブサツテ	-	キツテミセツツオ	-
茨城県水海道市	オブサツテ	-	キツテミセルツテ	-
栃木県那須郡烏山町	オブサツテ	-	キツテミセルト	-
群馬県利根郡利根村	オブサツテ	-	キツテミセルベエト	-
埼玉県上尾市領家	オブサツテ	-	キツテミセラアト	-
千葉県長生郡本納町	ブツツアツテ	-	キツテミセルト	-
東京都区内	/	/	キツテミセテヤルカラツテ	
神奈川県厚木市	/	/	キツテミラアト	-
新潟県刈羽郡刈羽村	バレデ	-	キツテミセルドト	-
山梨県中巨摩郡白根町	オブサツテ	-	キツテミセラアト	-
長野県松本市近郊	オバッテ	-	キツテミセルト	-
岐阜県吉城郡古川町	オバレテ	-	キツテミセルワイト	-
静岡県静岡市	オンブサツテ	-	キツテミセラアツテ	-
愛知県名古屋市	オバレテ	-	キツテミセタルト	
富山県西礪波郡福光町	ボンボサレテ	-	キツテミセタルワ	
石川県羽咋郡押水町	ボンボサレテ	-	キツテミヘルト	-
福井県福井市	オンブサレテ	-	キツテミセルワイト	-
三重県伊勢市	オンデモエ		キツテミセタルゾト	
滋賀県大津市	オテモオテ		キツテミセタル	
京都府京都市北区平野八丁	オオテモロテ		キツテミセタル	
大阪府堺市	セオテモロテ		キツテミセタルゾウ	
兵庫県神戸市	オタシテモウテ		キツテミセタル	
奈良県桜井市多武峰	オーテモロテ		キツテミセタルワト	
和歌山県和歌山市	オッパシテモウテ		キツタラト	
鳥取県境港市	オワエテ	-	キツテミシチャアツテ	
島根県出雲市	オワレテ	-	キツテメシエエジト	-
岡山県岡山市	オワレテ	-	キツテミシエル	-
広島県広島市荒神町	/	/	キツテミシタラアヤア	
山口県熊毛郡上関町	オワレテ	-	キツテミショウカア	-
徳島県麻植郡山川町	オワレテ	-	キツテミセルト	-
香川県丸亀市土器町	オウテモロテ		キツテミセテヤルゾト	
愛媛県温泉郡川内町滑川	オワレテ	-	キツチャライヤ	
高知県高知市近郊	オーテモローテ		キツテミセチャルト	
福岡県糸島郡前原町有田	オワレテ	-	キツテミスルツテ	-
佐賀県小城市芦刈町	カルワイテ	-	キツテミュウダアテ	-
長崎県長崎市浦上	カラワレテ	-	キツテミシュウテ	-
熊本県熊本市田迎町良町	カラワレテ	-	キツテミスルテチ	-
大分県臼杵市	オバレテ	-	キツテミスルト	-
宮城県宮崎市小松	カルワレテ	-	キツテエミスツドツ	-
鹿児島県鹿児島市武町	カルワレツ	-	キツテミスツデチ	-
鹿児島県名瀬市市街地	クモダカッティ	-	キツテニシリユウチ	-
沖縄県糸満市	ウーワーサツテ	-	キツテミシーンリ	-

: 該当形式あり      - : 該当形式なし      / : 未調査  
 方言訳 の 記号は引用標識「と」に当る形式が存在しないことを示す

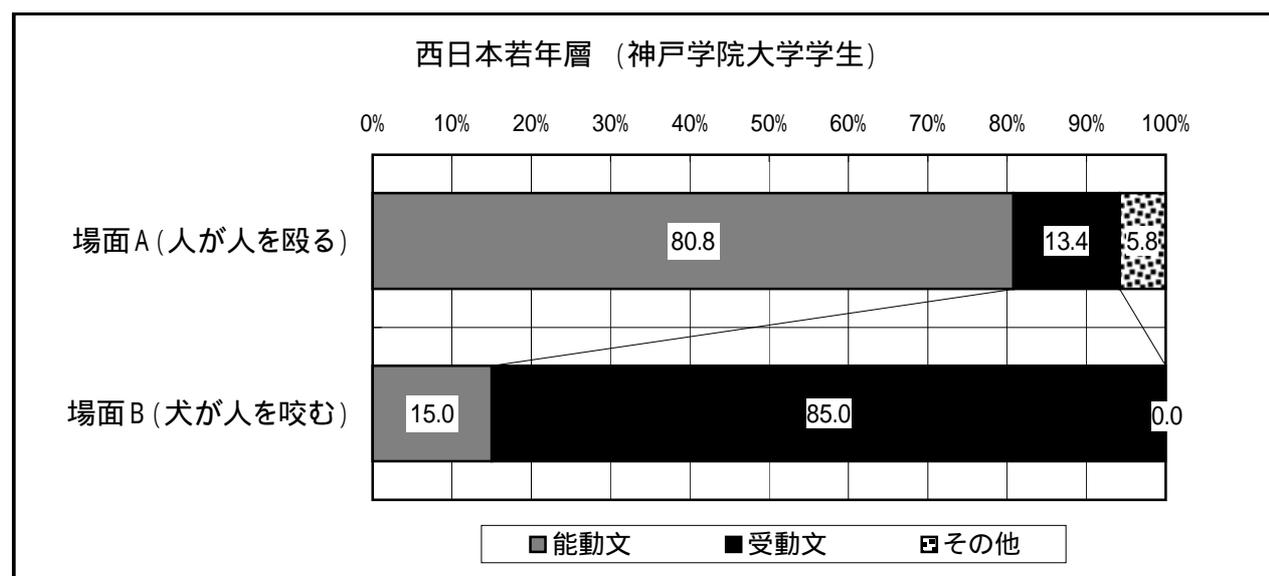


## 受動文と能動文の選択



【回答者】 秋田大学学生90名(秋田73名/秋田以外の東北15名/栃木・新潟各1名)

【調査時期】 2000年9月



【回答者】 神戸学院大学学生120名(近畿89名/中国16名/四国7名/九州5名/福井・富山・愛知各1名)

【調査時期】 2001年11月

【回答例】

<場面A> [能動文] タダシがマサオを殴った。等

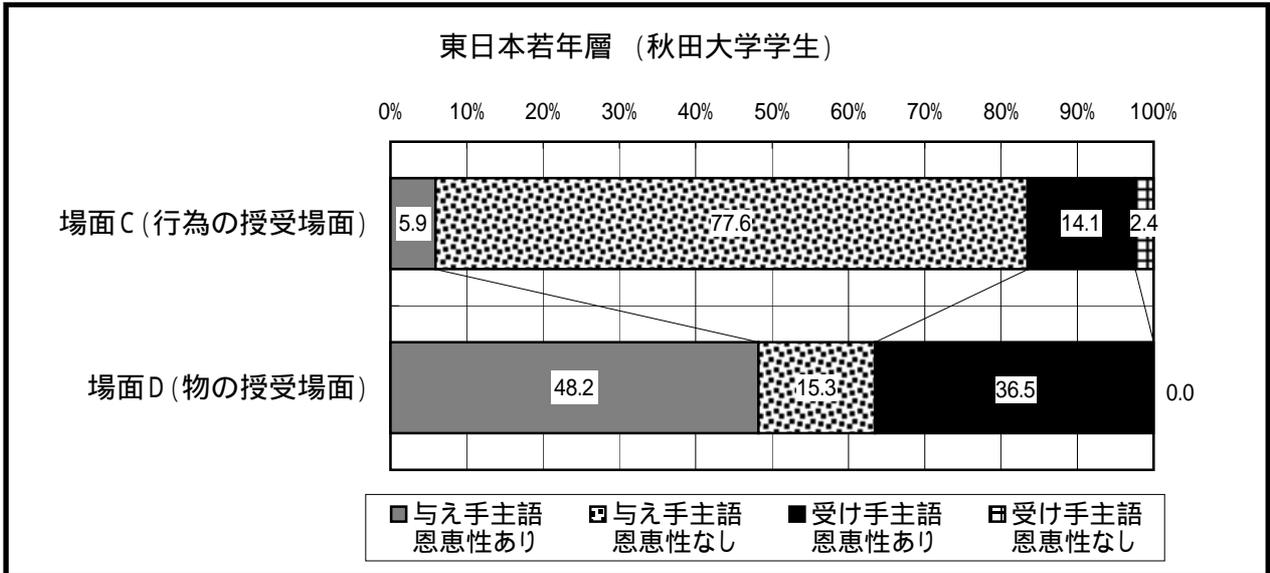
[受動文] マサオがタダシに殴られた。等

[その他] マサオがボクシングでタダシに右ストレートもらった。ノマサオがタダシを殴っている。ノマサオがタダシに負けたんだけ。ノマサオの左ストレートをタダシはかいくぐり、右をカウンターで合わせた。ノマサオがタダシを殴ろうとしたら、ソレヨリ先に、マサオがタダシのパンチを食らった。(以上、秋田大学調査)ノタダシはマサオと相打ちになりかけた。ノタダシがマサオに勝った。ノマサオはタダシに負けた。ノタダシの右がマサオにヒットした。ノマサオとタダシがボクシングをしている。ノマサオがカウンターをくらった。ノマサオはタダシに鮮烈なカウンターをくらった。(以上、神戸学院大学調査)

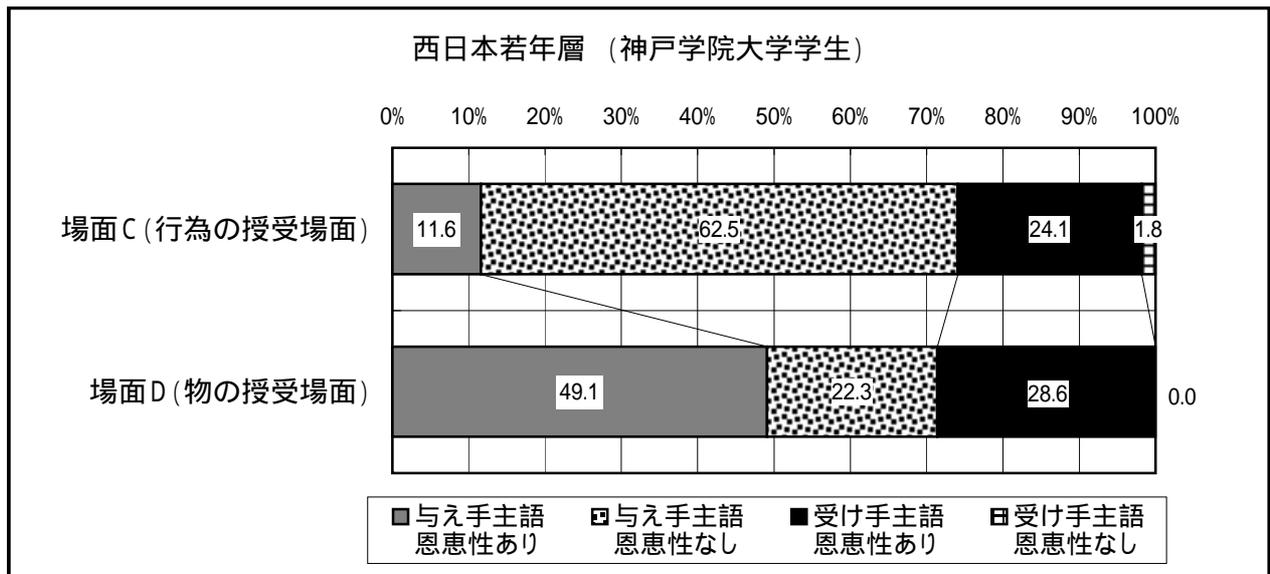
<場面B> [能動文] 犬がアキラ(の手)にかみついた。ノ犬がアキラ(の手)をかんだ。等

[受動文] アキラが犬にかまれた。等

## 授受表現の使用・不使用



【回答者】 秋田大学学生85名(秋田71名/秋田以外の東北12名/栃木・新潟各1名)  
 【調査時期】 2000年9月



【回答者】 神戸学院大学学生112名(近畿84名/中国14名/四国6名/九州5名/福井・富山・愛知各1名)  
 【調査時期】 2001年11月

【回答例】 ( )内の数字は回答者数

- <場面C> [与え手主語・恩恵性あり]孫がおばあさんの肩をたたいてあげている。等  
 「～てあげる」(秋田6/神戸13)、「～てやる」(秋田1)  
 [与え手主語・恩恵性なし]孫がおばあさんの肩をたたいている/もんでいる。等(秋田66/神戸70)  
 [受け手主語・恩恵性あり]おばあさんが孫に肩たたきをしてもらっています。等(秋田12/神戸27)  
 [受け手主語・恩恵性なし]おばあさんが孫に肩をたたかわれている/マッサージを受けている。等(秋田2/神戸2)
- <場面D> [与え手主語・恩恵性あり]山田さんが加藤さんに(加藤さんが山田さんに)りんごをあげている。等  
 「あげる」(秋田40/神戸54)、「さしあげる」(秋田1)、「分けてあげる」(神戸1)  
 [与え手主語・恩恵性なし]山田さんが加藤さんに(加藤さんが山田さんに)りんごをおすそわけした。等  
 「おすそわけする」(秋田10/神戸12)、「渡す」(秋田1/神戸12)、「贈る」(秋田1)、「手渡す」(神戸1)  
 [受け手主語・恩恵性あり]加藤さんが山田さんから(山田さんが加藤さんから)りんごをもらった。等  
 「もらう」(秋田26/神戸29)、「いただく」(秋田4/神戸2)、「授かる」(神戸1)、「もらう」「いただく」両方回答(秋田1)



テンス・アスペクト

木部 暢子  
沖 裕子  
井上 文子

A 解説

1. テンス・アスペクトとは

(1.1) テンスとは

テンスとは「出来事を，発話時を基準とする時間軸の上にもう位置づけるか」といった，出来事の外的時間に関する文法的カテゴリーのことで，発話時を<現在>，それ以前を<過去>，それ以後を<未来>と呼ぶ。

過去——現在（発話時）——未来

現代日本標準語（以下標準語と略す）では，一般にイク(行く)，クル(来る)，イル(居る)のようなル形が<現在>と<未来>を表し，イッタ(行った)，キタ(来た)，イタ(居た)のようなタ形が<過去>を表す。

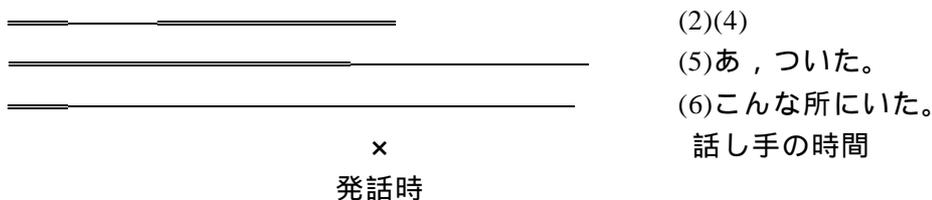
- (1)明日，友だちの家へ遊びに行く。（未来）
- (2)昨日，友だちの家へ遊びに行った。（過去）
- (3)今，友だちの家にいる。（現在）
- (4)昨日は友だちの家にあった。（過去）

しかし，標準語のタは<過去>という概念では説明しきれない用法も持っている。例えば，次のタは発話時における事態の発生や発見を表す。

- (5)（電気がつかないかと待っていたところ）あ，ついた。（事態の発生）
- (6)（太郎を探していて）あ，こんな所にいた。（事態の発見）

このことから，標準語のタは，出来事の成立時点が<過去>であるというよりも，話し手が出来事の情報を獲得するに至った体験の時点が<過去>であることを表すと考えた方がよさそうである。

図 1



(1.2) アスペクトとは

これに対しアスペクトとは「出来事を，開始から終了までひとまとまりのこととして捉えるか，それとも開始・動作（変化）・完了・結果といった時間の流れに沿って段階的に捉え

るか」といった、出来事の内的時間に関する文法的カテゴリーのことで、ひとまとまりのこととして捉える捉え方を<完成相>、段階的に捉える捉え方を<継続相>という。標準語ではヨム(読む)、シヌ(死ぬ)のようなル形が<完成相>を表し、ヨンデイル(読んでいる)、シンデイル(死んでいる)のようなテイル形が<継続相>を表す。

図 2

	ヨンデイル	
読む	×	×
	開始	完了
	シンデイル	
死ぬ	×	×
	開始(?)	完了

この他に「～始める」「～終わる」「～続ける」などの補助動詞によって出来事の段階を表すことがあるが、これらは「始める」「終わる」「続ける」などの動詞の持つアスペクトの意味を利用した表現であって、文法的には二次的アスペクトと位置づけられる。

また、テアルもアスペクトを表す。ただしテアルは使用に大きな制限があり、他動詞のうち無情物を対象物とするもの(3に挙げる(b0)主体動作客体変化動詞)にしか接続しない。また対象物が「を」ではなく「が」で表示される。

- (7) 壁に絵が掛けてある。
- (8)\*壁に絵を掛けてある。(対象物が「を」で表示される)
- (9)\*壁に絵が掛かってある。(自動詞)
- (10)\*花子がなぐってある。(有情物を対象物とする他動詞)

これらのことを考えると、テアルはアスペクトを表す文法形式というよりも、変化の結果としての客体がそこに存在するという意味を表す存在動詞と考える方がよい。

(1.3)テンスとアスペクトの関係

以上のように、標準語では「ル：タ」が出来事の外的時間を規定し、「ル：テイル」が出来事の内的時間を規定し、この両者を組み合わせることによって、表1のような時間に関する表現を作り上げている。

表 1

	完成相	継続相
非過去	ヨム	ヨンデイル
過去	ヨンダ	ヨンデイタ

表1の「ヨム」はテンス<非過去>、アスペクト<完成相>を表し、「ヨンデイル」はテンス<非過去>、アスペクト<継続相>を表す。また、ヨンダはテンス<過去>、アスペクト<完成相>を、ヨンデイタはテンス<過去>、アスペクト<継続相>を表す。このように、テンスとアスペクトは一体となって時間表現を作り上げている。

2. 日本方言のテンス・アスペクト

日本語諸方言には標準語とは異なるテンス・アスペクト体系を持つ方言が多い。代表的なものを挙げておこう。

(a) 標準語のテンス・アスペクト体系

	完成相	継続相
非過去	書ク	書イテイル
過去	書イタ	書イテイタ

(b) 山形県鶴岡方言のテンス・アスペクト体系（渋谷勝己1994による）

	完成相	継続相
非過去	書グ	書イッダ 書イデル(注)
過去	書イダ	書イッダ 書イデダ

(注)恒常性の度合いが高い場合には書イデルが用いられる。

私は毎朝手紙を カイデル / ?カイツダ

私は今手紙を ??カイデル / カイツダ

(c) 愛媛県宇和島方言のテンス・アスペクト体系（工藤真由美1995による）

	完成相	継続相	
		動作継続	結果継続
非過去	書ク	書キヨル	書イトル
過去	書イタ	書キヨッタ	書イトッタ

(d) 沖縄県今帰仁方言のテンス・アスペクト体系（狩俣・島袋1989による）

変化動詞（行く）

	完成相	継続相		
		進行相	継続相	痕跡相
非過去	イチュン(注1)	イジュン(注2)	イジェン(注3)	
過去	イジャン	イジュイタン	イジータン	イジェータン

(注1) ぷっぷーヤ メーニち ナグーかてィ イチュン（祖父は毎日名護に行く）

ぷっぷーヤ ナマ ヤーち イチュン（祖父は今家に行きつつある）

(注2) 変化動詞の場合，継続相は結果の継続を表す。

ぷっぷーヤ パルーち イジュン（祖父はでかけていて，いま畑にいる）

(注3) ぷっぷーヤ パルーち イジェン（祖父は畑に行ったようすがある。いま畑にいるかどうかはとわない）

動作動詞（飲む）

	完成相	継続相		
		進行相	継続相	痕跡相
非過去	ヌミン(注4)	ヌドゥン(注5)	ヌデン(注6)	
過去	ヌダン	ヌミータン	ヌドゥイタン	ヌデータン

(注4) 又くとゥイヌ サキーヤ アチャー ヌミン（残っている酒は明日飲む）

ヌー ヌミガ。サキー ヌミン（何を飲んでいるの？ 酒を飲んでいる）

(注5)動作動詞の場合，継続相は動作の継続を表す。

ヌー ヌドゥイガ（何を飲んでいるの） サキー ヌドゥン（酒を飲んでいる）

(注6)チャッチャーガ サキー ヌデン（父が酒を飲んである）

方言のアスペクトは，大きく二項対立型の東日本と三項対立型の西日本に分けられる。二項対立型の東日本では，基本的に「ル形：テイル形」によって<完成相>と<継続相>が区別される。テイル形の意味は，「開ける」「歩く」のような<主体動作動詞>では<動作の継続>の意味になり，「開く」「死ぬ」のような<主体変化動詞>では<結果の継続>の意味になる。

(11)太郎が窓を開けている。（主体動作動詞：動作の継続）

(12)窓が開いている。（主体変化動詞：結果の継続）

そのため，東日本方言では動詞の意味記述がアスペクト研究の上で重要なウェイトを占めることになる。

三項対立型の西日本では，「ル形：ヨル形：トル形」によって<完成相>，<動作の継続>，<結果の継続>の三つが区別される（地域によりシヨー・シヨール，シトー・シチョル・シチヨーなどの語形のバリエーションがある）。

(13a)太郎が窓を開けヨル。（動作の継続）

(13b)太郎が窓を開けトル。（結果の継続）

(14a)窓が開きヨル。（動作の継続）

(14b)窓が開いトル。（結果の継続）

従って，西日本方言では動詞の分類が東日本ほど重要な位置を占めない。ただし，動詞によってはヨル形・トル形のアスペクト的対立が中和され，ヨル形・トル形がともに<動作の継続>を表すことがある。

(15)赤ちゃんが泣きヨル／泣いトル。（動作の継続）

(16)雨が降りヨル／降ットル。（動作の継続）

どのような動詞でヨル・トルの中和が起きるかは，地域により差がある。また，中和が起きると，今度はヨル形とトル形がムードの差として意識されるようになる。

(17a)目覚まし時計が鳴りヨル。（目撃性）

(17b)どこかで時計が鳴ットル。（非目撃性）

このような「ヨル形：トル形」の中和の実態を明らかにするためには，やはり西日本方言でも動詞の意味記述をしっかりとしなければならない。

東北方言では存在動詞「いる」において，イルとイダの両形が非過去を表す。

(18)お父さん イルガ？／イダガ？（お父さんいるか？）

ん，イル／イダ（うん，いる）

恒常性が高い場合にはイル形が現れやすく，低い場合にはイダ形が現れやすいという傾向がある。

(19a)太郎はいつも家に イル／??イダ

(19b)（太郎を探していて）あっ，??イル／イダ

アスペクト表現もこれに準じて，テル形・ツダ形（テイダの変化形）の両方が<継続相現

在>を表し，恒常性の度合いが高い場合には「書イデル」が用いられ，低い場合には「書イッダ」が用いられる。

### 3. 調査の着眼点

ある方言のテンス・アスペクト体系を明らかにするためには，いろいろな種類の動詞について，いろいろな種類のテンス・アスペクト的表現を調べることが必要である。以下，工藤真由美2000・2001に従って，どのような項目を調査するのがよいか，挙げてみよう（ただし工藤2000・2001は西日本方言を主な対象として調査項目が立てられている。その点の注意が必要である）。

まず，動詞については，工藤2000・2001の分類は次のようになっている。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| (a1) 主体変化動詞（無意志的自動詞） | 死ぬ，開く，乾く，消える，落ちる……  |
| (a2) 主体変化動詞（意志的自動詞）  | 行く，来る，座る，立つ，入る，出る…… |
| (b0) 主体動作客体変化動詞      | 開ける，干す，消す，作る，切る……   |
| (c1) 主体動作動詞（他動詞）     | 飲む，叩く，読む，見る，言う……    |
| (c2) 主体動作動詞（意志的自動詞）  | 遊ぶ，歩く，あばれる，飛ぶ……     |
| (c3) 主体動作動詞（無意志的自動詞） | 降る，（風が）吹く，泣く，照る……   |
| (d0) 心理動詞            | 思う，怒る，喜ぶ，嫌う……       |
| (e0) 存在動詞            | 花瓶がある，運動会がある，いる……   |
| (f0) 形容詞             | 赤い，悪い，寂しい，静かだ……     |
| (g0) 名詞              | 小学生だ，アサガオだ……        |

この分類のそれぞれから満遍なく動詞を選んで調査するのがよい。

次に，テンス・アスペクトの種類については，少なくとも次のようなものを押さえて置く必要がある。

テンス：現在・過去・未来

アスペクト：完成相

継続相（変化達成直前・動作開始直前・変化過程継続・動作過程継続・変化達成後の客体結果・主体結果・動作完了後の痕跡・反復習慣・一時的状態・恒常的特性・心理状態継続）

これを組み合わせて調査票を作成し，調査を行なって次のようなことを明らかにする。

- (A)テンス・アスペクトを表す語形にどのようなものがあるか。
- (B)それらはどのような意味を表し，どのような体系を作っているか。
- (C)動詞の種類によりそれらの現れ方や意味に偏りがあるか。
- (D)偏りがある場合，それを基準にして動詞を分類するとどのようになるか。

これで，その方言のテンス・アスペクト体系は一通り記述することができる。研究の次の段階としては，

(E)テンス・アスペクト形式がムードを表すことがないか。また，ムードを表す語との共起関係に特別な制約などがないか。

(F)テンス・アスペクト表現の歴史的推移。

などがテーマになる。(E)については，先に西日本のヨル・トルがムードを表す例を挙げたが，関西のヨル（卑罵表現）や東北のテタ（一時性）など，アスペクト形式がムードや待遇

を表すといった現象が各地に見られる。(F)では現在における動態研究ばかりでなく、存在動詞「いる」「おる」「ある」がいかにしてアスペクトを表すようになったかといった文法化の問題も含ませたい。

#### 4. 研究の現状

テンス・アスペクトの研究は、「動詞＋テイル」の意味が動詞により進行態になったり結果態になったりするということを指摘した金田一春彦(1950)に始まる。その後、金田一(1950)への反論という形で奥田靖雄(1977)が書かれ、「スル・シテイル・シタ・シテイタ」という体系性を踏まえた研究へと展開していく。

金田一の最初の指摘にもあるとおり、テンス・アスペクト表現は動詞が本来的に持っている時間性と深く結びついており、動詞の意味分析と無関係には論じることができない。また、タ形やテイル形がモダリティーを表す場合があることを考えると、モダリティーとも無関係には論じることができない。このような事情から、標準語のテンス・アスペクトに関する研究は、動詞研究、モダリティー研究を巻き込んで大きく発展してきた。

一方、方言のテンス・アスペクト研究は、辰浜(久野)マリ子(1977)、工藤真由美(1983)に始まる。いずれもヨル・トル対立を持つ西日本方言を対象としたもので、アスペクト表現が東日本と西日本とで体系的に大きく異なることを明らかにした。工藤2000・2001では、さらに西日本に限らず全国の方言のテンス・アスペクトを比較する試みがなされ、これにより方言のテンス・アスペクト研究は飛躍的に進展しつつある。

#### 5. 発展

テンス・アスペクトは、言語体系の最も基本的な部分を構成している。文法的、語彙的手段のいずれかを問わなければ、テンス・アスペクトをまったく表現しえない自然言語というものはないと考えられる。

テンス・アスペクトが当該方言でどのような形式によって担われ、どのような意味体系を構成しているか共時的に明らかにすることは、言語研究の重要な課題である。それとともに各方言の分岐と統合の過程を解明することによって、古層において日本方言がどのような分布をしていたのか、あるいは、日本祖語といえる一つの姿があるのかどうか、といった点にも迫る可能性をもったトピックであるといえる。社会の近代化とともに分析的な表現が要求され、中世以降文法化が引き起こされた比較的新しい変化である条件表現などに照らして考えれば、テンス・アスペクトの研究的価値は自ずから明らかであろう。

研究の現状は、述べてきたとおりであるが、今後は次のような課題が残されている。

これまで、西日本方言、東日本方言と二分してテンス・アスペクトが捉えられてきたが、今後は見直しが必要であろう。琉球方言、八丈島方言、東北方言などをみると、必ずしも、東西型の分布ではない可能性は濃い。まずは、これらの地域の記述が必要である。また、西日本方言の中でも、近畿中央部の複雑な実態と変化過程の解明は、進んではない。近畿中央部にはテイル一形型などもみられ、さらには、ヨル・トルが意味的变化を起こしているとともに、共通語と同形の～テオク・～カケルがアスペクト的な意味変化を起こしていること

も報告されている(井上文子1998, 沖裕子1996,2000等参照)。これらは、西日本方言型から変化したものであると指摘されているが、いずれにしても微細な地域差も含めた共時態の記述が必要である。

テンス・アスペクトの理論的な研究に関しても、方言研究の点から見直しをはかる余地がある。金田一は、/ -tei/と/ -ru/(異形態に -u ) を切り出すが、奥田、工藤は、「スル」「シテイル」「シタ」「シテイタ」を、それぞれ意味を担う最小の単位として考える。前者は、形態素分析を行う立場であり、後者は、いわば語彙素を立てる立場にあたる。両者いずれが妥当であるか本格的な議論はなされていない。これに、西日本方言型「sijoru」「sitoru」のような語彙的に担われるアスペクト体系を考慮に入れると、方言の観点から日本語の形態・意味論を再考する必要があるであろう。

## 6. 文献

- テンス・アスペクトに関する文献は多い。主なものを挙げておく。
- 井上文子(1998)『日本語方言アスペクトの動態 - 存在型表現形式に焦点をあてて - 』(秋山書店)
- 椋垣実(1962)『近畿方言の総合的研究』三省堂
- 奥田靖雄(1977)「アスペクトの研究をめぐって」『ことばの研究・序説』(むぎ書房)
- 沖裕子1996「アスペクト形式「しかける・しておく」の意味の東西差 気づかれにくい方言について」『日本語研究諸領域の視点 上巻』明治書院
- 沖裕子2000「アスペクトからみた動詞分類再考 「気づかれにくい方言」にふれて」『人文科学論集<文化コミュニケーション学科編>』信州大学人文学部
- 狩俣繁久・島袋幸子(1989)「今帰仁方言の動詞の文法的なカテゴリー - アスペクトとヴォイス - 」『ことばの科学』2(むぎ書房)
- 金水敏(2000)「時の表現」『日本語の文法』2(岩波書店)
- 金田一春彦(1950)「国語動詞の一分類」『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房)
- 金田一春彦(1955)「日本語動詞のテンスとアスペクト」『日本語動詞のアスペクト』(むぎ書房)
- 工藤真由美(1983)「宇和島方言のアスペクト」『国文学解釈と鑑賞』48-6
- 工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテキスト』(ひつじ書房)
- 工藤真由美(2001)「アスペクト体系の生成と進化 - 西日本諸方言を中心に - 」『ことばの科学』10(むぎ書房)
- 工藤真由美代表(2000)『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』科研費成果報告書
- 工藤真由美代表(2001)『方言のアスペクト・テンス・ムード体系変化の総合的研究』科研費成果報告書
- 渋谷勝己(1994)「鶴岡方言のテンスとアスペクト」国立国語研究所報告『鶴岡方言の記述的研究』(秀英出版)
- 鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』(むぎ書房)
- 鈴木泰(1992)『古代日本語動詞のテンス・アスペクト - 源氏物語の分析 - 』(ひつじ書房)

## テンス・アスペクト

高橋太郎(1985)『現代日本語動詞のアスペクトとテンス』(秀英出版)

辰浜マリ子(1977)「相生方言のアスペクト - 「居る」「て居る」について - 」『都大論究』14

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味』(くろしお出版)

森田良行(1994)『動詞の意味論的文法研究』(明治書院)

森山卓郎(1988)『日本語動詞述語文の研究』(明治書院)

『月刊言語』特集号(2001)「日本語のテンスとアスペクト」『月刊言語』30-13(大修館書店)

B 項目

a1 主体変化動詞（無意志自動詞）

a1-01 「死ぬ」

a1-01-01 テンス現在

a1-01-01-11【変化達成直前】（死ぬ直前）金魚が死にそうだ。

a1-01-01-21【変化過程継続】（金魚がだんだん弱ってきているのを見て）金魚が死につつある。

a1-01-01-31【主体結果】（金魚が浮いているのを見て）金魚が死んでいる。

a1-01-01-51【反復習慣】（この頃は交通事故で）毎日100人ずつ人が死んでいる。

a1-01-02 テンス過去

a1-01-02-11【変化達成直前】（金魚が苦しそうにしていたのを思い出して）あの時は金魚が死にかけていた。

a1-01-02-31【主体結果】（金魚が浮いて動かなかったのを思い出して）金魚が死んでいた。

a1-01-02-51【反復習慣】（当時の交通事故死の話をしながら）あの頃は毎日人が100人ずつ死んでいた。

a1-01-02-01【完成相】昨日うちで飼っている金魚が死んだ。

a1-01-03 テンス未来

a1-01-03-11【変化達成直前】（金魚の様子を見て）明日になったら金魚は死にかけているだろう。

a1-01-03-31【主体結果】（金魚が浮いて動かないのを想像して）明日になったら金魚は死んでいるだろう。

a1-01-03-01【完成相】（金魚の様子を見て）明日になったら金魚は死ぬだろう。

a1-02 「開く」

a1-02-01 テンス現在

a1-02-01-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっているが、開きそうな気配だ）幕が今にも開こうとしている。

a1-02-01-21【変化過程継続】（幕が上がって行く途中）幕が開きつつある。

a1-02-01-31【主体結果】（幕は完全に開いた状態）幕が開いている。

a1-02-01-51【反復習慣】この店は毎朝9時に開いている。

a1-02-02 テンス過去

a1-02-02-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっていたいが、開きそうな気配だった）幕が開こうとしていた。

a1-02-02-21【変化過程継続】（幕が次第に上がっていくのを見たのを思い出して）幕が開きつつあった。

a1-02-02-31【主体結果】（幕が完全に上がっていたのを思い出して）幕が開いていた。

a1-02-02-51【反復習慣】あの頃この店は毎朝9時に開いていた。

## テンス・アスペクト

a1-02-02-01【完成相】あの店は昨日は10時に開いた。

a1-02-03 テンス未来

a1-02-03-11【変化達成直前】（幕はまだ閉まっているが、今にも開きそうなのを想像して、会場に着いた時には）幕が開こうとしているだろう。

a1-02-03-21【変化過程継続】（幕が次第に上がっていくのを想像して、会場に着いた時には）幕があきつつあるだろう。

a1-02-03-31【主体結果】（幕が完全に上がっているのを想像して、会場に着いた時には）幕が開いているだろう。

a1-02-03-01【完成相】この店は明日は10時に開く。

a2 主体変化動詞（意志的自動詞）

a2-01「行く」

a2-01-01 テンス現在

a2-01-01-11【変化達成直前】（太郎がカバンを持って玄関を出ようとしている）太郎が学校へ行こうとしている。

a2-01-01-21【変化過程継続】（どこへ行くの？）学校へ行く所だ。

a2-01-01-31【主体結果】（太郎はどこ？）太郎は学校へ行っている。

a2-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日学校へ行っている。

a2-01-02 テンス過去

a2-01-02-11【変化達成直前】（太郎がカバンを持って玄関を出ようとしていたのを思い出して）太郎は学校へ行こうとしていた。

a2-01-02-21【変化過程継続】（太郎が学校への道を歩いていたのを思い出して）太郎は学校へ行きつつあった。

a2-01-02-31【主体結果】（太郎が学校にいたのを思い出して）太郎は学校へ行っていた。

a2-01-02-51【反復習慣】（太郎が毎日学校へ通っていたことを話題にして）毎日学校へ行っていた。

a2-01-02-01【完成相】太郎は昨日映画を見に行った。

a2-01-03 テンス未来

a2-01-03-21【変化過程継続】（太郎が学校への道を歩いているのを想像して）9時には学校へ行きつつあるだろう。

a2-01-03-31【主体結果】（太郎が学校にいるのを想像して）9時には学校に行っているだろう。

a2-01-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日学校へ行く。

a2-01-03-01【完成相】太郎は明日学校へ行く。

a2-02「来る」

a2-02-01 テンス現在

a2-02-01-11【変化達成直前】（太郎が立ち上がって歩き出そうとしている）太郎がこっちへ来ようとしている。

a2-02-01-21【変化過程継続】（太郎はこちらへ向かう途中である）太郎は今こっちへ来る途

中だ。

a2-02-01-31【主体結果】(太郎はここにいる)太郎が来ている。

a2-02-01-51【反復習慣】太郎は毎日うちに来る。

a2-02-02 テンス過去

a2-02-02-11【変化達成直前】(太郎がこっちへ来る素振りを見せていたのを思い出して)太郎がこっちへ来ようとしていた。

a2-02-02-21【変化過程継続】(太郎がこっちに歩いて来ていたのを思い出して)太郎がこっちへ来つつあった。

a2-02-02-31【主体結果】(太郎がうちにいたのを思い出して)太郎が来ていた。

a2-02-02-51【反復習慣】あの頃太郎は毎日うちに来ていた。

a2-02-02-01【完成相】昨日太郎がうちに来た。

a2-02-03 テンス未来

a2-02-03-21【変化過程継続】(太郎がうちに向かっているのを想像して)帰った時には太郎はうちに来つつあるだろう。

a2-02-03-31【主体結果】(太郎がうちにいるのを想像して)帰った時には太郎が来ているだろう。

a2-02-03-01【完成相】明日太郎がうちに来る。

b0 主体動作客体変化動詞

b0-01「開ける」

b0-01-01 テンス現在

b0-01-01-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけたところ)太郎が窓を開けようとしている。

b0-01-01-22【動作過程継続】(窓が次第に動いている)太郎が窓を開けつつある。

b0-01-01-32【客体結果】(空気を入れ換えるために太郎が窓を開け放した)太郎が窓を開けている。

b0-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日6時に窓を開けている。

b0-01-02 テンス過去

b0-01-02-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけたのを思い出して)太郎が窓を開けようとしていた。

b0-01-02-22【動作過程継続】(窓が開きつつあったのを思い出して)太郎が窓を開けていた。

b0-01-02-32【客体結果】(太郎が窓を開け放していたのを思い出して)太郎が窓を開けていた。

b0-01-02-51【反復習慣】(太郎が毎日6時に窓を開けることを話題にして)太郎はあの頃6時に窓を開けていた。

b0-01-02-01【完成相】太郎は昨日6時に窓を開けた。

b0-01-03 テンス未来

b0-01-03-12【動作開始直前】(太郎が窓に手をかけているのを想像して)家に帰った時には太郎が窓を開けようとしているだろう。

## テンス・アスペクト

b0-01-03-22【動作過程継続】（窓が開きつつあるのを想像して）家に帰った時には太郎が窓を開けているだろう。

b0-01-03-32【客体結果】（太郎が窓を開けてしまっているのを想像して）帰った時には太郎が窓を開けているだろう。

b0-01-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日6時に窓を開ける。

b0-01-03-01【完成相】太郎は明日6時に窓を開ける。

### b0-02「消す」

#### b0-02-01 テンス現在

b0-02-01-12【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっている）生徒が黒板を消そうとしている。

b0-02-01-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中）生徒が黒板を消している。

b0-02-01-32【客体結果】（黒板がきれいになっている）生徒が黒板を消し終わっている。

b0-02-01-51【反復習慣】今週は太郎が毎日黒板を消している。

#### b0-02-02 テンス過去

b0-02-02-02【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっていたのを思い出して）生徒が黒板を消そうとしていた。

b0-02-02-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中であつたのを思い出して）生徒が黒板を消していた。

b0-02-02-32【客体結果】（黒板がきれいになっていたのを思い出して）生徒が黒板を消していた。

b0-02-02-51【反復習慣】小学校のころは太郎が毎日黒板を消していた。

b0-02-02-01【完成相】昨日は太郎が黒板を消した。

#### b0-02-03 テンス未来

b0-02-03-12【動作開始直前】（生徒が黒板消しを手にとっているのを想像して）生徒が黒板を消そうとしているだろう。

b0-02-03-22【動作過程継続】（生徒が黒板を消している最中であるのを想像して）生徒が黒板を消しているだろう。

b0-02-03-32【客体結果】（生徒が黒板を消して、黒板がきれいになっているのを想像して）生徒が黒板を消しているだろう。

b0-02-03-51【反復習慣】これから毎日太郎が黒板を消すだろう。

b0-02-03-01【完成相】明日は太郎が黒板を消す。

## c1 主体動作動詞（他動詞）

### c1-01「飲む」

#### c1-01-01 テンス現在

c1-01-01-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出したのを見て）お父さんがビールを飲もうとしている。

c1-01-01-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中）お父さんがビールを飲んでいる。

c1-01-01-41【痕跡】（お父さんの顔が赤くなっている）お父さんがビールを飲んでいる。

## テンス・アスペクト

c1-01-01-51【反復習慣】お父さんは毎日ビールを飲んでいる。

c1-01-02 テンス過去

c1-01-02-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出したのを思い出して）お父さんがビールを飲もうとしていた。

c1-01-02-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中だったのを思い出して）お父さんがビールを飲んでいてた。

c1-01-02-41【痕跡】（顔が赤かったのを思い出して）お父さんはまたビールを飲んでいてた。

c1-01-02-51【反復習慣】お父さんはあの頃毎日ビールを飲んでいてた。

c1-01-02-01【完成相】お父さんは夕食の時ビールを飲んだ。

c1-01-03 テンス未来

c1-01-03-12【動作開始直前】（お父さんが冷蔵庫からビールを取り出すのを想像して）帰った時にはお父さんがビールを飲もうとしているだろう。

c1-01-03-22【動作過程継続】（ビールを飲んでいる最中なのを想像して）帰った時にはお父さんがビールを飲んでいるだろう。

c1-01-03-41【痕跡】（飲み終わっているのを想像して）帰った時にはお父さんはビールを飲んでいるだろう。

c1-01-03-51【反復習慣】（病気が治ったので）お父さんはこれから毎日ビールを飲むだろう。

c1-01-03-01【完成相】お父さんは夕食の時ビールを飲むだろう。

c1-02「叩く」

c1-02-01 テンス現在

c1-02-01-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうにしている）次郎が今にも太郎を叩こうとしている。

c1-02-01-22【動作過程継続】（叩いている最中）次郎が太郎を叩いている。

c1-02-01-41【痕跡】（太郎の顔に痣が出来ている）次郎が太郎を叩いたのだ。

c1-02-01-51【反復習慣】次郎はいつも太郎を叩いている。

c1-02-02 テンス過去

c1-02-02-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうだったのを思い出して）次郎が太郎を叩こうとしていた。

c1-02-02-22【動作過程継続】（叩いている最中であつたのを思い出して）次郎が太郎を叩いていた。

c1-02-02-41【痕跡】（太郎の顔に痣が出来ていたのを思い出して）次郎がまた太郎を叩いたのだ。

c1-02-02-51【反復習慣】次郎は毎日太郎を叩いていた。

c1-02-02-01【完成相】次郎は昨日太郎を叩いた。

c1-02-03 テンス未来

c1-02-03-12【動作開始直前】（次郎が拳を上げて今にも太郎を叩きそうなのを想像して）次郎が太郎を叩こうとしているだろう。

c1-02-03-22【動作過程継続】（次郎が叩いている最中であるのを想像して）次郎が太郎を叩いているだろう。

c1-02-03-41【痕跡】（太郎の顔に痣ができているのを想像して）次郎がまた太郎を叩いているだろう。

c1-02-03-51【反復習慣】次郎はこれから毎日太郎を叩くだろう。

c1-02-03-01【完成相】次郎が太郎を叩くだろう。

c2 主体動作動詞（意志的自動詞）

c2-01「遊ぶ」

c2-01-01 テンス現在

c2-01-01-12【動作開始直前】（子供が池に入ろうとしているのを見て）子供が池で遊ぼうとしている。

c2-01-01-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中）子供が池で遊んでいる。

c2-01-01-41【痕跡】（沼地に子供の足跡がある）子供が池で遊んだに違いない。

c2-01-01-51【反復習慣】太郎は毎日池で遊んでいる。

c2-01-02 テンス過去

c2-01-02-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中であったのを思い出して）子供が池で遊んでいた。

c2-01-02-41【痕跡】（沼地に子供の足跡があったのを思い出して）子供が池で遊んだのだ。

c2-01-02-51【反復習慣】太郎はあの頃毎日池で遊んでいた。

c2-01-02-01【完成相】太郎は昨日池で遊んだ。

c2-01-03 テンス未来

c2-01-03-12【動作開始直前】（子供が池に入ろうとしているのを想像して）子供が池で遊ぼうとしているだろう。

c2-01-03-22【動作過程継続】（子供が遊んでいる最中なのを想像して）子供が池で遊んでいるだろう。

c2-01-03-41【痕跡】（子供の足跡があるのを想像して）子供が池で遊んでいるだろう。

c2-01-03-51【反復習慣】子供はこれから毎日池で遊ぶだろう。

c2-01-03-01【完成相】太郎は今日は池で遊ぶ。

c2-02「歩く」

c2-02-01 テンス現在

c2-02-01-12【動作開始直前】（子供が畑に入ろうとしているのを見て）子供が畑の中を歩こうとしている。

c2-02-01-22【動作過程継続】（子供が畑の中を歩いている最中）子供が畑の中を歩いている。

c2-02-01-41【痕跡】（ズボンに泥が付いている）この子はまた畑の中を歩いている。

c2-02-01-51【反復習慣】太郎は毎日5 km歩いている。

c2-02-02 テンス過去

c2-02-02-12【動作開始直前】（子供が畑に入ろうとしていたのを思い出して）子供が畑のなかを歩こうとしていた。

## テンス・アスペクト

c2-02-02-22【動作過程継続】（子供が歩いている最中であつたのを思い出して）子供が畑の中を歩いていた。

c2-02-02-41【痕跡】（ズボンに泥がついていたのを思い出して）この子はまた畑の中を歩いたのだ。

c2-02-02-51【反復習慣】太郎はあの頃毎日5 km歩いていた。

c2-02-02-01【完成相】太郎は昨日5 km歩いた。

c2-02-03 テンス未来

c2-02-03-12【動作開始直前】（子供が畑の中に入ろうとしているのを想像して）子供が畑のなかを歩こうとしているだろう。

c2-02-03-22【動作過程継続】（子供が歩いている最中であるのを想像して）子供が畑の中を歩いているだろう。

c2-02-03-41【痕跡】（ズボンに泥がついているのを想像して）あの子はまた畑の中を歩いているだろう。

c2-02-03-51【反復習慣】太郎は明日から毎日5 km歩く。

c2-02-03-01【完成相】（自転車が壊れているので）太郎は明日学校まで歩く。

c3 主体動作動詞（無意志的自動詞）

c3-01「降る」

c3-01-01 テンス現在

c3-01-01-12【動作開始直前】（雨粒が2、3滴落ちてきた）今にも雨が降ろうとしている。

c3-01-01-22【動作過程継続】（雨が降っている最中）今日は朝から雨が降っている。

c3-01-01-41【痕跡】（地面が濡れているのを見て）雨が降っている。

c3-01-01-51【反復習慣】このところ毎日雨が降っている。

c3-01-02 テンス過去

c3-01-02-12【動作開始直前】（雨粒が2、3滴落ちてきていたのを思い出して）雨が降ろうとしていた。

c3-01-02-22【動作過程継続】（雨がざあざあ降っていたのを思い出して）雨が降っていた。

c3-01-02-41【痕跡】（地面が濡れていたのを思い出して）雨が降ったのだ。

c3-01-02-51【反復習慣】先月は毎日雨が降っていた。

c3-01-02-01【完成相】昨日は夜中に雨が降った。

c3-01-03 テンス未来

c3-01-03-22【動作過程継続】（雨がざあざあ降っているのを想像して）明日の今頃は雨が降っているだろう。

c3-01-03-41【痕跡】（地面が濡れているのを想像して）明日の今頃は雨が降って濡れているだろう。

c3-01-03-51【反復習慣】来週は毎日雨が降る。

c3-01-03-01【完成相】明日は朝から雨が降るだろう。

c3-02「泣く」

c3-02-01 テンス現在

## テンス・アスペクト

c3-02-01-12【動作開始直前】（太郎ちゃんの顔が泣き顔になってきた）太郎ちゃんが今にも泣きそうにしている。

c3-02-01-22【動作過程継続】（泣いている最中）先生、太郎ちゃんが泣いているよ。

c3-02-01-41【痕跡】（頬に涙の跡がついている）太郎ちゃん、泣いている。

c3-02-01-51【反復習慣】太郎ちゃんはいつも泣いている。

c3-02-02 テンス過去

c3-02-02-12【動作開始直前】（太郎ちゃんの顔が泣き顔になっていたのを思い出して）太郎ちゃんが今にも泣きそうにしていた。

c3-02-02-22【動作過程継続】（泣いている最中だったのを思い出して）太郎ちゃんが泣いていた。

c3-02-02-41【痕跡】（頬に涙の跡がついていたのを思い出して）太郎ちゃんはまた泣いていた。

c3-02-02-51【反復習慣】太郎は小さい頃いつも泣いていた。

c3-02-02-01【完成相】太郎ちゃんは昨日友達に叩かれて泣いた。

c3-02-03 テンス未来

c3-02-03-12【動作開始直前】（一人で留守番させていたので）帰った時には太郎ちゃんが今にも泣きそうにしているだろう。

c3-02-03-22【動作過程継続】（一人で留守番させていたので）帰った時には太郎ちゃんが泣いているだろう。

c3-02-03-41【痕跡】（頬に涙の跡がついているのを想像して）太郎ちゃんはまた泣いているだろう。

c3-02-03-51【反復習慣】太郎ちゃんは毎日泣くだろう。

c3-02-03-01【完成相】太郎ちゃんは泣くだろう。

d0 心理動詞

d0-01「思う」

d0-01-01 テンス現在

d0-01-01-23【心理状態継続】早く行こうと思っている。

d0-01-01-51【反復習慣】毎日恋人のことを思っている。

d0-01-02 テンス過去

d0-01-02-23【心理状態継続】あの時は早く行こうと思っていた。

d0-01-02-51【反復習慣】あの頃は毎日恋人のことを思っていた。

d0-01-02-01【完成相】あの時は早く行こうと思った。

d0-01-03 テンス未来

d0-01-03-23【心理状態継続】明日の今頃は早く行こうと思っているだろう。

d0-01-03-51【反復習慣】5年後も毎日恋人のことを思っているだろう。

d0-01-03-01【完成相】5年後もそう思うだろう。

d0-02「怒る」

d0-02-01 テンス現在

## テンス・アスペクト

d0-02-01-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを見て）先生は怒っている。

d0-02-01-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しいのを見て）先生は怒っている。

d0-02-01-51【反復習慣】あの先生はいつも怒っている。

d0-02-02 テンス過去

d0-02-02-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っていたのを思い出して）先生はあの時怒っていた。

d0-02-02-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しかったのを思い出して）先生はあの時怒っていた。

d0-02-02-51【反復習慣】あの先生はいつも怒っていた。

d0-02-02-01【完成相】いつもは静かな先生が昨日は怒った。

d0-02-03 テンス未来

d0-02-03-22【動作過程継続】（先生が机をガンガン叩きながら怒鳴っているのを想像して）先生は怒っているだろう。

d0-02-03-23【心理状態継続】（先生の顔つきが厳しいのを想像して）先生は怒っているだろう。

d0-02-03-51【反復習慣】先生は毎日怒るだろう。

d0-02-03-01【完成相】先生は明日は怒るだろう。

e0 存在動詞

e0-01「ある（存在）」

e0-01-01 テンス現在

e0-01-01-61【一時的状態】ほら、そこにゴミがある。

e0-01-01-51【反復習慣】太郎の部屋には、いつもゴミがある。

e0-01-01-71【恒常的特性】学校の校庭には大きな桜の木がある。

e0-01-02 テンス過去

e0-01-02-61【一時的状態】昨日、ここにゴミがあった。

e0-01-02-51【反復習慣】昔はいつもここにゴミがあった。

e0-01-02-71【恒常的特性】昔、学校の校庭には桜の木があった。

e0-01-03 テンス未来

e0-01-03-61【一時的状態】明日になったら、ここにゴミがある。

e0-01-03-51【反復習慣】（ゴミ捨て場になる予定地を前にして）明日から毎日ここにゴミがある。

e0-02「ある（挙行）」

e0-02-01 テンス現在

e0-02-01-22【動作過程継続】（運動会が開催中）運動会が行なわれている。

e0-02-01-41【痕跡】（運動場に旗が散らかっている）昨日は運動会が行なわれた。

e0-02-01-51【反復習慣】運動会は毎年9月に行なわれている。

e0-02-02 テンス過去

## テンス・アスペクト

e0-02-02-22【動作過程継続】(運動会が開催中だったのを思い出して)昨日は学校で運動会が行なわれていた。

e0-02-02-41【痕跡】(運動場に旗などが散らかっていたのを思い出して)運動会が行なわれたのだ。

e0-02-02-51【反復習慣】あの頃は毎年秋に運動会が行なわれていた。

e0-02-02-01【完成相】昨日は学校で運動会が行なわれた。

e0-02-03 テンス未来

e0-02-03-22【動作過程継続】(運動会が開催中なのを想像して)学校へ行った時には運動会が行なわれているだろう。

e0-02-03-51【反復習慣】来年から毎年10月に運動会が行われる。

e0-02-03-01【完成相】明日は学校で運動会が行われるだろう。

e0-03 「いる」

e0-03-01 テンス現在

e0-03-01-61【一時的状態】先生は今、職員室にいる。

e0-03-01-51【反復習慣】先生は、いつも職員室にいる。

e0-03-01-71【恒常的特性】この川にはたくさんの魚がいる。

e0-03-02 テンス過去

e0-03-02-61【一時的状態】昨日の今頃は、職員室にいた。

e0-03-02-51【反復習慣】昨日までは、毎日職員室にいた。

e0-03-02-71【恒常的特性】昔は、この川にはたくさんの魚がいた。

e0-03-03 テンス未来

e0-03-03-61【一時的状態】明日の今頃は、職員室にいる。

e0-03-03-51【反復習慣】明日からは毎日、職員室にいる。

f0 形容詞

f0-01 「赤い」

f0-01-01 テンス現在

f0-01-01-61【一時的状態】おや、顔が赤いよ。どうしたの。

f0-01-01-51【反復習慣】太郎の顔はいつも赤い。

f0-01-01-71【恒常的特性】椿の花は赤い。

f0-01-02 テンス過去

f0-01-02-61【一時的状態】さっき、顔が赤かったよ。どうしたの。

f0-01-02-51【反復習慣】子供の頃、太郎のほっぺたはいつも赤かった。

f0-01-02-71【恒常的特性】昔のトマトは赤かった。

f0-01-03 テンス未来

f0-01-03-61【一時的状態】(外は寒いので)帰ってきた時には太郎のほっぺたは赤いだろう。

f0-01-03-51【反復習慣】太郎のほっぺたはいつも赤いだろう。

## テンス・アスペクト

### f0-02 「寂しい」

#### f0-02-01 テンス現在

f0-02-01-61【一時的状態】（今日は一人で留守番をしているので、私は）寂しい。

f0-02-01-51【反復習慣】（一人暮らしを始めたばかりなので、私は）毎日寂しい。

f0-02-01-71【恒常的特性】山道は寂しい。

#### f0-02-02 テンス過去

f0-02-02-61【一時的状態】（昨日は一人で留守番をしていたので、私は）寂しかった。

f0-02-02-51【反復習慣】（一人暮らしを始めた頃のことを思い出して、私は）あの頃は毎日寂しかった。

f0-02-02-71【恒常的特性】昔このあたりは寂しかった。

#### f0-02-03 テンス未来

f0-02-03-61【一時的状態】（明日は一人で留守番をするので、私は）寂しいだろう。

f0-02-03-51【反復習慣】（来月から一人暮らしを始めることを話題にして、私は）しばらくは毎日寂しいだろう。

### f0-03 「静かだ」

#### f0-03-01 テンス現在

f0-03-01-61【一時的状態】（学校が休みなので）教室はとても静かだ。

f0-03-01-51【反復習慣】（おとなしい生徒が多いので）この教室はいつも静かだ。

f0-03-01-71【恒常的特性】この辺は静かだ。

#### f0-03-02 テンス過去

f0-03-02-61【一時的状態】（学校が休みだったので）教室はとても静かだった。

f0-03-02-51【反復習慣】（先月は夏休みだったので）教室は毎日静かだった。

f0-03-02-71【恒常的特性】昔はこの辺は静かだった。

#### f0-03-03 テンス未来

f0-03-03-61【一時的状態】（教室に誰もいないのを想像して）教室はとても静かだろう。

f0-03-03-51【反復習慣】（来月は夏休みなので）教室は毎日静かだろう。

### g0 名詞

#### g0-01 「小学生だ」

##### g0-01-01 テンス現在

g0-01-01-61【一時的状態】太郎は今小学生だ。

##### g0-01-02 テンス過去

g0-01-02-61【一時的状態】太郎は去年まで小学生だった。

##### g0-01-03 テンス未来

g0-01-03-61【一時的状態】太郎は来年小学生だ。



## 条件表現

三井はるみ

### A 解説

#### 1. 条件表現とは

複文の中で、後件の成立について前件が何らかの関係で条件となっていることを表す表現を条件表現という。

条件表現は、一方では、できごとを仮定的に予想しているのか（仮定）、実際に起こったできごとについて述べているのか（事実、確定）に分かれ、他方で、順当に予想される結果が起こった場合（順接）と、そうでない場合（逆接）に分かれて、全体として、次のような四つに分類されるのが一般的である。

	仮定	事実（確定）
順接	努力すればできるようになる	努力したのでできるようになった
逆接	努力してもできるようにならない	努力したのにできるようにならなかった

ここではこの四分類のうち、「順接仮定」の部分に焦点をあてる。共通語では、「ば」「たら」「と」「なら」「ては」などが、順接の仮定条件文を構成する代表的な形式である。

#### 2. 日本方言の条件表現

方言の条件表現を取り上げるにあたっては、共時的な方法に限っても、少なくとも次の三つの観点が考えられる。

- (1) 諸方言における形式のバリエーションと分布を明らかにする。
- (2) 特定の形式の意味用法を記述する。
- (3) 特定の方言における、条件表現の体系を記述する。

もちろんこの後に、記述された各地の体系を比較対照して、変化を跡づけることも重要な課題である。

このうち、(1)については、国立国語研究所編『方言文法全国地図』（GAJ）に取り上げられている条件表現関連項目が参考になる。GAJに取り上げられている項目は、「『方言文法全国地図』所収の条件表現関連項目」という一覧表（『同 第4集解説書』p.129）にまとめられているので、次に引用しておく。これは、GAJ第1～4集所収の関連項目を、1.の四分類にさらに細分類を加えて整理したものである。なお、現在印刷中の第5集では、さらに次の2項目が加わる予定である。

表 「方言文法全国地図」所収の条件表現関連項目

		仮 定		確 定(事実)	
順 接	反事実	3-126 起きれば(よかった)<仮定形1> 3-127 任せれば(よかった)<仮定形1> 3-128 書けば(よかった)<仮定形1> 3-129 死ねば<仮定形1> 3-130 来れば(よかった)<仮定形1> 3-131 すれば(よかった)<仮定形1> 3-143 高ければ(よかった)<仮定形1> 4-153 行かなければ(よかった)<否定表現a>		必 然 (原因理由)	1- 33 降っているから(行くのはやめろ) 1- 35 だから(言ったじゃないか) 1- 37 子どもなので(わからなかった)
	仮 説	4-167 降れば(船は出ないだろう)<条件表現> 4-168 降ったら(おれは行かない)<条件表現> 4-169 行くと(だめになりそうだ)<条件表現> 3-116 来られると(困る)<受身形> 3-132 起きるなら(飯を作っておいてくれ)<仮定形2> 3-133 書くなら(きれいに書いてくれ)<仮定形2> 3-134 来るなら(電話をしてから来てくれ)<仮定形2> 3-135 するなら(早くしてくれ)<仮定形2> 3-144 高いなら(買わない)<仮定形2> 3-150 静かなら(住んでみたい)<仮定形2> 4-154 行かないなら(おれも行かない)<否定表現a>		偶 然	4-170 行ったら(終わっていた)<条件表現>
逆 接	4-171 行っただけだ<条件表現> 4-157 行かなくても(よい)<否定表現a>			1- 38 寒いけれども(がまんしよう) 1- 39 だけど(行かなければならない) 1- 40 植えたのに(枯れてしまった)	

※ 数字は、集-地図番号

5集206～208図「行かなければならない」<義務表現>(順接-仮定-仮説)

225～226図「行ってはいけない」<禁止表現>(順接-仮定-仮説)

これらの地図を概観すると、条件表現、特に、以下で取り上げる仮定条件表現の項目では、九州の「ギ」、東北北部の「タキヤ」などが見られるものの、方言特有の形式は総じてあまり多くない。目立つのは、共通語で類義関係にある「バ」「タラ」「ト」「ナラ」などの形式が、1枚の地図(同一の調査文に対する回答)の中に、それぞれ固有の領域を持って分布している点である。

例えば、第3集128図「書けば(よかった)」では、近畿を中心に「カイタラ」が分布し、その両側を「カキヤ」が取り巻き、さらにその外側の九州と、関東東部から東北にかけて、「カケバ」が分布するという周囲分布が見られる。また、「カクト」が九州と東北南部に、「カクナラ」が熊本に、それぞれまとまった分布域を持っている。

このような分布の様相から、(2)(3)についても、共通語と同形の形式が用いられていても、その形式の意味用法や体系が方言ごとに異なっていることが予想される。

### 3. 調査の着眼点

ここでは、各地方言の順接仮定条件を担う複数の形式の意味用法の違いを記述することを念頭に、共通語文法研究成果などを参考にして、ポイントとなると見られる点を箇条書きで挙げる。「B項目」と対応するものについては、調査文の番号を示す。

#### (1) 順接仮定条件の諸用法

- ・ 仮説的用法——未実現の事態について、実現した場合を仮定する用法 1)～4)
- ・ 反事実的条件——現実には実現しなかった事態を、仮に実現したものと仮定する用法 5)～9)

- ・ 一般条件——前件の下では後件がいつでも時間を超えて成り立つことを述べる用法  
10)11)
  - ・ 反復習慣——前件に伴って後件が実現する，ということがくり返し起こることを述  
べる用法 12)13)
  - ・ 事実的用法……すでに実現した一回限りの事態について述べる用法 15)～20)
  - ・ 前置き——前件と後件が同じ次元の事態で構成されない用法 14)
- (2) 前件と後件の内容
- ・ 前件と後件の組み合わせ
    - 時間的前後関係 21)～25)
    - 動作 / 状態 15)16)20)
    - 主語 (同じ / 違う) 17)18)
  - ・ 後件のモダリティー制限 (働きかけ・表出) 26)～33)
  - ・ 後件の意味的制限
    - 期待 / 反期待 34)～38)
    - 評価の表現 19)25)
  - ・ 前件の意味的制限
    - 確実 / 不確実 33)39)～41)
    - 動作 / 状態 26)27)
    - 意志的 / 非意志的 61)～67)
- (3) 慣用的表現 42)～45)
- (4) 周辺の用法
- ・ 提題・対比用法 46)～50)
  - ・ 接続詞的用法 51)～56)
  - ・ 終助詞的表現 57)～60)
  - ・ 疑問詞の係り結び 68)～72)
- (5) 共起する副詞 30)
- (6) 従属節の従属の度合い
- ・ 述部に現れる要素
- (7) 語感・位相 (かたい, くだけた, 強い...)
- (8) 年齢差・変化

#### 4．研究の現状

前述のとおり，『方言文法全国地図』によって，取り上げられている用法や調査文については，全国分布を把握することができる。また，順接仮定条件表現を担う特定の形式の意味用法の記述，特定の方言における体系記述については日高(1999a)，日高(1999b)などがあり，近年研究が進められつつある。

#### 5．発展

ここでは，条件表現のうち，順接の仮定条件表現に絞って取り上げたが，隣接する，逆接仮定 (譲歩の表現)，事実的な順接条件 (原因・理由の表現)，事実的な逆接条件につ

いても細やかな記述が必要であることはもちろんである。「3. 調査の着眼点」で挙げた観点には、これら他の条件表現形式の記述にも共通して有効な観点が含まれている。歴史的に見ても、順接仮定条件と原因・理由の表現は形式の面でも意味の面でも交流があったことが知られており、この点からも、条件表現全体を包括的に取り上げていくことが必要であると考えられる。

## 6. 文献

小林賢治(1996)『日本語条件表現史の研究』(ひつじ書房)

阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』(岩波書店)

真田信治(1989)「話しことばの実態」『日本語のバリエーション - 現代語・歴史・地理 - 』(アルク)

蓮沼昭子・有田節子・前田直子(2001)『セルフマスターシリーズ7 条件表現』(くろしお出版)

日高水穂(1999a)「秋田方言の仮定表現をめぐって - バ・タラ・タバ・タッキヤの意味記述と地域的標準語の実態 - 」『秋田大学教育文化学部紀要』54

日高水穂(1999b)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

益岡隆志編(1993)『日本語の条件表現』(くろしお出版)

## B 項目

項目は「共通」「地域対応」の二部からなる。「共通」は、各地の方言で調査するための比較的基本的な項目、「地域対応」は、限定された地域に見られる事象をやや詳しく調べるための項目である。ただし、両者の区別は厳密ではなく、また、「」で取り上げたのは2地域だけなので、サンプルとしての意味合いが強い。

調査文の出典は、次の略号で示す。

(GAJ) 方言文法の全国調査調査票 (『方言文法全国地図』の調査票)

(準) 方言文法の全国調査のための準備調査票 (『方言文法全国地図』の準備調査の調査票)

(日) 日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査 1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

ただし、ここでの項目の構成に合わせて、一部語句を変更したことがある。

【 】の中に、各項目の設定の観点を簡単に示した。

各形式の接続については、「活用」の項目と組み合わせて調査を行うことを前提とし、以下の項目には挙げていない。特に「～バ」については、いわゆる未然形接続 (cf. 書カバ) と已然形接続 (cf. 書ケバ) など、接続の違いによって、意味用法に違いがある方言が知られているので、注意が必要である。

### 共通

#### 1 仮説的用法

- 1) 努力すればできるようになります。【述べたて】(日)
- 2) 努力すればできるようになりますか？【問いかけ】
- 3) あした雪が降ったら船は出ないだろう。【述べたて(推量)】(GAJ)
- 4) あした雪が降ったら学校は休みになりますか？【問いかけ】

#### 2 用法の広がり

- 5) もっと早く起きればよかった。【反事実的条件】(GAJ)
- 6) 目覚まし時計をかければよかったじゃないか。【反事実的条件】
- 7) もっと早く来れば間に合ったのに。【反事実的条件】
- 8) あんなところに行かなければよかった。【反事実的条件 / 前件：動詞否定】
- 9) もっと安ければいいのに。【反事実的条件 / 前件：形容詞】(日)
- 10) 1に1を足せば2になる。【一般条件】(日)
- 11) だれだって年をとれば具合の悪いところも出てくる。【一般条件】
- 12) あの人の家に行くといつもごちそうしてくれる。【反復習慣(現在)】(準)

- 13) 昔は、稲刈りが終わるとみんなで酒盛りをした。【反復習慣(過去)】  
 14) 今思えば、若いころはずいぶんむちゃをしたなあ。【前置き】

### 3 事実的用法

- 15) そこへ行ったらもう会は終わっていた。【前件：動作 / 後件：状態 発見】(GAJ)  
 16) 昨日、散歩をしていたら急に雨が降ってきた。【前件：状態 / 後件：動き 出現】(日)  
 17) 手紙を出したらすぐ返事がきた。【前件が後件の契機(前件・後件異主語)】  
 18) あわてて来たら忘れ物をしてしまった。【同一主語の連続した動作】  
 19) [難しい試験で80点を取った子どもに]  
     いや、それだけでできればたいしたものだよ。【後件：評価】  
 20) 「空襲の後、人がたくさん逃げてきました。焼け跡に行けば、亡くなった人がたくさん倒れているし、とてもひどい様子でした。」【発見】

### 4 前件と後件の時間的前後関係など

- 21) 家に来るなら電話をしてから来てください。【後件 前件 / 文末：依頼】  
 22) 町に行くならみんなで一緒に行こう。【同時 / 文末：勧誘】  
 23) 先に行くならむこうで待ってて。【前件 後件 / 文末：依頼】  
 24) [自分が今読んでいる本を読みたそうにしている友人に]  
     読むなら貸してあげるよ。【後件 前件 / 文末：申し出】  
 25) 魚を買うなら朝市がいい。【後件：評価】

### 5 後件のモダリティー制限

- 26) 駅に着いたら電話をしてください。【前件：動作性 / 文末：働きかけ(依頼)】  
 27) 道がわからなかったら電話をしてください。【前件：状態性 / 文末：働きかけ(依頼)】  
 28) ご飯を食べたら歯を磨きなさい。【文末：働きかけ(命令)】(日)  
 29) 仕事が終わったら飲みに行こうよ。【文末：働きかけ(勧誘)】  
 30) もしこの仕事が8時までに終わったら飲みに行こうよ。  
     【場合の限定 / 文末：働きかけ(勧誘)】  
 31) 高校を卒業したら大学に行きたいな。【文末：表出(希望)】  
 32) [独り言で] そうだ、夏休みになったら旅行に行こう。【文末：表出(意志)】  
 33) 女の子が来たら赤い札、男の子が来たら青い札を渡してください。  
     【選択 / 文末：働きかけ(依頼)】

### 6 後件の反期待性

- 34) あした雪が降ると困るなあ。【懸念】  
 35) [お前が行くのか? 心配だなあ、という気持ちで]  
     お前が行くと話がこわれそうだなあ。【懸念】  
 36) そんな暗いところで本を読んだら目を悪くするよ。【警告】  
 37) そっちへ行ったらはいけません。【禁止】(GAJ)  
 38) ここで煙草を吸ってはダメです。【禁止】(日)

## 7 前件の確実性

今日はお彼岸です。息子さんは今仕事に出かけていますが、3時までには帰って来て、車で墓参りに連れて行ってくれると言っています。昼ごろ近所の人に会い、「お墓参りには行かないの？」と聞かれました。あなたはそれに答えます。

39) 息子が3時に帰って来るから、帰って来たら一緒に出かけます。【前件を確信】

40) 会話A【前件を確信】

客 「おとうさんいますか。」

家人 「今、出かけているんですよ。昼には戻りますけれど...」

客 「ああそうですか。それでは、戻って来たら電話をくれるように言ってください。ちょっと頼みたいことがあるので。」

家人 「わかりました。戻ったらそのように言うておきます。」

41) 会話B【手順の説明】

A 「おひたしてどうやって作るの？」

B 「えーとね、まず、なべにお湯を沸かして」

A 「うん」

B 「お湯が沸いたら塩を少し入れて」

A 「うん」

B 「菜っ葉を根っこの方から入れるの。」

A 「うん」

B 「ゆだったらざるに取って」

A 「うん」

B 「水にさらして冷やすの。」

A 「ふーん。」

B 「冷えたらよく絞って、ちょうどいい長さに切るのよ。」

A 「わかった。」

B 「じゃあ、やってみて。」

## 8 慣用的用法

42) あしたは役場に行かなければならない。【義務】(GAJ)

43) 〔体の弱い友だちにすすめる〕あの温泉に行くといいよ。【すすめ】(準)

44) どうしたらいいかわからない。【困惑】

45) 親が親なら子も子だ。【非難】

## 9 提題・対比用法

46) A 「あの山はなんていう山ですか？」【主題】

B 「あれは岩木山です。」【受取り主題】

47) 日本語は話せるけど、英語は話せません。【対比：肯定 - 否定】

48) あの人は、酒は飲まないけど、ビールは飲む。【対比：否定 - 肯定】(GAJ)

49) 今は車があるけど、昔はリアカーもなかった。【対比：肯定 - 否定・過去】

- 50) あの人たら，昨日のこと全然おぼえていないんだよ。【主題(非難)】

### 1 0 接続詞的用法

- 51) この道をまっすぐに行ってください。そうすれば，郵便局があります。(日)
- 52) A「私は昭和元年生まれです。」  
B「そうすると，今74歳ですね。」
- 53) [別れのあいさつで] では，さようなら。(日)
- 54) A「これ使うなら持って行っていいよ。」  
B「じゃあ，悪いけどちょっと借りるね。」
- 55) [会合の始まりに] では，始めます。
- 56) もしかしたら，あいつは来ないかもしれない。(日)

### 1 1 終助詞的用法

- 57) [リモコンの置き場所をなかなか覚えぬ相手に]  
何度言ったらわかるの。ここにあるってば。【再確認の要求 / 述べたて】
- 58) [一度止めたのにそれでも行こうとする子どもに]  
そっちへは行くなったら。【再確認の要求 / 禁止】
- 59) [お菓子をすすめて] こっちのも食べたら。【勧め】
- 60) やりたいなら勝手にやれば。【突き放し】

## 地域対応

### 1 2 山形県庄内地方項目

この地域の方言では、「バ」に2種の接続がある。例えば「書く」を例にとると、「カケバ」(「-e+バ」)と「カコバ」(「-o+バ」)である。このうち、「-o+バ」は、次のような用例に基づいて「意志仮定」と説明されることがある。

カゴバ カゲツチャ(書くつもりなら書けよ。)(大西 1994)

その「意志性」の有無を確認するために用意した項目である。

- 61) [ノックして]  
だれかいる？いるなら返事して。【人主体・状態】
- 62) たくさんあるなら少しく下さい。【非人主体・状態】
- 63) [天気予報では今日は晴れると言っている]  
晴れるなら畑に出よう。【意志を持たない主体・非意志的】
- 64) 聞こえるなら返事をしなさい。【人主体・非意志的】
- 65) この木，よく育つなら買って行って庭に植えよう。【非人生物主体・非意志的】
- 66) そこがそんなに静かなら私も住んでみたい。【形容動詞】
- 67) 安いなら買いたい。【形容詞】

### 1 3 高知県項目

この地域の方言には、次の例のように、疑問詞を含む文の文末が活用語の仮定形で終わ

る現象が見られ、「疑問詞の係り結び」とも呼ばれる(虫明 1958)。

ナニ<sup>ツ</sup>ガ エラケリヤ。(何がえらいのか)

(『方言談話資料(9)』「場面(3)けんかをする 13.高知県南国市岡豊町滝本」p.182-3行)

そのような形を確認するために用意した項目である。

- 68) いつ  いつ行く(んだ)。  
      いつがいい。  
      始まるのはいつだ。
- 69) どこ  どこへ行く(んだ)。  
      どこがいい。  
      家はどこだ。
- 70) だれ  だれと行く(んだ)。  
      だれがいい。  
      おまえはだれだ。
- 71) 何  何をしに行く(んだ)。  
      何が欲しい。  
      これは何だ。
- 72) どう  どうやって行く(んだ)  
      どうすればいい。  
      ちょっと一杯どうだ。

### 引用文献

大西拓一郎(1994)「鶴岡市大山方言の用言の活用」国立国語研究所『鶴岡方言の記述的研究 - 第3次鶴岡調査 報告1 -』秀英出版

虫明吉治郎(1958)「疑問詞の係結 - 中国方言の場合 - 」『国語学』34

## C 資料

「B 項目」の調査文を作成する過程で行った、仮定条件表現形式の意味用法の記述のための臨地調査の結果の整理の一部を示す。この整理の結果を受けて新たに補った調査文もあるので、「B 項目」の利用例であると同時に、「B 項目」作成の途中経過を示すものでもある。以下の内容は、この科学研究費の研究グループの会議（第3回方言文法調査委員会，1999.3.19，於・国立国語研究所）での報告「津軽方言の仮定表現」に、わずかに補訂をほどこしたものである。

.....

### 津軽方言の仮定表現

調査は1998年11月20～23日に行った。話者は青森県の津軽地方(大鰐町,弘前市,平賀町,浪岡町,青森市,平内町)で生育した9名の方(50代1名,60代6名,70代2名)。ここでは、M.T.さん(調査時67歳,女性,浪岡町で生育・青森市在住)の回答を中心に、60代の方の回答を整理してみる。調査の際に求めたのは、家族や親しい友人とくつろいで話すときのことば、いわゆる伝統的方言である。

なお、この臨地調査に先立って、次の方言談話文字化資料から、順接仮定条件表現を担う接続形式を拾い出し、その意味・用法について、共通語と対照しつつ整理を行っている(三井 1998)。

#### ・「青森県青森市大字牛館」の談話

国立国語研究所編(1980)『方言談話資料(3) - 青森・新潟・愛知 - 』

話者：1903年生・男性，1910年生・男性，1913年生・女性

1978年9月5日収録

収録・文字化担当者：松本宙，収録文字化協力者：佐々木隆次

国立国語研究所編(1987)『方言談話資料(9) - 場面設定の対話 - 』

————— (1987)『方言談話資料(10) - 場面設定の対話 その2 - 』

話者：1903年生・男性，1910年生・男性，1913年生・女性

1979年5月7日収録

収録・文字化担当者：佐々木隆次

#### ・「青森県南津軽郡黒石町」の談話

日本放送協会編(1966)『全国方言資料 第1巻 東北・北海道編』

話者：1902年生・男性，1878年生・男性，1889年生・女性

1953年9月2日収録

調査はこれを踏まえて、仮定表現形式「バ」「タラ」「タキャ」などの意味・用法に関する点を中心に行った。

### 1. 形式

津軽方言の順接仮定条件を担う形式には、「バ」「タラ」があり、その他、もっぱら、一回性の事実的条件を担う「タキヤ」がある。さらに共通語の「なら」に対応する「ダバ」「ダラ」という形式があって、提題の意味でも使われる。「ト」は談話資料に全く現れなかったが、今回の調査でも、ほとんど使われないことがうかがわれた。また、「バ」を含む「セバ」という形が、接続詞として盛んに使われ、意味・用法の点でも特色がある。

これらの形式のうち、ここでは、「バ」「タラ」「タキヤ」の三形式を取り上げる。「ダバ」「ダラ」「ト」「セバ」についての報告は別の機会に譲る。

## 2. 用法の広がり

仮定表現の用法とそれを担う仮定表現形式について、談話資料の分析から、次のような見通しを持っていた。

	バ	タラ	タキヤ
仮説的用法			×
反事実的用法			
一般条件			
反復・習慣用法			
事実的用法	?		

ここではまず、「事実的用法（典型的には「～したら...した。」の形で、すでに実現した一回かぎりの事実について、前件の後、引き続いて後件の事態が生じたことを表す用法）」を除く、他の4つの用法について、調査結果から「バ」と「タラ」の使用状況を見ていく。なお、以下の例文は主に、主たる話者であるM.T.さんから得たものである。それ以外の方の回答については、[ ]内に話者の方の津軽の中での出身地域と調査時の年齢、性別を示す。

「仮説的用法（前件後件とも、まだ実現していないか、実現未実現が確認されていない事態である用法）」では、次のように「バ」が用いられる。

1) アシ タイフ {クレバ / キタラ} ガッコ ヤスミニナルベナー。(明日台風が来たら、学校は休みになるだろう。)【仮説的用法】

「タラ」を使うかどうか確かめると、「通じるけれども使わない」「津軽弁らしくない言い方」「若い人が言う」「新しい」のようなコメントが得られる。ここでは、このようなコメントともに回答された形式に「 」を付して挙げた。

このように「バ」がよく使われ、「タラ」が「言ってもおかしくはない」とされるのは、反事実的条件文、一般条件文でも同様である。

2) モット ハヤグ {オギレバ / オギダラ} エシテアッタ。(もっと早く起きればよかった。)【反事実的用法】

3) イチサ イチ {タヘバ / タシタラ} ニニ ナル。ホッタラモノモ シラネァノガ。(1に1を足せば2になる。そんなことも知らないのか。)[平内・69歳・女]【一般条件】

反復習慣用法では、「タラ」について確認をとっていないが、現在、過去いずれの場合

も、「バ」が優先的に使用されるようである。

4) アッコノ エサ エゲバ ムッタド ゴツツォニ ナルンダイノー。(あそこの家に行くと、いつもごちそうになるんだよねえ。)  
【反復習慣・現在】

5) ムガシ エネカリ シマエバ ミンナサ ゴツツォーシタ。(昔は、稲刈りが終わるとみんなにごちそうした。)  
【反復習慣・過去】

以上のことから、事実的用法を除く各用法では、基本的に「バ」が使われることがわかる。

### 3. 後件の反期待性

談話資料から、津軽方言の仮定表現が共通語と大きく違うのは、後件が「反期待性」と解釈できる内容を表し、かつ、文全体が「禁止」あるいは「回避の必要性」といった伝達的意味を担う文脈で、「バ」が使われる、という点であると観察された。このことは、今回の調査でも確認された。

6) ソツラダ クレイトコデ ホン {ヨメバノ ヨンダラ} マナグ ワルグ スヨー。(そんな暗いところで本を読んだら、目を悪くするよ。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 警告】

6)の例は、後件の「目を悪くする」という事態が一般に望ましくない事態であると解釈され、文全体が「警告」の意味を持つ例である。共通語ではこのような文脈では、「ば」は排除され、「と」「たら」「ては」が選択される(蓮沼1987)。しかし津軽方言では、このような文脈でも1)などの例と同様に、「バ」が使われる。次の例は、文全体が「禁止」と「懸念」を表す例である。

7) ソッチサ {エゲバ/ エタラ} マネヨ。(そっちへ行ってはいけない。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 禁止】

8) [お前が行くのか？ 心配だなあ、という気持ちで] オメ エゲバ ハナシ キマネジャ。(お前が行くと、話がまとまらないよ。)  
【仮說的用法・後件：反期待性 懸念】

津軽方言では、この点に関して、共通語ではたらいっている語用論的な制約が効いていない、と見ることができる。

### 4. 共起する文末表現の制限

談話資料の分析から、「仮說的用法」において、共起する文末表現に、津軽方言でも共通語と同様の制限があるのではないか、という見通しを持っていた。つまり、「バ」は、働きかけ(命令・依頼・勧誘)や表出(希望・意志)の文末表現とは共起せず、その場合は「タラ」が用いられる、という見通しである。

今回調査してみると、たしかに「タラ」はこのような場合よく使われることがわかった。「2.」「3.」で見たように、文末が述べ立てや推量の表現である場合に「タラ」があまり使われないのとは使用状況が異なっている。

しかし「バ」の文末制限は、共通語とやや異なるようであった。一言でいうと、「バ」の方が、「ば」より制限が緩やかなようである。

まず文末が、働きかけの表現のうち、命令表現である場合は、次のように、「タラ」を

使い, 「バ」は使われない。(補注1)

9) ママ {×ケバ/ク<sup>タ</sup>ラ} ハ ミカ<sup>°</sup>ゲ。(ご飯食べたら, 歯をみがけ。)【仮説的用法・文末: 命令】

依頼の表現である場合も同様である。

10) エギサ {×チゲバ/チ<sup>ダ</sup>ラ} デンワ シテケロ。コジガラ ム<sup>°</sup>ゲ<sup>°</sup>ニ エグハンデ。(駅に着いたら電話してくれ。こっちから迎えに行くから。)【仮説的用法・文末: 依頼】

しかし働きかけの表現でも, 次のような勧誘表現の場合, 「バ」の適格性はずっと上がり, 「タラ」と区別なく使われるようである。

11) シコ<sup>°</sup>ド {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} ノミニ エグベシ。(仕事が終わったら飲みに行こう。)【仮説的用法・文末: 勧誘】

また, 表出の表現でも, 「バ」は「タラ」と適格性の上で違いなく使われる。次の例は希望の表現の例である。

12) ココ {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} ダイカ<sup>°</sup>クサ エギテ<sup>°</sup>ナ。(高校を卒業したら, 大学に行きたいな。)【仮説的用法・文末: 希望】

意志表現でも同様である。

13) ヤスミニ {ナレバ/ナ<sup>タ</sup>ラ} トワダコサ アシビニ イグガ<sup>°</sup>ナー。(休みになったら, 十和田湖に遊びに行こうかな。)[大鰐 弘前・64歳・男]【仮説的用法・文末: 意志】

「動詞終止形+ガ」という形は, 津軽方言での意志表現として一般的な形である。(cf. 『方言文法全国地図』第3集106図~111図, および解説)

次のような申し出の表現も, 意志の表現の一種と見ることができよう。

14) コノ シコ<sup>°</sup>ド {オワレバ/オ<sup>ワ</sup>タラ} イッペ<sup>°</sup>ノマヘルハンデ。クミヘ<sup>°</sup>ダハンデナ。(この仕事が終わったら, 一杯飲ませるから。苦勞をかけたからな。)[大鰐 弘前・64歳・男]【仮説的用法・文末: 申し出】

以上のことから, 共通語の「ば」と津軽方言の「バ」の, 文末表現の共起関係をまとめると, 次のようになる。

文末表現	働きかけ			表出		
	命令	依頼	勧誘	希望	意志	申し出
共通語	×	×		×?		
津軽方言	×	×				

津軽方言の「バ」は, 相手への強い働きかけを表す文末表現とは共起しないが, 同じ働きかけでも, 「勧誘」といった働きかけのより弱い文末表現とは共起する。働きかけを含まない, 表出の表現とは共起制限がない, というようにまとめられようか。

ただし, 共通語においても, 11), 13), 14)のような場合, 前件のことから(「仕事が終わる」「休みになる」)が, 時間の推移とともにおのずから成立する, という解釈ではなく, 成立するかしなにかわからないが仮に成立する場合, という解釈であれば, 「ば」を用いることも可能なように思われる。この点は次で取り上げる「前件の確実性」にもかか

わり，さらに検討が必要である。

## 5．前件の確実性

共通語の「ば」と「たら」について，前件の事態が，実現することが確実と文脈上理解される場合には，「ば」が用いられにくい，という指摘がある。

・〔料理の手順の説明で〕鍋に材料とスープを入れます。火にかけて，{煮立てば / 煮立ったら}，火を弱めます。

しかし談話資料の中には，文脈から，前件の事態の実現が確実に見込まれると解釈されるにもかかわらず，「バ」が用いられる例が見られた。そこで調査では，次のようなスキットを作り，それを方言に訳してもらおうという方法で調査を行った。 の下線部が注目点である。

・ 客 「お父さんいますか。」  
 家人「今，出かけているんですよ。昼には戻りますけれど...」  
 客 「ああそうですか。それでは，戻って来たら電話をくれるように言ってください。ちょっと頼みたいことがあるので。」

家人「わかりました。戻ったらそのように言うておきます。」

これに対して次のような回答が得られた。(平賀・68歳・女)

15) 客 「オド エダナ。」

家人「エマ デテ エネバテ ヒルマダバ クルネ。」

客 「アー ソンダナ。ヒエバ {×モドツテクレバ / モドツテキタラ} デンワ カゲルニ シャベテケロ。チット タノミテァ コト アルハ<sup>ン</sup>デ。」

家人「ワガッタ。{モ<sup>ン</sup>ドレバ / モ<sup>ン</sup>ドタラ} ソシテ シャベテオクハ<sup>ン</sup>デ。」

【仮説適用法・前件：実現に確実性あり】

このスキットでは，「オドが昼に帰ってくる」ということは，話し手である「家人」には確実に実現する事態として捉えられていると解釈できる。この文脈の の発話で，「バ」は「タラ」と適格性の上で差はなく使われるようである。ニュアンスの上でも，例えば，「バ」を使うと「戻らないかもしれない」という含みが強まる，という違いもないようである。

なお，「2．」の例文1)などと違って，このスキットの と の例で「タラ」が普通に用いられるのには，前件の確実性ということのほかにも，「4．」で取り上げた文末表現の種類( では意志表現， では依頼表現)が関係すると思われる。

## 6．事実的用法

事実的用法とは，すでに実現した一回かぎりの事態について，前件の後，引き続いて後件の事態が生じたことを表す用法である。したがって実は「仮定」表現ではないとも言えるのだが，共通語では，仮定表現と共通の形式「たら」「と」が，この用法も持つので，ここで扱う。

津軽方言で事実的条件を担う代表的な形式は「タキャ」である。

16) ジカン マチカ<sup>テ</sup> {エツタキャ / エツタラ / ×エゲバ} オワテタジャ。(時

間を間違えて行ったら、〔もう会は〕終わっていた。)【事実的用法・完成相】

17) キンナ オモデデ シゴト {シテラキャ/シテエダキャ/ シテエタラ/×シテエレバ} アメッコ フツキタ。(きのう外で仕事をしていたら、雨が降ってきた。)

【事実的用法・継続相】

この用法での「タラ」は「新しい言い方」とされ、「バ」は「言わない」とされる。

談話資料の中には、「バ」が、事実的用法で用いられているように見える例があった。

18) ヤゲダ アドサ エゲバ スンダ フトモナモ ソツコツネ ゴロゴロゴロゴロテヨー ウン ヤヤ ミラエダ モンデ ネフタエナー。(〔青森空襲の後〕焼けた跡へ行くと、死んだ人も何も、そちこちにごろごろごろごろとよう、うん、やあやあ、見られたもんでなかったよなあ。)(『方言談話資料(3)』p.130-7行)

この例は「〔青森空襲の後〕ヤゲダアドサエグ」という一回かぎりの事態が実現したのにもなって、後件の「スンダフトゴロゴロテ〔転がっている〕」という事態を発見した、ということ述べていると思われる。

しかし上述のように、話者の内省では16)17)のような事実的条件文では、「バ」は使えないとされる。そこで、18)を下敷きにして次のような文を作り、これを方言訳してもらった。問題の部分は、「行くと」「行ったら」ではなく、「行けば」として提示した。

・空襲の後、人がたくさん逃げてきました。焼け跡に行けば、亡くなった人がたくさん倒れているし、とてもひどい様子でした。

これに対する回答は、例えば次のようである。

19) クーシューノ アド フト ジンブ ニケテキタジャ。ヤゲダ アドサ {エタキャ/エタラ/×エゲバ} シンダ フト イッペア タオレテエルシ トニカグ シンデヘタジャ。【事実的用法】

やはり、「タキャ」または「タラ」を使い、「バ」とは言わない、という回答である。

実は共通語の「ば」にも、このような事実的用法があることはある。しかし用例が少なく、使われるとしても後件が過去形でない方が自然であったり、かたい・古いなどの文体的なニュアンスを帯びているとされる。

・私はクゼールで停泊中によほど潜ろうかと考えたが、やはりまだ水は冷たそうである。次ぎのコロンの港で実行しようと予定していたところ、港に着けばやはり陸上の方が面白そうで、おまけに港の海はどろりと濁っており、ついにやらずにしまった。(どくとるマンボウ航海記)(前田(1997)より)

この方言でも18)のような例は、何らかの意味で周辺的な用例かもしれないと思われた。そこで、この部分について、『方言談話資料』の収録・文字化担当者であり、ご自身も青森市のご出身である佐々木隆次氏(1935年生)に、この部分がどのようなニュアンスを持つ表現であるのかうかがった。

佐々木さんによると、18)の「バ」の使い方は青森市方言として特に違和感があるものではない、ということである。そして、意味は「ヤゲダ アドサ エッタキャ～」と言ったときと変わらないものの、「エゲバ」と「エッタキャ」を比べると、「エゲバ」の方が何年もたった後に回想しているような感じがするのに対し、「エッタキャ」の方が臨場感、現実感があるように感じられる、とのことであった。ただし、両者の違いはそれほどすぐにはっきりと感じ取られるものでもなく、あえて言えばそのように説明できるかもしれな

い、といった性質のものであるように思われた。

以上のことから、津軽方言において事実的用法を担う代表的な形式は「タキャ」であること、「バ」はこの用法で用いられることがあるにしても、何らかの限られた場合であるらしいことがわかった。

なお、「タキャ」の用法について少し補足しておく。

まず、「すでに実現した一回かぎりの事態」を表す文であっても、次のような例では、「タキャ」は使われない。

20) [ 難しい試験で80点を取った子どもに ] ナダバ コンキ { ×トタキャ / トレバ }  
タクサンダネ。(おまえは、これだけ取れば充分だよ。)(大鰐 弘前・64歳・男)【事実的用法・後件：評価】

この例の後件は、すでに実現した前件の事態を評価する内容である。このように、前件と後件が引き続き生起するという関係にない場合は、「タキャ」は使えず、「バ」が使われる。この話者が、「タキャ」を使った適格な例文として提示したのは、次のような文である。共通語訳も話者によるものである。

21) ワキャ コンキ トタキャ ホメラエタネ。(私は、これだけ取ったから〔うちの人に〕ほめられたよ。)  
【事実的用法・後件：事態】

この文の後件は、前件の「〔点数を〕トタ」という事態に引き続いて生起した事態(「ホメラエル」)という関係にある。

また、「タキャ(テラキャ)」は従属節末だけでなく、文末に現れることもある。また、従属節末に使われる例だけを見ても、事実的用法とはやや異なる用法も持つようである。

22) キノー アメ フッテ タイシタ サムグネフテアツタバタテ キョー ユギ  
フテラキャ サムエ。(青森・63歳・男)

この文は一見、意味が把握しにくいだが、話者の説明によると、前半の「キノー アメ フッテ タイシタ サムグネフテアツタ(昨日は雨がふってあまり寒くなかった)」と、後半の「キョー ユギ フテ サムエ(今日は雪が降って寒い)」とを対比させた表現で、後半をあえて共通語にしようとする、「今日雪が降っているのは寒いんだ」のようになるかもしれない、という。

「タキャ」は語構成の上から「タ+キャ」と分解することができる。此島(1968, p.154)によるとこの「キャ」は「係助詞」とされている。21)の「ワキャ」がその例であるが、他に「ダキャ」という形でいろいろな語に付く。

23) アノ フトダキャ ソンチョー サネバダキャ マンダ マダ マンダ マダダキャ コーユー ハスダキャ タダネンデア。(あの人が村長(を)しないならば、まだまだまだ、こういう橋は建たないんだ。)(『方言談話資料3』p.76-12行)

このように見てくると、「タキャ」については、22)のような用法も含め、「キャ」の意味用法との関連について考えていく必要があるように思われる。ここでは、共通語との対照を入口としたので、事実的用法を担う接続形式として「タキャ」を取り上げたが、あるいは、「タキャ」の基本的意味は、事実的用法とはずれたところにある可能性もあるだろう。

以上、津軽方言の仮定表現を担う形式についての調査結果の一部を、おもに共通語の仮定表現を担う形式の意味用法との対照の観点から整理してきた。ここでは個々の現象の記

述にとどまり，津軽方言自体の条件表現接辞の体系の記述にまでは考察が及んでいない。今後の課題としたい。

補注1 ただし，全国7地域で仮定表現「～バ」の適格性を調査した日高(1999)によれば，このように文末が働きかけの表現（要求文）である場合も，津軽地方では，他の方言を圧して「バ」の許容度が高い。調査文の文脈，発話状況，調査法，位相などの諸条件を視野に入れた上で，ここでの結果をあらためて位置づけるべきだろう。（日高(1999)は，標準語スタイルについて，アンケートによる量的調査を行っている。）

### 引用文献

此島正年(1968)『新版青森県の方言』津軽書房

蓮沼昭子(1987)「条件文における日常的推論 - 「テハ」と「バ」の選択要因をめぐって - 」『国語学』150

日高水穂(1999)「ことばに関するアンケート調査1997-1998」『秋田大学ことばの調査』第1集

前田直子(1997)「現代日本語の条件文とその指導」『単文から複文へ - 中級をわかりやすく - 』AJALT公開研修講座資料

三井はるみ(1998)「方言の条件表現 - 『方言談話資料』と『方言文法全国地図』からの研究の可能性 - 」『国立国語研究所創立50周年記念研究発表会資料集』



## 接続詞

沖 裕子

### A 解説

#### 1. 接続詞とは

事柄と事柄の関係を明らかにするために、話し手の態度を述べる語詞である。接続詞の説明は、阪倉(1974:239-248)が、明瞭簡潔に述べているので、以下に要約して示す。

接続詞は辞である

「電車が動く。」「人が走っている。」という二つの文があるとする。この二つをまとめて、連続的に表現しようとするれば、

電車が動き、人が走っている。

というように、先の文の述語「動く」を中止形にすればよい。しかし、これをもし、

電車が動くので、人が走っている。

電車が動くのに、人が走っている。

というように表現すれば、ここには、話し手の態度が付け加えて表現されている。そういう主体的な判断が、「ので」と「のに」という辞によって表現されている。これを、

電車が動く。だから人が走っている。

電車が動く。それに人が走っている。

と表現した場合にも、「だから」「それに」という語の表現しているものは、何らかの事柄に関するのではなくて、辞と同じく、話し手の態度や立場であることが分かる。「だから」や「それに」がなくても、「電車が動く」「人が走っている」は意味の上で接続しうるし、語勢やイントネーションで、先のような気持ちを表すこともできる。ただ、これをはっきり示す「だから」「それに」「そして」というような表現が付け加えられることによって、接続関係が一層明瞭になる。

二つの独立する「文」が接続する場合に限らず、単語と単語の連続、文節・連文

## 接続詞

節、ないしは従属節や対立節の接続の場合でも、同じことがいえる。

ノート及び本

滞納も又は延納も認めない。

講義のノート並びに適当な参考書を持参してもよい。

意味を考え、あるいは用例を調べた上でなければ、結論が出せない。

雨が降っていたし、その上風もひどかった。

水心あればすなわち魚心あり。

### 接続詞のなりたち

接続詞は、本来は他の品詞に属していた語が、その大部分だと言ってよいほど多い。たとえば、接続詞の「また」は、副詞の「また」と深い関係がある。陳述副詞の「もっとも」などは、元来「もっとも安くはあるが、品がよくない」というように、「安くはある」ということを一往認めて「品がよくない」に対して注釈的に付け加える言い方であった。それが、さきに「品がよくない」と述べたあとで、すぐ断り書きとして「もっとも安くはある」と付け加えて述べられ、「但し」と同じような性格を持つようになって、だんだん接続詞として固定したのだと考えられる。(参考・渡辺実「陳述副詞の機能」『国語国文』昭和24年4月号)

接続詞とは、つねにそれに先立つ叙述を必要として、これを受けているものである。受ける概念内容がはっきりしているものから、概念内容が希薄になったものまで、さまざまある。

ちょうどそこに棒切れが落ちていた。それで泥棒に一撃をくらわせた。という場合の「それ」は、明らかに棒切れをさす代名詞であって、「一撃をくらわせた」という述語の副詞的修飾語になっている。しかし、

突然彼がなぐりかかった。それで僕も対抗上、彼に一撃をくらわせた。という場合の「それ」が、本来は代名詞であったことの名残はあるが、この場合もはや「それ」と「で」とに分解して考えることはできなくなっている。「それで」で、一つの接続詞と見るべきものである。これは、

突然彼がなぐりかかった。で、僕も・・・  
というように表現することもできる。つまり、影のうすくなった本来の詞の部分をふりすててしまっ、実質的な辞だけが残った形である。

### 接続詞の機能

接続詞は、上記のような性質を持つところから、さきの文を受けて後の文の展開をはかる上で、重要な役割を果たす。

接続詞は、中世以後の日本語ににわかに多く用いられるようになったが、これを用いることによって、話し手(筆者)の考え方、論理の進め方がはっきり表面に出てき

て、読者がこれについていくことが容易になる。

しかし、接続詞が多いということは、文を冗漫な、重厚味のないものにもする。接続詞が省略されていることで、聞き手(読者)は、たえず緊張しながら話し手(筆者)の論理の展開を追わざるをえなくなる。また、それがすぎれば、ひとりよがりな、きざな文章になる。

## 2. 日本方言の接続詞

### 2.1 話し言葉における接続詞研究

接続詞の研究は、主として書き言葉を対象として進められてきており、話し言葉を資料とした接続詞研究はまだ盛んであるとはいいがたい。日本方言における接続詞の研究も本格的にはこれからの課題であるといつてよいであろう。

方言における接続詞の研究は、地理的変異を追究する側面と、一言語における体系と運用を追究する側面があるが、離れたものではない。両者あいまって、日本方言の実態を明らかにするものである。

接続詞は、語彙的事実、文法的事実であるとともに、談話(や文章)の展開において一定の役割を果たしている。談話は、話し言葉であり、実際の話し言葉は標準・非標準を問わず、すべて方言(地域語)で実現されることに鑑みれば、方言学の知識なくして、真の談話研究は遂行されないことになる。

### 2.2 国語史と日本方言史の側面から

接続詞は、中世以来、日本語の論理的運用の進展とともに発達をみてきた。日本方言の分岐・統合を研究する観点からいえば、比較的新しい現象に属する。テンス・アスペクトのような言語の根幹にかかわる現象で、日本語の古層を追究しうるような事象とは、その意味で性格が異なっているといえよう。

G A Jによれば、接続詞にも地域的な分布が認められる。国語史という観点からみれば、接続詞の研究は、方言区画、それも中世以降の社会の分化のあり方を反映する文法項目としてこれを位置づけ、研究してみることが必要であろうと思われる。

## 3. 調査の着眼点

接続詞の共時的な研究は、これからの課題である。条件表現における接続助詞とどのように接続詞は異なるのか、どの程度分離して独立した語詞になっているかについても不明である。まず、自分自身で当該の方言談話を収録・文字化して、そこで使用されている接続詞の特徴について観察することから始めてみる必要がある。接続詞は、語彙的、文法的、談話的事実であるから、それらに配慮した分析を行う必要がある。

また、通時的な研究にとっては、接続詞の形態的な分布状況を把握することも必要であ

ろう。『方言文法全国地図』によって、接続助詞および若干の接続詞の分布を見ることができ。たとえば、ダカラという接続詞は、指定辞ダと、接続助詞カラとから成る。＜指定辞+接続助詞＞という語構成からなる接続詞には、ダカラ、ジャカラの分布がみられるが、「\*ヤカラ」はみあたらない。指定辞ヤを含む接続詞は＜ソ系指示語（ソ・ソン・ホンなど）+指定辞+接続助詞＞という語構成になることが知られる。（以上小西(2000)参照）『方言文法全国地図』に収められている接続詞の数自体が少ないので、現在刊行されている方言談話資料などにあたるなどして、まずは、当該地域でどのような接続詞がどのように使用されているか網羅し、分布地図もあわせて作成していく努力が要求される。

#### 4. 研究の現状と発展

接続詞の意味・機能に関する研究は、共通語の文章を資料としたものが最も進んでいるが、分類については諸説あり、定説をみない。接続助詞との連続性の問題や、談話における働きを考察しなければ結論がつかない部分を有しているからであろう。話し言葉における接続詞研究については、シナリオなどのテキストを用いるか、あるいは内省による研究が多く、話し言葉資料に立脚した研究は少ない。話し言葉は、方言として実現されるため、地域差を含んだことばの総体を観察する方言学の知見が要求される。方言研究者の意欲な参加が望まれる領域であろう。

#### 文献

- 沖 裕子「対話型接続詞における省略の機能と逆接 「だって」と「なぜなら」「でも」」  
中條修編『論集 言葉と教育』和泉書院
- 沖 裕子「新用法からみた対話型接続詞「だって」の性格」『人文科学論集』第31号 信州大学人文学部
- 久木田恵(1990)「東京方言の談話展開の方法」『国語学』162
- 小西いずみ「東京方言が他地域方言に与える影響 関西若年層によるダカラの受容を例として」『日本語研究』第20号 東京都立大学 国語学研究室
- 坂原茂(1985)『日常言語の推論』東京大学出版会
- 阪倉篤義(1974)『改稿 日本文法の話 第三版』教育出版
- 鈴木一彦・林巨樹編(1973)『品詞別 日本文法講座 6 接続詞・感動詞』明治書院
- 鈴木一彦・林巨樹(1984)『研究資料日本文法 第4巻 修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』明治書院
- 時枝誠記(1950)『日本文法 口語編』岩波書店
- 永野賢(1959)『学校文法 文章論』朝倉書店

接続詞

蓮沼昭子(1993)「対話における「だから」の機能」『姫路独協大学外国語学部紀要』第4号

蓮沼昭子(1995)「談話接続語「だって」について」『姫路独協大学外国語学部紀要』第8号

森岡健二(1994)『日本文法体系論』明治書院

森重敏(1970)『日本文法通論』風間書房

山田孝雄(1908)『日本文法論』宝文館

渡辺実(1971)『国語構文論』塙書房



# 格 助 詞

小 林 隆

## A 解説

### 1. 格助詞とは

名詞は文の中で、動詞や形容詞などの述語に対して、さまざまな文法的役割をもって結び付いている。この文法的役割のことを「格」と呼ぶ。格は、言語によっては語順や名詞の活用などによって表されるが、日本語においては、名詞の後ろに付く「が」「を」「に」「へ」「で」「から」など一定の独立した形式で示されるのが普通である。これらの形式のことを「格助詞」と呼ぶ。

また、名詞と述語との関係ではないが、名詞と名詞とを結びつける「の」も、ここでは格助詞の仲間を含めて扱うことにする。

### 2. 日本方言の格助詞

日本方言の格助詞を見渡すには国立国語研究所『方言文法全国地図』（略称 GAJ）が便利である。これは、地理的分布の解明をめざした方言地理学調査の成果であるが、今後の記述研究へのヒントを豊富に含んでいる。第1集「助詞編」を使って、格助詞の方言を概観し、研究上の課題を整理してみよう。

#### 2.1 格助詞が使われないことがある

ガ格： 「雨が降ってきた」（GAJ 1 図）のような言い方が、東北地方や近畿地方を中心に全国各地に見られる。

ヲ格： 「酒を飲む」（GAJ 6 図）のような言い方が、東北、近畿、琉球地方を中心に全国各地に見られる。

ニ格： 「大工がなった」（GAJ 23 図）のような言い方が、秋田と琉球地方に見られる。

ノ格： 「おれが手拭い」（GAJ 13 図）のような言い方が、秋田と琉球地方に見られる。

日本語においては、格は格助詞によって示されると最初に述べた。しかし、実際には

このように格助詞の一部を使用しない方言もある。格の種類に応じた無助詞現象の出現傾向、あるいは、そのような現象を引き起こす文法的システムについて考えてみたい。これは、格表示の方式に関する基本的な検討課題である。

## 2.2 格助詞の意味が共通語と異なる

ガ： ノの代わりに、「おれガ手拭い」(GAJ13 図)のような言い方をする方言がある。

東北南部、関東東部、山陰、九州地方など。

ノ： ガの代わりに、「雨ノ降ってきた」(GAJ1 図)のような言い方をする方言がある。山陰、九州、琉球地方など。

エ： ニの代わりに、「ここエある」(GAJ24 図)、「息子エ手伝いに来てもらった」(GAJ26 図)のような言い方をする方言がある。中国地方の一部。

カラ： ニの代わりに、「犬カラ追いかけられた」(GAJ27 図)、「息子カラ手伝いに来てもらった」(GAJ26 図)のような言い方をする方言がある。山形・新潟、九州地方など。また、デの代わりに、「船カラ来た」(GAJ29 図)、「一万円カラお願いします」(GAJ30 図)、「運動場カラ遊ぶ」(GAJ28 図)のような言い方をする方言がある。九州、山陰、琉球地方など。

このように、共通語と同じ形式であっても、その意味が方言によって異なっていることがある。格助詞は形態面について見ると、全体として方言独特のものは目立たず、共通語でも使われる形式が優勢である。しかし、意味的な面に注目すると、顕著な地域差が現れてくる。ガとノ、エとニ、カラとニ・デなど、対立する形式を視野に入れ、共通語・方言間の意味のずれを体系的に記述したい。

## 2.3 方言特有の格助詞が見られる

コト・トコ： 共通語のオの代わりに、「おれトコ連れて行ってくれ」(GAJ7 図)のように言う。東北地方。

バ： 共通語のオの代わりに、「酒バ飲む」(GAJ6 図)、「おれバ連れて行ってくれ」(GAJ7 図)のように言う。東北北部、九州地方。

サ： 共通語のエやニの代わりに、「東の方サ行く」(GAJ19 図)、「東京サ着いた」(GAJ20 図)のように言う。東北地方、関東東部。

ンカイ： 共通語のニの代わりに、「東京ンカイ着いた」(GAJ20 図)のように言う。琉球地方。

カッテ・ニカッテ： 共通語のニの代わりに、「犬カッテ追いかけられた」(GAJ27 図)のように言う。秋田周辺。

ンティ・ナンティ・ナー： 共通語のデの代わりに、「運動場ンティ遊ぶ」(GAJ28 図)のように言う。琉球地方。

ター： 共通語のヨリの代わりに、「それターあの方が良い」(GAJ31 図)のように言う。中国地方。

このような方言独特の形式の記述も重要である。これらは、中央語において、本来格助詞とは異なる形式として使用されていたものが多い。例えば、コト・トコは名詞「事」、バは係助詞「は」、サは接尾辞+格助詞の「さまに、さまへ」、ンカイも複合形式の「に向かい」が原形と推定される。したがって、これら中央語の形式からいかにして方言の格助詞が成立したかという点も興味深い。いわゆる「文法化 (grammaticalization)」の問題である。なお、ンティは「にて」にあたり、デの原形を方言が残していることになる。中央語の方が文法化を進めた事例である。

## 2.4 共通語にない基準で使い分けられる

待遇による使い分け： ノとガを、尊卑の区別に応じて使い分ける方言がある。例えば、「先生ノ来られた／泥棒ガ入った」(GAJ 2 図／3 図)、「先生ノ手拭い／泥棒ガ手拭い」(GAJ14／15 図)といった使い分けが山陰、九州地方に見られる。

ウチ・ソトによる使い分け： ノとガを、名詞の内容が自分の所属する世界(ウチ)のものか、そうでない世界(ソト)のものかという世界観によって使い分ける方言がある。例えば、琉球地方に見られる「先生ガ来られた／泥棒ノ入った」(GAJ 2 図／3 図)、「先生ガ手拭い／泥棒ノ手拭い」(GAJ14／15 図)といった区別は、ガ＝ウチ／ノ＝ソトといった基準によるものである可能性がある。

名詞の有生性による使い分け： 名詞は、有生性によって「有生名詞」(人間、動物)と「無生名詞」(無生物、抽象物など)に分けることができる。この違いが格助詞の使用を支配することがある。例えば、東北地方を中心に見られるコト・トコは、「酒ヅ飲む／おれトコ連れて行ってくれ」(GAJ 6／7 図)のように、有生名詞に現れやすいという性格をもつ。

このように、方言の格助詞の使用には、共通語の感覚では見逃してしまいそうな基準が作用していることがある。したがって、対象を分析するには、さまざまな文法的視点を用意する必要がある。そのためには、これから記述しようとする地域の先行研究のみでなく、全国各地の方言や歴史的中央語(日本語史)、世界の言語などから、広範囲な文法知識を導入するのがよい。

## 2.5 格助詞とは思われない形態がある

名詞と融合を起し、分離できない形態がある。

ガ格： 「あミャー(雨が)降ってきた」(GAJ 1 図)のような形態が、東北、中部、近畿などに見られる。

ヲ格： 「さキョー(酒を)飲む」(GAJ 6 図)のような形態が、長野・山梨・静岡、

中国地方、四国・九州地方の一部に見られる。

ニ格： 「おレー（おれに）貸せ」（GAJ25 図）、「こケー（ここに）ある」（GAJ24 図）のような形態が九州、中国地方の一部に見られる。

これらは名詞末尾の音韻環境に応じて異形態をとるもので、ヲ格では、さキョー（酒を）のほか、例えば、さカー（坂を）、さキュー（先を）、さクー（柵を）、ざコー（雑魚を）のようになる。意味記述の以前に、こうした形態の特徴を整理しておきたい。また、この問題は、通時的には無助詞現象の成立に関わってくる。

ガ格については、形態上、係助詞「は」との区別が問題になる。

雨ア（雨が）降ってきた／あれア（あれは）学校だ（GAJ 1 / 10 図）のように、ともにアとなる地域が東北北部にある。また、

あミャー（雨が）降ってきた／あリャー（あれは）学校だ（GAJ 1 / 10 図）のように、同じ形に融合を起こす地域が東北、中部、近畿地方などに見られる。これは、助詞の種類をまたぐ大きな課題に発展する可能性があり、両者の意味的な関連が興味深い。

### 3 . 調査の着眼点

格助詞の記述調査には、次の2つの方向が考えられる。

- (1) 格の枠組みについての調査
- (2) 特定の形式についての調査

ここでは、(2)の立場での調査項目の設計について解説する。

例として取り上げるのは、東北方言を中心に使用される格助詞サである。サは形態論、意味論、構文論のどの観点から見ても興味深い形式であり、問題の広がり「文法化」など通時的な側面にも広がる。サについて考えることは、他の格助詞の調査にも役立つことと思われる。

#### 3 . 1 形態を確認する

→この部分の解説は、「B 項目」の「1 . 形態を把握する項目」に対応する。

意味の記述を始める前に、形態の確認を済ませておこう。

#### 【名詞末尾の音韻環境による異形態】

2 . 5 で述べたように、格助詞はそれが置かれる前後の音韻環境によって、同じ語でありながら形態を変えることがある。そうした異形態を最初に確認しておかないと、形態の違いを別の語と見誤ったり、助詞が使われていないと錯覚してしまう恐れがある。例えば、九州方言のニは前にくる語の末尾の音によって、次のように相補的な現れ方をする。

a. 長母音・連母音・撥音・1拍語の後： ニ（東京ニ、上ニ、公民館ニ、田ニ）

b. それ以外の後： イ（大阪イ、下イ、郵便局イ、畑イ）

後者のイは前節母音と融合を起こすので、例えば、

ここ＋イ＞こケ（一）

おれ＋イ＞おレ（一）

となり、名詞そのものの形と紛らわしくなる。日本語の格助詞は、カ°（鼻音）、オ、ニ、エなど1拍かつ母音性で独立性の弱いものが多く、異形態を生み出しやすいことに注意が必要である。

サについては、山梨県奈良田方言において、サとニとが交替する現象がある。すなわち、次のようになる。

a. 長母音・連母音・撥音・1拍語の後： サ（東京サ、上サ、公民館サ、田サ）

b. それ以外の後： イ（大阪イ、下イ、郵便局イ、畑イ）

交替のあり方は上記の九州方言におけるニとイの場合と同じである。しかし、こちらは異形態ではなく、サとイという別の格助詞間の交替である点特殊である。おそらく、九州方言と同じニとイの交替が存在したところへ、あとからサが入り込みニの位置に座った過渡的状态と推定される。

一般に、複数の語の使い分けは意味的に説明されることが多い。しかし、このように音韻環境が制限を与える可能性を確認しておかないと、いくら意味の面から調査文を駆使しても結論に行き着かない恐れがある。

なお、「B 項目」の「2. 意味の概要を把握する項目」以下の調査文は、この音韻環境という点に無頓着に作成してある。最初に、当該地点のサが何らかの音韻環境に影響されることが確認できたら、それに合わせて調査文を調整する必要があることを断っておく。

#### 【前接動詞の活用型による異形態】

格助詞の用法としては特殊であるが、共通語のニと同様、サは動詞を受けて目的を表す用法がある。このとき、ッサという形が生じることがある。例えば、宮城県中新田町方言では次のようになる。

一段動詞： 見ッサ、借リッサ

サ変動詞： スッサ、勉強スッサ

ラ行五段動詞： 取ッサ、踊ッサ

ラ行以外の五段動詞： 聞キサ、頼ミサ

動詞の活用型ごとに整理したが、言い切りの形がルで終わる語がッサとなる、と言ってもよい。ただし、その促音が動詞の活用語尾なのかサの一部なのか簡単には判断できない。この点が意味に関わることはないが、動詞の活用型に波及する問題なので注意が必要である。

### 3.2 意味の概要を把握する

→この部分の解説は、「B 項目」の「2. 意味の概要を把握する項目」に対応する。

意味の記述に駒を進めよう。

まず、意味の概略を把握し、次に特に問題となる点について集中的な調査を行う。このように、二段構えで対象を掘り下げていくのがよいだろう。

さて、方言の格助詞について見ていくとき、おおよそ意味が対応すると思われる共通語の格助詞を手がかりにするのが便利である。特に、内省の利かない方言を調査する場合には、それが有効な方法である。もちろん、共通語と方言とが全面的に対応するケースは稀と言える。最終的には、手がかりとした共通語の枠組みから離れ、方言独自の体系化を図る必要がある。

サの意味は、ほとんど共通語のニの領域に収まる。したがって、共通語のニを手がかりにサの意味の概要を把握してみよう。一部、オの領域に入り込むサの意味も見られるが、この点はあとで考えることにする。

ところで、東北方言のサというとき、「東京サ行く」のような「移動の目標」の意味が有名である。これだと、共通語のエを参考にすれば済むように思われる。しかし、少し観察しただけで、

東京サ着く。(移動の帰着点) -GAJ20 図

おれサ貸す。(授与の相手) -GAJ25 図

花火を見サ行く。(移動の目的) -GAJ21 図

本はここサある。(存在の場所) -GAJ24 図

といった共通語のニに対応する意味もあることがわかる。共通語のエとニとは、ニの意味領域がエの意味領域をほぼ含む関係にある。したがって、サの調査はエよりも広い意味を担うニを手がかりに行うのが適当と言える。また、図1に『方言文法全国地図』の略図を示したように、サは地域によって使用できる意味に違いがある。このことは、通時的変化の段階と方向性の違いが分布に反映されていることを予測させ、複数の地域で記述を進めることの必要性を示唆する。

共通語のニの意味をものさしにして、サの意味の概略を把握するための調査項目を作成すると、「B 項目」の「2. 意味の概要を把握する項目」のようになる(調査文は「へ」を使わず、すべて「に」で統一した)。分布との関連を考えるための便宜として、『方言文法全国地図』にある項目はそれを取り入れた。

### 3.3 一般化と発達モデル

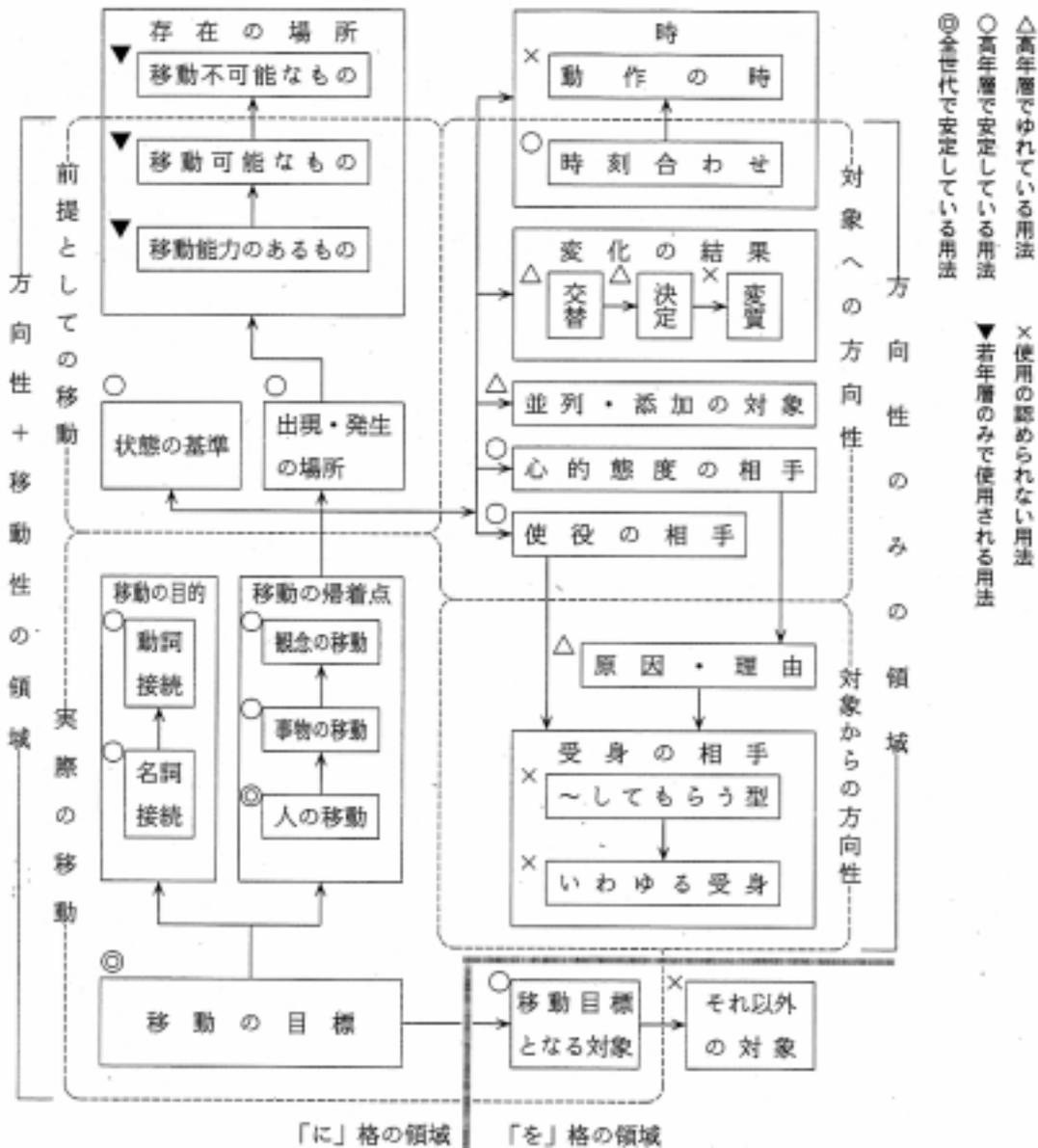
当該の格助詞がもつ個々の用法が把握されると、どのような場合にその格助詞が使えるか(あるいは使えないか)、一般化を試みることができる。サの場合には、共通語のニ

図1 東北方言におけるサの分布領域



『方言文法全国地図』第1集 19～27図をもとに作成した。各図において、サが使用される地域を塗りつぶしてある。原則として、分布領域の広い項目から狭い項目へと配列した。

図2 サの意味の発達モデル



※左下の「移動の目標」を出発点として、矢印の方向に意味が発達したと考える。  
 なお、図には宮城県中新田町方言における調査結果を記号で示してある。中新田町では、年齢別の多人数調査も行った。これを見ると、高年層の中でも安定した意味とゆれている意味とがあり、それが意味発達の段階と対応していることがわかる。この点は、地理的分布にも投影されている。また、若年層に向けた新たな意味拡張も見えている。

の意味領域との関係でその意味の広がり一般化することが可能である。

まず、共通語のニの意味領域を、次のように分類してみよう。

a. 方向性＋移動性の領域

a-1. 実際の移動（移動の目標、移動の帰着点、移動の目的）

a-2. 前提としての移動（出現・発生の場所、状態の基準）

b. 方向性のみの領域

b-1. 対象への方向性（使役の相手、心的態度の相手、並列・添加の対象、変化の結果）

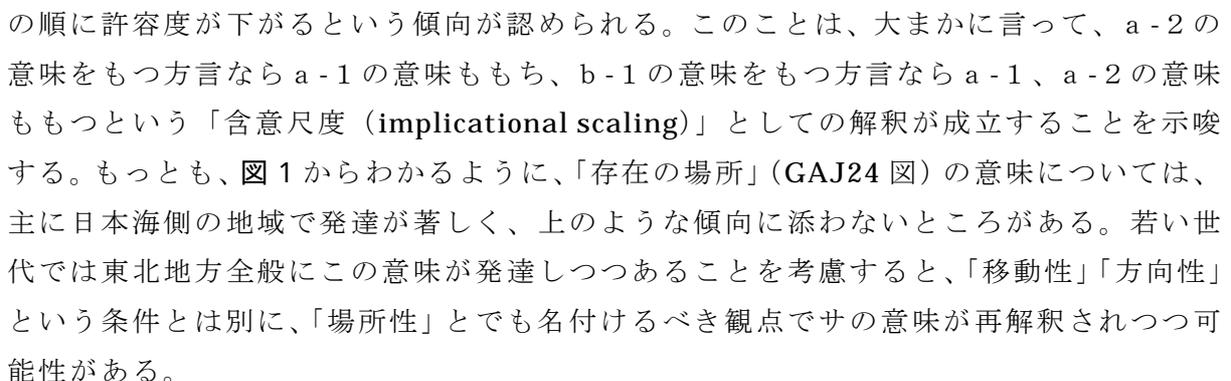
b-2. 対象からの方向性（原因・理由、受身の相手）

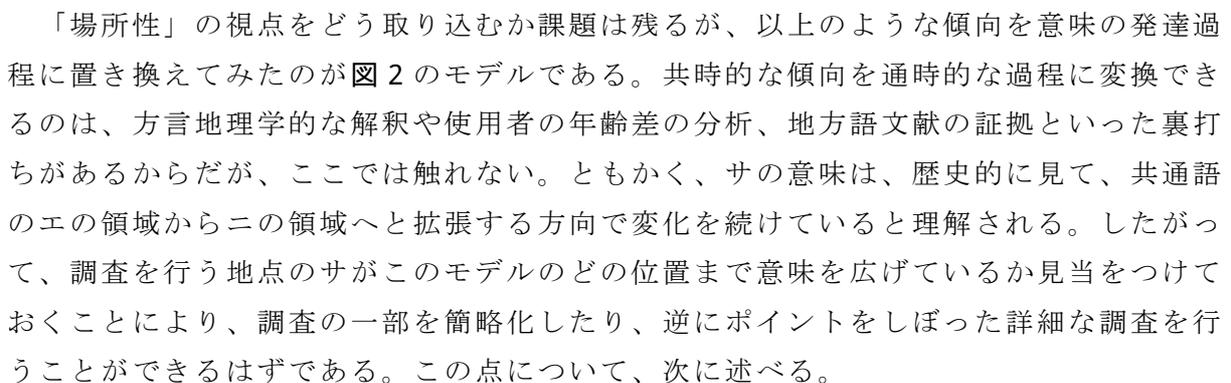
c. それ以外の領域（存在の場所、時）

すると、例えば、宮城県中新田町方言では、a（a-1、a-2）の領域ではサは問題なく使えるが、b-1の領域ではやや使いにくい意味（並列・添加の対象、変化の結果）が現れ、b-2の領域では使えない意味（受身の相手）が出現し、さらに、cの領域になるとサは全く使えないことがわかる。すなわち、中新田町方言のサの使用を支配する意味的条件は、第1に「移動性」、第2に「方向性」であることがわかる。

実は、このようなサの特徴は、中新田町方言にとどまらず、サを使用する方言の多くに共通する傾向と言える。つまり、サの使用は、

$$a-1 > a-2 > b-1 > b-2 > c$$

の順に許容度が下がるという傾向が認められる。このことは、大まかに言って、a-2の意味をもつ方言ならa-1の意味ももち、b-1の意味をもつ方言ならa-1、a-2の意味ももつという「含意尺度 (implicational scaling)」としての解釈が成立することを示唆する。もっとも、からわかるように、「存在の場所」(GAJ24 図)の意味については、主に日本海側の地域で発達が著しく、上のような傾向に添わないところがある。若い世代では東北地方全般にこの意味が発達しつつあることを考慮すると、「移動性」「方向性」という条件とは別に、「場所性」とでも名付けるべき観点でサの意味が再解釈されつつ可能性がある。

「場所性」の視点をどう取り込むか課題は残るが、以上のような傾向を意味の発達過程に置き換えてみたのがのモデルである。共時的な傾向を通時的な過程に変換できるのは、方言地理学的な解釈や使用者の年齢差の分析、地方語文献の証拠といった裏打ちがあるからだが、ここでは触れない。ともかく、サの意味は、歴史的に見て、共通語のエの領域からニの領域へと拡張する方向で変化を続けていると理解される。したがって、調査を行う地点のサがこのモデルのどの位置まで意味を広げているか見当をつけておくことにより、調査の一部を簡略化したり、逆にポイントをしばった詳細な調査を行うことができるはずである。この点について、次に述べる。

### 3.4 変化の初期段階に位置する方言を調査する

#### ：「移動の目標」について

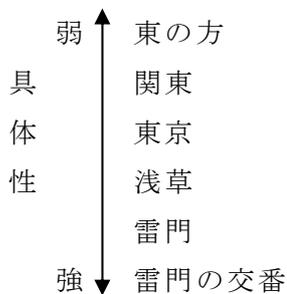
→この部分の解説は、「B 項目」の「3. 変化の初期段階に位置する方言を調査する項目：「移動の目標」について」に対応する。

サの意味について、さらに詳しい調査を行ってみよう。そのとき、掘り下げるべき課題を見極めるために、当該調査地点のサの意味領域が図2のどのあたりまで達しているかを確認しておく必要がある。なぜならば、すでに安定した意味を獲得している領域よりも、使用が不安定な領域、つまり、その地域において、今まさに意味拡張が起こりつつある部分をねらった方が実りある結果が得られると考えられるからである。

サは「移動の目標」を出発点として、最初に「移動の帰着点」へと意味を発達させたと考えられる。サの意味がまだ拡張を始めたばかり段階に位置する方言、例えば、関東周辺部や東北南部の方言を調査する際には、「移動の目標」から「移動の帰着点」に至るの間の用法を細かく調査する必要がある。

#### 【目標地の具体性】

まず、「移動の目標」がどの程度具体性をもつか、といった点でサの使用に違いが出そうである。例えば、サの意味の概要をつかむために提示した調査項目（「B 項目」の「2.1 東の方に行く」）は、移動の目標として「東の方」が設定されているが、これは方向であり、漠然とした目標と言える。これが、例えば、



のように、目標地としての具体性が付与され、帰着点としての理解も可能になるに従い、サの使用が制限されてくる可能性が考えられる。

#### 【複合語の述語】

次に、述語が複合語である場合、サの使用に影響が出ないか見てみる。すなわち、補語として目標地を要求する「行く」と、同じく帰着点を要求する「着く」とが複合した「行き着く」という動詞の場合、サが使えるかどうかという点である。予想としては、最初、複合動詞後項の「着く」に支配されていた補語が、しだいに前項の「行く」の効力を受け始め、ついには単純語「行く」と同じ補語をとるようになる。そして、さらにその影響が単純語「着く」の場合にも及び、結局、「着く」単独でもサの使用が可能になる、といった過程が想定される。

「行く」単独で使用可

↓  
「行き着く」でも使用可  
↓  
「着く」単独でも使用可

### 3.5 変化の最先端に位置する方言を調査する(1)

#### :「変化の結果」について

→この部分の解説は、「B 項目」の「4. 変化の最先端に位置する方言を調査する項目(1):「変化の結果」について」に対応する。

ひとくちに「変化の結果」と言っても、それがどのような質の変化であるかによってサの使い方に違いが出る。また、変化前の状態が文中に明示されるか、あるいは、変化を明確に示す動詞が用いられるか、といった構文的な問題もサの使用に影響を及ぼすと考えられる。

まず、変化の質の点では、二つの別個のもの「交替」と、一つのもので姿を変える「変質」とに分けられる。例えば、「窓口が、男の人から女の人になった。」は「交替」、「雨が雪になった。」は「変質」の例である。

次に、変化前の状態が文中に明示されるかどうかという点では、「雨が雪になった。」という文では「雨」が示されているが、ただ「雪になった。」と言ったのではそれが無い。また、これらの文で、「なる」を「交替する」「変わる」などに換えた方がより変化の意味が明確になる。

以上の観点を組み合わせ、調査項目の枠組みを示すと次のようになる。

#### (1) 交替

##### (1-1) 交替前が明示

A ➔ B (動詞 = 「換わる」)

A → B (動詞 = 「なる」)

##### (1-2) 交替前が非明示

(A) ➔ B (動詞 = 「換わる」)

(A) → B (動詞 = 「なる」)

#### (2) 変質

##### (2-1) 変質前が明示

A ➔ A' (動詞 = 「変わる」)

A → A' (動詞 = 「なる」)

##### (2-2) 変質前が非明示

(A) ➔ A' (動詞 = 「変わる」)

(A) → A' (動詞 = 「なる」)

## (2-3) 変質前が非想定

(φ) → A (動詞 = 「なる」)

最後のケースは、例えば、「6時になった。」のような変化の結果のみに焦点があり、「\*5時から6時になった。」のような変化前の状態を一般には想定しないケースを指す。先に、サの意味の概要をつかむために提示した調査項目(「B項目」の「2.14 息子は大工になる」)もこれに該当する。

予想される結果としては、次の各項において、不等号のいずれも左側の方がサの許容度が高いと考えられる。例えば、変化の質については宮城県中新田町方言で、構文的な点については秋田県の若年層にそのような傾向が認められる。

変化の質： 交替 &gt; 変質

変化前の状態： 明示 &gt; 非明示 &gt; 非想定

動詞の種類： 「換わる・変わる」 &gt; 「なる」

これは、3. 3で述べたサの意味発達の過程における「まず「移動性」の領域へ、次いで「方向性」の領域へ」という原則に従う傾向と言える。すなわち、「変質」より「交替」の方が空間的な移動を想像することが可能であり、また、変化前の状態を明示したり、「なる」より「換わる・変わる」を用いたりした方が、方向性が明瞭に示されることになる。そのため、サが使いやすくなるのではないかと考えられる。

## 3. 6 変化の最先端に位置する方言を調査する(2)

:「存在の場所」について

→この部分の解説は、「B項目」の「5. 変化の最先端に位置する方言を調査する項目(2):「存在の場所」について」に対応する。

## 【存在主体の「移動性」】

共通語の二は「存在の場所」の意味をもつ。3. 2では、サがこの意味用法で使用されるか見るために、

本はここにある。(「B項目」の2.8)

という調査文を用意した。しかし、これまでの調査によると、この用法でのサの使用には統語論的な条件、すなわち、「主格となる名詞の有生性」が関わっていることがわかっている。つまり、主格となる名詞が有生名詞か、無生名詞かによって、その存在場所を表示するサの使用に違いが現れる。一般的には、有生名詞の方が無生名詞よりサが使われやすいという傾向がある。したがって、調査地点のサの意味が、2で「存在の場所」付近まで拡張してきていることが予想される場合には、この点について掘り下げた調査を行ってみるとおもしろい。

ところで、無生名詞の場合でも、さらに細かく観察すると、それが指し示す事物がペンや本といった小規模なものである場合にはサが使用されやすく、山や建物といった大

規模なものである場合には使われにくい、という傾向がある。このことを考慮すると、存在する主体の性質として、それ自身が移動能力をもつかどうか、あるいは、移動能力をもたなくとも簡単に移動させることが可能かどうか、といったより広範囲な「移動に関わる性質」(＝「移動性」と呼んでおく)が決め手になっているのではないかと思われる。したがって、「有生性」よりも、「移動性」の視点からこの現象をとらえる方がより包括的な説明が可能と考えられる。そこで、この点に関わる調査項目の分類を次のように整理しておく。

○存在主体の「移動性」

- a. 移動能力あり
- b. 移動能力なし
  - b-1. 被移動性あり
  - b-2. 被移動性なし

予想としては、 $a > b$  ( $b-1 > b-2$ ) の順にサの許容度が落ちると考えられる。例えば、福島県小高町方言では、 $a$  と  $b-1$  ではサが使えるが、 $b-2$  では使えないという結果が得られている。

【前提としての移動】

サが「存在の場所」の意味をもつに至ったのは、その存在が移動の結果として理解されるような状況が契機になっているのではないかと推測される。別の言い方をすれば、存在の前提として移動が想定される場合があるということである。例えば、

おれは家サいる。

なら、

昨日は旅行に出ていたが、今日は家に帰ってきて…

といった状況が、

本はここサある。

なら、

さっきまで机の上にあったが、今はこちらに持ってきて…

といった状況が考えられる。したがって、サが「存在の場所」の意味を獲得する過程には、このように、前提としての移動が想定されやすい文脈からまず使用を開始される可能性がある。したがって、この点を確認する調査も有意味なはずである。

【存在の補助動詞】

もう一点、確認したいことがある。それは、「いる」「ある」が補助動詞として使われた場合のサの使用である。「いる」「ある」は単独では「存在の場所」を表す補語を要求するが、補助動詞として使用された場合、本動詞の補語の意味役割との関係が問題になる。例えば、「東京に行っている」において、「行く」の方に焦点がある場合には、「東京」は「移動の目標」の解釈になり、「いる」の方に焦点がある場合には、「東京」は「存在

の場所」の解釈になる。

サが「存在の場所」の意味を獲得し、単純語「いる」「ある」の場合でも使用されるに至る過程には、「いる」「ある」が補助動詞として用いられたときにまず使用が許可されるという段階が認められる可能性がある。

東京に行く。(移動の目標)

↓

東京に行っている。(移動の目標＋存在の場所)

↓

東京にいる。(存在の場所)

この点の調査も興味深い。

### 3.7 他の格との関係に視野を広げる

→この部分の解説は、「B 項目」の「6. 他の格との関係に視野を広げる項目」に対応する。

ここでの基本的な方法は、共通語の格助詞ニの意味を手がかりに、方言のサの意味を把握するというものである。すなわち、ニ格の領域におけるサの使用範囲を確認する作業が中心になる。ところが、サは共通語であれば格助詞オで表すヲ格の領域に踏み込んで使用されることがある。

#### 【移動の目標としてのヲ格】

さて、ヲ格は主に「対象」を意味するが、その対象に対する動作が移動を含むものである場合には、サが使用されることがある。例えば、宮城県中新田町方言では、共通語なら、

兎オ追いかける。

と言うべきところを、

兎サ追いかける。

とすることができる。これは、名詞句「兎」の格が「移動の目標」という共通語のニ格相当の意味役割で理解できるからではないかと考えられる。これに対して、共通語で、

兎オつかまえる。

兎オ育てる。

となる二つの文においてはどうかであろうか。前者は「～追いかける」の場合に比べて「移動の目標」の解釈は難しくなるが、それでも兎に接近する何らかの移動行為を想像することはできなくはない。これに対して、後者になると、もはや兎への移動は考えることができない。おそらく、「～追いかける」>「～つかまえる」>「～育てる」の順に、サの許容度も下がってくることが予想される。中新田町方言では、「～追いかける」の場合のみサが可能である。この点を簡略に図示すれば次のようになる。

「移動の目標」としての解釈の可能性： 強 ←————→ 弱

サの使用の許容度： 強 ←————→ 弱

### 【場所の意のヲ格】

もうひとつ注目したいのは、ヲ格に「場所」の意味があることである。例えば、共通語で、

穴オ掘る。

たとえば、このヲ格の意味役割は「対象」であるが、

ここオ掘る。

橋オ渡る。

バスオ降りる。

と言うときのヲ格の意味役割は「場所」であり、より詳しくは、それぞれ「めあての場所」「過ぎる場所」「離れる場所」ということになる。これらの「場所」の意味でサが使用されないか調査してみるのも興味深い。先に述べたように、サの使用地域では「存在の場所」の意味が発達している地域があるが、それらの地域で、こうしたさまざまな「場所」の用法も合わせて可能であるということになると、「移動性」「方向性」といった観点とは別に、「場所性」という観点からサの使用を理解する必要が出てくる。

### 3.8 他の品詞との関係を考える

→この部分の解説は、「B 項目」の「7. 他の品詞との関係を考える項目」に対応する。

ここで話題にしているのは格助詞のサであり、その主たる使用地域は東北方言である。しかし、全国を見渡すと、これと似た形式は九州方言でも使われている。その特徴を東北方言と比較する形でまとめれば次のようになる。

〔形態〕

東北方言：単純（サのみに統一）

九州方言：複雑（サイ、サン、サナー、サネ、サマーなど2拍以上の形態が豊富）

〔意味〕

東北方言：接尾辞的性質はもたず、完全に格助詞として機能している。その意味は広く、共通語のエの意味領域を越え、ニの意味領域と相当に重なる。

九州方言：格助詞的機能のほかに、「方向・方面」の意を添える接尾辞的機能も併せもつ。ただし、格助詞的機能は、「移動の目標」の表示を中心とする用法にほぼ限られている。

歴史的に見ると、東北方言のサは平安・鎌倉時代の中央語である「接尾辞サマ+格助詞ニ（ないしエ）」という形式に遡る。この接尾辞のサマは「方向・方面」の意を表していた。したがって、現在の九州方言に見られる形式は、歴史的中央語の面影を強く残し、

東北方言のサへと発展する初期的段階に位置するものと考えられる。

こうした歴史的な変化については「4. 発展」であらためて扱うが、いわゆる「文法化」による格助詞の成立を考えるには、サの歴史は格好の事例と言える。特定地点の格助詞の記述という静的な目的を離れ、複数地点の比較から格助詞の発生過程に論を及ぼすためには、原型から格助詞に至る段階を反映する方言も対象にする必要がある。むしろ、記述調査の調査地点を選定する場合、あらかじめ、歴史的な視点から重要と思われる地点を積極的に選んでおくのがよいであろう。

ところで、今、そのような地点の候補として九州方言を取り上げたが、九州方言の一部には格助詞化に向けた変化が進行しつつある地域も見られる。したがって、調査地点を適切に設定すれば、九州方言内部でサの類の格助詞化の段階を追うことができるかもしれない。また、九州方言に比べ、はるかに劣勢であるものの、八丈島など関東方言の一部にもそれと似たようなサの類が存在する。東北方言のサとの関係では、地域的に連続する関東方言のサの類の調査も重要である。

さて、格助詞サの前段階に位置するこれらの方言を調査するにあたっては、形態と意味の両面に注目する必要がある。格助詞の成立に至る過程では、形態変化と意味変化の並行性が想定されるからである。

まず、形態面では、当該方言が次の変化のどの段階に位置するか見極める必要がある。

原型		終点
サマ+ニ（・エ）	—————→	サ

サはサマとニ（・エ）とが形態上、融合を起こし、さらに末尾の摩擦によって成立したと考えられる。したがって、変化の極初期に対応する方言では、元の形（サマニ、サマエ）に近い形が観察されると予想される。逆に、変化の最終段階に近い方言ではほとんどサになりかかった形が現れるはずである。後者の場合、サーと長音化したり、サンと鼻音加わるなど微妙な発音になっているため、先入観でサと聞き誤ってしまう恐れがある。曖昧な発音は話者の内省を確認するなど注意が必要である。

次に、意味的な面では、接尾辞的機能、すなわちこの場合には「方向・方面」の意を調査地点のサの類がもつかがポイントになる。変化の初期段階ではこの機能が明瞭に認められ、変化の最終段階ではこの機能はほとんど現れてこないはずである。

原型		終点
「方向・方面」の意あり	—————→	「方向・方面」の意なし

「方向・方面」の意をその方言形式がもつか否かを調べるためには、さまざまな方法がありうるが、基本的には、

- A. 駅に行った。(目標)
- B. 駅の方に行った。(方向)

といった2つの調査文を対比的に提示し、サの類の現れ方を確認するという方法が考え

られる。当該方言のサの類が接尾辞的機能をもつならば、Bの調査文の「の方に」の部分全体がサの類に置き変わるはずである。反対にAの調査文では別の助詞が使われるであろう。ちなみに、宮崎県日南市方言では、

A. {駅ニ、ないし、えキ} 行った。

B. 駅サメ 行った。

となる(Aのえキは格助詞イが末尾に隠れている)。これが、サの類が接尾辞的機能をもたない方言だと、例えば、宮城県中新田町方言の場合、

A. 駅サ 行った。

B. 駅ノホーサ 行った。

のようになり、A・Bともにサが使用され、その区別はBで「方向」を表す形式「ノホー」が挿入されることでなされる。

サの類が接尾辞的機能を保持する方言では、日南市方言のように、A・Bの区別ははっきり現れるが、格助詞化を進めた方言では、それが曖昧になってくる。したがって、まさに手を換え品を換え、さまざまな方法でこの区別を確認していく必要がある。

例えば、上の方法とは逆に、調査者側であらかじめ得られたサの類を使って方言文を作り、それが限定的な目標を表すか、漠然とした方向の意味で使うか話者に確認するという方法がある(「B 項目」の「7.2 意味確認調査」)。あるいは、臨場感を出すために、実際の会話を想定した調査を工夫することも必要である(「B 項目」の「7.3 場面想定調査」)。また、接尾辞的機能をもつサの類は、「どっち」「あっち」「右」「北」など、方向を表す名詞と相性がよく、それらに付きやすいという性質がある。したがって、限定的な目標を表す名詞(駅、役場、浜など)にはサの類は付かないが、方向を表す名詞には付くということがわかれば、そのサの類にはもともと接尾辞的機能が含まれていた可能性がある(「B 項目」の「7.4 方向名詞による調査」)。

## 4 . 発展

### 4 . 1 通時論的記述研究

東北方言を中心に使用されるサを事例として、格助詞記述の着眼点や方法について述べてきた。記述そのものは共時的な作業であるが、各地の記述の結果を比較することによって通時的な考察が可能になってくる。これは、次の段階の課題である。しかし、ここでの方法がそうであるように、あらかじめ通時的な変化の見通しを立て、それに合わせて調査項目を設定するという方法がある。また、調査地点についても、変化の各段階を反映すると思われる方言を重点的に選ぶやり方もある。「通時論的記述研究」とでも名付くべきこのような方法は、歴史的な考察への発展を見越したものである。

## 4.2 格助詞の文法化

方言の格助詞を対象とした歴史的研究では、格助詞の成立や変容など「文法化」が課題のひとつとなるはずである。すなわち、当該の格助詞が名詞や間投助詞など他の品詞から転成し、成立する過程や、逆に、終助詞など別の形式に転成していく様子を視野に入れた研究が考えられる。

他の品詞 → 格助詞 → 他の品詞

全体を視野に入れる

例えば、サについては格助詞としての成立が問題になる。接尾辞と格助詞との複合形式であるサマ+ニ（・エ）が格助詞サに変質していく過程、あるいは、一旦成立した格助詞サがその機能を広げていく様子を明らかにしてみたい。

今、サの類の文法化を考えるために、次の4つの観点を用意した。

[一語化] 形態上、接尾辞と格助詞とが分離できず一語化しているか。

[短縮化] 形態が摩滅し一拍にまで至っているか。

[格助詞化] 接尾辞としての語彙の意味を放棄し格助詞化しているか。

[意味拡張] 格助詞として意味拡張を起こしているか。

これらの観点から、各地方言および歴史的中央語をのサの類を整理すれば、次のようになる。

	一語化	短縮化	格助詞化	意味拡張	「文法化」
中古・中世前期中央語	×	×	×	×	↓
現代九州方言および 関東西端部方言	○	△	×(△)	×	
その他の現代関東方言	○	○	○	×	
現代東北方言	○	○	○	○	

この場合、一語から二語への分割、形態の延長、格助詞から接尾辞への変質といった変化は理論的に認めがたい。したがって、基本的に×が減り○が増える方向での推移が考えられる。すなわち、文法化はこの表の上から下へと進行したのであり、表に挙げた歴史的中央語および各方言は、それぞれ文法化の各段階と対応しているという解釈になる。

もちろん、これは全国的な視野から変化の大筋を描いて見せたまでである。ひとくくりにした九州方言の内部でも文法化の程度に違いが予想される。東北方言にしても、格助詞としての発達に、度合いや方向の違いが認められることは先に述べたとおりである。このようなアウトラインをより詳細なものにしていくことは、今後の課題である。

## 5 . 参考文献

- 飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編（1982～1986）『講座方言学』1～10（国書刊行会）
- 井上史雄（1992）「社会言語学と方言文法」『日本語学』11-6 臨時増刊号『方言地図と文法』
- 内間直仁（1990）『沖縄言語と共同体－ウチ社会の意識とことば－』（社会評論社）
- 国立国語研究所（1989）『方言文法全国地図』1（大蔵省印刷局）
- 小林 隆（1995）「東北方言における格助詞「サ」の分布と歴史」『東北大学文学部研究年報』44
- 小林 隆（1998）『アンバランスな周圏分布の成立』文部省科学研究費成果報告書
- 佐々木冠（1998）「水海道方言の対格－有生対格と無生対格の統語論－」『日本語科学』4
- 仁田義雄（1992）「格表示のあり方をめぐって－東北方言との対照のもとに－」『日本語学』11-6 臨時増刊号『方言地図と文法』
- 日高水穂（1999）「ことばに関するアンケート調査」『秋田大学ことばの調査』
- 日高水穂（2000）「文法化の過程と地理的分布」『日本方言研究会第70会研究発表会発表原稿集』
- 福嶋秩子（1992）「新潟方言の格助詞「カラ」の用法をめぐって」『日本語学』11-6 臨時増刊号『方言地図と文法』

格助詞サについての解説は、小林隆（1995・1998）をもとに行った。詳しい参考文献はそちらに譲る。また、その後発表された日高水穂（1999）は、ここでの調査項目の作成にたいへん参考になった。日高氏からは、格助詞全般についても直接ご教示を得た。なお、小林隆（1998）は科研費の報告書であるため、手に入りにくいかもしれない。まだ在庫があるので、下記にご連絡いただければ差し上げることができる。

[kobataka@sal.tohoku.ac.jp](mailto:kobataka@sal.tohoku.ac.jp)

## B 項目

これは、東北方言などで使用される格助詞サの記述を事例として取り上げたものである。

### 1 . 形態を確認する項目

→解説は、「3. 1 形態を確認する項目」を参照のこと。( ) 内には調査項目設定に関わる諸条件をメモした (以下同じ)。

#### 1.1 名詞末尾の音韻環境による異形態

- 1.1.1 東京に行く。(有標：長母音)
- 1.1.2 大阪に行く。(無標)
- 1.1.3 上(うえ)に行く。(有標：連母音)
- 1.1.4 下(した)に行く。(無標)
- 1.1.5 公民館に行く。(有標：撥音)
- 1.1.6 郵便局に行く。(無標)
- 1.1.7 田に行く。(有標：1拍語)
- 1.1.8 畑に行く。(無標)

#### 1.2 動詞の活用型による異形態

- 1.2.1 花火を見に行く。(一段動詞、2拍)
- 1.2.2 ビデオを借りに行く。(一段動詞、3拍)
- 1.2.3 ゲートボールをしに行く。(サ変動詞)
- 1.2.4 勉強しに行く。(サ変動詞)
- 1.2.5 忘れ物を取りに行く。(ラ行五段動詞、2拍)
- 1.2.6 ダンスを踊りに行く。(ラ行五段動詞、3拍)
- 1.2.7 落語を聞きに行く。(ラ行以外の五段動詞、2拍)
- 1.2.8 応援を頼みに行く。(ラ行以外の五段動詞、3拍)

### 2 . 意味の概要を把握する項目

→解説は、「3. 2 意味の概要を把握する」を参照のこと。

- 2.1 東の方に行く。(移動の目標) GAJ19 図

- 2.2 東京に着く。(移動の帰着点一人の移動) GAJ20 図
- 2.3 本をここに置く。(移動の帰着点一事物の移動)
- 2.4 その本をおれに貸せ。(移動の帰着点一事物の移動 <授与の相手>) GAJ25 図
- 2.5 仕事に行く。(移動の目的一名詞接続) GAJ22 図
- 2.6 花火を見に行く。(移動の目的一動詞接続) GAJ21 図
- 2.7 庭に草が生える。(出現・発生の場所)
- 2.8 本はここにある。(存在の場所) GAJ24 図
- 2.9 おれの家は駅に近い。(状態の基準)
- 2.10 孫に窓を開けさせる。(使役の相手)
- 2.11 嫁に気を使う。(心的態度の相手)
- 2.12 今日の寒さにはまいる。(原因・理由)
- 2.13 兄弟は兄二人に姉一人だ。(並列・添加の対象)
- 2.14 息子は大工になる。(変化の結果) GAJ23 図
- 2.15 息子に手伝いに来てもらおう。(受身の相手-「~てもらおう」型) GAJ26 図
- 2.16 犬に追いかけられる。(受身の相手) GAJ27 図
- 2.17 毎朝6時に起きる。(時)

### 3. 変化の初期段階に位置する方言を調査する項目

#### ：「移動の目標」について

→解説は、「3. 4 変化の初期段階に位置する方言を調査する：「移動の目標」について」を参照のこと。

#### 3.1 目標地の具体性

- 3.1.1 東の方に行く。 ( 弱 )
- 3.1.2 関東に行く。 ( 具 )
- 3.1.3 東京に行く。 ( 体 )
- 3.1.4 浅草に行く。 ( 性 )
- 3.1.5 雷門に行く。 ( )
- 3.1.6 雷門の交番に行く。 ( 強 )

#### 3.2 複合語の述語

- 3.2.1 東京に行く。(単純語「行く」)
- 3.2.2 東京に行き着く。(複合語「行き着く」)
- 3.2.3 東京に着く。(単純語「着く」)

#### 4．変化の最先端に位置する方言を調査する項目(1)

：「変化の結果」について

→解説は、「3. 5 変化の最先端に位置する方言を調査する(1)：「変化の結果」について」を参照のこと。

- 4.1 窓口が、男の人から女の人に換わる。(A → B)
- 4.2 窓口が、男の人から女の人になる。(A → B)
- 4.3 窓口が、女の人に換わる。((A) → B)
- 4.4 窓口が、女の人になる。((A) → B)
- 4.5 午後から、雨が雪に変わる。(A → A')
- 4.6 午後から、雨が雪になる。(A → A')
- 4.7 午後から、雪に変わる。((A) → A')
- 4.8 午後から、雪になる。((A) → A')
- 4.9 今日は雪になる。((φ) → A)
- 4.10 6時になる。((φ) → A)
- 4.11 元気になる。((φ) → A)

#### 5．変化の最先端に位置する方言を調査する項目(2)

：「存在の場所」について

→解説は、「3. 6 変化の最先端に位置する方言を調査する(2)：「存在の場所」について」を参照のこと。

##### 5.1 存在主体の「移動性」

- 5.1.1 本はここにある。(移動能力なし／被移動性あり)
- 5.1.2 役場は駅前にある。(移動能力なし／被移動性なし)
- 5.1.3 車は家にある。(移動能力あり<間接的能力>)
- 5.1.4 おれは家にいる。(移動能力あり<直接的な能力>)
- 5.1.5 魚は海にいる。(移動能力あり<生物>)
- 5.1.6 魚は冷蔵庫にある。(移動能力なし<材料＝被移動性あり>)

##### 5.2 前提としての移動

- 5.2.1 おれはいつも家にいる。(一般的論として)
- 5.2.2 おれは今日は家にいる。(昨日は旅行に出ていたが、今日は家に帰ってきているという状況設定で)
- 5.2.3 本はいつもここにある。(一般的論として)

5.2.4 本は今はここにある。(さっきまで机の上にあったが、今はこちらに持ってきているという状況設定で)

### 5.3 存在の補助動詞

5.3.1 太郎は東京に行く。(移動の目標)

5.3.2 太郎は東京に行っている。(移動の目標＋存在の場所)

5.3.3 太郎は東京にいる。(存在の場所)

5.3.4 本はここに置く。(移動の帰着点)

5.3.5 本はここに置いてある。(移動の帰着点＋存在の場所)

5.3.6 本はここにある。(存在の場所)

## 6 . 他の格との関係に視野を広げる項目

→解説は、「3.7 他の格との関係に視野を広げる」を参照のこと。

### 6.1 移動の目標としてのヲ格

6.1.1 兎を追いかける。(「移動の目標」としての解釈が可能)

6.1.2 兎をつかまえる。(「移動の目標」としての解釈がやや可能)

6.1.3 兎を育てる。(「移動の目標」としての解釈が不可能)

6.1.4 後ろを向く。(「移動の目標」としての解釈が可能)

6.1.5 後ろを見る。(「移動の目標」としての解釈がやや可能)

6.1.6 頭の後ろをなでる。(「移動の目標」としての解釈が不可能)

### 6.2 場所の意のヲ格

6.2.1 穴を掘る。(対象)

6.2.2 ここを掘る。(めあての場所)

6.2.3 橋を渡る。(過ぎる場所)

6.2.4 バスを降りる。(離れる場所)

## 7 . 他の品詞との関係を考える項目

→解説は、「3.8 他の品詞との関係を考える」を参照のこと。

### 7.1 基本調査

7.1.1 A. 駅に行った。(目標)

7.1.2 B. 駅の方に行った。(方向)

7.1.3 A. 役場に行った。(目標)

7.1.4 B. 役場の方に行った。(方向)

7.1.5 A. 浜に行った。(目標)

7.1.6 B. 浜の方に行った。(方向)

## 7.2 意味確認調査

調査文 「駅 [当該地点のサの類を挿入] 行った。」

例：駅サメ 行った。

この文の意味は次のどちらか。

① 駅に行った。(目標)

② 駅の方に行った。(方向)

## 7.3 場面想定調査

次郎から太郎を見なかったかと聞かれて、「太郎なら、今、役場（の方）に行ったぞ」と答える場合、次の2つの状況を想定して回答してもらおう。

① 話者も太郎を見かけただけで、彼の行く先ははっきりしないが、ともかく役場の方に行ったことは明らかな場合。

→「太郎なら今役場の方に行ったぞ。」

② 話者は太郎に会い、彼の口から直接、これから役場に用事に行くところであることを聞かされた場合。

→「太郎なら今役場に行ったぞ。」

## 7.4 方向名詞による調査

7.4.1 どっちに行く。

7.4.2 あっちに行く。

7.4.3 右に行く。

7.4.4 北に行く。

## モダリティ

井上 優

## A 解説

## 1. モダリティとは

## 1.1. モダリティ概観

文（発話）の意味内容は、大きく分けて、1)「叙述の素材」としての客観的な意味内容と、2)「文の述べ方」に関わる主観的な意味内容という2つの部分からなる。前者は「命題内容」（言表事態）、後者は「モダリティ」（ムード、言表態度）と呼ばれる（「ムード」は、「ヴォイス」「アスペクト」「テンス」と並ぶ述語の形態に関わる概念として限定して用いられることもある）。

(1)の各文は、「行く」を命題内容として、それぞれ〈推量〉〈命令〉〈疑問〉〈丁寧〉というモダリティが加わったものである（以下、「↑」は上昇イントネーションを表す。また、「↑」をつけない場合は上昇イントネーションが加わらないものとする）。

- (1) a 行くだろう。 〈推量〉  
 b 行け (**ik-e**)。 〈命令〉  
 c 行くか↑? 〈疑問〉  
 c 行きます。 〈丁寧〉

日本語のモダリティ表現には、1) 述語の活用形、各種の述語付加形式（例2）、2) 文副詞（文副詞相当表現）（例3）、3) 感動詞（間投詞）・間投助詞（例4）、4) イントネーション（例5）、がある。以下に主なものをいくつかあげる。

- (2) a 行け (**ik-e**)、行きなさい、行って (くれ)、行ってください、行こう、行きましょう  
 [(述語・接辞・複合動詞の) 活用形]  
 b 行きそうだ、行きます、行きたい、行ってほしい、行かなければならぬ、行ってはいけぬ、行ってもよい、行けばいい、  
 [接辞（相当表現）、複合動詞]  
 c 行くだろう、行くらしい、行くようだ、行くかもしれぬ、行くにちがいない、行くはずだ、行くべきだ、行くのだ、行くわけだ、行くそうだ  
 [助動詞（相当表現）]  
 d 行くな、行くよ、行くね、行くか、行くよね、行くじゃないか  
 [終助詞（相当表現）]  
 e たぶん行くと思う、（相手に命令する場面で）行くことを命ずる（行くよう命ずる）  
 [遂行動詞表現]

- (3) a たぶん (おそらく) 行く, もしかしたら (ひょっとすると) 行くかもしれない, どうも (どうやら) 行くようだ, はたして (いったい) 行くんだろうか  
 b 幸い (幸いにも) うまくいった, 困ったことにうまくいかない  
 c 実は (実を言うと) 行くんです, 正直なところうまくいかない

[文副詞 (相当表現)]

- (4) a えーと, あのう, え?, あれ?, はあ, うーん, はい, いいえ [感動詞]  
 b 私はね, 今回の結果をね, たいへんうれしく…。 [間投助詞]  
 (5) 行く。(断定) 行く↑?(疑問) [イントネーション]

これ以外にも, ある形式の特定の用法が「ムード的な用法」(モーダルな用法)の名で呼ばれることもある。いわゆる「ムードのタ」(発見, 思い出しなど)がその代表である。

- (6) a あ, あった。[「発見」のタ]  
 b 確か井上さんでしたっけ。[「思い出し」のタ]

モダリティの分類については, いくつかの異なった見方がある。また, 用語等も研究者によって異なるが, 大まかには次のような分類が可能である (モダリティの概説としては森山・安達1996がある)。

- 1) 命題内容に対する話し手の判断のあり方を表すもの  
 (判断のモダリティ, 対事的モダリティ, 命題めあてのモダリティ)
  - a 真偽判断のモダリティ (認識的モダリティ)
    - ・確言 (～φ)
    - ・推量 (だろう, まい)
    - ・蓋然性判断 (かもしれない, にちがいない)
    - ・証拠性判断 (らしい, ようだ, (～し) そうだ)
    - ・当然性判断 (はずだ)
    - ・伝聞 ((～する) そうだ)
    - ・説明 (のだ, わけだ)
  - b 価値判断のモダリティ (当為評価のモダリティ)
    - ・適当 (べきだ, ほうがよい, (～すれ) ばよい, 等)
    - ・必要 ((～し) なければならない, (～せ) ざるをえない, 等)
    - ・容認・非容認 ((～し) てもいい, (～し) てはいけない, 等)
- 2) 聞き手に対する発話態度・伝達態度を表すもの  
 (発話・伝達のモダリティ, 対人的モダリティ, 聞き手めあてのモダリティ)
  - a 述べ立て
  - b 表出 (意志, 願望)
  - c 働きかけ (命令, 依頼, 禁止, 勧誘)
  - d 疑問・問いかけ・確認
  - e 強調 など

以下, 2点補足を加える。

1) 終助詞、感動詞については、「はい、大丈夫ですよ」「あのう」のような、聞き手に対する働きかけを表すものは典型的な発話・伝達のモダリティの表現だが、「あれ？ 変だぞ↑」「えーと、困ったなあ」のように独り言でも使えるものも、「話し手の心の動きを直接表す」表現として、発話・伝達のモダリティに準ずるものとして扱うのが穏当である。

2) 「(～し) てはいけない」「～のだ」のように、基本的には判断のモダリティの表現であるが、文脈によって発話・伝達のモダリティの表現としての性格を帯びるケースもある。

- (7) a ここでタバコを吸ってはいけない。 〈禁止〉  
 b ほら、早く行くんだ！ 〈命令〉

## 1.2. モダリティ研究のタイプ

モダリティに関する研究には、大きく分けて三つのタイプがある。

第一のタイプは、

- ・モダリティの体系の全体像を描き出す。

という研究である。そのような研究の代表としては、仁田(1991)、益岡(1991)、森山(2000)があげられる。

第二のタイプは、

- ・当該のモダリティ形式の基本的な意味を抽出するとともに、そこから具体的な用法が派生されていくさまを記述する。

という研究である。これは、一つの形式が複数のモダリティを表しうることに注目したものである。

例えば、「～(よ)う」は〈意志〉〈申し出〉〈勧誘〉の三つのモダリティを表しうる。

- (8) a [ひとりごとで] 明日も朝早いし、もう寝よう (つと)。 〈意志〉  
 b [聞き手に対して] 私が荷物をお持ちしましょう。 〈申し出〉  
 c [聞き手に対して] 今度ビールでも飲みに行きましょう (よ)。〈勧誘〉

「だろう」も〈推量〉と〈確認要求〉の二つを表しうる。

- (9) a 今度こそ成功するだろう。 〈概言的推量〉  
 b 君はまだ学生だろう↑？ 〈確認要求〉

「ね」も「確認要求」を表す場合と「同意要求」を表す場合とがある。

- (10) a 今度こそは大丈夫ですね↑？ 〈確認要求〉  
 b 今日はいい天気ですねえ。 〈同意要求〉

これらは、当該形式がある基本的な意味——「述語+φ」は〈確言(断言)〉、「～だろう」は〈判断形成〉、「～(よ)う」は〈意向形成〉——を有し、それが場面やイントネーションによって、より具体的な用法として具現化されるということである。このタイプの研究では、「どのような基本的な意味が、どのような条件のもとで具体的な意味用法として具現化されるか」が問題にされる。

このタイプの研究の手本というべき研究に、「のだ」に関する田野村(1990)がある。

第三のタイプは、

- ・複数形式の特定の用法を〈確認要求〉〈意志〉といったカテゴリーにまとめ、その中の各形式の使い分けを記述する。

というタイプである。これは、複数の形式のある用法が一つの意味カテゴリーとしてまとめられるということに注目したものである。

例えば、「君はまだ学生だろう↑？」(=9b)の「だろう↑」と「今度こそは大丈夫ですね↑？」(=10a)の「ね↑」は、ともに〈確認要求〉の表現と呼ぶことができるものである。また、「～(よ)う」は〈意志〉の用法を持つが、他にも〈意志〉の表現として「～つもりだ」「～ことにする」などをあげることができる。

- (11) a 私はしばらく休むつもりだ。  
b 私はしばらく休むことにする。

このタイプの研究では、このような「確認要求表現」「意志表現」といった枠において、そこに含まれる形式がどのように役割分担をしているか——「確認要求表現」や意志表現がどのような体系をなしているか——が問題にされる。

宮島・仁田編(1995)には、このようなタイプの研究が集められている。

## 2. 日本方言のモダリティ 富山県井波町方言の場合

「モダリティ」という枠の中で考えることができる表現は多岐にわたり、「全国方言のモダリティに関する現象全般」を総論的に概観することは、筆者の現在の能力を超える作業である。そこで、以下では、富山県井波町方言のモダリティのうち、標準語との比較で問題になりそうな部分について少しばかり記述をおこなう。

(全国の方言を視野に入れた組織的な調査のための「B. 項目」を提示することも、現段階では困難である。それを補うべく、第2節、第4節では、できるだけ具体例をあげながら記述をおこなうことにする。)

方言のモダリティについては、「標準語に同じ(または類似の)機能を持つものが見出せる」場合と、「標準語に類似の機能を持つものが見出せない」場合とがある。井波町方言のモダリティ表現の多くは前者に属する。とりわけ、判断のモダリティについては、井波町方言に特徴的に見られる現象といえるようなものは見出しにくい。他の方言では、証拠性(evidentiality)と関連づけて説明される東北諸方言の「ケ」(渋谷1999b, 長澤1999, 竹田2001), 種子島方言の「ケル」(小林1999)など)のように、標準語に類似の機能を持つものが見あたらないものもあるが、井波町方言ではそのような表現はない。

その中で、標準語の「のだ」の直訳である「ガヤ」(「ガ」は形式名詞, 「ヤ」は判定詞)が「のだ」の用法の一部しかカバーせず, (11)(12甲)のような「実情告白」や, (13)「何言ってるんだ」のような詰問の場合は「ガイ」(「イ」は終助詞)になるというのは、興味深い現象である(井上1998b参照)。

- (12) 甲：ちょっと寄ってかない？  
          チョココ 寄ッテカンケ？  
乙：(「申し訳ないんだけど、実は」という口調で)  
          それが(実は)今日は寄ってられないんだ。[実情告白]  
          ソング, (実は)今日 ナン 寄ッtrenガイ (??寄ッtrenガヤ)。  
(13) 甲：私, 井上さんって, まだ会ったことないんだ。[実情告白]

オラ、井上サンチャ マダ オータコト ナイガイ (??ナイガイ)。

乙：あ、そうんだ。会ったことないんだ。[実情把握]

ア、ソナガイ。オータコト ナイガイ。

(14) (「なんであれをすてた?」と聞かれ)

何言ってるんだ。[詰問] あなたがすてろと言ったんだ。[実情再確認]

何 ユートルガイ (??ユートルガイ)。アンタガ 捨テ ユータガイ。

(15) あの人、一体全体、何を言っているんだ? [通常の問いかけ]

アノ人、一体全体、何ユートルガイ?

発話・伝達のモダリティについても、「言い切り形+ナイカ」(言い切り形+じゃないか)、「意向形+マイカ」(意向形+じゃないか)のように、形態的には標準語と違ってても、意味的には標準語に対応する表現が見出せることが多い。(ただし、細部では、「じゃないか」は「やればできるじゃない」のように「か」が省略できるが、「ナイカ」は「ヤレバデキルナイ」のような「カ」の省略はできないということはあつたりする。)

(16) a ヤリヤ、デキルナイカ。(やれば、できるじゃないか。)

b ハヨ 行コマイカ。(早く行こうじゃないか。)

個別的には、いくつか興味深い現象がある。

1) 井波町方言では、命令形以外に意向形が「言い聞かせ」「指導」のニュアンスの命令表現として用いられる(意向形の命令用法)。

(17) a ハヨ 行ケ。 [命令形]

b ハヨ 行コ。 [意向形の命令用法]

標準語の「早く行こう」は、相手を説得する場面では用いられるが、命令としては用いられない。しかし、井波町方言の意向形の命令用法も、「言い聞かせ」的なニュアンスを有する点では、意向形の意味の延長線上にあるものと考えることができる。

2) 井波町方言では、真偽疑問文では「カ」「ケ」(「ケ」は標準語の「かい」に相当し、意向形や推量形にはつかない)の二つの終助詞が使用可能だが、疑問詞疑問文は、述語が意向形や推量形の場合を除き、基本的に「ケ」だけが使用可能である。

(18) アンタモ 行クガカ? (行クガケ?) (あなたも行くのか?)

(19) a アンタ 何 シトルガケ (??シトルガカ)? (あなた、何してるの?)

b 時間マデ 何 シトロカ (\*シトロケ)? (時間まで何してようか。)

c アノ人、今ゴロ 何 シトロカ (\*シトロケ)?

(あの人、今ごろ何をしているだろうか。)

真偽疑問文と疑問詞疑問文とで用いられる終助詞が異なるということは、いくつかの方言について報告されていることである(沢木1984など)。ただし、標準語でも、「(あなたは)何をしているのか」のような、述語の非丁寧形に「か」がついた形は、「(あなたは) 何をしているのか、私にはわからない」のような間接疑問文としては自然だが、独立の質問文としてはいささか不自然である(独立の質問文として自然なのは、「何してる?」のような「か」のない形、あるいは「何をしていますか?」のような「丁寧形+か」の形である)。(19a)の現象もこれに類する現象である可能性がある。

ただし、「相手の身になって『どうしようか?』と考えながら、相手の意向を問いかける」というニュアンスで疑問詞疑問文を発する場合は、疑問詞疑問文でも「カ」が使える。意

向形を含む疑問詞疑問文の場合に「カ」が用いられることと関係しているのかもしれないが、興味深い現象である。

(20) アンタ、何 食ベッカ? (あなたは何を食べようか)

3) 特徴的な感動詞に「ナン」(ナーン)がある。標準語の「いいえ」「いや」「全然(～ない)」に相当する意味を表し、文頭、文中を問わず、頻繁に使用される。

(21) 甲：アンタ、行カッシャル? (あなた、行かれる?)

乙：ナン、行カン。(いや、行かない。)

(22) ナン ウマイコトイカン。(全然うまくいかない。)

(23) ソンガ ナン アンタ、マダ 帰ッテコンガヤゼ。

(それが、いや、あなた、まだ帰ってこないんですよ。)

方言における発話・伝達のモダリティで特徴的なのは、何と言っても終助詞(文末詞)である。以下、井波町方言でよく用いられる終助詞相当表現について概観する(以下の記述は井上1998aにもとづく)。

#### 1) 命令形につく終助詞

動詞の命令形につく終助詞には「ヤ」「マ」「カ」がある。

「命令形+ヤ」は、標準語の「命令形+よ↑」と同様、「念押し」を含んだ命令を表す。また、「命令形+マ」は、標準語の「命令形+よ(非上昇)」と同様、「話し手の意向に反する状況がある」として相手にその修正を求める「状況修正要求」の命令である。

(24) (相手に念をおすように)

昨日 遅カッタサカイ、今日ハ ハヨ ネーヤ↑ (ネーヤ)。

(昨日は遅かったから、今日は早く寝ろよ↑。)

(25) (自分を置いてさっさと行こうとする相手に)

オイ、チョッコ 待ッマ (待ッマ↑)。

(おい、ちょっと待ってろよ。)

「ヤ」「マ」は上昇・非上昇いずれも可能である。上昇か非上昇かで多少ニュアンスは異なるが、「命令形+ヤ」が「念押し」を含んだ命令、「命令形+マ」が「状況修正要求」の命令文であることには変わりはない。

標準語の「命令形+よ(非上昇)」は、聞き手に対する軽い懇願や説得の気持ちを含んだ命令として使われることがある。「このように指示することは聞き手の意向にそわないことかもしれないが」という気持ちで命令していることを「よ(非上昇)」で表すわけだが、これも井波町方言では「マ」で表される。

(26) 空イタ席 アルカドウカ、チョッコ 見テキテマ。

(空いた席があるかどうかちょっと見てきてよ。)

(27) ソンナ ケチナコト 言ワント、チョッコ 見シテマ。

(そんなケチなこと言わないで、ちょっと見せてよ。)

「命令形+カ」が表すのは「許容・放任的な命令」である。「～しなければならない」と相手に行為を強制するのではなく、「～すればよい」と相手の行為を許容・放任することによって相手に行為をさせるわけである。

(28) チョッコ 休メカ。(ちょっと休め。)

実際、相手に行為を強制する文脈では「命令形+カ」は使えない。

(29) (なかなか寝ようとしない子供に)

a コラ, ハヨ ネー。(こら, 早く寝ろ!)

b \*コラ, ハヨ ネーカ。

「命令形+カ」が許容・放任的な命令を表すというのは、ちょうど標準語で、「行きたければ行け」「好きなようにしろ」のような命令文が許容・放任的な命令を表すのと同じことである。砺波方言には「許容・放任的な命令」を表す専用形式があるわけである。

## 2) 「チャ」

続いて、平叙文で用いられる終助詞について見ていく。

まず、「チャ」は「これは既定の事項である」という気持ちを表す(標準語では「よ」が最も近い。)そこから、「これはあらためて考える(言われる)までもないことだ」、「これ以外の選択肢は考えられない(考える必要はない)」といったニュアンスが生ずる。

(30) ソリヤ ソーヤチャ。(そりゃそうだよ(考えるまでもない))

(31) (「この豆腐古いけど大丈夫?」と聞かれ、豆腐の状態を見もせずに「大丈夫」と決めつけて)

ナン ドモナイチャ。(大丈夫だよ(余計な心配をするな))

(32) (聞き手を励ますように)

アンタナラ ドモナイチャ。

(あなたなら大丈夫だよ(心配する気持ちはわかるがそんな必要はない))

(33) 頼ンチャ。(嘆願)(頼むよ(頼むというしかない))

既定の実情を告白する際に「チャ」が用いられることも多い。

(34) オラ アンマ 寝トランガイチャ。(「実は」私, あんまり寝てないんだよ)

その場で決めたことを述べる文で「チャ」を用いた場合も、「これ以外の選択肢を考える余地はない(考える必要はない)」という気持ちが表される。

(35) (「行くしかない」と観念して)

ワカッタチャ。行クチャ。行キヤ イーガヤロ。

(わかったよ。行くよ。行けばいいんだろう)

(36) (「これで大丈夫なはずだ」という気持ちで)

ナラ, オラ 先 行ッテ マットツチャ。

(じゃ, ぼくは先に行って待ってるよ(これ以外の選択肢は考えなくてよい))

「チャ」を長くのばして発音した「チャー↑」は、すでに定まっている自分の意向をあらためて聞き手に念押ししたり(例37, 38), 「いやあ, (何度考えてみても) 本当に…だねえ」という感嘆の気持ちを表したりする(例39)。後者の場合, 「何度考えてみても, この思いはかわらない」というあたりが「話し手にとっての既定事項」ということと結びつくのかもしれない。

(37) オラ, サキ 行ットルチャー↑。(私, 先に行っているよ↑。)

(38) 頼ンチャー↑。(頼むよ↑。)

(39) (お互いに「いやあ, 本当に久しぶりだ」という気持ちで)

甲：アンタ，ホンマ 久シブリヤチャー↑。(あなた，本当に久しぶりだねえ。)

乙：ホンマヤチャー↑。(本当だよねえ。)

3) 「ワ」「ジャ」

「ワ」「ジャ」は「これは個人的な認識である」という気持ちを表す。(標準語では「よ」が最も近い。)  
「ワ」は単に「自分が見る(知る)かぎりではこうだ」というだけだが(井上1995c)，  
「ジャ」は「見たら(考えたら)正しくはこうだ(そういわざるをえない)」と話し手個人の認識の更新が誘発されたことを表す。

「自分が見る(知る，考える)かぎりではこうだ」という形で述べにくい事実には，「ワ」「ジャ」は使いにくい。

(40) (自分の出身地を聞かれて)

a 井波ヤ。(井波だ)

b ??井波ヤワ。 / ??井波ヤジャ。(井波だよ)

「ワ」「ジャ」が自然なのは，その場の個人的判断を述べる，あるいは個人的な記憶の範囲内で述べる場合である。

(41) («これ誰の?」と聞かれて)

a タブン オラノガヤワ。

((私が見るかぎりでは) たぶん私のだよ)

b ア，ヨー 見タラ オラノガヤジャ。

(あ，よく見たら(意外にも)私のだよ)

(42) («この豆腐古いけど大丈夫?」と聞かれ，豆腐の状態を見たところ「大丈夫」という感触を得た)

a ナン ドモナイワ。

((私が見るかぎりでは) 大丈夫だよ)

b ナン ドモナイジャ。

((いたんでいるかとも思ったが，見てみたら思いのほか) 大丈夫だよ)

(43) (会議の開始時刻を聞かれて)

a 確か 三時ヤワ。

((私の記憶では) 確か三時だよ)

b 確か 三時ヤジャ。

((特に明確に意識していなかったが，あらためて思い出してみると) 確か三時だよ)

(44) (聞き手の背中に何かついているのが見えた)

a アンタ 背中ニ ナンカ ツイトルワ。

(あなた，背中に何かついているよ(自分にはそう見える))

b アンタ 背中ニ ナンカ ツイトルジャ。

((今まで気づかなかったが，よく見たら) あなた，背中に何かついているよ)

「ガヤ」(のだ)に「ワ」「ジャ」がついた場合も，実情に関する個人的解釈を述べる文になり，実情を告白する文にはならない。

(45) (人がねむそうにしているのを見て)

a アノ人, アンマ 寝トランガヤワ。

((自分が見るかぎりではきっと) あの人あまり寝てないんだよ))

b アンマ 寝トランガヤジャ。

((最初は特に明確に意識しなかったが, あらためて見たところ, どうも) あの人, あまり寝てないんだよ)

#### 4) 「ゼ」

「ゼ」は、既成の知識とくいちがう現状に接して「あれ？ どういうこと？」ととまどいを感じていることを表す。「おかしいなあ」と困惑している場合もあれば、「おや、自分が思っていた（知っている）のと違う」と意外に感じているだけの場合もある。

(46) (さっきまでこの場にいた井上がいない)

甲：アレ？ 井上サン オツテナイゼ↑。

(あれ？ 井上さんがいらっしゃらないぞ↑)

乙：エ？ サッキマデ オツテヤッタガイゼ↑。

(え？ さっきまでいらしたんだよ↑)

(47) (聞き手が珍しく背広を着てきたのを見て)

アレ？ アンタ メズラシーゼ↑。(あれ？ あなた珍しいじゃない)

次の例でも、願望と実情とが一致せず困っているという気持ちが「ゼ↑」で表されている。

(48) (「困っているんですよ」という気持ちで)

最近 アツテ ナン 寝レンガイゼ↑。(最近暑くて全然寝られないんですよ↑)

(47)のように聞き手自身にかかわることがらについて述べる場合は「じゃないか」、それ以外の場合は「ぞ↑」などで「ゼ」に近い意味を表すことはできる。しかし、次のように話し手がとまどいや困惑を感じていない文脈では「ゼ」は使えない。

(49) (料理ができあがった)

ヨシ, デキタゾ↑ (??デキタゼ↑)。 (よし, できたぞ↑)

(50) (灰皿が見つからないと騒ぐ夫に)

ホラ, ソコニ アルナイケ (??アルゼ↑)。 (ほら, そこにあるじゃない)

「デキタゼ↑」「アルゼ↑」が自然なのは、「あれ？ できないと思ったらできた（どうして?）」、「おや？ ないと思ったらある（どういうこと?）」という場合である。

### 3. 研究の現状

(他の項目では「研究の現状」は4.であるが、モダリティ研究の現状を考慮して、ここでは3.として述べることにする。)

モダリティは、日本語文法研究において古くから研究がおこなわれている分野である。特に終助詞については、藤原(1982, 1985, 1986)のような大著もある。ただ、研究の関心は主に「当該方言にどのような終助詞があるか」を把握する、あるいは終助詞の社会言語学的特徴をとらえることに置かれることが多く、「表現の形式と意味の相関を精密かつ組織的に記述する」(益岡1991:序章)という意味での記述研究にはそれほど強い関心が向けら

れていたとはいえない。また、意味記述もどちらかといえば個別的・主観的な方向に傾くきらいがあり、方言研究の側から一般言語学的に意味のある概念や枠組みが明示的に提出されるといふこともあまりなかった。

しかし、近年、終助詞の意味分析をはじめとする、方言モダリティの体系的な研究がすすみつつある。特に、大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室が発行している『阪大社会言語学研究ノート』には、そのようなタイプの研究が精力的に発表されている。

また、先に述べた、古典語の「けり」に由来すると見られる諸形式（東北諸方言の「ケ」、種子島方言の「ケル」など）については、一般言語学でいう証拠性（*evidentiality*）と関連させた研究が蓄積されつつある。また、確認要求表現（「ね」「だろう」「じゃないか」など）のように、標準語の記述文法研究において分析が進んでいる分野についても、その成果を方言の記述文法研究に応用する作業がすすめられている（渋谷2001など）。

そのような流れはあるものの、概して、方言のモダリティ研究においては、「標準語などを含む、より一般的な枠組みの中でとらえるべき部分」と「その方言個別の問題としてとらえるべき部分」の見極めがまだ十分になされているとはいえない。また、方言のモダリティ表現の文法的・意味的性質を記述するための道具立てもまだ貧弱であるといわざるをえない。

現段階ではまず、「標準語などを含む、より一般的な枠組みの中でとらえるべき部分」と「その方言個別の問題としてとらえるべき部分」を見極めるとともに、モダリティ表現の意味記述のための道具立てをより豊かなものにすべく、各地方言の終助詞の精細な分析を積み重ねることが必要である。

#### 4. 調査（内省調査）の着眼点

上のような現状認識にもとづき、終助詞（文末詞）を例にしながら、日本語方言のモダリティについて調査・分析をおこなう際の基本方略、ならびに調査・分析の着眼点について述べる（以下の記述は井上2001にもとづく）。（以下の記述の基本的な部分は終助詞以外についてもあてはまる。また、以下の記述は分析者自身の内省調査を念頭においているが、基本的な部分はインフォーマント調査の場合にもあてはまる。）

##### 4.1. 調査・分析の基本方略

まず、終助詞を例として、方言のモダリティの調査・分析をおこなう際の基本方略について述べる

方言終助詞の記述研究をおこなう際にまず重要なのは、

**分析しやすいもの(母語話者として内省しやすいもの)から順次分析をおこなう。**

ということである。文法記述において最も重要なのは「体系性をとらえる」ことであり、それゆえ、文法研究においては研究の様々な局面で「全体への目配り」が重視される。しかし、実際に「全体への目配り」ができるようになるのは、記述の量的・質的な蓄積がある程度進んでからのことである（ヴォイスやテンス・アスペクトについては体系的な研究が進んでいるが、それは、研究の量的・質的な蓄積を通じて、現象の基本的な部分がかなりの程度明らかになっているからである）。今の段階ではとりあえず、使用頻度が高く、母語話者にとって内省しやすいものから順次分析をおこなうのが得策である。

方言終助詞の記述研究において次に重要なことは、

**既存の分析（特に標準語の分析）が応用できるところは、できるだけ既存の分析を応用する。**

ということである。「終助詞の意味記述のための道具立てをより豊かなものにする」ためには、むやみに新しい道具立てをつくりだすのではなく、既存の分析の有効性をいろいろな形でチェックし、既存の分析が応用できない部分を見極めた上で、新しい道具立てをつくるのが肝要である。

②にはもう一つ重要な意味がある。それは、既存の分析—特に標準語の分析—を応用することで、当該方言の非母語話者にも終助詞の意味がある程度具体的に理解できるということである。終助詞の意味分析とは、つまるところ終助詞に関する母語話者の直観を説明することである。母語話者と非母語話者とで近似値的であれ語感が共有できれば、終助詞の意味に関する議論もより開かれたものになる。このことは、終助詞の意味を記述する一般的な枠組みを整備する上でたいへん重要なことである。

これに関連して次のことも重要である。

**現時点では、終助詞の基本的な意味は大まかな形で記述し、その分、終助詞の意味を考える手がかりとなる情報をできるだけ多く記述する。**

先に述べたように、現時点における終助詞の意味記述のための道具立ては終助詞の意味を過不足なく記述できるものにはなっていない。今後、方言間の比較対照などの作業を通じて、終助詞の意味記述の道具立てをより洗練されたものにする必要がある。その際に重要なのはやはりデータである。終助詞の文法的性質、使用可能な文脈、使用によって生ずるニュアンスなど、第三者が終助詞の意味について考える手がかりをできるだけ多く記述しておくことが重要である。

#### 4.2. 記述のポイント（その1）終助詞の文法的性質

次に、方言終助詞の記述研究における記述のポイントについて述べる（以下、標準語形はひらがな、方言形はカタカナで表記する。便宜上、問題となる部分のみ方言形を示すことがある）。

##### 1) 終助詞の文法的性質(1)—使用可能な文タイプ—

終助詞には、平叙文、命令文、疑問文など様々なタイプの文で使える汎用性の高いものと、文タイプが特化された汎用性の低いものがある。標準語でいえば、「よ」は前者、「ぞ」「わ」は後者の例である。

- (51) a 誰かいる {よ/ぞ/わ}。[平叙文]  
 b 少し休もう {よ/\*ぞ/\*わ}。[勧誘文]  
 c ちゃんと休め {よ/\*ぞ/\*わ}。[命令文]  
 d どうするんだ {よ/\*ぞ/\*わ}。[疑問文]

方言においても、「命題内容や発話行為等を聞き手におしつける」ことを表す山形市方言の「ズ」(渋谷2000)、「話し手の思いと反することがらである」ことを表す「ハ」(渋谷1999a)などは汎用性の高い終助詞である。

- (52) a 明日雨だズ、さっきも言っただろう。[平叙文]

- b だから、さっきから言ってるだろう、相談に行クべズ。[勧誘文]  
 c とにかく行けズ。絶対そのほうがいい。[命令文]  
 d 明日雨降るかズ。／いつ言ったズ。[疑問文]  
 (53) a ありゃ、いつの間にか桜散ッタハー。[平叙文]  
 b 今日は買い物に行けないから、あるものでケーハー（食べよう）。[勧誘文]  
 c そろそろ行ゲハー。[命令文]  
 d そっち雪降ッタガハー。[疑問文]

富山県砺波方言（筆者の母方言）の終助詞は、文タイプが特化されていることが多い。例えば、「話し手にとって既定事項である」ことを表す「チャ」、「この場で想起された個人的見解である」ことを表す「ワ」、「既成知識と現実とのギャップにとまどいを感じている」ことを表す「ゼ」は、平叙文専用の終助詞である（井上1995a, 1995b）。（以下、「↑」は文末で上昇すること、「」は文末で上昇しないことを表す。）

- (54) a そんなに心配しなくても、絶対に誰かオルチャ（いるよ）。（そうに決まっている。）  
 b まあ、おそらく誰かオルワ（いるよ）。（この場ではそう思う。）  
 c あれ、あんなところに誰かオルゼ↑（だれかいるぞ↑）。（どうということ？）  
 (55) a 少し休モ {\*チャ/\*ワ/\*ゼ}。[勧誘文]  
 b ちゃんと休メ {\*チャ/\*ワ/\*ゼ}。[命令文]

また、念押し的な命令を表す「ヤ」、話し手の意向に反する状況の修正要求を表す「マ」は、命令形にのみつく終助詞である（井上1995b）。

- (56) a ちゃんと休メヤ↑。（ちゃんと休めよ↑）  
 b ちゃんと休メマ。（ちゃんと休めよ）  
 (57) a 誰かオル {\*ヤ/\*マ}。[平叙文]  
 b 少し休モ {\*ヤ/\*マ}。[勧誘文]

平叙文につく終助詞には、テンスの対立のある形式にのみつくものも少なくない。例えば、砺波方言の「チャ」「ワ」「ゼ」は「ヤロー」（だろう）にはつかない（標準語でも「ぞ」「わ」は「だろう」につかない）。

- (58) a 誰かオルラシー {チャ/ワ/ゼ}。  
 b 誰かオルカモシレン {チャ/ワ/ゼ}。  
 c 誰かオルヤロー {\*チャ/\*ワ/\*ゼ}。

判定詞「だ」（及びその相当形式）につくかどうか重要なポイントの一つである。例えば、標準語の「か」「さ」は「だ」にはつかない

- (59) a これは何か (\*これは何だか。)  
 b これは本さ (\*これは本ださ。)

井波町方言でも、疑問の「カ」「ケ」、強調の「イ」は判定詞「ヤ」にはつかない。

- (60) a コレ 何ノガケ (\*コレ 誰ノガヤケ。)(これ、誰の?)  
 b コレ、オラノガイ (\*コレ オラノガヤイ。)(これは私のだよ。)

## 2) 終助詞の文法的性質(2)―他の終助詞等との共起関係―

終助詞には、他の終助詞と共起可能なものとそうでないものがある。標準語でいえば、「よ」「ね」「わ」は前者、「ぞ」は後者の例である。

- (61) a 誰かいる {わよ／よね／わね／わよね}。  
b 誰かいる {\*わぞ／\*ぞね／\*ぞよ}。

また、終助詞の承接関係も厳密に決まっている。

- (62) a 誰かいる {わよ／よね／わね／わよね}。  
b 誰かいる {\*よわ／\*ねよ／\*ねわ／\*よねわ}。

砺波方言の場合、「チャ」「ワ」は「ネ」(ね)が後接しうるが、「ゼ」は他の終助詞とは共起しない。

- (63) a やってみないとワカランチャネ (わからないよね)。  
b やってみないとワカランワネ (わからないよね)。  
c \*誰かオルゼネ。

標準語でも砺波方言でも、「ね」「ネ」の後につく終助詞はない。しかし、山形市方言の「ハ」は「ネ」(ね)の後につきうる(渋谷1999a)。

- (64) いつの間にか蔵王に雪が降ったネハ。

「汎用性が高い(低い)」、「他の終助詞と共起可能(不可能)」、「より文末に近い(述語に近い)」ということの文法論的な意味については不明な点が多い。大まかな仮説としては、

- a 汎用性の高い／より文末に近い終助詞は「話し手の発話態度」に関する意味を表す。  
b 汎用性の低い／より述語に近い終助詞は「述べられる情報の性質」に関する意味を表す。

ということが考えられるが、この仮説にもとづいて終助詞の意味記述をおこなうことが妥当かどうかはなお検討を要する。終助詞の文法的性質が有する文法論的な意味について考えるためにも、各地方言の終助詞の文法的性質に関する記述を蓄積する必要がある。

## 4.3. 記述のポイント(その2) 大まかな意味のタイプ

先に述べたように、現時点における終助詞の意味記述のための道具立ては終助詞の意味を過不足なく記述できるものにはなっていない。そのことは例えば次のような形で現れる。

井上(1995b), 船木(1999), 坪内(1995)はそれぞれ独立に、富山県砺波方言の「チャ」、山口方言の「イネ」、博多方言の「タイ」の意味を次のように記述している。

- ・砺波方言の「チャ」は、当該の情報が「既定事項」、すなわち話し手の認識をこえて無条件に真であるとしてよい情報であることを表す。
- ・山口方言の「イネ」は、その命題内容が話し手にとっての既存の確定情報であることを示す。
- ・博多方言の「タイ」は、当該の情報が話し手にとって当然の(分かり切った)情報であることを示す。(坪内1995の記述を筆者なりに述べなおしたもの)

これらはいずれも「話し手にとっての既定事項の提示」という線での一般化である。また、それぞれの方言だけを見るかぎりには、これらの一般化は妥当なように見える。

しかし、「チャ〈砺波〉」、「イネ〈山口〉」、「タイ〈博多〉」は同じ意味を表すわけではない。例えば、「チャ〈砺波〉」は平叙文専用の終助詞であるが、「イネ〈山口〉」は命令文でも使える。

(65) 早く 食べーイネ〈山口〉／\*食べチャ〈砺波〉。(食べろよ)。

また、平叙文においても、「イネ〈山口〉」が「チャ〈砺波〉」に近い意味を表すとみられる場合とそうでない場合がある。

(66) A: あいつにあの仕事ができるかなあ。

B: あいつなら絶対 デキルイネ〈山口〉／デキッチャ〈砺波〉。(できるよ／できるさ) [断言・保証]

(67) A: 何回いわせるの。さっさとやりなさいよ。

B: うるさいな。いわれなくても ヤルイネ〈山口〉／ヤッチャ〈砺波〉。(やるよ)。 [非難・反発]

(68) あのツアー、おまえもちろん 行くイネ〈山口〉／\*行くチャ〈砺波〉。(行くよね)。 [確認要求]

「タイ〈博多〉」についても、「チャ〈砺波〉」に近い意味を表すとみられる場合とそうでない場合がある。

(69) (こう考えるしかないと相手をなだめる)

虫のいどころが 悪カッタタイ〈博多〉／悪カッタガヤチャ〈砺波〉。(虫のいどころが悪かったんだよ。) 我慢しな。

(70) (「とりあえず味がよいことは確かだ」として)

マー、味ハ悪ウナカタイ〈博多〉／ワルナイチャ〈砺波〉。(まあ、味は悪くないよ。)

(71) (忘れていたことを思い出して)

あ、ソータイ〈博多〉／\*ソーヤチャ〈砺波〉。(あ、そうだ)

お土産を 持ッテキトッタタイ〈博多〉／\*持ッテキトッタガヤチャ〈砺波〉。(お土産をもってきてたんだ。)

(72) (自分の推論に相手が賛同することを期待して)

へえ、そんなに忙しかったの。あ、ということは、タベ 寝トランタイ〈博多〉／\*寝トランガヤチャ〈砺波〉。(寝てないんだ。)

このことは、「話し手にとっての既定事項の提示」というだけでは、「チャ〈砺波〉」、「イネ〈山口〉」、「タイ〈博多〉」の意味は十分に記述できないことを示している。これらの終助詞の意味を過不足なく説明するためには、これらの終助詞の使われ方を詳細に比較対照する必要がある。

しかし、方言間の比較対照による詳細な意味分析の前段階として、暫定的に「話し手にとっての既定事項の提示」という大まかな意味のタイプをたてることは意義のあることである。これはちょうど、「確認要求表現」、「引用表現に由来する終助詞」(船木2000参照)のような大まかな枠をたてた上で、関連する複数の表現の使い分けを分析するのと同じことである。以下、標準語の分析が応用できないところで、そのような大まかな意味のタイプとしてたてられそうなものをいくつかあげる。(表現の比較対照が必要なことを示すため、置き換えが可能な例とそうでない例をあげておく。)

1) 「話し手にとっての既定事項の提示」(前述のとおり)

2) 「その場での認識の成立」

砺波方言の「ワ」(井上1995b)、博多方言の「バイ」(坪内1995)がこれに属するとみられる。

- ・ 砺波方言の「ワ」は、その場で想起された個人的認識を表す。
- ・ 博多方言の「バイ」は、当該の情報が現場の事物、その場の推論、既成知識の検索などによってその場で得られた情報であることを表す。(坪内1995の記述を筆者なりに述べなおしたもの)

(73) A: あの患者さん、瞳孔が小さくなる症状が出たんだって。

B: ああ、じゃあ、それは サリン中毒バイ〈博多〉/サリン中毒ヤワ〈砺波〉。  
(サリン中毒だよ)

(74) 何を言ってるの。あんたが 言イ出シタトバイ〈博多〉/\*言イ出シタガヤワ〈砺波〉。そもそも。(あんたが言い出したんだよ)

3) 「その場での認識の更新」

砺波方言の「ジャ」(井上1999)、山形市方言の「ハ」(渋谷1999a)などがあげられそうである。

- ・ 砺波方言の「ジャ」は、それまで～pと考えていた話し手がpという線で認識を更新する必要性を感じていることを表す。
- ・ 山形市方言の「ハ」は、その場で新たに認識したり得たりした動的事態に関する情報が、話し手自身のもっている(もっていた)期待・予測・情報などと一致しない情報であることをマークする。

(75) (予想外の事実にあて)

ありゃ、いつの間にか桜 散ッタハ〈山形〉/散ッタジャ〈砺波〉。(散ったよ)

(76) (命令することに抵抗を感じながら)

そろそろ行ゲハ〈山形〉/\*行ケジャ〈砺波〉。

4) 「既成知識と現実の間のずれに対するとまどい」

砺波方言の「ゼ」(井上1995a)がこれに属する。

・ 「ゼ」は「既成知識と現実との間のギャップにとまどいを感じている」ことを表す。金沢方言の「ジー」(北国新聞社編集局編1995)もこれに属すると見られる。

(77) (ふだんいいネクタイをしめない相手が、どういうわけかいいネクタイをしめている)

あれ、あなた、いいネクタイ シトルゼ↑〈砺波〉/シトルジー〈金沢〉。(いいネクタイしてるじゃない。)

終助詞の意味記述においては、まずはその終助詞が表す大まかな意味のタイプを把握することが肝要である。上記以外の意味のタイプもその過程で見出されることになる。そ

れはまた、他方言の類似の形式との比較対照を通じて終助詞の意味を詳細に分析する前段階の作業としてたいへん重要である。

#### 4.3. 記述のポイント(その3) 語用論的効果

方言終助詞の記述研究においては、終助詞の使用によって生ずるニュアンス(語用論的効果)を終助詞の意味のタイプと関連づけて記述することも重要である。つまり、発話が有する種々のニュアンスを整理した形でとらえるわけである。

例えば、「話し手にとっての既定事項の提示」を表すタイプの終助詞は、しばしば相手に対して何かを保証する発話で用いられる(例66)。「このことは既に真であることが決まっている」という形で述べるのが「余計なことを考える必要はない」という気持ちの暗示につながるのである。また、(67)では、「このことについては既に決着済みだ」ということを示すことで、「これ以上言わないでほしい」という気持ちが暗示されている。

坪内(1995)によれば、博多方言の「タイ」は「相手を突き放して、見放したような言い方」になることがある。これも「こんな分かりきっていることにあなたは気づいていない」という気持ちが暗示されるからである。

(78) ソゲナコトシタラ先生ニオコラレルタイ。知ーラン。(そんなことしたって先生に叱られるから。知ーらない。)(坪内1995)

「その場での認識の更新」を表すタイプの終助詞は、言いにくいことを述べる際によく用いられる。「本意ではないが認めざるをえない」という形で述べるのがそのような語用論的用途と結びつくわけである。

(79) (聞き手の「社会の窓」が開いているのに気づいて、少し言いにくそうに)  
アンタ、チャック、アイトルジャ(あなた、チャックがあいているよ)  
(井上1999)

次の例でも、「話し手の思いと反することがらである」という形で述べることで、「これはあくまで過失であって、意図的な行為ではない」という気持ちが暗示されている。

(80) A: あのお菓子、もうない?  
B: ごめん、全部クタケハ。(食べてしまったよ)(ケは回想)(渋谷1999a)

終助詞の意味のタイプとその語用論的効果との間にはかなり普遍的な相関関係があり、それは非母語話者にもある程度理解可能なものである。

(81) “要嗎?”(いる?)  
“不要。／不要了。”(いらぬ。)

中国語では、断りの際に「新しい状況の出現」を表す語気詞(終助詞)“了”がしばしば用いられる。(81)でも、“不要了”の方が“不要”よりも柔らかい返答になる。これも、「新しい状況の出現」を表す“了”を用いることによって、「どうするのがよいか検討した上でその場で結論を出した」ということが暗示されるからである(杉村2000)。

## 5. 発展

3. で述べたように、方言モダリティ研究においては、「標準語などを含む、より一般的な枠組みの中にとらえるべき部分」と「その方言個別の問題としてとらえるべき部分」の見極めがまだ十分になされているとはいえない。また、方言のモダリティ表現の文法的・意

味的性質を記述するための道具立てもまだ貧弱であるといわざるをえない。

現段階ではまず、「標準語などを含む、より一般的な枠組みの中でとらえるべき部分」と「その方言個別の問題としてとらえるべき部分」を見極めることが重要である。また、モダリティ表現の意味記述のための道具立てをより豊かなものにすべく、各地方言の終助詞の精細な分析を積み重ねることが必要である。

今後文献にあげた論文等を参考にしながら、より多くの研究者がモダリティ表現の分析をおこない、議論が広げられることが期待される。

## 6. 文献

- 井上 優(1995a)「富山県砺波方言の終助詞「ゼ」の意味分析」『言語学論集』4, 東北大学文学部言語学研究室
- 井上 優(1995b)「方言終助詞の意味分析－富山県砺波方言の「ヤ／マ」「チャ／ワ」－」『研究報告集』16, 国立国語研究所
- 井上 優(1998a)「方言の終助詞の意味－富山県礪波方言を例に－」『月刊言語』27巻7号, 大修館書店,
- 井上 優(1998b)「富山県砺波方言の終助詞「ジャ」の意味記述」, 国立国語研究所編『日本語科学』4, 国書刊行会
- 井上 優(2001)「方言終助詞の記述研究のために」『日本語学』21巻2号, 明治書院
- 小林 隆(1999)「種子島方言の終助詞「ケル」」『ことばの核と周縁－日本語と英語の間－』くろしお出版
- 沢木 幹栄(1984)「津軽方言における単純疑問と疑問詞疑問」『国立国語研究所報告79 研究報告集』5
- 渋谷 勝己(1999b)「山形市方言の文末詞ハ」『阪大社会言語学研究ノート』1, 大阪大学大学院文学研究科社会言語学研究室
- 渋谷 勝己(1999b)「文末詞「ケ」－三つの体系における対照研究－」『近代語研究』10, 武蔵野書院
- 渋谷 勝己(2000)「山形市方言における文末詞ズ」『阪大社会言語学研究ノート』2
- 渋谷 勝己(2001)「山形市方言における確認要求方言とその周辺」『阪大社会言語学研究ノート』3
- 杉村 博文(2000)「“了”の意味と用法」『中国語』2000年3月号, 内山書店
- 田野村 忠温(1990)『現代日本語の研究Ⅰ－「のだ」の意味と用法－』和泉書院
- 竹田 晃子(2001)「岩手県盛岡市方言における文末形式ケの用法」『国語学会2001年度秋季大会要旨集』
- 坪内 佐智世(1995)「福岡市博多方言の不変化詞タイ・バイの意味記述」『九大言語学研究室報告』16
- 長澤 亜希子(1999)「秋田方言の終助詞「ケ」について」, 日高水穂編「秋田大学ことばの調査」1
- 仁田 義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 仁田 義雄(2000)「認識的モダリティとその周辺」『日本語の文法3:モダリティ』岩波書店

- 藤原 与一(1982, 1985, 1986)『方言文末詞(文末助詞)の研究(上・中・下)』春陽堂書店
- 船木 礼子(1999)「山口方言の文末詞「イネ」について」『阪大社会言語学研究ノート』1
- 船木 礼子(2000)「引用表現形式に由来する文末詞の対照—山形市方言ズ, 山口方言チャ, 東京方言ッテ・ッテバについて—」『阪大社会言語学研究ノート』2
- 北國新聞社編集局編(1995)『頑張りまっし金沢ことば』北國新聞社(金沢)
- 益岡 隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 宮島達夫・仁田義雄編(1995)『日本語類義表現の文法(上):単文編』くろしお出版
- 森山 卓郎(2000)「基本叙法と選択関係としてのモダリティ」『日本語の文法3:モダリティ』岩波書店
- 森山卓郎・安達太郎(1996)『日本語文法セルフマスターシリーズ9:文の述べ方』くろしお出版

## 活用

大西拓一郎

## A 解説

## 1. 活用とは何か

語は語彙的な意味と文法的な意味の組み合わせにより運用される。これは品詞の異なりを問わず一般的な方法である。

このような運用を行う際に同じ語がさまざまな形態をとることがある。これを「語形変化」と呼ぶ(通時的・歴史的な「変化」ではない)。

語	否定	言い切り	命令
<書く>	書かない	書く	書け

語形変化のありかたは、語によって異なる。ゆえに語ごとにどのような語形変化を持つかを知らなければ、その語は使用できない。

語	否定	言い切り	過去	命令
<書く>	書かない	書く	書いた	書け
<読む>	読まない	読む	読んだ	読め
<見る>	見ない	見る	見た	見ろ

このような語形変化の総体が「活用」である。ここから、活用とは次のように定義される。

「語が文法的内容に応じて示す形態の総体」

語形変化は、限られた枠の中におさまる。文法的意味を表出するための枠と個々の語が所属する枠の組み合わせの中で語形変化は行われる。この有限の枠の中でかなりな数にのぼる語彙が運用されることで、大量の語形変化が実現する。

仮に意味表出の枠が 50、語彙の数が 2000 あったとすると、語形変化の数は 10 万になる。この数を多いと見るか少ないと見るかは判断が分かれようが、未整理なままの語形変化のデータは、一見する限り、カオス状態に見えるだろう。

活用の記述とは、このような語形変化の枠組みを抽出する作業にはかならない。同時に語形変化の枠組みは、方言により異なる。したがって、活用が記述されない限り、それぞれの方言における動詞や形容詞といった語の具体的運用は、本来はできない。

## 2. 日本方言の活用

語形変化は、動詞・形容詞・形容動詞において著しい。そのためこれらの品詞は「活用語」と呼ばれる。日本語において動詞・形容詞が語形変化を持たない方言はない。

それぞれの方言での活用のありかたは、中央語の歴史的形態と密接な結びつきを示す。

例えば、二段活用と呼ばれる語形変化の型が、近世前期までの中央語の動詞に存在していたことが知られるが、これらを引き継ぐ形が、九州各地や南近畿に残存することが知られる(GAJ2-61(国立国語研究所『方言文法全国地図』第2集 61 図, 以下この省略表示に従う), 2-64)。

また、現代共通語では失われたサ行五段動詞のイ音便(「出した」が出イタのように現れる現象)が中部以西の各地に見られ、これも中央の歴史的残存として知られている(GAJ2-92)。

一方で、中央の残存とは異なる個別の方言ごとの歴史的変化が見られることも多い。

顕著な例として知られるのはラ行五段化と呼ばれる現象である。「見る」「起きる」など共通語での一段系の動詞が、命令形で見レ・起キレのような形をとることが東北・九州を中心に見られたり(GAJ2-85, 2-86)、否定形で見ラン・起キランのような形が九州を中心に知られる(GAJ2-72, 2-74)。これらは、「売る」「取る」のようなラ行五段系の動詞に平行した形に変化したものである。

また、形容詞にあつては、歴史的に音便として発生し、そこに母音の融合が被さった形が高カッタ、高カッタのように語幹に取り込まれる現象が九州や東北で見られ(GAJ3-141)、中央語とは異なる方向への変化したことが知られている。

歴史的に見た場合、全国の活用は、中央の遺構と独自の変化として、おおまかな整理ができる。しかし、そのような整理の基盤になるのは、個々の地点での確実な記述である。それを実行するには中央との結びつきや成立の過程という観点をいったん排除して、その方言プロパーの記述が求められる。そうでなければ、歴史的に説明できない現象、中央との結びつきが明確ではない現象を見落とす危険性がある。変化の観点は、正確な記述を受けて発展・展開するものである。

## 3. 調査の着眼点—岩手県種市町平内方言の記述を例に

筆者自身が記述を行ったことのある岩手県種市町平内方言における動詞の活用(大西 1995a)を例にとりながらどのような手順で活用を記述するかを説明する。

### 3.1. 語形変化の要素

方言の活用の研究においては、語形変化のリストアップが求められる。そのようなリストの中で、語がとる諸種の形を「活用形」と呼ぶ。なお、活用形と言った場合、語形を指すこともあれば、枠組みを指すこともあるので注意しておきたい(cf. 3. 3.)。

それぞれの語の語形変化の中で変化しない部分を「語幹」と呼ぶ。一方、変化にあずかる部分を「語尾」と呼ぶ。

整理すると、活用形・語幹・語尾の関係は、次のようになる。

活用形 = 語幹 + 語尾

一般に、文法内容を表す具体的な形は、活用形単独で、もしくは活用形に助詞・助動詞等が付



活用

	否定(naR)	並行(na・ara)	言い切り	命令
書く	kaga	kagi	kagu	kage
飲む	noma	nomi	nomu	nome
食う	ka	kuR	kuR	keR
来る	ko	ki	kuru	koR
する	si	si	siru	seR
開ける	age	age	ageru	agero
教える	oseR	oseR	oseRru	oseRro
入る	haR	haR	haRru	haRre
買う	kaR	kaR	kaRru	kaRre
考える	kaN・aR	kaN・aR	kaN・aRru	kaN・aRre

今度は、横の列で比べて見ると各語ごとに共通している部分があることがわかる。例えば、「書く」であれば、4種類の形を通して、「kag」という部分が共通している。「開ける」ならば、「age」が共通している。このような部分を切り分けて、枠の外(左側)に出すことにする。この部分が「語幹」である。

	否定(naR)	並行(na・ara)	言い切り	命令
書く(kag)	a	i	u	e
飲む(nom)	a	i	u	e
食う(k)	a	uR	uR	eR
来る(k)	o	i	uru	oR
する(s)	i	i	iru	eR
開ける(age)	-	-	ru	ro
教える(oseR)	-	-	ru	ro
入る(haR)	-	-	ru	re
買う(kaR)	-	-	ru	re
考える(kaN・aR)	-	-	ru	re

このような手続きで枠の中に残った部分(「書く」であれば、「a, i, u, e」のような部分)が「語尾」である。手続きにより何もなくなってしまう欄には「-」を記入しているが、これは語尾が「無い」ことを示す。

ここまでで、語ごとの語形変化の違いがある程度見えて来た。

語どうしを比べて、語尾の分布に区別がある場合「/」で、区別がないと見られる場合「=」で示すと次のように示すことができる。

「書く」 = 「飲む」 / 「食う」 / 「来る」 / 「する」 /

「開ける」 = 「教える」 / 「入る」 = 「買う」 = 「考える」

さらに、上に記さなかった別の「助詞・助動詞等」との組み合わせを見てみよう。そうすると

## 活用

次のように、「開ける」と「教える」にも異なりがあることがわかる(Q=促音)。

	希望(taR)	推量(koQta)	禁止(na)
開ける(age)	Q	Q	N
教える(oseR)	-	-	-

また、「入る」「買う」「考える」も次のように使役形(「～させる」に相当)を見ると異なっていることがわかる。

	語幹	語尾	助動詞
入る……haRraseru(入らせる)	haR	ra	seru
買う……kaRseru(買わせる)	kaR	-	seru
考える…kaN・aRsaseru(考えさせる)	kaN・aR	-	saseru

### 3.3. 活用表の構築

以上のような作業を繰り返すことで、種市町平内方言の動詞の活用には、次の9種類の活用のタイプがあることが明らかになる。

- ①「書く」「読む」のタイプ
- ②「食う」のタイプ
- ③「来る」のタイプ
- ④「する」のタイプ
- ⑤「開ける」のタイプ
- ⑥「教える」のタイプ
- ⑦「入る」のタイプ
- ⑧「買う」のタイプ
- ⑨「考える」のタイプ

このうち、①～④は、語幹が子音で終ることから子音語幹動詞、⑤～⑨は語幹が母音で終わることから母音語幹動詞と呼ぶ。

そして、①から順に子音語幹1動詞…、⑤から順に母音語幹1動詞…、と番号を付けて分類する。

このような作業を重ねて、活用のタイプと語幹、語尾、助詞・助動詞等の組み合わせを一覧表に整理すると「活用表」ができあがる。ここでは種市町平内方言で得られた動詞の活用表の概略を示す(表の「おもな後続する助詞・助動詞…」の部分は「助詞・助動詞等」に同じと見てよい)。なお、詳細な活用表は大西(1995a)を参照のこと。

注意しておきたいのは、活用形は活用全体を通しての枠組みでもあることだ(cf. 3.1.)。特定の活用のタイプで複数の活用形にわたって同じ形を持っていても、別のタイプで異なる形を持っている場合は、枠組みとして活用形を区別することが必要である。

例えば、子音語幹1の「書く」は、活用形1・2・3を通して、語尾はaで区別がない。しかし、子音語幹3の「来る」の語尾は、活用形1=o・活用形2=i・活用形3=ura、で区別がある。そこで、これらの活用形は活用全体の中で区別して記述している。

活用表の中で「@」を付したものは、「交替語幹」と呼ぶものである。語幹は、多くの活用形を通して共時的に変化しない部分であるが、一部で一般の語幹に語尾を足しただけでは記述できない形が現れた場合に交替語幹として扱っている。いわゆる「音便」も含まれるが、それだけで

岩手県種市町平内方言の動詞の活用表(概要)

活用形番号	子音語幹動詞						母音語幹動詞					語幹 おもな後接する助動詞・助詞 ないは単独での意味・用法
	子音語幹1		子音語幹2	子音語幹3	子音語幹4	母音語幹1	母音語幹2	母音語幹3	母音語幹4	母音語幹5		
	書く	飲む	取る	食う	来る	する	開ける	教える	入る	買う	考える	
	kag	nom	tor	k	k	s	age	oseR	haR	kaR	kaNgaR	
1	a	a	@toN	a	o	i	-	-	-	-	-	naR(否定)
2	a	a	a	a	i	i	-	-	ra	-	-	saR(丁寧命令)
3	a	a	a	a	ura	a	ra	ra	ra	ra	ra	ba(仮定2)
4-1	a	a	a	a	ira	a	×	×	ra	-	×	seru(使役)
4-2	×	×	×	×	×	×	-	-	×	×	-	saseru(使役)
5	i	i	i	uR	i	i	-	-	-	-	-	nagara(並行)
6	**i	i	@toQ	uR	iQ	iQ	Q	-	-	-	-	taR(希望)
7	u	u	u	uR	uru	iru	ru	ru	ru	ru	ru	言い切り
8	u	u	@toQ	uR	uQ	iQ	Q	-	-	-	-	joRta(様態)
9a-1	u	u	×	uR	×	×	×	×	×	×	×	goQta(推量1)
9a-2	×	×	@toQ	×	uQ	iQ	Q	-	-	-	-	koQta(推量1)
9b-1	u	u	×	uR	×	×	×	×	×	×	×	zigi(～時:連体)
9b-2	×	×	@toQ	×	uQ	iQ	Q	-	-	-	-	cigi(～時:連体)
9c-1	u	@noN	×	uR	×	×	×	×	×	×	×	beR(推量2・意志)
9c-2	×	×	@toQ	×	uQ	iQ	Q	-	-	-	-	peR(推量2・意志)
10	u	u	@toN	uR	uN	iN	N	-	-	-	-	na(禁止)
11	e	e	e	eR	ure	e	re	re	re	re	re	ba(仮定1)
12	e	e	e	eR	ire	e	re	re	re	re	re	Rru(可能1)
13	e	e	e	eR	oR	e	ro	ro	re	re	re	命令
14a-1	×	×	@toQ	uQ	i	×	×	×	-	@kaQ	×	ta(過去)
14a-2	@kaR	@noN	×	×	×	×	-	-	×	×	-	da(過去)
14a-3	×	×	×	×	×	a	×	×	×	×	×	過去
14b-1	×	×	@toQ	uQ	i	×	×	×	-	@kaQ	×	tera(継続現在)
14b-2	@kaR	@noN	×	×	×	×	-	-	×	×	-	dera(継続現在)
14b-3	×	×	×	×	×	e	×	×	×	×	×	ra(継続現在)
15-1	u	u	×	×	u	i	-	×	×	×	×	Qke(確信)
15-2	×	×	@toQ	uR	×	×	×	-	-	-	-	ke(確信)

はない(「音便」という説明は歴史的な解釈が含まれることに注意)。交替語幹は、設定することにより体系をすっきり示すことができる点で有効である。しかし、むやみに使うと体系がかえってつかめなくなるので慎重に利用したい。

なお、語によって、ひとつの活用形に語尾と交替語幹が現れたり、相互に異なる形で交替語幹が現れるというような異なりが見られても、同じ活用のタイプにまとめている場合がある。例えば、子音語幹1を参照のこと。実はこの活用表には概略しか示していないが、もう少し細かく子音語幹1の活用を検討してみると、語幹末の子音によって交替語幹が相補的に現れていることがわかる。そのような相補的なものは、むしろまとめて扱うことで体系的なとらえかたができる。

#### 4. 研究の現状

活用形を学校文法の未然・連用・終止・連体・仮定・命令といった枠組みだけで扱おうとすると無理が生じる。また、語も共通語のタイプだけをもとにしたのでは漏れが多すぎる。ある意味でこれらの枠の存在を無視し、自由な枠を設定して記述することで、はじめてそれぞれの方言の活用体系にたどりつくと考えてよいだろう。

活用の記述は、文法の一分野としての形態論(cf. 5.1.)のもっとも基礎を支える。しかし、現在あまり盛んではない。義務教育で教わるゆえに、すでに完了した分野であるようなイメージを与えるのかもしれない。また、多量かつ質の高いデータが網羅的に必要で、それらを綿密に積み上げ、時にスクラップアンドビルドをくりかえしながら体系を構築する作業は確かに神経を要する。

しかし、その記述結果は、体系としての美しさが約束されている。こつこつ積み上げ、きれいな体系を構築するという志向にかなう。そしてその期待はけっして裏切られない。

### 5. 発展

#### 5.1. 単位

3.の説明の中であえて目をつぶってきた問題がある。

第1点は、動詞や形容詞と記しながら「動詞とは何か」「形容詞とは何か」という「品詞」の説明を行っていないことである。関連して、助詞・助動詞を特に定義づけることなく取り扱ってしまっている。

第2点は、「語が…」と定義しつつ、「語」とは何かの定義を行っていない。

例えば、「書かない」という形をもとに考えてみよう。この形は、次のように分解される。

kak(語幹)-a(語尾)-nai(助動詞)

<---活用形----->

<-----文法形----->

しかしこれだけでは、「語」とはどこまでなのか、動詞とはどこまでなのか、といったことが明確ではない。ある立場(伝統的な見方)では「書か」まで(つまり活用形)を語とし、動詞と見る。

一方、ある立場(現在はこちらの方がやや優勢)では「書かない」全体(つまり文法形)を語とし、動詞と見る。後者の立場では、ここで文法形としたものが活用形として扱われることがあるので注意が必要だ。3.での説明は、どちらかというも前者に近い立場で進めている。

これらの品詞論、また単語の定義というのは、活用における理論的中心課題である。活用を含む語の用法を扱う研究分野は「形態論」と呼ばれるが、形態論の究極の目標は「単語とは何か」の追究に尽きるとも言われる。そして、どのような立場によるにしても語幹・語尾・活用形・助動詞・文法形と多重に分節可能な構造をいかに矛盾なく位置付けるかの具体的な方策が要求される。

単語論や品詞論は、どのような文法研究であっても、はじめの一步であり、再び回帰せざるをえない場所であることを忘れてはならない。

## 5.2. 通時的分析

### 5.2.1. リストの基準

Cで挙げる文法形リストならびに動詞語彙リスト(また、それぞれからの選択的に組み合わせたBの項目リスト)は、実は、中央語の歴史をかなり意識している。2.で歴史的観点の排除を提言していることと矛盾するようだが、具体的な項目を設定するためには何らかの基準が必要であり、この点で歴史的観点は実はもっとも重要なポイントとなる。しかし、すべてがこの観点に負う必要はなく、そのことを極端に宣言したのが2.の言説であると理解してほしい。

それぞれのリストの中でも特に語彙リストは中央語との歴史的対応関係を基準にしている。この点について説明する前に中央語の活用の歴史を簡単に記しておく。

### 5.2.2. 中央語の活用の歴史

上代～中古(奈良～平安時代)の動詞には、9種類の活用のタイプが存在した。以下に挙げる例は代表的な語の終止形である。ただし、このうち下一段は、不安定なタイプである。

四段(咲く)      上一段(見る)      上二段(起く)      下一段(蹴る)

下二段(明く)    カ変(来)                  サ変(為)                  ナ変(死ぬ)                  ラ変(有り)

また、上二段・下二段・カ変・サ変・ナ変・ラ変では、終止形と連体形に区別があった。

上二段    下二段    カ変    サ変    ナ変    ラ変

終止形    起く    明く    来    為    死ぬ    有り

連体形    起くる    明くる    来る    為る    死ぬる    有る

中世(鎌倉～室町時代)に入るとラ変が四段に統合する。また、終止形と連体形の区別が失われ、先の時代の連体形が終止形の用法で用いられるようになる。つまり、連体形から独立した終止形は、用いられなくなった。これらの統合は、中世でも時代が下るほど進行する。

近世前期(江戸時代前期・上方語)には、上二段が上一段に統合し(起くる→起きる)、母音動詞化が進行する。また、下二段でも短い語形の動詞において、母音動詞化が起こる(寝る→寝る)。

近世後期(江戸時代後期・江戸語)には、下二段の長い語も母音動詞化する(明くる→明ける)。また、ナ変が四段に統合し、サ変においては、未然形が「し(ない)」、命令形が「しろ」となり、

現代語の活用がほぼ成立する。

形容詞においては、連用形「高く」に対する「高かり」、連体形「高き」に対する「高かる」など、存在動詞「有り」を取り込んだカリ型活用の発達が上代・中古に認められる。これは有史的に確認できる活用の獲得(新規活用型の成立)の数少ない例である。

中世に入ると動詞に平行して終止形と連体形の統合が始まる。その一方で「高く→高う」や「高き→高い」のような音便が発生する。前者の終止・連体形の統合はク活用・シク活用の統合に直結する。ク活用の連体形が終止形に変化することによりク活用とシク活用の区別が失われることは、次の例で理解されるだろう。

	ク活用	シク活用
連用形	高く	美しく
終止形	高し	美し
連体形	高き	美しき

### 5.2.3. 動詞活用の分布と歴史

特に動詞について、中央語の歴史が方言とどのような関係にあるかを簡単に見ておこう。

2. で記したように方言における活用の歴史は、大きくは、中央の歴史の反映と活用型相互の類推を中心とした独自変化で説明される。動詞における後者の独自変化は基本的に活用のタイプが減少することであり、中央語と比較するなら、活用のタイプに所属する語彙グループが統合して行くことにほかならない。

中央語におけるもっとも古い語彙グループを「類」という名称でとらえ、それがどのように統合していくかを地図の上に表現してみよう(不安定な下一段は除外している)。

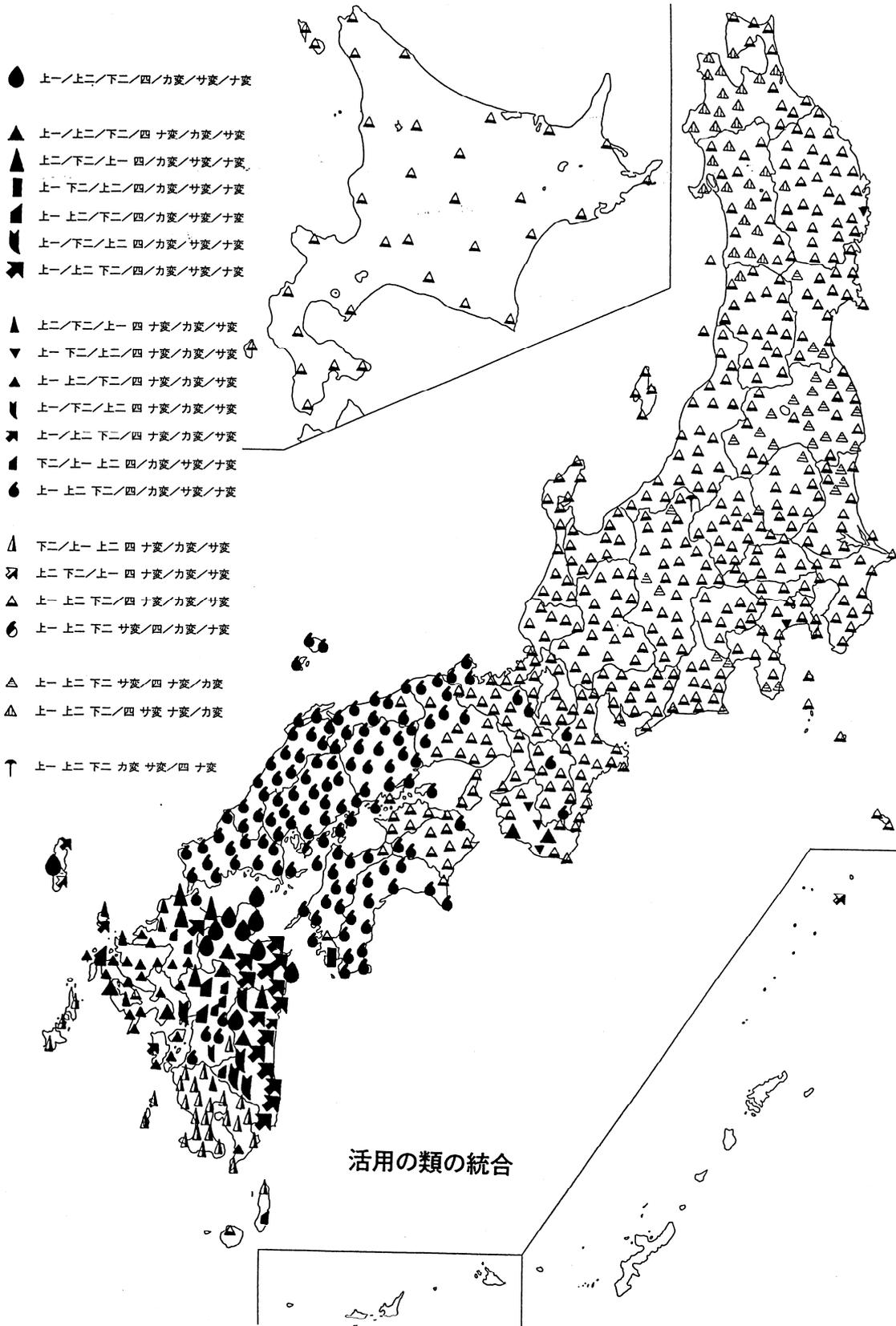
このように地図上で見てみると、自分が調査しようとしている場所が歴史的にどのように位置付けられるかが把握できるであろう。中世に近い場所にいる人もいれば、共通語よりも統合が進んだ場所にいる人もいるかもしれない。後者は、ある意味で未来にいるともいえる。

数少ないながら終止形・連体形の区別のある場所にいる(もしくは行こうとしている)人もいるかもしれない。実はこのことは地図では示していないのだが、琉球を除き本土で終止形・連体形の区別がある方言は全国でも数地点知られるに過ぎない。したがって、もし、この区別が未知の場所で見つかったなら、大発見ということになる。

また、現在までのところ、活用の類が特別な理由もなく活用のタイプとして分割している例は知られていない。もし、それが見つけられたなら、相当な古層がむきだしになっている可能性があり、これまた新発見である。

なかなか「発見」は難しいだろうが、どこかにロマンを抱きながらこつこつと作業を進めるのもささやかな楽しみかもしれない。

活用



## 6. 文献

大西拓一郎(1995a)「岩手県種市町平内方言の用言の活用」『研究報告集(国立国語研究所)』16

大西拓一郎(1995b)『日本語方言活用の通時的研究序説』(科研費報告書)

国立国語研究所(1991, 1993)『方言文法全国地図』2-3(財務省印刷局)

鈴木重幸(1972)『日本語文法・形態論』(むぎ書房)

鈴木康之(1977)『日本語文法の基礎』(三省堂)

服部四郎(1960)「具体的言語単位と抽象的言語単位」『言語学の方法』(岩波書店)

服部四郎(1960)「附属語と附属形式」『言語学の方法』(岩波書店)

## B 項目

Aの3.1.で記したように記述作業は語形変化のリストアップから始まるが、手がかりがないとどこから手を付ければよいのか難しい。ここでは手がかりにするための項目リストを挙げる。

- (1) Cの資料の動詞語彙リスト(C-2)と文法形リスト(C-1)の中から基礎的と判断されたものを選択し、それらを組み合わせた。
- (2) したがって、それぞれのリストの番号(コード)の組み合わせで項目が指定される。ただし、形容詞と形容動詞については、今回は語彙リストを用意しなかったので暫定的に01, 02のようにコードを与えている。
- (3) 各項目が『方言文法全国地図』ならびにその準備調査の活用関係の項目に一致する場合にはそれらの質問文を提示した。質問文末尾の番号は、各調査票の質問番号で、Pが付くのはそれが準備調査票に基づくことを示す。
- (4) 文法形リストには優先度に2段階(最優先=\*\*, 優先=\*)設けた。\*マークが多いほど優先度が高い。\*マークを目安に最優先から順次手掛けることで、次第に詳しい全体像が明瞭になることが期待される。
- (5) 次の順で配列している。
  1. 品詞は、動詞・形容詞・形容動詞の順にした。
  2. 各品詞の中では、文法形(カテゴリーの枠組み)／語彙の順で配列した。したがって、同じ文法形の中で語彙が入れ替わり現れる。
  3. 文法形は、優先度の高いものを先に配列した。
- (6) 配列をもとにして項目に通し番号(コード)を付した。このコードを DGC(Dialect Grammar Conjugation catalogue)ナンバーと呼ぶ。
- (7) 語彙コード、文法形コードについては、Cの各リストとその説明を参照のこと。
- (8) (5)の2.のように文法形ごとに語が入れ替わり現れるが、実際の調査では文法形を優先にすべきか、語を優先してさまざまな文法形を入れ替えるのがよいかは、一概には言えない。ただし、はじめて調査する方言では、文法形優先にして少数の語を入れ替えながらおおまかな体系を把握し、詳細な体系が把握できたら、それぞれの活用のタイプに所属する語を見極めるために語を優先して進めるのが有効なように思われる。もっとも、インフォーマントの志向に左右されることもあるだろうから、目的や状況に応じて、使い分けるのがよいだろう。
- (9) ここで文法形と呼ぶのは、文法カテゴリーの枠組みを指す。具体的な文法形は個々の語で異なるのは当然であるので注意してほしい。また、実際に現れる助詞・助動詞はそれぞれの方言で異なり、さらにそれに対応して、カテゴリーが分岐することや、無効な場合もある。対象とする方言の事実にあわせて、枠を細かくするなり、飛ばすなりして、利用するとよい。

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
否定	**	1	書かない	VL440+VC1	「手紙を書かない」と言うときの「書かない」はどうですか。007それでは、「書かない」はどうですか。P007	
	**	2	行かない	VL437+VC1		
	**	3	研がない	VL538+VC1		
	**	4	出さない	VL564+VC1		
	**	5	待たない	VL781+VC1	それでは、「しばらく待たないとだめだよ」と言うときの「待たない」とはどうですか。P014	
	**	6	買わない	VL801+VC1		
	**	7	言わない	VL797+VC1		
	**	8	飛ばない	VL893+VC1		
	**	9	飲まない	VL929+VC1		
	**	10	取らない	VL1014+VC1		
	**	11	見ない	VL5+VC1	「朝はテレビを見ない」と言うときの「見ない」はどうですか。011それでは、「見ない」はどうですか。P003	
	**	12	起きない	VL15+VC1	「8時になってもまだ起きない」と言うときの「起きない」のところは、地方によってオキネー・オキン・オキランなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。001「6時になってもまだ起きない」と言うときの「起きない」のところは、地方によってオキナイ・オキン・オキランなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P001	
	**	13	蹴らない	VL48+VC1	「足でボールを蹴らない」と言うときの「蹴らない」はどうですか。013	
	**	14	開けない	VL54+VC1	「寒いから窓をあけない」と言うときの「あけない」はどうですか。006それでは、「あけない」はどうですか。P004	
	**	15	来ない	VL400+VC1	「10時になってもまだ来ない」と言うときの「来ない」はどうですか。003それでは、「来(こ)ない」はどうですか。P005	
	**	16	しない	VL404+VC1	「仕事を頼んだのにまだしない」と言うときの「しない」はどうですか。004それでは、「しない」はどうですか。P006	
	**	17	しない(2)	VL404+VC1	「故郷を愛シナイ」と言いますか、「故郷を愛サナイ」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。<「愛シナイ」「愛サナイ」を使わないと答えたとき>では、「愛シナイ」と「愛サナイ」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P195	
	**	18	死なない	VL433+VC1		
	**	19	有らない	VL434+VC1	それでは、「何も無い」と言うときの「ない」はどうですか。(「有る」の否定形を求める。) P008	
否定・とりたて	**	20	書きはしない	VL440+VC2		<カキヤーシナイ・カキヤーセン・カカヘン・カキヘンなどの有無>
	**	21	行きはしない	VL437+VC2		
	**	22	研ぎはしない	VL538+VC2		
	**	23	出しはしない	VL564+VC2		
	**	24	待ちはしない	VL781+VC2		
	**	25	買いはしない	VL801+VC2		
	**	26	言いはしない	VL797+VC2		
	**	27	飛びはしない	VL893+VC2		
	**	28	飲みはしない	VL929+VC2		
	**	29	取りはしない	VL1014+VC2		
	**	30	見はしない	VL5+VC2		
	**	31	起きはしない	VL15+VC2		
	**	32	蹴りはしない	VL48+VC2		
	**	33	開けはしない	VL54+VC2		
	**	34	来はしない	VL400+VC2		

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
否定・とりたて	**	35	しはしない	VL404+VC2		<カキヤーシナイ・カキヤーセン・カカヘン・カキヘンなどの有無>
	**	36	死にはしない	VL433+VC2		
	**	37	有りはしない	VL434+VC2		
言い切り	**	38	書く	VL440+VC3	「手紙を書く」と言うときの「書く」はどうですか。023それでは、「書く」はどうですか。P027	
	**	39	行く	VL437+VC3		
	**	40	研ぐ	VL538+VC3		
	**	41	出す	VL564+VC3		
	**	42	待つ	VL781+VC3	それでは、「人を待つ」と言うときの「待つ」はどうですか。P033	
	**	43	買う	VL801+VC3		
	**	44	言う	VL797+VC3		
	**	45	飛ぶ	VL893+VC3		
	**	46	飲む	VL929+VC3		
	**	47	取る	VL1014+VC3		
	**	48	見る	VL5+VC3	それでは、「見る」はどうですか。P023	
	**	49	起きる	VL15+VC3	「朝早く起きる」と言うときの「起きる」のところは、地方によって、オキル・オクルなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。016「朝早く起きる」と言うときの「起きる」のところは、地方によってオキル・オクルなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P021	
	**	50	蹴る	VL48+VC3		
	**	51	開ける	VL54+VC3	「窓を開ける」と言うときの「開ける」はどうですか。018それでは、「あける」はどうですか。P024	
	**	52	来る	VL400+VC3	「ここに来る」と言うときの「来る」はどうですか。019それでは、「来る」はどうですか。P025	
	**	53	する	VL404+VC3	「一日中仕事をする」と言うときの「する」はどうですか。020それでは、「する」はどうですか。P026	
	**	54	する(2)	VL404+VC3	「故郷を愛スル」と言いますか、「故郷を愛ス」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。 <「愛スル」「愛ス」を使わないと答えたとき>では、「愛スル」と「愛ス」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P193	
	**	55	する(3)	VL404+VC3	「寒さを感じル」と言いますか、「寒さを感じル」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。 <「感じル」「感じル」を使わないと答えたとき>では、「感じル」と「感じル」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P196	
	**	56	する(4)	VL404+VC3	「神や仏を信ズル」と言いますか、「神や仏を信ズル」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。 <「信ズル」「信ズル」を使わないと答えたとき>では、「信ズル」と「信ズル」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P198	
	**	57	死ぬ	VL433+VC3	「鱈は10日で死ぬ」と言うときの「死ぬ」はどうですか。027それでは、「金魚が死ぬ」と言うときの「死ぬ」はどうですか。P032	
**	58	有る	VL434+VC3	それでは、「机が有る」と言うときの「有る」はどうですか。P028		
連体	**	59	書く人	VL440+VC4	「手紙を筆で書く人」と言うときの「書く人」のところはどのように言いますか。029それでは、「書く人」はどうですか。P050	<時・事など他の体言をつけてもよい>
	**	60	行く人	VL437+VC4		
	**	61	研ぐ人	VL538+VC4		
	**	62	出す人	VL564+VC4		
	**	63	待つ人	VL781+VC4		
	**	64	買う人	VL801+VC4		

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント		
連体	**	65	言う人	VL797+VC4		<時・事など他の体言をつけてもよい>		
	**	66	飛ぶ人	VL893+VC4				
	**	67	飲む人	VL929+VC4				
	**	68	取る人	VL1014+VC4				
	**	69	見る人	VL5+VC4	それでは、「見る人」はどうですか。P046			
	**	70	起きる人	VL15+VC4	「早く起きる人」と言うときの「起きる人」のところは、地方によってオキルヒト・オクルヒトなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P044			
	**	71	蹴る人	VL48+VC4				
	**	72	開ける人	VL54+VC4	それでは、「あける人」はどうですか。P047			
	**	73	来る人	VL400+VC4	それでは、「来る人」はどうですか。P048			
	**	74	する人	VL404+VC4	それでは、「する人」はどうですか。P049			
	**	75	死ぬ人	VL433+VC4	それでは、「病気で死ぬ鳥」と言うときの「死ぬ鳥」はどうですか。P053			
	**	76	有る人	VL434+VC4	それでは、「金がある人」と言うときの「有る人」はどうですか。P052			
	命令	**	77	書け	VL440+VC5		それでは、「書け」はどうですか。P066	<カキナサイなどの形が出た時は命令形の有無を確かめる>
		**	78	行け	VL437+VC5			
**		79	研げ	VL538+VC5				
**		80	出せ	VL564+VC5				
**		81	待て	VL781+VC5				
**		82	買え	VL801+VC5				
**		83	言え	VL797+VC5				
**		84	飛べ	VL893+VC5				
**		85	飲め	VL929+VC5				
**		86	取れ	VL1014+VC5				
**		87	見ろ	VL5+VC5	「あれを見ろ」と言うときの「見ろ」はどうですか。035それでは、「見ろ」はどうですか。P062			
**		88	起きろ	VL15+VC5	「ぐずぐずしないで早く起きろ」と言うときの「起きろ」のところは、地方によって、オキロ・オキレ・オキヨなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。032「早く起きろ」と言うときの「起きろ」のところは、地方によってオキロ・オキー・オキヨなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P060			
**		89	蹴れ	VL48+VC5	「足でボールを蹴れ」と言うときの「蹴れ」はどうですか。037それでは、「早く蹴れ」と言うときの「蹴れ」はどうですか。P068			
**		90	開けろ	VL54+VC5	「窓を開けろ」と言うときの「開けろ」はどうですか。034それでは、「あけろ」はどうですか。P063			
**	91	来い	VL400+VC5	「ここに来い」と言うときの「来い」はどうですか。036それでは、「来(こ)い」はどうですか。P064				
**	92	しろ	VL404+VC5	「ぐずぐずしないで早くしろ」と言うときの「しろ」はどうですか。033それでは、「早くしろ」と言うときの「しろ」はどうですか。P065				
**	93	死ね	VL433+VC5					
**	94	有れ	VL434+VC5	(有れ) <「有る」の命令形が存在すれば記入する。>P067				
過去の「た」への接続	**	95	書いた	VL440+VC6	「手紙を書いた」と言うときの「書いた」はどうですか。041それでは、「書いた」はどうですか。P081			
	**	96	行った	VL437+VC6	「きのう学校に行った」と言うときの「行った」はどうですか。046それでは、「役場に行った」と言うときの「行った」はどうですか。P087			
	**	97	研いだ	VL538+VC6	「包丁を研いだ」と言うときの「研んだ」はどうですか。045			

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
過去の「た」への接続	**	98	出した	VL564+VC6	「きのう手紙を出した」と言うときの「出した」のところは、地方によって、ダシタ・ダイタなど、いろいろの言い方をします。この地方ではどのように言いますか。040「手紙を出した」と言うときの「出した」のところは、地方によってダシタ・ダイタなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P074	
	**	99	待った	VL781+VC6	それでは、「ずいぶん待った」と言うときの「待った」はどうですか。P096	
	**	100	買った	VL801+VC6	「1個100円のりんごを買った」と言うときの「買った」はどうですか。051	
	**	101	言った	VL797+VC6		
	**	102	飛んだ	VL893+VC6	「飛行機が飛んだ」と言うときの「飛んだ」はどうですか。044それでは、「空を飛んだ」と言うときの「飛んだ」はどうですか。P086	
	**	103	飲んだ	VL929+VC6	「酒を飲んだ」と言うときの「飲んだ」はどうですか。043それでは、「酒を飲んだ」と言うときの「飲んだ」はどうですか。P085	
	**	104	取った	VL1014+VC6		
	**	105	見た	VL5+VC6	それでは、「見た」はどうですか。P077	
	**	106	起きた	VL15+VC6	それでは、「6時に起きた」と言うときの「起きた」はどうですか。P075	
	**	107	蹴った	VL48+VC6	「足でボールを蹴った」と言うときの「蹴った」はどうですか。047それでは、「足でボールを蹴った」と言うときの「蹴った」はどうですか。P090	
	**	108	開けた	VL54+VC6	それでは、「あけた」はどうですか。P078	
	**	109	来た	VL400+VC6	それでは、「来た」はどうですか。P079	
	**	110	した	VL404+VC6	それでは、「仕事を早くした」と言うときの「早くした」はどうですか。P080	
**	111	死んだ	VL433+VC6	それでは、「金魚が死んだ」と言うときの「死んだ」はどうですか。P088		
**	112	有った	VL434+VC6	それでは、「金があった」と言うときの「有った」はどうですか。P095		
開始	**	113	書きはじめる	VL440+VC7	それでは、「書きはじめる」はどうですか。P110	
	**	114	行きはじめる	VL437+VC7		
	**	115	研ぎはじめる	VL538+VC7		
	**	116	出しはじめる	VL564+VC7		
	**	117	待ちはじめる	VL781+VC7		
	**	118	買いはじめる	VL801+VC7		
	**	119	言いはじめる	VL797+VC7		
	**	120	飛びはじめる	VL893+VC7		
	**	121	飲みはじめる	VL929+VC7		
	**	122	取りはじめる	VL1014+VC7		
	**	123	見はじめる	VL5+VC7	それでは、「見はじめる」はどうですか。P106	
	**	124	起きはじめる	VL15+VC7	「子どもたちが起きはじめる」と言うときの「起きはじめる」のところはどのように言いますか。(104-117「～ハジメル」の形がない場合には「～ソメル」、「～ダス」などでも可。) P104	
	**	125	蹴りはじめる	VL48+VC7		
	**	126	開けはじめる	VL54+VC7	それでは、「あけはじめる」はどうですか。P107	
	**	127	来はじめる	VL400+VC7	それでは、「客が来はじめる」と言うときの「来はじめる」はどうですか。P108	
	**	128	しはじめる	VL404+VC7	それでは、「仕事を一番にしはじめる」と言うときの「しはじめる」はどうですか。P109	
	**	129	死にはじめる	VL433+VC7		
	**	130	有りはじめる	VL434+VC7	(有りはじめる) <「有りはじめる」の形が存在すれば記入する。> P111	

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
意思	**	131	書こう	VL440+VC8	「手紙を書こう」とつぶやくときの「書こう」はどうですか。065それでは、「書こう」はどうですか。P129	
	**	132	行こう	VL437+VC8		
	**	133	研ごう	VL538+VC8		
	**	134	出そう	VL564+VC8		
	**	135	待とう	VL781+VC8		
	**	136	買おう	VL801+VC8		
	**	137	言おう	VL797+VC8		
	**	138	飛ぼう	VL893+VC8		
	**	139	飲もう	VL929+VC8		
	**	140	取ろう	VL1014+VC8		
	**	141	見よう	VL5+VC8	それでは、「見よう」はどうですか。P125	
	**	142	起きよう	VL15+VC8	自分自身で「あしたは早く起きよう」とつぶやくときの「起きよう」のころはどのように言いますか。060自分自身で「早く起きよう」と自分の気持を心の中でつぶやくときの「起きよう」のころは、地方によってオキヨー・オキルペー・オキズなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P123	
	**	143	蹴ろう	VL48+VC8		
	**	144	開けよう	VL54+VC8	「窓を開けよう」とつぶやくときの「開けよう」はどうですか。063それでは、「あけよう」はどうですか。P126	
	**	145	来よう	VL400+VC8	「あしたもここに来よう」とつぶやくときの「来よう」はどうですか。064それでは、「来(こ)よう」はどうですか。P127	
	**	146	しょう	VL404+VC8	「早くしょう」とつぶやくときの「しょう」はどうですか。062それでは、「早くしょう」と言うときの「しょう」はどうですか。P128	
	**	147	死のう	VL433+VC8		
	**	148	有ろう	VL434+VC8		
推量1	**	149	書くだろう	VL440+VC9	「あいつはたぶん手紙を書くだろう」と言うときの「書くだろう」のころは、土地によって、カクダロー・カクペーなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。067それでは、「書くだろう」はどうですか。P138	
	**	150	行くだろう	VL437+VC9		
	**	151	研ぐだろう	VL538+VC9		
	**	152	出すだろう	VL564+VC9		
	**	153	待ただろう	VL781+VC9		
	**	154	買うだろう	VL801+VC9		
	**	155	言うだろう	VL797+VC9		
	**	156	飛ぶだろう	VL893+VC9		
	**	157	飲むだろう	VL929+VC9		
	**	158	取るだろう	VL1014+VC9		
	**	159	見るだろう	VL5+VC9	それでは、「見るだろう」はどうですか。P134	
	**	160	起きるだろう	VL15+VC9	「たぶん起きるだろう」と言うときの「起きるだろう」のころは、地方によってオキルダロー・オキルペー・オキルズなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P132	
	**	161	蹴るだろう	VL48+VC9		
	**	162	開けるだろう	VL54+VC9	それでは、「あけるだろう」はどうですか。P135	
	**	163	来るだろう	VL400+VC9	「あいつは、あした、たぶん来るだろう」と言うときの「来るだろう」はどうですか。068それでは、「来るだろう」はどうですか。P136	

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
推量1	**	164	するだろう	VL404+VC9	「あいつは、たぶんその仕事をするだろう」と言うときの「するだろう」のところはどのように言いますか。069 それでは、「仕事をいつかするだろう」と言うときの「するだろう」はどうですか。P137	
	**	165	死ぬだろう	VL433+VC9		
	**	166	有るだろう	VL434+VC9		
受身	**	167	書かれる	VL440+VC10	「悪いことをすると新聞に書かれる」と言うときの「書かれる」はどうですか。025	
	**	168	行かれる	VL437+VC10		
	**	169	研がれる	VL538+VC10		
	**	170	出される	VL564+VC10		
	**	171	待たれる	VL781+VC10		
	**	172	買われる	VL801+VC10		
	**	173	言われる	VL797+VC10		
	**	174	飛ばれる	VL893+VC10	「頭の上を飛行機に飛ばれるとうるさい」と言うときの「飛ばれる」はどうですか。	
	**	175	飲まれる	VL929+VC10		
	**	176	取られる	VL1014+VC10		
	**	177	見られる	VL5+VC10	それでは、「見られる」はどうですか。P148	
	**	178	起きられる	VL15+VC10	「孫にさきに起きられる」と言うときの「起きられる」のところを、この土地ではどのように言いますか。P146 「早く起きられると困る」と言うときの「起きられる」はどうですか。	
	**	179	蹴られる	VL48+VC10		
	**	180	開けられる	VL54+VC10	それでは、「あけられる」はどうですか。P149	
	**	181	来られる	VL400+VC10	「留守のときに来られると困る」と言うときの「来られる」のところはどのように言いますか。072 それでは、「来(こ)られる」はどうですか。P150	
	**	182	される	VL404+VC10	「壁に落書きをされる」と言うときの「される」はどうですか。073 それでは、「される」はどうですか。P151	
	**	183	死なれる	VL433+VC10		
	**	184	有られる	VL434+VC10		
使役	**	185	書かせる	VL440+VC11	「無理に手紙を書かせる」と言うときの「書かせる」はどうですか。024	
	**	186	行かせる	VL437+VC11		
	**	187	研がせる	VL538+VC11		
	**	188	出させる	VL564+VC11		
	**	189	待たせる	VL781+VC11		
	**	190	買わせる	VL801+VC11		
	**	191	言わせる	VL797+VC11		
	**	192	飛ばせる	VL893+VC11	「飛行機を飛ばせる」と言うときの「飛ばせる」はどうですか。(共通語では「飛ばす」が一般的。)	
	**	193	飲ませる	VL929+VC11		
	**	194	取らせる	VL1014+VC11		
	**	195	見させる	VL5+VC11	それでは、「見させる」はどうですか。(「ミセル」はとらない。) P155	
	**	196	起きさせる	VL15+VC11	「孫を、朝早く起きさせる」と言うときの「起きさせる」のところは、地方によってオキサセル・オキラセル・オキサスなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。(「オロス」はとらない。) P153	
	**	197	蹴らせる	VL48+VC11		
	**	198	開けさせる	VL54+VC11	「孫に窓を開けさせる」と言うときの「開けさせる」はどうですか。077 それでは、「あけさせる」はどうですか。P156	

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
使役	**	199	来させる	VL400+VC11	「孫を無理に来させる」と言うときの「来させる」はどうですか。076それでは、「来(こ)させる」はどうですか。P157	
	**	200	させる	VL404+VC11	「孫に庭の掃除をさせる」と言うときの「させる」のところをどのように言いますか。075それでは、「させる」はどうですか。P158	
	**	201	死なせる	VL433+VC11		
	**	202	有らせる	VL434+VC11		
使役・受身	**	203	書かせられる (書かされる)	VL440+VC12	「無理に手紙を書かせられる」と言うときの「書かせられる」はどうですか。074それでは、「書かせられる」はどうですか。P152	
	**	204	行かせられる	VL437+VC12		
	**	205	研がせられる (研がされる)	VL538+VC12		
	**	206	出させられる (出さされる)	VL564+VC12		
	**	207	待たせられる	VL781+VC12		
	**	208	買わせられる (買わされる)	VL801+VC12		
	**	209	言わせられる (言わされる)	VL797+VC12		
	**	210	飛ばせられる (飛ばされる)	VL893+VC12		
	**	211	飲ませられる (飲まされる)	VL929+VC12		
	**	212	取らせられる (取らされる)	VL1014+VC12		
	**	213	見させられる	VL5+VC12		
	**	214	起きさせられる	VL15+VC12	(共通語では「起こされる」(「起こす」の受身形)を用いるのが一般的。)	
	**	215	蹴らせられる (蹴らされる)	VL48+VC12		
	**	216	開けさせられる	VL54+VC12		
	**	217	来させられる	VL400+VC12		
	**	218	させられる	VL404+VC12		
	**	219	死なせられる (死なされる)	VL433+VC12		
**	220	有らせられる	VL434+VC12			
仮定1	**	221	書けば	VL440+VC13	「きのう手紙を書けば良かった」と言うときの「書けば」はどうですか。081	<インクで書けばなかなか消えない・明日までに書けば間に合う、などいろいろな文例で調査しても「カイトラ」「カクト」「カクナラ」など別形しか出ない時は仮定形「～バ」の形の有無を確かめる
	**	222	行けば	VL437+VC13		
	**	223	研げば	VL538+VC13		
	**	224	出せば	VL564+VC13		
	**	225	待てば	VL781+VC13	それでは、「待てば」はどうですか。P185	
	**	226	買えば	VL801+VC13		
	**	227	言えば	VL797+VC13		
	**	228	飛ばば	VL893+VC13		
	**	229	飲めば	VL929+VC13		
	**	230	取れば	VL1014+VC13		
	**	231	見れば	VL5+VC13	それでは、「見れば」はどうですか。P175	

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
仮定1	**	232	起きれば	VL15+VC13	「もっと早く起きれば良かった」と言うときの「起きれば」のところはどのように言いますか。078「もっと早く起きれば良かった」と言うときの「起きれば」のところは、地方によってオキレバ・オクレバなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P173	<インクで書けばなかなか消えない・明日までに書けば間に合う、などいろいろな文例で調査しても「カイトラ」「カクト」「カクナラ」など別形しか出ない時は仮定形「～バ」の形の有無を確かめる
	**	233	蹴れば	VL48+VC13		
	**	234	開ければ	VL54+VC13	それでは、「あければ」はどうですか。P176	
	**	235	来れば	VL400+VC13	「もっと早く来れば良かった」と言うときの「来れば」はどうですか。079それでは、「来れば」はどうですか。P177	
	**	236	すれば	VL404+VC13	「早くすれば良かった」と言うときの「すれば」はどうですか。080それでは、「早くすれば良かった」と言うときの「すれば」はどうですか。P178	
	**	237	すれば(2)	VL404+VC13	「故郷を愛スレバこそ」と言いますか、「故郷を愛セバこそ」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。<「愛スレバ」「愛セバ」を使わないと答えたとき>では、「愛スレバ」と「愛セバ」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P194	
	**	238	すれば(3)	VL404+VC13	「寒さを感じスレバ」と言いますか、「寒さを感じセバ」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。<「感じスレバ」「感じセバ」を使わないと答えたとき>では、「感じスレバ」と「感じセバ」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P197	
	**	239	すれば(4)	VL404+VC13	「神や仏を信スレバ」と言いますか、「神や仏を信セバ」と言いますか、それとも別の言い方をしますか。<「信スレバ」「信セバ」を使わないと答えたとき>では、「信スレバ」と「信セバ」とでは、どちらがより自然な言い方と思えますか。P199	
	**	240	死ねば	VL433+VC13	それでは、「死ねば」はどうですか。083それでは、「死ねば」はどうですか。P184	
	**	241	有れば	VL434+VC13	それでは、「有れば」はどうですか。P179	
仮定2	**	242	書くなら	VL440+VC14	「手紙を書くなら、字をきれいに書いてくれ」と言うときの「書くなら」はどうですか。088それでは、「書くなら」はどうですか。P165	
	**	243	行くなら	VL437+VC14		
	**	244	研ぐなら	VL538+VC14		
	**	245	出すなら	VL564+VC14		
	**	246	待つなら	VL781+VC14		
	**	247	買うなら	VL801+VC14		
	**	248	言うなら	VL797+VC14		
	**	249	飛ぶなら	VL893+VC14		
	**	250	飲むなら	VL929+VC14		
	**	251	取るなら	VL1014+VC14		
	**	252	見るなら	VL5+VC14	それでは、「見るなら」はどうですか。P161	
	**	253	起きるなら	VL15+VC14	「さきに起きるなら、飯を作っておいてくれ」と言うときの「起きるなら」のところは、地方によって、オキルナラ・オキラバ・オキルンヤッタなど、いろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。085「さきに起きるなら、飯を作っておいてほしい」と言うときの「起きるなら」のところは、地方によってオキルナラ・オキルナラバ・オキラバなどいろいろの言い方をします。この土地ではどのように言いますか。P159	
	**	254	蹴るなら	VL48+VC14		
**	255	開けるなら	VL54+VC14	それでは、「あけるなら」はどうですか。P162		

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
仮定2	**	256	来るなら	VL400+VC14	「家に来るなら、電話をしてから来てくれ」と言うときの「来るなら」はどうですか。086それでは、「来るなら」はどうですか。P163	
	**	257	するなら	VL404+VC14	「するなら早くしてくれ」と言うときの「するなら」はどうですか。087それでは、「するなら早くしてほしい」と言うときの「するなら」はどうですか。P164	
	**	258	死ぬなら	VL433+VC14		
	**	259	有るなら	VL434+VC14	それでは、「有るなら」はどうですか。P166	
将然	*	260	書きそうだ	VL440+VC15		<今にも書きそうだ>
	*	261	行きそうだ	VL437+VC15		
	*	262	研ぎそうだ	VL538+VC15		
	*	263	出しそうだ	VL564+VC15		
	*	264	待ちそうだ	VL781+VC15		
	*	265	買いそうだ	VL801+VC15		
	*	266	言いそうだ	VL797+VC15		
	*	267	飛びそうだ	VL893+VC15		
	*	268	飲みそうだ	VL929+VC15		
	*	269	取りそうだ	VL1014+VC15		
	*	270	見そうだ	VL5+VC15		
	*	271	起きそうだ	VL15+VC15		
	*	272	蹴りそうだ	VL48+VC15		
	*	273	開けそうだ	VL54+VC15		
	*	274	来そうだ	VL400+VC15		
	*	275	しそうだ	VL404+VC15		
	進行	*	276	死にそうだ	VL433+VC15	
*		277	有りそうだ	VL434+VC15		
*		278	書いている	VL440+VC16		
*		279	行っている	VL437+VC16		
*		280	研んでいる	VL538+VC16		
*		281	出している	VL564+VC16		
*		282	待っている	VL781+VC16		
*		283	買っている	VL801+VC16		
*		284	言っている	VL797+VC16		
*		285	飛んでいる	VL893+VC16		
*		286	飲んでいる	VL929+VC16		
*		287	取っている	VL1014+VC16		
*		288	見ている	VL5+VC16		
*		289	起きている	VL15+VC16		
*		290	蹴っている	VL48+VC16		
*		291	開けている	VL54+VC16		
存在・結果		*	292	来ている	VL400+VC16	
	*	293	している	VL404+VC16		
	*	294	死んでいる	VL433+VC16		
	*	295	有っている	VL434+VC16		
	*	296	書いてある	VL440+VC17		
	*	297	行っている	VL437+VC17		
	*	298	研みである	VL538+VC17		
	*	299	出している	VL564+VC17		
	*	300	待っている	VL781+VC17		
	*	301	買っている	VL801+VC17		
	*	302	言っている	VL797+VC17		
	*	303	飛んでいる	VL893+VC17		

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント	
存在・結果	*	304	飲んである	VL929+VC17	「薬はちゃんと飲んである」と言うときの「飲んである」はどうですか。		
	*	305	取ってある	VL1014+VC17		「席は取ってある」と言うときの「取ってある」はどうですか。	
	*	306	見てある	VL5+VC17			
	*	307	起きてある	VL15+VC17			
	*	308	蹴ってある	VL48+VC17			
	*	309	開けてある	VL54+VC17			
	*	310	来てある	VL400+VC17			
	*	311	してある	VL404+VC17			
	*	312	死んである	VL433+VC17			
	*	313	有ってある	VL434+VC17			
	存在・過去	*	314	書いてあった	VL440+VC18		
		*	315	行ってあった	VL437+VC18		
		*	316	研いであった	VL538+VC18		
*		317	出してあった	VL564+VC18			
*		318	待ってあった	VL781+VC18			
*		319	買ってあった	VL801+VC18			
*		320	言っていた	VL797+VC18			
*		321	飛んであった	VL893+VC18			
*		322	飲んであった	VL929+VC18			
*		323	取ってあった	VL1014+VC18			
*		324	見てあった	VL5+VC18			
*		325	起きてあった	VL15+VC18			
*		326	蹴ってあった	VL48+VC18			
*		327	開けてあった	VL54+VC18			
*		328	来てあった	VL400+VC18			
*		329	してあった	VL404+VC18			
*		330	死んであった	VL433+VC18			
*		331	有ってあった	VL434+VC18			
完了		*	332	書いてしまう	VL440+VC19		
		*	333	行ってしまう	VL437+VC19		
	*	334	研いでしまう	VL538+VC19			
	*	335	出してしまう	VL564+VC19			
	*	336	待ってしまう	VL781+VC19			
	*	337	買ってしまう	VL801+VC19			
	*	338	言ってしまう	VL797+VC19			
	*	339	飛んでしまう	VL893+VC19			
	*	340	飲んでしまう	VL929+VC19			
	*	341	取ってしまう	VL1014+VC19			
	*	342	見てしまう	VL5+VC19			
	*	343	起きてしまう	VL15+VC19			
	*	344	蹴ってしまう	VL48+VC19			
	*	345	開けてしまう	VL54+VC19			
	*	346	来てしまう	VL400+VC19			
	*	347	してしまう	VL404+VC19			
	*	348	死んでしまう	VL433+VC19			
過去・推量	*	349	有ってしまう	VL434+VC19			
	*	350	書いただろう	VL440+VC20			
	*	351	行っただろう	VL437+VC20			
	*	352	研いただろう	VL538+VC20			
	*	353	出したたろう	VL564+VC20			
	*	354	待っただろう	VL781+VC20			

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
過去・推量	*	355	買っただろ	VL801+VC20		
	*	356	言っただろ	VL797+VC20		
	*	357	飛んだだろ	VL893+VC20		
	*	358	飲んだだろ	VL929+VC20		
	*	359	取っただろ	VL1014+VC20		
	*	360	見ただろ	VL5+VC20		
	*	361	起きただろ	VL15+VC20		
	*	362	蹴っただろ	VL48+VC20		
	*	363	開けただろ	VL54+VC20		
	*	364	来ただろ	VL400+VC20		
	*	365	しただろ	VL404+VC20		
	*	366	死んだだろ	VL433+VC20		
	*	367	有っただろ	VL434+VC20		
	禁止	*	368	書くな	VL440+VC21	
*		369	行くな	VL437+VC21		
*		370	研ぐな	VL538+VC21		
*		371	出さな	VL564+VC21		
*		372	待つな	VL781+VC21		
*		373	買うな	VL801+VC21		
*		374	言うな	VL797+VC21		
*		375	飛ぶな	VL893+VC21		
*		376	飲むな	VL929+VC21		
*		377	取るな	VL1014+VC21		
*		378	見るな	VL5+VC21		
*		379	起きるな	VL15+VC21		
*		380	蹴るな	VL48+VC21		
*		381	開けるな	VL54+VC21		
*		382	来るな	VL400+VC21		
*		383	するな	VL404+VC21		
可能		*	384	死ぬな	VL433+VC21	
	*	385	有るな	VL434+VC21		
	*	386	書ける	VL440+VC22		<カカレル・カクニイ・カキキル・カキエルなど、状況可能・能力可能、その他可能形全般を調べておく。カケルのような可能動詞しか用いない場合はその旨を記述する>
	*	387	行ける	VL437+VC22		
	*	388	研げる	VL538+VC22		
	*	389	出せる	VL564+VC22		
	*	390	待てる	VL781+VC22		
	*	391	買える	VL801+VC22		
	*	392	言える	VL797+VC22		
	*	393	飛べる	VL893+VC22		
	*	394	飲める	VL929+VC22		
	*	395	取れる	VL1014+VC22		
	*	396	見られる	VL5+VC22		
	*	397	起きられる	VL15+VC22		
	*	398	蹴れる	VL48+VC22		
	*	399	開けられる	VL54+VC22		
	*	400	来られる	VL400+VC22		
*	401	することができる	VL404+VC22	(「する」の可能表現。共通語では単に「できる」と言うのが一般的。例：仕事ができる。)		
*	402	死ぬる	VL433+VC22			
*	403	有ることができる	VL434+VC22	(「ある」の可能表現。共通語では「有りうる」が一般的か。)		

活用 B 動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント		
不可能	*	404	書けない	VL440+VC23		<可能動詞・能力可能・状況可能な どに気を付ける>		
	*	405	行けない	VL437+VC23				
	*	406	研げない	VL538+VC23				
	*	407	出せない	VL564+VC23				
	*	408	待てない	VL781+VC23				
	*	409	買えない	VL801+VC23				
	*	410	言えない	VL797+VC23				
	*	411	飛べない	VL893+VC23				
	*	412	飲めない	VL929+VC23				
	*	413	取れない	VL1014+VC23				
	*	414	見られない	VL5+VC23				
	*	415	起きられない	VL15+VC23				
	*	416	蹴られない	VL48+VC23				
	*	417	開けられない	VL54+VC23				
	*	418	来られない	VL400+VC23				
	*	419	されない	VL404+VC23				
	*	420	死なれない	VL433+VC23				
	*	421	有られない	VL434+VC23				
	中止法	*	422	書き	VL440+VC24			<手紙を書き、本 を読む>
		*	423	行き	VL437+VC24			
		*	424	研ぎ	VL538+VC24			
*		425	出し	VL564+VC24				
*		426	待ち	VL781+VC24				
*		427	買い	VL801+VC24				
*		428	言い	VL797+VC24				
*		429	飛び	VL893+VC24				
*		430	飲み	VL929+VC24				
*		431	取り	VL1014+VC24				
*		432	見	VL5+VC24				
*		433	起き	VL15+VC24				
*		434	蹴り	VL48+VC24				
*		435	開け	VL54+VC24				
*		436	来	VL400+VC24				
*		437	し	VL404+VC24				
*		438	死に	VL433+VC24				
*		439	有り	VL434+VC24				
否定	**	440	高くない	AL01+AC1	「この品物の値段はあまり高くない」と言うときの「高くない」はどうですか。014それでは、「この山は高くない」と言うときの「高くない」はどうですか。P015			
	**	441	珍しくない	AL02+AC1	それでは、「めずらしくない」はどうですか。P016			
言い切り	**	442	高い	AL01+AC2	それでは、「山が高い」と言うときの「高い」はどうですか。P037			
	**	443	珍しい	AL02+AC2	それでは、「めずらしい」はどうですか。P038			
連体	**	444	高い物	AL01+AC3	「店で、高い物を買う」と言うときの「高い物」はどうですか。030それでは、「高い山」はどうですか。P054	<「高い山」など 他の体言をつけて もよい>		
	**	445	珍しい物	AL02+AC3	それでは、「めずらしい物」はどうですか。P055			
過去	**	446	高かった	AL01+AC4	「この着物は高かった」と言うときの「高かった」はどうですか。055「あの山は高かった」と言うときの「高かった」はどうですか。P097			
	**	447	珍しかった	AL02+AC4	それでは、「めずらしかった」はどうですか。P098			

活用 B 形容詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
「て」への接続	**	448	高くて	AL01+AC5	「この品物は、値段が高くて質も良い」と言うときの「高くて」のところはどのように言いますか。057「あの山は、高くて姿も良い」と言うときの「高くて」のところはどうですか。P118	
	**	449	珍しくて	AL02+AC5	それでは、「この品物は、めずらしくて値段も高い」と言うときの「めずらしくて」はどうですか。P120	
「なる」への接続	**	450	高くなる	AL01+AC6	「物の値段がだんだん高くなる」と言うときの「高くなる」はどうですか。058それでは、「だんだん高くなる」と言うときに「高くなる」はどうですか。P112	
	**	451	珍しくなる	AL02+AC6	「この品物はだんだん珍しくなる」と言うときの「珍しくなる」はどうですか。059それでは、「めずらしくなる」はどうですか。P113	
推量1	**	452	高いだろう	AL01+AC7	「この着物はたぶん高いだろう」と言うときの「高いだろう」はどうですか。070それでは、「たぶん高いだろう」と言うときの「高いだろう」はどうですか。P140	
	**	453	珍しいだろう	AL02+AC7	それでは、「めずらしいだろう」はどうですか。P141	
推量2	**	454	高かろう	AL01+AC8	それでは、「たぶん高いだろう」と言うときの「高かろう」はどうですか。P140	<標準語の話し言葉では用いない形であるがタカカロー・タカイローなどの形の有無を見るためにこの形できいてみる>
	**	455	珍しかろう	AL02+AC8	それでは、「めずらしいだろう」はどうですか。P141	
仮定1	**	456	高ければ	AL01+AC9	「値段がもっと高ければ良かった」と言うときの「高ければ」はどうですか。084それでは、「あの山がもっと高ければ良かった」と言うときの「高ければ」はどうですか。P187	
	**	457	珍しければ	AL02+AC9	それでは、「めずらしければ」はどうですか。P188	
仮定2	**	458	高いなら	AL01+AC10	「そんなに値段が高いなら買わない」と言うときの「高いなら」はどうですか。089それでは、「その山が高いなら…」と言うときの「高いなら」はどうですか。P169	
	**	459	珍しいなら	AL02+AC10	それでは、「めずらしいなら」はどうですか。P170	
仮定3	**	460	高かったら	AL01+AC11		
	**	461	珍しかったら	AL02+AC11		
様態	*	462	高そうだ	AL01+AC12		<あの山は高そうだ>
	*	463	珍しそうだ	AL02+AC12		
否定・とりたて	*	464	高くはない	AL01+AC13		
	*	465	珍しくはない	AL02+AC13		
中止法	*	466	高く	AL01+AC14	それでは、「あの山は高く、この山は低い」と言うときの「高く」はどうですか。（「高い」の中止の形があれば記入する。）P119	<あの山は高くこの山は低い>
	*	467	珍しく	AL02+AC14		
過去・推量	*	468	高かったらろう	AL01+AC15		
	*	469	珍しかったらろう	AL02+AC15		
接尾語「さ」への接続	*	470	高さ	AL01+AC16		
	*	471	珍しさ	AL02+AC16		
否定	**	472	静かでない	AVL01+AVC1	ここは車が通るのであまり静かでない」と言うときの「静かでない」はどうですか。015それでは、「ここは静かでない」と言うときの「静かでない」はどうですか。P017	
言い切り1	**	473	静かだ	AVL01+AVC2	「ここは車が通らないので静かだ」と言うときの「静かだ」はどうですか。028それでは、「ここは静かだ」と言うときの「静かだ」はどうですか。P039	

活用 B 形容動詞項目

文法形	優先度	DGCナンバー	調査項目	語彙コード+文法形コード	調査文	文法形コメント
連体	**	474	静かなところ	AVL01+AVC3	「ここは車が通らない静かなところだ」と言うときの「静かなところ」はどうですか。031それでは、「静かな海」と言うときの「静かな」はどうですか。P056	
過去	**	475	静かだった	AVL01+AVC4	「あそこは車が通らないので静かだった」と言うときの「静かだった」はどうですか。056それでは、「あの海は静かだった」と言うときの「静かだった」はどうですか。P099	
推量1	**	476	静かだろう	AVL01+AVC5	「あそこは、車が通らないのでたぶん静かだろう」と言うときの「静かだろう」はどうですか。071それでは、「たぶん静かだろう」と言うときの「静かだろう」はどうですか。P142	
仮定1	**	477	静かだったら	AVL01+AVC6		
仮定2	**	478	静かなら	AVL01+AVC7	「そこがそんなに静かなら、おれも住んでみたい」と言うときの「静かなら」はどうですか。090それでは、「もっと静かなら(ば)良かった」の「静かなら(ば)」はどうですか。P189	
	**	479	静かなら	AVL01+AVC7	「そこがそんなに静かなら、おれも住んでみたい」と言うときの「静かなら」はどうですか。090それでは、「そこがそんなに静かなら私も住んでみたい」と言うときの「静かなら」はどうですか。P171	
「になる」形	**	480	静かになる	AVL01+AVC8	それでは、「静かになる」はどうですか。P114	
否定・とりたて	*	481	静かではない	AVL01+AVC9		
推定	*	482	静からしい	AVL01+AVC11		
過去・推量	*	483	静かだったろう	AVL01+AVC12		
「で」形	*	484	静かで	AVL01+AVC13	それでは、「ここは、静かで空気も良い」と言うときの「静かで」はどうですか。P121	<ここは静かで、あそこはうるさい>
詠嘆・強調	*	485	静かね	AVL01+AVC14		<語幹+終助詞の用法を調べる>
疑問	*	486	静かか	AVL01+AVC15		<語幹+終助詞の用法を調べる>
接尾語「さ」への接続	*	487	静かさ・静けさ	AVL01+AVC16		
言い切り2	*	488	静か	AVL01+AVC17	それでは、「ここは静かだ」と言うときの「静かだ」はどうですか。P039	<「ここはもちろん静か」のように語幹言い切りの形の有無を調べる>

## C 資料

C-1には共通語をもとにした文法形(カテゴリー)のリストを掲げ、C-2には歴史的観点を規準にした動詞の語彙リストを掲げる。C-1は、文法形のリストとしているが、実際には、文法カテゴリーのリストである。動詞なら「書く」、形容詞なら「高い」、形容動詞なら「静かだ」をもとに具体的な文法形を掲げた。方言により諸種の助詞や助動詞が現れ、また、それぞれに応じた活用形が見られるであろう(また、中にはその方言で無効な文法カテゴリーもありえる)。それらを具体的に引き出すための材料である。

それぞれのリストに挙げた項目には次のようなカタログ名を与え、頭から順に番号によりコード化している。

## 文法形(C-1)

動詞(VC = Verbs Categorical catalogue)

形容詞(AC = Adjectives Categorical catalogue)

形容動詞(AVC = Adjetival Verbs Categorical catalogue)

## 語彙(C-2)

動詞(VL = Verbs Lexical catalogue)

形容詞(AL = Adjectives Lexical catalogue)

形容動詞(AVL = Adjetival Verbs Lexical catalogue)

ただし、語彙リストは今回は動詞のみを掲げている。

C-1とC-2を組み合わせることで具体的な文法形=項目(調査項目)が形成される。したがって、それぞれの項目はそれぞれのリストのコードの組み合わせで次のように指定することが可能である。

項目コード = 語彙コード + 文法形コード

動詞 = VL + VC

形容詞 = AL + AC

形容動詞 = AVL + AVC

Bの項目でこの具体的な適用を参照することができる(ただし、形容詞と形容動詞の語彙コードは暫定的な番号である)。なお、C-1とC-2のリストをもとにBの項目を作成しているためBとCには重複がある。

また、リストには最優先(\*\*)、優先(\*)を提示した(語彙リストは優先(\*)のみ)。

なお、本資料のうちC-1は、国立国語研究所旧言語変化研究部第1研究室が1984年に行った記述調査の調査票に依拠するところが大きい。また、小西いずみ氏より文法形と語彙の各データに追加的提供という形での協力を得た。

活用 C-1 文法形

対象品詞	優先度	文法形コード	カテゴリー等	文法形の例	文法形コメント	
動詞	**	VC1	否定	書かない		
	**	VC2	否定・とりたて	書きはしない	<カキヤーシナイ・カキヤーセン・カカヘン・カキヘンなどの有無>	
	**	VC3	言い切り	書く		
	**	VC4	連体	書く人	<時・事など他の体言をつけてもよい>	
	**	VC5	命令	書け	<カキナサイなどの形が出た時は命令形の有無を確かめる>	
	**	VC6	過去の「た」への接続	書いた		
	**	VC7	開始	書きはじめる		
	**	VC8	意思	書こう		
	**	VC9	推量1	書くだらう		
	**	VC10	受身	書かれる		
	**	VC11	使役	書かせる		
	**	VC12	使役・受身	書かせられる・書かされる		
	**	VC13	仮定1	書けば	<インクで書けばなかなか消えない・明日までに書けば間に合う、などいろいろな文例で調査しても「カイタラ」「カクト」「カクナラ」など別形しか出ない時は仮定形「～バ」の形の有無を確かめる>	
	**	VC14	仮定2	書くなら		
	*	VC15	将然	書きそうだ(カキヨ)	<今にも書きそうだ>	
	*	VC16	進行	書いている(カイトル)	<～しつつについても調べる>	
	*	VC17	存在・結果	書いている(カイツル)		
	*	VC18	存在・過去	書いてあった		
	*	VC19	完了	書いてしまう		
	*	VC20	過去・推量	書いただらう		
	*	VC21	禁止	書くな		
	*	VC22	可能	書ける	<カカレル・カクニイー・カキキル・カキエルなど、状況可能・能力可能、その他可能形全般を調べておく。カケルのような可能動詞しか用いない場合はその旨を記述する>	
	*	VC23	不可能	書けない	<可能動詞・能力可能・状況可能などに気を付ける>	
	*	VC24	中止法	書き	<手紙を書き、本を読む>	
			VC25	丁寧	書きます	
			VC26	否定・丁寧	書きません	
			VC27	命令・丁寧	書きなさい	
			VC28	依頼	書いてくれ	
			VC29	願望	書きたい	
			VC30	「ず」への接続	書かずに	
			VC31	同時進行1	書きながら	
			VC32	同時進行2	書き書き	<手紙を書き書き寝てしまう>
			VC33	目的	書きに	<書きに行く>
			VC34	並立	書いたり	<手紙を書いたり、本を読んだり>
			VC35	推量2	書くかもしれない	
			VC36	推定	書くらしい	
			VC37	様態	書くようだ	
			VC38	予定	書くつもりだ	
			VC39	打消意思・打消推量の「まい」への接続	書くまい	
			VC40	理由1	書くから	
			VC41	理由2	書くので	
			VC42	対比1	書くのに	<あの人はすぐ返事を書くのに、お前は書かない>

活用 C-1 文法形

対象品詞	優先度	文法形コード	カテゴリー等	文法形の例	文法形コメント	
動詞		VC43	疑問	書くか		
		VC44	強調	書くよ		
		VC45	詠嘆	書くなあ		
		VC46	準体助詞への接続	書くのだ・書くんだ		
		VC47	対比2	書けども	<書けども書けども終わらない>	
		VC48	逆接	書くけれども		
		VC49	勧誘	書こう	<いっしょに書こう>	
	形容詞	**	AC1	否定	高くない	
		**	AC2	言い切り	高い	
**		AC3	連体	高いもの	<「高い山」など他の体言をつけてもよい>	
**		AC4	過去	高かった		
**		AC5	「て」への接続	高くて		
**		AC6	「なる」への接続	高くなる		
**		AC7	推量1	高いだろう		
**		AC8	推量2	高かろう	<標準語の話し言葉では用いない形であるがタカカラー・タカイローなどの形の有無を見るためにこの形できいてみる>	
**		AC9	仮定1	高ければ		
**		AC10	仮定2	高いなら		
**		AC11	仮定3	高かったら		
*		AC12	様態	高そうだ	<あの山は高そうだ>	
*		AC13	否定・とりたて	高くはない		
*		AC14	中止法	高く	<あの山は高くこの山は低い>	
*		AC15	過去・推量	高かっただろう		
*		AC16	接尾語「さ」への接続	高さ		
		AC17	並立	高かったり	<高かったり、低かったり>	
		AC18	否定・丁寧	高くありません	<タコゴザイマセンなどの形の有無を調べる>	
		AC19	「ても」への接続	高くても	<高くてもかまわない>	
		AC20	逆接	高いけれども		
		AC21	推量3	高いかもしれない		
		AC22	推定	高いらしい		
		AC23	推量・否定	高くなかろう		
		AC24	理由1	高いから		
		AC25	理由2	高いので		
		AC26	対比	高いのに	<あの山は高いのに、この山は低い>	
		AC27	疑問	高いか		
		AC28	強調	高いよ		
		AC29	詠嘆	高いなあ		
		AC30	準体助詞への接続	高いのだ・高いんだ		
		AC31	命令	高かれ	<標準語の話し言葉にはないが、命令形の有無を調べる>	
		AC32	「する」への接続	高くする		
		AC33	動詞への接続一般	(高く上がる、高く見える…)		
形容動詞	**	AVC1	否定	静かでない		
	**	AVC2	言い切り1	静かだ		
	**	AVC3	連体	静かなところ		
	**	AVC4	過去	静かだった		
	**	AVC5	推量1	静かだろう		
	**	AVC6	仮定1	静かだったら		
	**	AVC7	仮定2	静かなら		
	**	AVC8	「になる」形	静かになる		
	*	AVC9	否定・とりたて	静かではない・静かじゃない		
	*	AVC10	推量2	静かかもしれない		

活用 C-1 文法形

対象品詞	優先度	文法形コード	カテゴリー等	文法形の例	文法形コメント
形容動詞	*	AVC11	推定	静からしい	
	*	AVC12	過去・推量	静かだったろう	
	*	AVC13	「で」形	静かで	<ここは静かで、あそこはうるさい>
	*	AVC14	詠嘆・強調	静かね・静かよ	<語幹＋終助詞の用法を調べる>
	*	AVC15	疑問	静かか	<語幹＋終助詞の用法を調べる>
	*	AVC16	接尾語「さ」への接続	静かさ・静けさ	
	*	AVC17	言い切り2	静か	<「ここはもちろん静か」のように語幹言い切りの形の有無を調べる>
		AVC18	様態	静かそうだ	<シズカソウダの形を用いない場合には「大丈夫そうだ」など、他の形について調べてみる>
		AVC19	並立	静かだったり	<静かだったり、うるさかったり>
		AVC20	否定・丁寧	静かではありません	
		AVC21	「でも」形	静かでも	<あまり静かでも困る>
		AVC22	理由1	静かだから	
		AVC23	強調	静かだよ	
		AVC24	詠嘆	静かなあ	
		AVC25	対比	静かなのに	<ここは静かなのに、あそこはうるさい>
		AVC26	理由2	静かなので	
		AVC27	準体助詞への接続	静かなのだ・静かなんだ	
		AVC28	逆接	静かだけれども	

## C-2. 動詞語彙リスト

### (1) 配列

- ①「活用の類」を優先している。
- ②上二段・下二段は、「語の長さ」「活用の行」の順で優先して配列した。
- ③四段は「活用の行」「語の長さ」の順で優先して配列した。

なお、活用の類の設定は、主としてデータソースの古典対照語彙表に従っている。

### (2) データソースは、以下のとおりである。

古典対照語彙表＝宮島達夫・中野洋・鈴木泰・石井久雄(1989)『フロッピー版古典対照語彙表』(笠間書院)

糸井＝糸井寛一(1964)「九重町方言の動詞の語形表」『大分大学学芸学部研究紀要』2-4  
(人文・社会科学) A集

金田一＝金田一春彦(1974)『国語アクセントの史的研究 原理と方法』(塙書房)

大西＝上記に対する大西の追加

小西＝上記に対する小西の追加

### (3) 古典対照語彙表の番号

データソース古典対照語彙表の収録語に頭から付した通し番号である。同じ作業を行えば、古典対照語彙表のデータとリンクすることが可能になる。

### (4) 漢字表記は、基本的にデータソースに従っている。この表記により、語の意味がおおまかに把握できるであろう。

### (5) アクセント類は、データソースの金田一に従う。

### (6) 俚言数は、『日本方言大辞典』の索引をもとにして次のように数えたものである。

- ①1語形1として算出した。
- ②見出しがあっても、親見出しがなく小見出しのみの語は0.5で算出した。したがって、数値に小数点以下の0.5という数字が現れている。
- ③空欄のものは未調査のものである。

この俚言数により、当該の語の意味に対応する方言語形が現れやすいかどうかの目安が得られるであろう。

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	1	きる	きる	着	上一	か	7409	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	7
	2	にる	にる	似		な	16352	I	古典対照語彙表・金田一	2
	3	にる	にる	煮			16353	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	19
	4	ひる	ひる	干		は	18372		古典対照語彙表・糸井	1
*	5	みる	みる	見		ま	20821	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	7.5
	6	いる	いる	射		や	2540		古典対照語彙表・糸井	2
	7	いる	いる	鏝			2542		古典対照語彙表	0
	8	いる	ゐる	居		わ	23462	I	古典対照語彙表・金田一	14
	9	ひきいる	ゐる	率			23463		古典対照語彙表	0
	10	もちいる	もちゐる	用			21275		古典対照語彙表	0.5
	11	かえりみる	かへりみる	顧		ま	6417		古典対照語彙表	2
	12	こころみる	こころみる	試			8587		古典対照語彙表	2
	13	いる	う	座		上二	わ	2598		古典対照語彙表
	14	いきる	いく	生	か		1453	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	1
*	15	おきる	おく	起			3913	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	5
	16	つきる	つく	尽			13975	I	古典対照語彙表・金田一	1
	17	よける	よく	避			22483		古典対照語彙表	8
	18	すぎる	すぐ	過	が		11594	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	3
	19	おちる	おつ	落	た		4147	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	0
	20	くちる	くつ	朽			7634	II	古典対照語彙表・金田一	10
	21	みちる	みつ	満			20524		古典対照語彙表・糸井	3
	22	とじる	とづ	閉	だ		14754	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	37
	23	ねじる	(ねづ)	捻づ					糸井	19
	24	はじる	はづ	恥			17186	II	古典対照語彙表・金田一	1
	25	よじる	よづ	攀			22627		古典対照語彙表	1
	26	しいる	しふ	強	は		10857	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	3
	27	あびる	あぶ	浴	ば		804		古典対照語彙表	9
	28	こびる	こぶ	媚			9074		古典対照語彙表	6
	29	さびる	さぶ	錆			9994		古典対照語彙表・糸井	10
	30	のびる	のぶ	延			16803	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	16.5
	31	わびる	わぶ	侘			23311	I	古典対照語彙表・金田一	4
	32	うらむ	うらむ	恨	ま		3600	II	古典対照語彙表・金田一	4
	33	しみる	しむ	凍			11016		古典対照語彙表	7
	34	おいる	おゆ	老	や		5233	II	古典対照語彙表・金田一	2
	35	くいる	くゆ	悔			7801	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	36	おりる	おる	下	ら		5269	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	2
	37	こりる	こる	懲			9270		古典対照語彙表	12
	38	みすぎる	みすぐ	見過	が		20377		古典対照語彙表	0
	39	みなぎる	みなぐ	見和			20619		古典対照語彙表	0
	40	あらびる	あらぶ	荒	ば		1155		古典対照語彙表	0
	41	ふるびる	ふるぶ	古			19020		古典対照語彙表	8
	42	ほろびる	ほろぶ	亡			19410	I	古典対照語彙表・金田一	0
	43	わかぶる	わかぶ	若			23101		古典対照語彙表	0
	44	わるびる	わるぶ	悪			23362		古典対照語彙表	1
	45	ゆきすぎる	ゆきすぐ	行過	が		22176		古典対照語彙表	0
	46	おとなぶる	おとなぶ	大人	ぼ		4200		古典対照語彙表	8
	47	おもひわびる	おもひわぶ	思侘			5149		古典対照語彙表	0
*	48	ける	ける	贖	下二	か	8226		古典対照語彙表・糸井	51
	49	える	う	得		あ	2599	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	50	でる	づ	出		だ	13845		古典対照語彙表	22
	51	ねる	ぬ	寝		な	16374	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	78
	52	へる	ふ	経		は	18438	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	53	みえる	みう	見得		あ	20200		古典対照語彙表	2

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
*	54	あける	あく	開・明	下二	か	156	I	古典対照語彙表・金田	8.5
	55	いける	いく	生			1454		古典対照語彙表	2
	56	うける	うく	受			2644	II	古典対照語彙表・糸井・金田	0.5
	57	かける	かく	掛			5646	II	古典対照語彙表・金田	3
	58	かける	かく	欠			5643	I	古典対照語彙表・金田	10
	59	さける	さく	離			9628		古典対照語彙表	7
	60	さける	さく	裂			9627		古典対照語彙表	24
	61	すける		透る					大西	2
	62	たける	たく	長			12795	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	63	つける	つく	着・付			13974		古典対照語彙表	5
	64	つける		浸る					大西	1
	65	とける	とく	解			14665	II	古典対照語彙表・金田	7
	66	とける	とく	溶			14663		古典対照語彙表	8
	67	なける	なく	泣			15472		古典対照語彙表	0
	68	ぬける	ぬく	抜			16413	I	古典対照語彙表・金田	8
	69	のける	のく	退			16664		古典対照語彙表	4
	70	ふける	ふく	更			18563	II	古典対照語彙表・金田	1
	71	ふける		老る					大西	1
	72	ぼける	ぼく	惚			19180	II	古典対照語彙表・金田	3
	73	まける	まく	負			19636	I	古典対照語彙表・金田	11
	74	むける	むく	向			20901		古典対照語彙表	0.5
	75	むける		剥る					大西	6
	76	やける	やく	焼			21771		古典対照語彙表	1
	77	わける	わく	分			23154	II	古典対照語彙表・金田	9
	78	あげる	あぐ	上		が	158	II	古典対照語彙表・金田	33
	79	こげる		焦る					大西	18
	80	さげる	さぐ	下			9630		古典対照語彙表	8
	81	つげる	つぐ	告			13978	I	古典対照語彙表・金田	14
	82	とげる	とぐ	遂			14668	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	83	なげる	なぐ	投			15473	II	古典対照語彙表・糸井・金田	67
	84	にげる	にぐ	逃			16108	II	古典対照語彙表・金田	25
	85	はげる	はぐ	剃			16977		古典対照語彙表	5
	86	はげる	はぐ	禿			16978		古典対照語彙表	9
	87	まげる	まぐ	曲			19639	I	古典対照語彙表・金田	24
	88	あせる	あす	浅・褪		さ	428		古典対照語彙表	7
	89	うせる	うす	失			2729	I	古典対照語彙表・金田	2
	90	きせる	きす	着			7125	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	91	にせる	にす	似			16210		古典対照語彙表	0.5
	92	のせる	のす	乗			16690	I	古典対照語彙表・金田	26
	93	はせる	はす	馳			17101		古典対照語彙表	0
	94	ふせる	ふす	臥			18647	II	古典対照語彙表・金田	3
	95	みせる	みす	見			20376	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	96	むせる	むす	咽			20952	I	古典対照語彙表・金田	1
	97	やせる	やす	瘦			21808	I	古典対照語彙表・金田	26
	98	よせる	よす	寄			22575	I	古典対照語彙表・糸井・金田	3
	99	まぜる	まぜ	混		ざ	19751		古典対照語彙表・糸井	22
	100	あてる	あつ	当		た	551	I	古典対照語彙表・金田	8
	101	すてる	すつ	捨			11765	I	古典対照語彙表・糸井・金田	95
	102	たてる	たつ	立			13085	II	古典対照語彙表・糸井・金田	0.5
	103	たてる		建る				II	大西	0.5
	104	はてる	はつ	果			17184	II	古典対照語彙表・金田	0
	105	いでの	いづ	出		だ	1781	II	古典対照語彙表・糸井・金田	22
	106	なでる	なづ	撫			15616	II	古典対照語彙表・金田	6

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	107	かねる	かぬ	兼・予	下二	な	6216	II	古典対照語彙表・金田 —	2
	108	はねる	はぬ	撥			17328	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5
	109	はねる		跳る				II	金田一・大西	8
	110	まねる	まぬ	真似			19958		古典対照語彙表	2
	111	あえる	あふ	合			801	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5
	112	おえる	をふ	終			23779	I	古典対照語彙表・金田 —	2
	113	かえる	かふ	換			6345	I	古典対照語彙表・糸井・ 金田一	0.5
	114	そえる	そふ	添			12396	I	古典対照語彙表・金田 —	1
	115	たえる	たふ	堪			13355	II	古典対照語彙表	13
	116	なえる	なふ	萎			15771		古典対照語彙表	3
	117	くべる	くぶ	焼			7727		古典対照語彙表	3
	118	たべる	たぶ	給・食			13357		古典対照語彙表	29
	119	のべる	のぶ	述			16805	II	古典対照語彙表・金田 —	1
	120	うめる	うむ	埋			3508	I	古典対照語彙表・金田 —	30
	121	きこむ	きこむ	着筈			7082		古典対照語彙表	0
	122	こめる	こむ	込			9154	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5
	123	さめる	さむ	覚			10054	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5
	124	しみる	しむ	染・泌			11015	I	古典対照語彙表・金田 —	7
	125	しめる	しむ	占・標			11013	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5
	126	しめる		閉る			大西	3		
	127	せめる	せむ	責・攻	12131	II	古典対照語彙表・金田 —	32		
	128	そめる	そむ	染	12413	I	古典対照語彙表・糸井・ 金田一	1		
	129	ためる	たむ	溜	13458	II	古典対照語彙表・金田 —	0.5		
	130	つめる		詰る			大西	6		
	131	とめる	とむ	止	14984		古典対照語彙表	2		
	132	とめる		泊る			大西	0.5		
	133	なめる	なむ	嘗	15902	II	古典対照語彙表・金田 —	26		
	134	ひめる	ひむ	秘	18276		古典対照語彙表	0		
	135	ほめる	ほむ	誉	19362	II	古典対照語彙表・金田 —	2		
	136	やめる	やむ	止	22074	I	古典対照語彙表・金田 —	12		
	137	あえる	あゆ	落	1044		古典対照語彙表	0.5		
	138	いえる	いゆ	癒	2466	II	古典対照語彙表・金田 —	1		
	139	きえる	きゆ	消	7324	I	古典対照語彙表・金田 —	4		
	140	こえる	こゆ	越	9206	I	古典対照語彙表・糸井・ 金田一	4		
	141	こえる	こゆ	肥	9205	II	古典対照語彙表・金田 —	2		
	142	さえる	さゆ	冴	10086	II	古典対照語彙表・金田 —	1		
	143	たえる	たゆ	絶	13485	II	古典対照語彙表・金田 —	3		
	144	はえる	はゆ	映	17470		古典対照語彙表	2		
	145	はえる	はゆ	生	17469		古典対照語彙表	28		
	146	ひえる	ひゆ	冷	18343		古典対照語彙表	4		
	147	ほえる	ほゆ	吠	19375	II	古典対照語彙表・糸井・ 金田一	14		
	148	みえる	みゆ	見	20808	II	古典対照語彙表・金田 —	2		
	149	もえる	もゆ	燃	21632	I	古典対照語彙表・金田 —	1		
	150	もえる	もゆ	萌	21631		古典対照語彙表	5		
	151	あれる	ある	荒	1250	I	古典対照語彙表・金田 —	5		
	152	いれる	いる	入	2538	I	古典対照語彙表・金田 —	14		
	153	おれる	をる	折	23837		古典対照語彙表	22		
	154	かれる	かる	枯・涸	6706	I	古典対照語彙表・金田 —	13		
	155	きれる		切る			大西	6		
	156	くれる	くる	暮・眩	7860	I	古典対照語彙表・金田 —	2		
	157	くれる	くる	与	7859	I	古典対照語彙表・金田 —	20		
	158	ずれる		摺る			大西	5		
	159	たれる	たる	垂	13527	II	古典対照語彙表・金田 —	21		

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナハ	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数	
	160	つれる	つる	連	下二	ら	14383		古典対照語彙表	6	
	161	なれる	なる	馴・慣			16044	II	古典対照語彙表・金田	—	2
	162	ぬれる	ぬる	濡			16460	I	古典対照語彙表・金田	—	19
	163	はれる	はる	晴			17533	II	古典対照語彙表・金田	—	3
	164	はれる	はる	腫			17534	I	古典対照語彙表・金田	—	5
	165	ふれる	ふる	触			18983		古典対照語彙表		34
	166	ほうる	はふる	放			17414		古典対照語彙表		35
	167	ほれる	ほる	惚			19399	I	古典対照語彙表・金田	—	3
	168	むれる	むる	群			21068		古典対照語彙表		1
	169	むれる		蒸る					大西		7
	170	もれる	もる	漏			21671	II	古典対照語彙表・金田	—	3
	171	ゆれる		揺る					大西		11
	172	われる	わる	割			23358		古典対照語彙表		12
	173	うえる	うう	植			2602	I	古典対照語彙表・糸井・金田	—	14
	174	うえる	うう	飢			2601	II	古典対照語彙表・金田	—	20
	175	すえる	すう	据			11504	I	古典対照語彙表・金田	—	10
	176	あずける	あづく	預			573	II	古典対照語彙表・金田	—	7
	177	いかける	いかく	沃掛			1375		古典対照語彙表		0
	178	おどける	おどく				4156		古典対照語彙表		61
	179	かまける	かまく	感			6447		古典対照語彙表		1
	180	くだける	くだく	碎			7565		古典対照語彙表		16
	181	さずける	さづく	授	9887	II	古典対照語彙表・金田	—	1		
	182	しかける	しかく	為掛	10301		古典対照語彙表		2		
	183	しらける	しらく	白	11282		古典対照語彙表		3		
	184	すすける	すすく	煤	11703		古典対照語彙表		6		
	185	そむける	そむく	背	12430		古典対照語彙表		0.5		
	186	たすける	たすく	助	12856	II	古典対照語彙表・金田	—	3		
	187	たむける	たむく	手向	13460		古典対照語彙表		0		
	188	つづける	つづく	続	14152		古典対照語彙表		0.5		
	189	なつける	なつく	懷	15625		古典対照語彙表		0		
	190	なづける	なづく	名付	15626		古典対照語彙表		0		
	191	はじける		弾る			大西		10		
	192	ひらける	ひらく	開	18353	II	古典対照語彙表・金田	—	0		
	193	ほどける		解る			大西		7		
	194	みつける	みつく	見付	20546		古典対照語彙表		5		
	195	もうける	まうく	設	19447	II	古典対照語彙表・金田	—	1		
	196	もうける		儲る			大西		7		
	197	かかげる	かかぐ	掲	5436		古典対照語彙表		1		
	198	ささげる	ささぐ	捧	9673	III	古典対照語彙表・金田	—	1		
	199	ひろげる	ひろぐ	拡	18388	I	古典対照語彙表・金田	—	29		
	200	みあげる	みあぐ	見上	20184		古典対照語彙表		1		
	201	あわせる	あはず	合	691	II	古典対照語彙表・金田	—	6		
	202	きかせる	きかす	聞	6850		古典対照語彙表		0		
	203	きかせる		利る			大西		0		
	204	しらせる	しらす	知	11289		古典対照語彙表		5		
	205	のぼせる	のぼす	上	16815		古典対照語彙表		13		
	206	まかせる	まかす	任	19514	II	古典対照語彙表・金田	—	0.5		
	207	あわてる	あわつ	慌	1286	I	古典対照語彙表・金田	—	97		
	208	したてる	したつ	仕立	10551		古典対照語彙表		0.5		
	209	へだてる	へだつ	隔	19096	II	古典対照語彙表・金田	—	3		
	210	みすてる	みすつ	見捨	20384		古典対照語彙表		0		
	211	みたてる	みたつ	見立	20428		古典対照語彙表		1		
	212	かなでる	かなづ	奏	6194	II	古典対照語彙表・金田	—	0		

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数			
	213	ひいでる	ひづ	秀	下二	だ	17962		古典対照語彙表	0.5			
	214	ふきでる	ふきいづ	吹出			18487		古典対照語彙表	0.5			
	215	もうでる	まうづ	詣			19491		古典対照語彙表	0.5			
	216	かさねる	かさぬ	重			な		5807	I	古典対照語彙表・金田	8	
	217	しかねる	しかぬ	為不堪					10313		古典対照語彙表	0	
	218	そこねる		損る							大西	0.5	
	219	たずねる	たづぬ	尋					13112	II	古典対照語彙表・糸井・金田	11	
	220	たずねる		訪る							大西	0.5	
	221	たばねる	たがぬ	束					12728		古典対照語彙表	31	
	222	つらねる	つらぬ	連					14363		古典対照語彙表	2	
	223	みかねる	みかぬ	見不堪					20273		古典対照語彙表	0.5	
	224	あたえる	あたふ	与					は		518	I	古典対照語彙表・金田
	225	うれえる	うれふ	憂		3656					II	古典対照語彙表・金田	0
	226	おさえる	おさふ	抑		3992					II	古典対照語彙表・金田	29
	227	おしえる	をしふ	教		23644					I	古典対照語彙表・糸井・金田	23
	228	かかえる	かかふ	抱		5449	III	古典対照語彙表・金田			2		
	229	かぞえる	かぞふ	数		5912	II	古典対照語彙表・金田			11		
	230	かなえる	かなふ	叶		6202	II	古典対照語彙表・金田			0		
	231	かまえる	かまふ	構		6456	II	古典対照語彙表・金田			1		
	232	きがえる	きかふ	着換		6853		古典対照語彙表			0		
	233	くわえる	くはふ	加		7696		古典対照語彙表			16		
	234	くわえる		衡る				大西			10		
	235	こたえる	こたふ	答		8743	II	古典対照語彙表・金田			3		
	236	ささえる	ささふ	支		9685	III	古典対照語彙表・金田	7				
	237	そろえる	そろふ	揃	12498		古典対照語彙表	6					
	238	たたえる	たたふ	湛	12914	II	古典対照語彙表・金田	0.5					
	239	たとえる	たとふ	譬	13204	II	古典対照語彙表・金田	9					
	240	つかえる	つかふ	仕	13901	I	古典対照語彙表・金田	6.5					
	241	つたえる	つたふ	伝	14104	I	古典対照語彙表・金田	0					
	242	となえる	となふ	唱	14793		古典対照語彙表	3					
	243	とらえる	とらふ	補	15058	III	古典対照語彙表・金田	53					
	244	ひかえる	ひかふ	控	17637		古典対照語彙表	1					
	245	まじえる	まじふ	交	19726	II	古典対照語彙表・金田	0					
	246	むかえる	むかふ	迎	20881	I	古典対照語彙表・金田	0.5					
	247	うかべる	うかぶ	浮	ば		2616	I	古典対照語彙表・金田	3			
	248	くらべる	くらぶ	比			7837	I	古典対照語彙表・糸井・金田	4			
	249	しらべる	しらぶ	調			11311	II	古典対照語彙表・金田	2			
	250	ならべる	ならぶ	並			15983	I	古典対照語彙表・金田	3			
	251	ゆるめる	ゆるぶ	緩	22411		古典対照語彙表	5					
	252	あかめる	あかむ	赤	ま		80		古典対照語彙表	0			
	253	あがめる	あがむ	崇			81	II	古典対照語彙表・金田	1			
	254	あつめる	あつむ	集			613	II	古典対照語彙表・金田	18			
	255	いさめる	いさむ	諫			1534		古典対照語彙表	1			
	256	いためる	いたむ	痛			1707		古典対照語彙表	3			
	257	いためる		炒る					大西	1			
	258	おさめる	おさむ	収・治・修			23629	II	古典対照語彙表・金田	12			
	259	かがめる	かがむ	屈			5460	I	古典対照語彙表・金田	3			
	260	かすめる	かすむ	震			5897		古典対照語彙表	6			
	261	かためる	かたむ	固			6027	I	古典対照語彙表・金田	1			
	262	からめる	からむ	搦			6647		古典対照語彙表	1			
	263	きよめる	きよむ	清			7368	II	古典対照語彙表・金田	2			
	264	きわめる	きはむ	極	7238	II	古典対照語彙表・金田	0.5					

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数		
	265	さだめる	さだむ	定	下二	ま	9868	II	古典対照語彙表・金田	0.5		
	266	しずめる	しづむ	鎮・沈			10678	II	古典対照語彙表・金田	—	14.5	
	267	しずめる		靜る						大西	0.5	
	268	すすめる	すすむ	勸・進			11723	I	古典対照語彙表・金田	—	3	
	269	そばめる	そばむ	側			12376		古典対照語彙表		0	
	270	たわめる	たわむ	撓			13544		古典対照語彙表		21	
	271	ちぢめる	つづむ	縮			14187		古典対照語彙表		6	
	272	つとめる	つとむ	勤・努			14207	II	古典対照語彙表・金田	—	4	
	273	つぼめる		荅る						大西	3	
	274	とがめる	とがむ	答			14602	II	古典対照語彙表・金田	—	4	
	275	とどめる	とどむ	止			14780	I	古典対照語彙表・金田	—	1	
	276	ながめる	ながむ	眺・詠			15335		古典対照語彙表		0.5	
	277	なだめる	なだむ	宥			15611	II	古典対照語彙表・金田	—	6	
	278	はじめる	はじめむ	始			17063	I	古典対照語彙表・金田	—	16	
	279	ひそめる	ひそむ	躡			17913		古典対照語彙表		0.5	
	280	ひろめる	ひろむ	広			18408	II	古典対照語彙表・金田	—	0	
	281	ふかめる	ふかむ	深			18477		古典対照語彙表		0	
	282	みそめる	みそむ	見初			20415		古典対照語彙表		0	
	283	みとめる	みとむ	求			20605		古典対照語彙表		0.5	
	284	めざめる	めざむ	目醒			21128		古典対照語彙表		7	
	285	もとめる	もとむ	求			21392	II	古典対照語彙表・金田	—	1	
	286	やすめる	やすむ	休			21826		古典対照語彙表		0	
	287	ゆがめる	ゆがむ	歪			22134		古典対照語彙表		1	
	288	あまえる	あまゆ	甘					955		古典対照語彙表	62
	289	おびえる	おびゆ	怯					4355		古典対照語彙表	5
	290	おぼえる	おぼゆ	覚					4811	II	古典対照語彙表・糸井・金田	0.5
	291	きこえる	きこゆ	聞					7083	I	古典対照語彙表・金田	2
	292	さかえる	さかゆ	榮					9556		古典対照語彙表	3
	293	そびえる	そびゆ	聳					12393		古典対照語彙表	1
	294	つひえる	つひゆ	弊					14251		古典対照語彙表	1
	295	とだえる	とだゆ	絶					14744		古典対照語彙表	0.5
	296	あきれる	あきる	呆					152	I	古典対照語彙表・金田	20
	297	あばれる	あばる	荒					726		古典対照語彙表	71
	298	あふれる	あふる						840	I	古典対照語彙表・金田	31
	299	うまれる	うまる	生					3485	I	古典対照語彙表・金田	5
	300	うもれる	うもる	埋					3520		古典対照語彙表	0
	301	おくれる	おくる	後					3943	I	古典対照語彙表・金田	7
	302	おそれる	おそる	恐			4101	II	古典対照語彙表・金田	23		
	303	おぼれる	おぼる	溺			4816		古典対照語彙表	42		
	304	かくれる	かくる	隠			5701	III	古典対照語彙表・金田	11		
	305	きなれる	きなる	来馴			7197		古典対照語彙表	0		
	306	きなれる	きなる	着馴			7198		古典対照語彙表	0		
	307	くずれる	くづる	崩			7643	II	古典対照語彙表・金田	79		
	308	けがれる	けがる	穢			8085	II	古典対照語彙表・金田	0.5		
	309	けずれる		削る					大西	0		
	310	こぼれる	こぼる	零・毀			9106	II	古典対照語彙表・金田	17		
	311	しおれる	しをる	萎			11431	I	古典対照語彙表・金田	57		
	312	しぐれる	しぐる	時雨			10371		古典対照語彙表	4		
	313	しなれる	しなる	為馴			10732		古典対照語彙表	2		
	314	じゃれる	ざる	戯			10126		古典対照語彙表	15		
	315	すぐれる	すぐる	優			11623	I	古典対照語彙表・金田	10		
	316	すたれる	すたる	靡			11755	I	古典対照語彙表・金田	2		
	317	たおれる	たふる	倒			13373	II	古典対照語彙表・金田	0		

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	318	ただれる	ただる	爛	下二	ら	12939	I	古典対照語彙表・金田	8
	319	ちぎれる		千切る					大西	4
	320	つかれる	つかる	疲			13910	II	古典対照語彙表・金田	65
	321	つぶれる	つぶる	潰			14259		古典対照語彙表	64
	322	ながれる	ながる	流			15383	II	古典対照語彙表・金田	2
	323	ねじれる		振る					大西	3
	324	のがれる	のがる	逃			16652		古典対照語彙表	0.5
	325	はずれる	はずる	外			17240	I	古典対照語彙表・金田	15
	326	はなれる	はなる	離			17313	II	古典対照語彙表・金田	13
	327	ふくれる	ふくる	脹			18584	I	古典対照語彙表・金田	55
	328	まぎれる	まぎる	紛			19618	II	古典対照語彙表・金田	3
	329	まくれる	まくる	眩			19661		古典対照語彙表	4
	330	みだれる	みだる	乱			20446	II	古典対照語彙表・金田	33
	331	みなれる	みなる	見馴			20660		古典対照語彙表	0
	332	やつれる	やつる	蹙			21885		古典対照語彙表	23
	333	やぶれる	やぶる	破			21924	II	古典対照語彙表・金田	59
	334	わかる	わかる	分			23113	II	古典対照語彙表・金田	6.5
	335	わすれる	わする	忘			23196	I	古典対照語彙表・糸井・金田	13
	336	ころえる	ころう	心得		あ	8498		古典対照語彙表	1
	337	いかける	いひかく	言掛		か	2193		古典対照語彙表	3
	338	うちとける	うちとく	解			3072		古典対照語彙表	0.5
	339	おしあける	おしあく	押開			3999		古典対照語彙表	0
	340	かきつける	かきつく	書付			5564		古典対照語彙表	0
	341	かたむける		傾る					大西	7
	342	ききつける	ききつく	聞付			6900		古典対照語彙表	0
	343	ことづける	ことづく	託			8848		古典対照語彙表	0
	344	ひっかける	ひきかく	引掛			17684		古典対照語彙表	6
	345	さまたげる	さまたぐ	妨		が	10043		古典対照語彙表	20
	346	ひきあげる	ひきあぐ	引上			17656		古典対照語彙表	0.5
	347	ひしゃげる	ひしぐ	拉			17885		古典対照語彙表	9
	348	まきあげる	まきあぐ	巻上			19583		古典対照語彙表	7
	349	もちあげる	もたぐ	持上			21249		古典対照語彙表	16
	350	きえうせる	きえうす	消失		さ	6835		古典対照語彙表	0
	351	とりよせる	とりよす	取寄			15192		古典対照語彙表	1
	352	ひきよせる	ひきよす	引寄			17824		古典対照語彙表	2
	353	みあわせる	みあはす	見合			20187		古典対照語彙表	3
	354	よびよせる	よびよす	呼寄			22703		古典対照語彙表	0.5
	355	かきませる	かきませ	書雑		ざ	5616		古典対照語彙表	25
	356	とりませる	とりませ	取雑			15173		古典対照語彙表	0.5
	357	とりたてる	とりたつ	取立		た	15125		古典対照語彙表	0.5
	358	ひきたてる	ひきたつ	引立			17737		古典対照語彙表	1
	359	ぬきんでる	ぬきづ	拔出		だ	16406		古典対照語彙表	3
	360	まちかねる	まちかぬ	待不堪		な	19806		古典対照語彙表	0.5
	361	うったえる	うたふ	訴		は	2806		古典対照語彙表	13
	362	おとろえる	おとろふ	衰			4232		古典対照語彙表	11
	363	こしらえる	こしらふ	拵			8684		古典対照語彙表	7
	364	したがえる		従る					大西	0
	365	ととのえる	ととのふ	整			14769		古典対照語彙表	4
	366	ながらえる	ながらふ	流・永			15377		古典対照語彙表	0
	367	なぞらえる	なぞらふ	準			15589		古典対照語彙表	0
	368	まちがえる	ちがふ	違			13607		古典対照語彙表	13
	369	わきまえる	わきまふ	弁			23145		古典対照語彙表	1
	370	あきらめる	あきらむ	明		ま	150		古典対照語彙表	5

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-キ-リス	俚言形数	
	371	あらためる	あらたむ	改	下二	ま	1120		古典対照語彙表	1	
	372	いましめる	いましむ	戒				2390		古典対照語彙表	12
	373	おとしめる	おとしむ	貶				4165		古典対照語彙表	7
	374	なぐさめる	なぐさむ	慰				15479		古典対照語彙表	3
	375	あこがれる	あくがる	憧			ら	161		古典対照語彙表	0
	376	あらわれる	あらはる	現				1143		古典対照語彙表	2
	377	うずもれる	うづもる	埋				3321		古典対照語彙表	0
	378	おしいれる	おしいる	押入				4011		古典対照語彙表	0.5
	379	おとずれる	おとづる	訪				4173		古典対照語彙表	2
	380	ききいれる	ききいる	聞入				6867		古典対照語彙表	0.5
	381	くみいれる	くみる	組入				7758		古典対照語彙表	1
	382	さしいれる	さしいる	差入				9732		古典対照語彙表	5
	383	たわむれる	たはぶる	戯				13306		古典対照語彙表	146
	384	とりいれる	とりいる	取入				15076		古典対照語彙表	1
	385	ひきいれる	ひきいる	引入				17669		古典対照語彙表	1
	386	ひきつれる	ひきつる	引連				17758		古典対照語彙表	0.5
	387	いいつづける	いひつづく	言続			か	2260		古典対照語彙表	1
	388	かきつづける	かきつづく	書続				5573		古典対照語彙表	0
	389	いきかせる	いひきかす	言聞			さ	2206		古典対照語彙表	5
	390	いいつたえる	いひつたふ	言伝			は	2258		古典対照語彙表	1
	391	ききつたえる	ききつたふ	聞伝				6902		古典対照語彙表	0
	392	かきあつめる	かきあつむ	書集			ま	5486		古典対照語彙表	0
	393	ひきとどめる	ひきとどむ	引止				17764		古典対照語彙表	2
	394	かけはなれる	かけはなる	掛離			ら	5753		古典対照語彙表	0.5
	395	さきみだれる	さきみだる	咲乱				9613		古典対照語彙表	2
	396	たちおくれる	たちおくる	立遅				12963		古典対照語彙表	1
	397	ちりみだれる	ちりみだる	散乱				13831		古典対照語彙表	1
	398	おもいつづける	おもひつづく	思続			か	5031		古典対照語彙表	0
	399	もうしつたえる	まうしつたふ	申伝			は	19473		古典対照語彙表	0
*	400	くる	く	来		カ変	か	7443	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	49
	401	できる	いでく	出来				1904		古典対照語彙表・糸井	11
	402	もってくる	もてく	持来				21305		古典対照語彙表	0
	403	しぬ	しす	死		サ変	さ	10483		古典対照語彙表	0
*	404	する	す	為				11501	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	19
	405	きする	きす	期				7126		古典対照語彙表	0
	406	こす	こす	鼓す						小西(国研動詞)	
	407	じする	じす	辞				10484		古典対照語彙表	0
	408	あいする	あいす	愛				11		古典対照語彙表	23
	409	がいする	がいす	害				5321		古典対照語彙表	0.5
	410	くっする	くつす	屈				7639		古典対照語彙表	2
	411	けっする	けつす	決				8170		古典対照語彙表	0.5
	412	せいする	せいす	制				11988		古典対照語彙表	0.5
	413	せいする	せいす	征				11989		古典対照語彙表	0
	414	たいする	たいす	対				12579		古典対照語彙表	0
	415	たくす	たくす	託す						小西	
	416	ようする	えうす	要				3703		古典対照語彙表	3
	417	やくす	やくす	訳す						小西	
	418	るいする	るゐす	類				22943		古典対照語彙表	0
	419	かせいする	(かせいす)	加勢す						糸井	0
	420	あんじる	あんず	案			ざ	1347		古典対照語彙表	4
	421	かんじる	かんず	感			6786		古典対照語彙表	1	
	422	こうずる	かうず	講			5393		古典対照語彙表	1	
	423	しんじる	しんず	信			11470		古典対照語彙表	0.5	

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-ソ-ス	俚言形数
	424	せんじる	(せんず)	煎ず	サ変	ざ			糸井	0.5
	425	そんじる	そんず	損			12508		古典対照語彙表・糸井	6
	426	ぞんずる	ぞんず	存			12510		古典対照語彙表	0
	427	ほうずる	ほうず	報			16910		古典対照語彙表	0
	428	めいずる	めいず	命			21085		古典対照語彙表	0.5
	429	ろんずる	ろんず	論			23041		古典対照語彙表	0
	430	きょうずる	きょうず	興			7341		古典対照語彙表	0.5
	431	りやくす	りやくす	略す		さ			小西(国研動詞)	
	432	いぬ	いぬ	往・去	ナ変	な	2047	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	0
*	433	しぬ	しぬ	死			10744	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	114
*	434	ある	あり	有	ラ変	ら	1177	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	3
	435	おる	をり	居			23801	X	古典対照語彙表・糸井・金田一	0
	436	あく	あく	開・明	四	か	155	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
*	437	いく	いく	行			1455	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	44
	438	うく	うく	浮			2645		古典対照語彙表	6
	439	おく	おく	置			3914	I	古典対照語彙表・金田一	11
*	440	かく	かく	書			5644	II	古典対照語彙表・金田一	1
	441	かく	かく	播			5647	II	古典対照語彙表・金田一	10
	442	かく	かく	欠			5642	I	古典対照語彙表・金田一	2
	443	きく	きく	聞			6945	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	1
	444	きく	きく	利			6944		古典対照語彙表	0
	445	こく	こく	扱			8434	II	古典対照語彙表・金田一	2
	446	さく	さく	咲			9625	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	1
	447	さく	さく	裂			9626	II	古典対照語彙表・金田一	27
	448	しく	しく	敷			10362	I	古典対照語彙表・金田一	2
	449	すく	すく	好			11589		古典対照語彙表	1
	450	すく	すく	透			11591	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	451	すく	すく	黎			11593	I	古典対照語彙表・金田一	1
	452	すく	すく	漣			11592		古典対照語彙表	0.5
	453	せく	せく	堰・塞			12067	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	0
	454	せく		急く					大西	4
	455	たく	たく	焚			12796	I	古典対照語彙表・金田一	5
	456	つく	つく	着・付			13973	II	古典対照語彙表・金田一	6.5
	457	つく	つく	突・吐・築			13976	I	古典対照語彙表・金田一	13
	458	つく	つく	浸			13977	I	古典対照語彙表・金田一	0
	459	とく	とく	解			14664	II	古典対照語彙表・金田一	16
	460	とく	とく	説			14666		古典対照語彙表	0
	461	とく	とく	溶			14662		古典対照語彙表	0
	462	なく	なく	泣・鳴			15471	I	古典対照語彙表・金田一	109
	463	ぬく	ぬく	貫・抜			16412	I	古典対照語彙表・金田一	2
	464	のく	のく	退			16663		古典対照語彙表	1
	465	はく	はく	佩・履			16974	I	古典対照語彙表・金田一	5
	466	はく	はく	掃			16975	II	古典対照語彙表・金田一	9
	467	はく		吐く					大西	16
	468	ひく	ひく	引			17833	I	古典対照語彙表・金田一	29
	469	ひく	ひく	弾			17834	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	470	ふく	ふく	吹			18562	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	1
	471	ふく	ふく	葺			18564	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	472	ふく		拭く					大西	5
	473	まく	まく	巻			19635	I	古典対照語彙表・金田一	12
	474	まく	まく	蒔			19638	II	古典対照語彙表・金田一	4
	475	むく	むく	向			20900	I	古典対照語彙表・金田一	0.5

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-タ-ソース	俚言形数
	476	むく		剥く	四	か			大西	0.5
	477	やく	やく	焼			21770	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	4
	478	わく	わく	湧			23155	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	479	わく		沸く					大西	4
	480	あきる	あく	飽			157	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	33
	481	あるく	あるく	歩			1254	III	古典対照語彙表・金田一	49
	482	いだく	いだく	抱			1660		古典対照語彙表	0.5
	483	うごく	うごく	動			2683	II	古典対照語彙表・金田一	23
	484	うめく	うめく	呻			3515		古典対照語彙表	9
	485	えがく	えがく	画			23486	II	古典対照語彙表・金田一	0
	486	かわく	かわく	乾			6753	II	古典対照語彙表・金田一	61
	487	くだく	くだく	砕			7564	II	古典対照語彙表・金田一	15
	488	そそぐ	そそぐ	注			12316	I	古典対照語彙表・金田一	1
	489	そむく	そむく	背・叛			12429	II	古典対照語彙表・金田一	2
	490	たたく	たたく	叩			12879	II	古典対照語彙表・金田一	0
	491	つづく	つづく	続			14151	I	古典対照語彙表・金田一	2
	492	なげく	なげく	歎			15536	II	古典対照語彙表・金田一	7
	493	なつく	なつく	懐			15624	II	古典対照語彙表・金田一	7
	494	なびく	なびく	靡			15768	II	古典対照語彙表・金田一	1
	495	のぞく	のぞく	覗			16694	I	古典対照語彙表・金田一	5
	496	のぞく		除く					大西	4
	497	はじく	はじく	弾			17038	II	古典対照語彙表・金田一	1
	498	はぶく	はぶく	省			17404		古典対照語彙表	3
	499	ひびく	ひびく	響			18259	II	古典対照語彙表・金田一	3
	500	ひらく	ひらく	開			18352	II	古典対照語彙表・金田一	10
	501	ふぶく	ふぶく	乱吹			18845		古典対照語彙表	1
	502	ほどく	ほどく	解			19273		古典対照語彙表	16
	503	まねく	まねく	招			19966	II	古典対照語彙表・金田一	4
	504	みがく	みがく	磨			20259	I	古典対照語彙表・金田一	4
	505	わめく	あめく	叫			987		古典対照語彙表	16
	506	あざむく	あざむく	欺			331		古典対照語彙表	40
	507	いいおく	いひおく	言置			2179		古典対照語彙表	0
	508	いきつく	いきつく	行着			1433		古典対照語彙表	0.5
	509	いろづく	いろづく	色付			2571		古典対照語彙表	3
	510	おどろく	おどろく	驚			4231		古典対照語彙表	91
	511	おもむく	おもむく	赴			5205		古典対照語彙表	0
	512	かがやく	かがやく	輝			5469		古典対照語彙表	1
	513	かきおく	かきおく	書置			5507		古典対照語彙表	0
	514	かたむく	かたぶく	傾			6011		古典対照語彙表	22
	515	くれゆく	くれゆく	暮行			7909		古典対照語彙表	0
	516	さしおく	さしおく	差置			9734		古典対照語彙表	0
	517	しりぞく	しぞく	退			10493		古典対照語彙表	56
	518	すぎゆく	すぎゆく	過行			11585		古典対照語彙表	0
	519	すみつく	すみつく	住着			11855		古典対照語彙表	0.5
	520	たちのく	たちのく	立退			13033		古典対照語彙表	0
	521	たなびく	たなびく	棚引			13237		古典対照語彙表	1
	522	ちかづく	ちかづく	近付			13599		古典対照語彙表	1
	523	つぶやく	つぶやく	呟			14257		古典対照語彙表	13
	524	ときめく	ときめく	時			14652		古典対照語彙表	0
	525	ふけゆく	ふけゆく	更行			18595		古典対照語彙表	0
	526	ほのめく	ほのめく	仄			19325		古典対照語彙表	1
	527	みあきる	みあく	見飽			20183		古典対照語彙表	1
	528	みちびく	みちびく	導			20505		古典対照語彙表	0.5

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数	
	529	わななく	わななく	慄	四	か	23287		古典対照語彙表	0	
	530	うちたたく	うちたたく	叩			3035		古典対照語彙表	13	
	531	たづねきく	たづねきく	尋聞			13129		古典対照語彙表	0	
	532	つたえきく	つたへきく	伝聞			14107		古典対照語彙表	0	
	533	ひきつづく	ひきつづく	引続			17751		古典対照語彙表	0.5	
	534	かぐ	かぐ	嗅			が	5652	I	古典対照語彙表・金田	9
	535	こぐ	こぐ	漕				8435	II	古典対照語彙表・金田	4
	536	そぐ	そぐ	削				12271		古典対照語彙表	8
	537	つぐ	つぐ	継・次				13979	I	古典対照語彙表・金田	0.5
*	538	とぐ	とぐ	研				14667	II	古典対照語彙表・金田	4
	539	ぬぐ	ぬぐ	脱		16414		II	古典対照語彙表・金田	3	
	540	あえぐ	あへぐ	喘		845			古典対照語彙表	3	
	541	あおぐ	あふぐ	仰		811			古典対照語彙表	29	
	542	いそぐ	いそぐ	急		1627		II	古典対照語彙表・糸井・金田	55	
	543	およぐ	およぐ	泳		5234		II	古典対照語彙表・糸井・金田	12	
	544	さわぐ	さわぐ	騒		10157	II	古典対照語彙表・糸井・金田	84		
	545	しのぐ	しのぐ	凌		10748	II	古典対照語彙表・金田	2		
	546	すすぐ	すすぐ	濯		11704	I	古典対照語彙表・金田	2		
	547	そよぐ	そよぐ	戰		12451		古典対照語彙表	0		
	548	つなぐ	つなぐ	繫		14211	I	古典対照語彙表・金田	13		
	549	ふさぐ	ふたぐ	塞	18688	I	古典対照語彙表・金田	11			
	550	ふせぐ	ふせぐ	防	18661	II	古典対照語彙表・金田	1			
	551	ゆらぐ	ゆるぐ	揺	22395		古典対照語彙表	6			
	552	とりつぐ	とりつぐ	取次	15134		古典対照語彙表	15			
	553	はなやぐ	はなやぐ	華	17310		古典対照語彙表	0			
	554	かたりつぐ	かたりつぐ	語継	6080		古典対照語彙表	0			
	555	おす	おす	押	さ	4085	I	古典対照語彙表・糸井・金田	24		
	556	かす	かす	貸		5876	I	古典対照語彙表・糸井・金田	10		
	557	けす	(けす)	消す			I	糸井・金田	12		
	558	こす	こす	越		8695	I	古典対照語彙表・金田	1		
	559	こす		瀆す				大西	2		
	560	さす	さす	指・点		9831	II	古典対照語彙表・金田	2		
	561	さす	さす	刺・挿		9829	II	古典対照語彙表・金田	17		
	562	さす	さす	照・射		9832		古典対照語彙表	0.5		
	563	たす	たす	足す				小西(国研動詞)			
*	564	だす	いだす	出		1675		古典対照語彙表・糸井	5		
	565	なす	なす	為		15582	II	古典対照語彙表・金田	7		
	566	のす	のす	伸す				小西			
	567	ふす	ふす	臥		18646	II	古典対照語彙表・金田	9		
	568	へす	へす	圧・減す		19085		古典対照語彙表・小西			
	569	ほす	ほす	干		19228	II	古典対照語彙表・糸井・金田	11		
	570	ます	ます	増		19750	I	古典対照語彙表・金田	3		
	571	むす	むす	生		20951		古典対照語彙表	0		
	572	むす		蒸す				大西	27		
	573	めす	めす	召		21158	II	古典対照語彙表・金田	0		
	574	もす	もす	燃す				小西(国研動詞)			
	575	よす	よす	止す			小西				
	576	あかす	あかす	明	53	I	古典対照語彙表・金田	0.5			
	577	あます	あます	余	887	II	古典対照語彙表・金田	2			
	578	あやす	あやす	あやす			小西(国研動詞)				
	579	あわす	あはす	合わす			小西				
	580	あらす	あらす	荒	1094	I	古典対照語彙表・金田	2			

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	581	いかす	いかす	生かす・活かす	四	さ			小西(国研動詞)	
	582	いぶす	いぶす	熾す					小西	
	583	いたす	いたす	致			1674	I	古典対照語彙表・金田	0
	584	いやす	いやす	癒			2462	II	古典対照語彙表・金田	1
	585	うつす	うつす	移・映・写			3290	II	古典対照語彙表・金田	11
	586	おかす	をかす	犯			23572	I	古典対照語彙表・金田	1
	587	おこす	おこす	起			3952	II	古典対照語彙表・金田	4
	588	おとす	おとす	落			4171	II	古典対照語彙表・金田	59
	589	おどす	おどす	威			4172	I	古典対照語彙表・金田	12
	590	おわす	おはす	在			4290		古典対照語彙表・小西	
	591	おろす	おろす	下			5283	II	古典対照語彙表・金田	2
	592	かえす	かへす	返			6373	II	古典対照語彙表・金田	2
	593	かくす	かくす	隠			5674	III	古典対照語彙表・糸井・金田	16
	594	かざす	かざす	挿頭			5799		古典対照語彙表	0.5
	595	かもす	かもす	醸す					小西(国研動詞)	
	596	からす	からす	枯			6630	I	古典対照語彙表・金田	4
	597	かわす	かはす	交			6268		古典対照語彙表	0.5
	598	きかす		聞す					大西	2
	599	きかす		利す					大西	2
	600	きたす	きたす	来す					小西(国研動詞)	
	601	きらす	きらす	切らす					小西	
	602	くずす	くづす	崩			7640	II	古典対照語彙表・金田	25
	603	くだす	くだす	下			7575	I	古典対照語彙表・金田	2
	604	くらす	くらす	暮			7825	I	古典対照語彙表・金田	6
	605	けがす	けがす	穢			8081		古典対照語彙表	0
	606	けなす	けなす	貶す					小西(国研動詞)	
	607	こがす	こがす	焦			8364		古典対照語彙表	10
	608	こなす	こなす	こなす					小西	
	609	こぼす	こぼす	零			9090	II	古典対照語彙表・金田	27
	610	こやす	こやす	肥			9200		古典対照語彙表	0
	611	こらす	こらす	懲・凝らす			9219	II	古典対照語彙表・金田・小西	15
	612	ころす	ころす	殺			9298	I	古典対照語彙表・金田	12
	613	こわす	こわす	壊す					小西(国研動詞)	
	614	さがす	さがす	搜			9531	I	古典対照語彙表・金田	59
	615	さとす	さとす	論			9906	I	古典対照語彙表・金田	1
	616	さます	さます	覚・冷			10042		古典対照語彙表	4
	617	さらす	さらす	曝・晒			10104	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	618	しめす	しめす	示			11022		古典対照語彙表	0.5
	619	しるす	しるす	記			11382	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	620	すかす	すかす	透			11521		古典対照語彙表	0.5
	621	すごす	すごす	過			11654	II	古典対照語彙表・金田	1
	622	すます	すます	澄			11822	II	古典対照語彙表・金田	2
	623	すます		濟す					大西	3
	624	ずらす	ずらす	ずらす					小西(国研動詞)	
	625	そらす	そらす	逸			12464		古典対照語彙表	2
	626	たおす	たふす	倒			13362	II	古典対照語彙表・金田	58
	627	ただす	ただす	正			12890	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	628	だます	だます	騙す					小西	
	629	ためす	(ためす)	試す					糸井	2
	630	たやす		絶す					大西	1
	631	たらす		垂す					大西	6

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	632	ちらす	ちらす	散	四	さ	13803	I	古典対照語彙表・金田 -	10
	633	つくす	つくす	尽			13989	I	古典対照語彙表・金田 -	0.5
	634	つぶす	つぶす	潰			14252		古典対照語彙表	27
	635	つるす	つるす	吊るす					小西	
	636	てらす	てらす	照			14480		古典対照語彙表	0
	637	とおす	とほす	通			14928	II	古典対照語彙表・金田 -	1
	638	とがす	とがす	溶かす					小西(国研動詞)	
	639	どかす	どかす	退かす					小西(国研動詞)	
	640	とがす	さす	鎖・閉			9830		古典対照語彙表	5
	641	とばす	とばす	飛			14836	I	古典対照語彙表・金田 -	3
	642	ともす	ともす	灯・点			15017		古典対照語彙表	2
	643	なおす	なほす	直			15789	II	古典対照語彙表・金田 -	2.5
	644	なかす		泣す					大西	8
	645	ながす	ながす	流			15289	II	古典対照語彙表・金田 -	1
	646	なくす	なくす	無くす ・亡くす					小西(国研動詞)	
	647	なめす	なめす	なめす					小西	
	648	ならす	ならす	馴			15955		古典対照語彙表	0.5
	649	ならす	ならす	鳴			15956	I	古典対照語彙表・金田 -	0.5
	650	ならす	ならす	平			15954		古典対照語彙表	9
	651	にがす	にがす	逃			16089		古典対照語彙表	6
	652	ぬかす	ぬかす	抜かす					小西(国研動詞)	
	653	ぬがす		脱がす					小西	
	654	ぬらす	ぬらす	濡			16454	I	古典対照語彙表・金田 -	4
	655	ねがす	ねがす	根差す					小西	
	656	のかす		退かす					小西(国研動詞)	
	657	のがす		逃す					大西	2
	658	のこす	のこす	残			16672	II	古典対照語彙表・金田 -	0.5
	659	のばす		延す					大西	6
	660	のめす	のめす	のめす					小西	
	661	はがす		剥す					大西	10
	662	ばかす	ばかす	化かす					小西	
	663	はずす	はずす	外			17214	I	古典対照語彙表・金田 -	5
	664	はたす	はたす	果			17126	II	古典対照語彙表・金田 -	0.5
	665	はなす		離す					大西	1
	666	はなす	はなす	話す					小西(国研動詞)	
	667	はやす	はやす	映・囁			17454		古典対照語彙表	2
	668	はやす		生す					大西	1
	669	はらす		腫す					大西	0
	670	はらす	はらす	晴らす					小西	
	671	ばらす	ばらす	ばらす					小西(国研動詞)	
	672	ひたす	ひたす	浸			17927	II	古典対照語彙表・金田 -	4
	673	ひやす	ひやす	冷			18340		古典対照語彙表・糸井	2
	674	ふかす	ふかす	更			18471		古典対照語彙表	0
	675	ふかす		蒸す					大西	3
	676	ふやす	ふやす	増やす					小西(国研動詞)	
	677	へらす		減らす					大西	13
	678	ほかす	ほかす	放			16931		古典対照語彙表	0
	679	ほぐす	ほぐす	解す					小西(国研動詞)	
	680	まかす	まかす	任す					小西(国研動詞)	
	681	まわす	まはす	廻			19987		古典対照語彙表	3
	682	みたす	みたす	満たす					小西(国研動詞)	
	683	みだす	みだす	乱			20424		古典対照語彙表	4

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	684	みなす	みなす	見為	四	さ	20623		古典対照語彙表	0
	685	めざす	めざす	目指す ・目差す					小西(国研動詞)	
	686	もうす	まうす	申			19489	II	古典対照語彙表・金田 -	3
	687	もどす	(もどす)	戻す					糸井	6
	688	もやす	もやす	燃			21629		古典対照語彙表	5
	689	もらす	もらす	漏			21643	II	古典対照語彙表・金田 -	7
	690	やつす	やつす	蹶			21878	II	古典対照語彙表・金田 -	0.5
	691	やどす	やどす	宿す			21892		古典対照語彙表・小西	
	692	ゆらす		揺す					大西	1
	693	ゆるす	ゆるす	許			22406	II	古典対照語彙表・金田 -	6
	694	よこす	よこす	寄越す					小西(国研動詞)	
	695	よごす	よごす	汚す					小西(国研動詞)	
	696	わかす	わかす	沸			23085	I	古典対照語彙表・金田 -	5
	697	わたす	わたす	渡			23225	I	古典対照語彙表・金田 -	8
	698	あらわす	あらはす	表			1141		古典対照語彙表	2
	699	いいだす	いひいだす	言出			2170		古典対照語彙表	4
	700	いからす	いからす	怒らす					小西	
	701	うごかす	うごかす	動			2678		古典対照語彙表	7
	702	うつぶす	うつぶす	俯			3311		古典対照語彙表・小西 (国研動詞)	
	703	うながす	うながす	促す					小西(国研動詞)	
	704	おくらす	おくらす	遅らす ・後らす					小西	
	705	かよわす	かよはす	通			6581		古典対照語彙表	0
	706	からます	からます	絡ます					小西	
	707	かわかす	かわかす	乾かす					小西(国研動詞)	
	708	くゆらす	くゆらす	燻らす					小西(国研動詞)	
	709	くらます	くらます	晦ます ・暗ます					小西	
	710	くるわす		狂す					大西	0
	711	ころがす	ころがす	転がす					小西	
	712	ころばす	ころばす	転ばす					小西	
	713	さしだす	さしだす	差出			9724		古典対照語彙表	10
	714	さわがす	さわがす	騒			10143		古典対照語彙表	1
	715	しでかす	しでかす	仕出かす					小西(国研動詞)	
	716	すべらす		滑す					大西	3
	717	たがやす	たがやす	耕す					小西(国研動詞)	
	718	ついやす	ついやす	費やす					小西	
	719	つかわす	つかはす	遣			13893		古典対照語彙表	1
	720	でくわす	でくはす	出くわす					小西(国研動詞)	
	721	とりなす	とりなす	取為			15149		古典対照語彙表	0.5
	722	なびかす	なびかす	靡かす					小西	
	723	なやます	なやます	悩			15915		古典対照語彙表	3
	724	におわす	にほはす	匂			16296		古典対照語彙表	6
	725	ひれふす	ひれふす	平伏す					小西(国研動詞)	
	726	ふやかす	ふやかす	ふやかす					小西	
	727	ふくらす		膨す					大西	3
	728	ほどこす	ほどこす	施す					小西(国研動詞)	
	729	ほろぼす		亡す					大西	0
	730	まぎらす	まぎらす	紛らす					小西	
	731	まとわす	まとはす	纏わす					小西	
	732	まどわす	まどはす	惑			19907		古典対照語彙表	2

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	733	みいだす	みいだす	見出	四	さ	20195		古典対照語彙表	1
	734	みかわす	みかはす	見交			20276		古典対照語彙表	0
	735	みすぐす	みすぐす	見過			20380		古典対照語彙表	0
	736	みなおす	みなほす	見直			20642		古典対照語彙表	2
	737	みわたす	みわたす	見渡			20836		古典対照語彙表	0
	738	めぐらす		廻す					大西	0.5
	739	もたらす	もたらす	もたらす					小西(国研動詞)	
	740	もてなす	もてなす	為			21338		古典対照語彙表	6
	741	もよおす	もよほす	催			21641		古典対照語彙表	1
	742	ゆるがす	ゆるがす	揺るがす					小西	
	743	あまやかす	あまやかす	甘やかす					小西	
	744	いいかわす	いひかはす	言交			2200		古典対照語彙表	0
	745	うちかえす	うちかへす	返			2931		古典対照語彙表	0.5
	746	おくらかす	おくらかす	後らかす					小西	
	747	おどろかす	おどろかす	驚			4219		古典対照語彙表	25
	748	おびやかす	おびやかす	脅かす					小西(国研動詞)	
	749	おもいだす		思い出す					大西	18
	750	かがやかす	かがやかす	輝かす					小西	
	751	かきならす	かきならす	掻鳴			5595		古典対照語彙表	0
	752	かどわかす	かどわかす	かどわかす					小西	
	753	ききすぐす	ききすぐす	聞過			6896		古典対照語彙表	0
	754	くつがえす	くつがへす	覆す					小西	
	755	こころざす	こころざす	志			8533		古典対照語彙表	0
	756	そそのかす	そそのかす	唆			12327		古典対照語彙表	37
	757	たぶらかす	たぶらかす	たぶらかす					小西	
	758	ときめかす	ときめかす	ときめかす					小西(国研動詞)	
	759	とどろかす	とどろかす	轟かす					小西	
	760	とりかえす	とりかへす	取返			15101		古典対照語彙表	4
	761	ひきかえす	ひきかへす	引返			17693		古典対照語彙表	2
	762	ひけらかす	ひけらかす	ひけらかす					小西	
	763	ひるがえす	ひるがへす	翻す					小西	
	764	ふくらます		膨す					大西	3
	765	ほころばす	ほころばす	綻ばす					小西(国研動詞)	
	766	ほのめかす	ほのめかす	仄			19322		古典対照語彙表	1
	767	まぎらわす	まぎらわす	紛			19617		古典対照語彙表	0
	768	もてあます	もてあます	持て余す					小西(国研動詞)	
	769	もてはやす	もてはやす	映			21348		古典対照語彙表	1
	770	わずらわす	わずらはす	煩わす					小西(国研動詞)	
	771	おもいおこす	おもひおこす	思起			4920		古典対照語彙表	0
	772	おもいかえす	おもひかへす	思返			4943		古典対照語彙表	0
	773	おもいなおす	おもひなほす	思直			5061		古典対照語彙表	0
	774	おもいのこす	おもひのこす	思残			5070		古典対照語彙表	0
	775	おもいめぐらす	おもひめぐらす	思廻			5119		古典対照語彙表	0
	776	うつ	うつ	打			3261	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	0
	777	かつ	かつ	勝			6115	II	古典対照語彙表・金田	7
	778	たつ	たつ	立			13084	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	2
	779	たつ	たつ	断			13086	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	780	たつ		建つ					大西	2
*	781	まつ	まつ	待			19838	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	3

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバー	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	782	みつ	みつ	満	四	た	20523		古典対照語彙表	0.5
	783	もつ	もつ	持			21277	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	16
	784	うがつ	うがつ	穿			2609	II	古典対照語彙表・金田一	2
	785	すだつ	すだつ	巢立			11754		古典対照語彙表	0
	786	たもつ	たもつ	保			13477		古典対照語彙表	5
	787	はなつ	はなつ	放			17286	II	古典対照語彙表・金田一	2
	788	わかつ	わかつ	分			23089	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	789	おりたつ	おりたつ	下立			5257		古典対照語彙表	0
	790	さきだつ	さきだつ	先立			9592		古典対照語彙表	0
	791	とりもつ	とりもつ	取持			15184		古典対照語彙表	2
	792	はらだつ	はらだつ	腹立			17489		古典対照語彙表	0
	793	ひきたつ	ひきたつ	引立つ					大西	0.5
	794	おもいたつ	おもひたつ	思立			5017		古典対照語彙表	4
	795	もみづ	もみづ	紅葉		だ	21592		古典対照語彙表	0
	796	あう	あふ	合・逢		は	800	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	32
*	797	いう	いふ	言			2326	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	42
	798	おう	おふ	負			4362		古典対照語彙表	13
	799	おう	おふ	追			4363	I	古典対照語彙表・金田一	24
	800	かう	かふ	飼			6347	II	古典対照語彙表・金田一	8
*	801	かう	かふ	買			6346	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	6
	802	くう	くふ	食			7725	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	10
	803	こう	こふ	乞			9073	II	古典対照語彙表・金田一	2
	804	こう	こふ	恋			9071		古典対照語彙表	0
	805	すう	すふ	吸			11798	I	古典対照語彙表・金田一	20
	806	そう	そふ	添			12395	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	807	とう	とふ	問			14897	I	古典対照語彙表・金田一	1
	808	ぬう	ぬふ	縫			16449	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	8
	809	はう	はふ	這			17397	II	古典対照語彙表・金田一	31
	810	まう	まふ	舞			20010	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	5
	811	ゆう	ゆふ	結			22301	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	13
	812	よう	ゑふ	酔			23519	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	24
	813	あらう	あらふ	洗			1153	I	古典対照語彙表・金田一	2
	814	いこう	いこふ	息			1505	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	815	いとう	いとふ	厭			1979	II	古典対照語彙表・金田一	0.5
	816	いわう	いはふ	祝・斎			2135	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	0.5
	817	うたう	うたふ	歌			2807	I	古典対照語彙表・糸井・金田一	3
	818	うばう	うばふ	奪			3414	II	古典対照語彙表・金田一	14
	819	おおう	おほふ	覆			4744		古典対照語彙表	3
	820	おそう	おそふ	圧			4097		古典対照語彙表	0.5
	821	おもう	おもふ	思			5153	II	古典対照語彙表・糸井・金田一	1
	822	かこう	かこふ	囲			5786	I	古典対照語彙表・金田一	1
	823	かなう	かなふ	叶			6201	II	古典対照語彙表・金田一	1
	824	かよう	かよふ	通			6591	I	古典対照語彙表・金田一	1
	825	きそう	きほふ	競			7268		古典対照語彙表	6
	826	きらう	きらふ	嫌			7379	I	古典対照語彙表・金田一	6
	827	くらう	くらふ	食			7835	I	古典対照語彙表・金田一	1
	828	くるう	くるふ	狂			7875	II	古典対照語彙表・金田一	6
	829	さそう	さそふ	誘			9847		古典対照語彙表	18
	830	しあう	しあふ	為合			10275		古典対照語彙表	0
	831	したう	したふ	慕			10577	I	古典対照語彙表・金田一	7
	832	しなう	しなふ	撓			10727		古典対照語彙表	24
	833	すくう	すくふ	救			11617	I	古典対照語彙表・金田一	0.5
	834	すくう		擲う					大西	4

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	835	すまう	すまふ	住	四	は	11831		古典対照語彙表	0
	836	そろう	そろふ	揃			12497		古典対照語彙表	4
	837	たがう	たがふ	違			12744	II	古典対照語彙表・金田	0
	838	ちかう	ちかふ	誓			13605	I	古典対照語彙表・金田	1
	839	ちがう	ちがふ	違			13606	I	古典対照語彙表・金田	4
	840	つかう	つかふ	使			13902	I	古典対照語彙表・金田	3
	841	つどう	つどふ	集			14205	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	842	という	てふ				14470		古典対照語彙表	0
	843	ならう	ならふ	習・慣			15980	II	古典対照語彙表・金田	1.5
	844	にあう	にあふ	似合			16086		古典対照語彙表・糸井	21
	845	におう	にほふ	匂			16315	II	古典対照語彙表・金田	6
	846	になう	になふ	荷			16235	II	古典対照語彙表・金田	29
	847	ぬぐう	のごふ	拭			16677	II	古典対照語彙表・金田	3
	848	ねがう	ねがふ	願			16510	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	849	ねらう	ねらふ	狙			16604		古典対照語彙表	14
	850	のろう	のろふ	呪			16874		古典対照語彙表	5
	851	はらう	はらふ	払			17505	II	古典対照語彙表・金田	2
	852	ひろう	ひろふ	拾			18405	I	古典対照語彙表・金田	12
	853	ふるう	ふるふ	震・篩			19019	I	古典対照語彙表・金田	7
	854	まとう	まとふ	纏			19933		古典対照語彙表	7
	855	まどう	まどふ	惑			19934	II	古典対照語彙表・金田	4
	856	まよう	まよふ	迷			20082	II	古典対照語彙表・金田	18
	857	むかう	むかふ	向			20880	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	858	やとう	やとふ	雇			21895	II	古典対照語彙表・金田	1
	859	よそう		装う					大西	1
	860	よばう	よばふ	呼			22669		古典対照語彙表	0
	861	わらう	わらふ	笑			23347	I	古典対照語彙表・糸井・金田	3
	862	あつかう	あつかふ	扱			566		古典対照語彙表	5
	863	あらがう	あらがふ	争・諍			1080		古典対照語彙表	0
	864	あらそう	あらそふ	争			1106		古典対照語彙表	0.5
	865	いいあう	いひあふ	言合			2164		古典対照語彙表	0.5
	866	いきかう	ゆきかふ	行交			22159		古典対照語彙表	0
	867	いぎなう	いぎなふ	誘			1529		古典対照語彙表	0
	868	うかがう	うかがふ	窺			2608		古典対照語彙表	6
	869	うしなう	うしなふ	失			2698		古典対照語彙表	27
	870	うたがう	うたがふ	疑			2784		古典対照語彙表	4
	871	うちあう	うちあふ	合			2835		古典対照語彙表	0
	872	うつろう	うつろふ	移			3349		古典対照語彙表	0
	873	おこなう	おこなふ	行			3981		古典対照語彙表	7
	874	かたらう	かたらふ	語			6065		古典対照語彙表	0.5
	875	さからう	さかふ	逆			9545		古典対照語彙表	22
	876	したがう	したがふ	従			10520		古典対照語彙表	1
	877	そこなう	そこなふ	傷			12288		古典対照語彙表	4
	878	ただよう	ただよふ	漂			12935		古典対照語彙表	1
	879	ためらう	ためらふ	躊躇			13476		古典対照語彙表	23
	880	たゆたう	たゆたふ	揺蕩			13493		古典対照語彙表	0
	881	つくろう	つくろふ	繕			14060		古典対照語彙表	24
	882	とどのう	ととのふ	整			14768		古典対照語彙表	1
	883	とむらう	とぶらふ	訪・弔			14914		古典対照語彙表	0.5
	884	はじらう	はぢらふ	恥			17183		古典対照語彙表	2
	885	ふるまう	ふるまふ	振舞			19028		古典対照語彙表	3
	886	みならう	みならふ	見習			20657		古典対照語彙表	0
	887	やしなう	やしなふ	養			21800		古典対照語彙表	5

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数			
	888	よそおう	よそふ	装	四	は	22604	II	古典対照語彙表・金田	4			
	889	わずらう	わづらふ	煩			23275		古典対照語彙表		4		
	890	いきちがう	ゆきちがふ	行違			22180		古典対照語彙表		5		
	891	かかづらう	かかづらふ	拘			5446		古典対照語彙表		0		
	892	さしむかう	さしむかふ	向			9813		古典対照語彙表		0		
*	893	とぶ	とぶ	飛			ば		14899	I	古典対照語彙表・糸井・金田	7	
	894	よぶ	よぶ	呼					22709	I	古典対照語彙表・金田		25
	895	あそぶ	あそぶ	遊					486	I	古典対照語彙表・金田		19
	896	うかぶ	うかぶ	浮					2615	I	古典対照語彙表・金田		6
	897	えらぶ	えらぶ	選					3749	II	古典対照語彙表・金田		3
	898	おびる	おぶ	帯	4364	II			古典対照語彙表・金田		0		
	899	およぶ	およぶ	及	5249	I			古典対照語彙表・金田		7		
	900	ころぶ	ころぶ	転	9302				古典対照語彙表		140		
	901	さけぶ	さけぶ	叫	9665				古典対照語彙表		81		
	902	しのぶ	しのぶ	憊・忍	10797	I			古典対照語彙表・金田		1		
	903	すさぶ	すさぶ	遊	11675	I			古典対照語彙表・金田		0		
	904	ならぶ	ならぶ	並	15982	I			古典対照語彙表・糸井・金田		3		
	905	はこぶ	はこぶ	運	17015	I			古典対照語彙表・金田		4		
	906	まなぶ	まなぶ	学	19954	I			古典対照語彙表・金田		0		
	907	むすぶ	むすぶ	結・拘	20966				古典対照語彙表・糸井		47		
	908	むせぶ	むせぶ	咽	20971	I			古典対照語彙表・金田		0		
	909	ゆるむ	ゆるぶ	緩	22410				古典対照語彙表		7		
	910	かなしむ	かなしぶ	悲	6190				古典対照語彙表		3		
	911	よろこぶ	よろこぶ	喜	22812				古典対照語彙表		5		
	912	たちならぶ	たちならぶ	立並	13026				古典対照語彙表		0		
	913	もてあそぶ	もてあそぶ	弄	21284				古典対照語彙表		86		
	914	あむ	あむ	編	ま				979	II	古典対照語彙表・金田	2	
	915	うむ	うむ	生					3509	I	古典対照語彙表・糸井・金田		10
	916	うむ	うむ	倦					3507	II	古典対照語彙表・金田		1
	917	えむ	ゑむ	笑					23533		古典対照語彙表		0
	918	かむ	かむ	嗜・醸					6507	II	古典対照語彙表・糸井・金田		11
	919	くむ	くむ	汲					7760	I	古典対照語彙表・糸井・金田		2
	920	くむ	くむ	組					7761	II	古典対照語彙表・金田		4
	921	こむ	こむ	込					9153		古典対照語彙表		0.5
	922	しむ	しむ	染・泌					11014		古典対照語彙表		0
	923	すむ	すむ	住			11884	II	古典対照語彙表・金田		0.5		
	924	すむ	すむ	澄			11886	II	古典対照語彙表・金田		1		
	925	すむ	すむ	濟			11885		古典対照語彙表・糸井		8		
	926	つむ	つむ	摘・抓			14321	I	古典対照語彙表・金田		5		
	927	つむ	つむ	積			14322	I	古典対照語彙表・糸井・金田		10		
	928	とむ	とむ	富			14985		古典対照語彙表		1		
*	929	のむ	のむ	飲			16834	II	古典対照語彙表・糸井・金田		3		
	930	はむ	はむ	食			17445		古典対照語彙表		0		
	931	ふむ	ふむ	踏			18894	I	古典対照語彙表・糸井・金田		15		
	932	もむ	もむ	揉			21594	I	古典対照語彙表・金田		25		
	933	やむ	やむ	止			22073	I	古典対照語彙表・糸井・金田		0.5		
	934	やむ	やむ	病			22075	II	古典対照語彙表・金田		8		
	935	よむ	よむ	読・詠・数			22753	II	古典対照語彙表・糸井・金田		2		
	936	あかむ	あかむ	赤			79		古典対照語彙表		0		
	937	あゆむ	あゆむ	歩			1063	II	古典対照語彙表・糸井・金田		1		
	938	いたむ	いたむ	痛			1706	II	古典対照語彙表・金田		32		
	939	いどむ	いどむ	挑			2002	II	古典対照語彙表・金田		14		

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リ-ス	俚言形数
	940	おがむ	をがむ	拜	四	ま	23585	II	古典対照語彙表・金田	4
	941	おしむ	をしむ	惜			23666	II	古典対照語彙表・金田	11
	942	かがむ		屈む					大西	136
	943	かこむ	かくむ	囿			5684	I	古典対照語彙表・金田	1
	944	かすむ	かすむ	霞			5896		古典対照語彙表	5
	945	からむ	からむ	絡			6646	II	古典対照語彙表・金田	2
	946	きざむ	きざむ	刻			7100	I	古典対照語彙表・金田	2
	947	きばむ	きばむ	黄			7239		古典対照語彙表	1
	948	くぼむ	くぼむ	窪			7732	I	古典対照語彙表・金田	19
	949	このむ	このむ	好			8980	II	古典対照語彙表・金田	4
	950	しずむ	しづむ	沈			10677	I	古典対照語彙表・金田	25
	951	しぼむ	しぼむ	萎			10966		古典対照語彙表	25
	952	しらむ	しらむ	白			11325		古典対照語彙表	2
	953	すくむ	すくむ	竦			11618	I	古典対照語彙表・金田	17
	954	すすむ	すすむ	進			11722	I	古典対照語彙表・糸井・金田	6
	955	すずむ	すずむ	涼			11724		古典対照語彙表	5
	956	そねむ	そねむ	嫉			12359		古典対照語彙表	32
	957	そまる	そむ	染			12412		古典対照語彙表	2
	958	たたむ	たたむ	畳			12924	I	古典対照語彙表・金田	2
	959	たのむ	たのむ	頼			13281	II	古典対照語彙表・金田	1
	960	たわむ	たわむ	撓			13543		古典対照語彙表	45
	961	ちぢむ	(ちぢむ)	縮む					糸井	11
	962	つつむ	つつむ	包			14185	II	古典対照語彙表・糸井・金田	5
	963	つぼむ	つぼむ	苔			14273		古典対照語彙表	3
	964	どよむ	とよむ	響			15048	II	古典対照語彙表・金田	0
	965	なごむ	なごむ	和			15550		古典対照語彙表	1
	966	なやむ	なやむ	悩			15924	II	古典対照語彙表・金田	3
	967	にくむ	にくむ	憎			16120	II	古典対照語彙表・金田	4
	968	にらむ	にらむ	睨			16350	II	古典対照語彙表・金田	31
	969	ぬすむ	ぬすむ	盗			16428	II	古典対照語彙表・金田	38
	970	ぬるむ	ぬるむ	温			16465		古典対照語彙表	0
	971	ねたむ	ねたむ	妬			16548	II	古典対照語彙表・金田	63
	972	のぞむ	のぞむ	望			16699	I	古典対照語彙表・金田	1
	973	のぞむ	のぞむ	臨			16700	I	古典対照語彙表・金田	0
	974	はげむ	はげむ	励			17004	II	古典対照語彙表・金田	27
	975	はさむ	はさむ	挟			17024	II	古典対照語彙表・金田	16
	976	はずむ		弾む					大西	3
	977	はらむ	はらむ	孕			17510	II	古典対照語彙表・金田	5
	978	ひがむ	ひがむ	僻			17640	II	古典対照語彙表・金田	6
	979	ひそむ		潜む					大西	6
	980	ふくむ	ふくむ	含			18580	II	古典対照語彙表・金田	3
	981	めぐむ	めぐむ	恵			21108	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	982	やすむ	やすむ	休			21825	II	古典対照語彙表・金田	33
	983	ゆがむ	ゆがむ	歪			22133	I	古典対照語彙表・金田	34
	984	よどむ	よどむ	淀			22650		古典対照語彙表	12
	985	あわれむ		哀む					大西	0
	986	いとなむ	いとなむ	營			1966		古典対照語彙表	1
	987	うずめる	うづむ	埋			3320	I	古典対照語彙表・金田	1
	988	くろずむ	くろむ	黒			7937		古典対照語彙表	4
	989	つつしむ	つつしむ	慎			14161		古典対照語彙表	1
	990	はぐくむ	はぐくむ	育			16986		古典対照語彙表	1
	991	ふくらむ		膨む					大西	1
	992	ほほえむ	ほほえむ	微笑			19360		古典対照語彙表	1

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバー	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	993	まどろむ	まどろむ		四	ま	19939		古典対照語彙表	1
	994	なみだぐむ	なみだぐむ	涙含			15886			古典対照語彙表
	995	おもいしづむ	おもひしづむ	思沈			4985		古典対照語彙表	0
	996	いる	いる	入・要		ら	2537	I	古典対照語彙表・金田	2
	997	いる	いる	煎			2541		古典対照語彙表	0
	998	うる	うる	売			3623	I	古典対照語彙表・糸井・金田	2
	999	おる	をる	折			23836	II	古典対照語彙表・金田	68
	1000	おる	おる	織			5270	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1001	かる	かる	刈			6705	I	古典対照語彙表・金田	2
	1002	かる	かる	狩			6707		古典対照語彙表	0.5
	1003	きる	きる	切			7408	II	古典対照語彙表・金田	28
	1004	くる	くる	繰			7861	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1005	こる	こる	氷・凝			9268		古典対照語彙表	3
	1006	さる	さる	去・避			10125	I	古典対照語彙表・金田	26
	1007	しる	しる	知・領			11367	I	古典対照語彙表・糸井・金田	7
	1008	する	する	摺			11917	II	古典対照語彙表・金田	2
	1009	そる	そる	剃			12489	II	古典対照語彙表・金田	1
	1010	そる	そる	逸			12490		古典対照語彙表	2
	1011	ちる	ちる	散			13835	I	古典対照語彙表・金田	10
	1012	つる	つる	釣			14381	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1013	てる	てる	照			14493	II	古典対照語彙表・金田	2
*	1014	とる	とる	取			15202	II	古典対照語彙表・糸井・金田	12.5
	1015	なる	なる	成・為			16043	II	古典対照語彙表・金田	1
	1016	なる	なる	鳴			16045	I	古典対照語彙表・金田	1
	1017	ぬる	ぬる	塗			16459	I	古典対照語彙表・金田	38
	1018	ねる	ねる	練			16610	II	古典対照語彙表・金田	4
	1019	のる	のる	乗			16869	I	古典対照語彙表・糸井・金田	12
	1020	はる	はる	張			17532	I	古典対照語彙表・金田	8
	1021	ふる	ふる	降			18981	II	古典対照語彙表・金田	6
	1022	ふる	ふる	振			18980	I	古典対照語彙表・金田	10
	1023	へる		減る					大西	10
	1024	ほる	ほる	堀			19400	II	古典対照語彙表・金田	25
	1025	まる	まる	排泄			20090		古典対照語彙表	0
	1026	もる	もる	漏			21670	II	古典対照語彙表・金田	6
	1027	もる	もる	盛			21669	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1028	やる	やる	遣			22111	I	古典対照語彙表・金田	23
	1029	ゆる		揺る					大西	0
	1030	よる	よる	寄			22797	I	古典対照語彙表・金田	4
	1031	よる	よる	依			22798	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1032	よる	よる	縫			22799	II	古典対照語彙表・金田	3
	1033	よる		選る					大西	1
	1034	わる	わる	割			23357	I	古典対照語彙表・金田	16
	1035	あがる	あがる	上			100	I	古典対照語彙表・金田	11
	1036	あさる	あさる	漁			346		古典対照語彙表	16
	1037	あたる	あたる	当			537	I	古典対照語彙表・金田	3
	1038	あぶる	あぶる	炙			841		古典対照語彙表	11
	1039	あまる	あまる	余			960	II	古典対照語彙表・金田	5
	1040	いかる	いかる	怒			1405	I	古典対照語彙表・金田	0
	1041	いたる	いたる	到			1716	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1042	いのる	いのる	祈			2070	II	古典対照語彙表・金田	10
	1043	うかる		受る					大西	0
	1044	うつる	うつる	移・映			3336	II	古典対照語彙表・金田	7.5
	1045	うわる		植る					大西	0

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	1046	おくる	おくる	送	四	ら	3942	I	古典対照語彙表・金田	4
	1047	おこる	おこる	起			3989	II	古典対照語彙表・金田	1
	1048	おこる		怒る					大西	87
	1049	おごる	おごる	驕			3990		古典対照語彙表	13
	1050	おとる	おとる	劣			4214		古典対照語彙表	1
	1051	おわる	をはる	終			23774	I	古典対照語彙表・金田	14
	1052	かえる	かへる	帰			6423	II	古典対照語彙表・金田	16
	1053	かおる	かせる	薫			6759	I	古典対照語彙表・金田	1
	1054	かかる	かかる	掛			5478	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1055	かぎる	かぎる	限			5634	II	古典対照語彙表・金田	0
	1056	かける	かける	翔			5767		古典対照語彙表	14
	1057	かざる	かざる	飾			5823	I	古典対照語彙表・金田	2
	1058	かたる	かたる	語			6087	I	古典対照語彙表・金田	6
	1059	かぶる	かぶる	被・蒙			6356	II	古典対照語彙表・金田	5
	1060	かりる	かる	借			6708	I	古典対照語彙表・糸井・金田	0.5
	1061	かわる	かはる	変・代			6314	I	古典対照語彙表・金田	1
	1062	きどる	けどる	気取			8182		古典対照語彙表	0.5
	1063	くくる	くくる	括			7479	I	古典対照語彙表・金田	0
	1064	くぐる	くぐる	潜			7480	II	古典対照語彙表・金田	4
	1065	くさる	くさる	腐			7510		古典対照語彙表・糸井	37
	1066	くじる	くじる	抉			7528	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1067	くだる	くだる	下			7589	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1068	くねる	くねる	拗			7682		古典対照語彙表	2
	1069	くばる	くばる	配			7701		古典対照語彙表	7
	1070	くもる	くもる	曇			7790	II	古典対照語彙表・金田	9
	1071	けずる	けづる	梳・削			8178	I	古典対照語彙表・金田	28
	1072	こおる	こほる	氷			9105		古典対照語彙表	15
	1073	こぞる	こぞる	拳			8727		古典対照語彙表	0
	1074	こもる	こもる	籠			9194	II	古典対照語彙表・金田	1
	1075	さがる	さがる	下			9567	II	古典対照語彙表・金田	5
	1076	さぐる	さぐる	探			9656	I	古典対照語彙表・金田	6
	1077	さとる	さとる	悟			9919	I	古典対照語彙表・金田	1
	1078	さわる	さはる	障・触			9980	I	古典対照語彙表・金田	42
	1079	しかる	しかる	叱			10322		古典対照語彙表	0
	1080	しげる	しげる	繁			10404		古典対照語彙表	9
	1081	しばる	しばる	縛			10835	II	古典対照語彙表・金田	49
	1082	しぶる	しぶる	洪			10931		古典対照語彙表	7
	1083	しぼる	しぼる	絞			10974	II	古典対照語彙表・金田	8
	1084	しまる		閉る					大西	2
	1085	しめる	しめる	湿			11031		古典対照語彙表	16
	1086	すべる	すべる	退出			11814	II	古典対照語彙表・金田	44
	1087	すわる	すわる	座			11922		古典対照語彙表	102
	1088	せまる	せまる	迫			12127	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1089	そしる	そしる	謗			12309		古典対照語彙表	10
	1090	たかる	たかる	聚			12766		古典対照語彙表	13
	1091	たぎる	たぎる	滾			12794		古典対照語彙表	2
	1092	たたる	たたる	崇			12938		古典対照語彙表	2
	1093	たどる	たどる	辿			13219		古典対照語彙表	1
	1094	たまる	たまる	溜			13452		古典対照語彙表	1
	1095	たりの	たる	足			13525		古典対照語彙表・糸井	8
	1096	ちぎる	ちぎる	契			13628		古典対照語彙表	0
	1097	ちぎる	ちぎる	切			13629		古典対照語彙表	3
	1098	つくる	つくる	作			14049	II	古典対照語彙表・金田	14

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	1099	つまる	つまる	詰	四	ら	14301		古典対照語彙表	7
	1100	つもる	つもる	積			14333	I	古典対照語彙表・金田	5
	1101	とおる	とほる	通			14960	II	古典対照語彙表・金田	1
	1102	とまる	とまる	止・泊			14970		古典対照語彙表	9.5
	1103	ともる		灯る					大西	1
	1104	なおる	なほる	直			15799	II	古典対照語彙表・金田	2.5
	1105	なのる	なのる	名告			15746	I	古典対照語彙表・金田	0
	1106	にぎる	にぎる	握			16107	I	古典対照語彙表・金田	6
	1107	にごる	にごる	濁			16139	II	古典対照語彙表・金田	9
	1108	ねいる	ねいる	寝入			16493		古典対照語彙表	1
	1109	ねばる	ねばる	粘			16564		古典対照語彙表	12
	1110	ねむる	ねぶる	眠			16591	I	古典対照語彙表・金田	28
	1111	のこる	のこる	残			16684	II	古典対照語彙表・金田	2
	1112	のぼる	のぼる	上			16830	I	古典対照語彙表・金田	15
	1113	はいる		入る					大西	17
	1114	はかる	はかる	計			16962	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1115	はしる	はしる	走			17098	II	古典対照語彙表・金田	49
	1116	はやる	はやる	流行			17467		古典対照語彙表	3
	1117	ひかる	ひかる	光			17649	II	古典対照語彙表・金田	0.5
	1118	ひたる	ひたる	成長			17950		古典対照語彙表	2
	1119	ひねる	ひねる	捻			18216	II	古典対照語彙表・金田	13
	1120	ふける	ふける	耽			18596	II	古典対照語彙表・金田	10
	1121	ふとる	ふとる	太			18804	II	古典対照語彙表・金田	6
	1122	ほこる	ほこる	誇			19205	I	古典対照語彙表・金田	5
	1123	ほそる	ほそる	細			19248		古典対照語彙表	0
	1124	まいる	まゐる	参			20159	III	古典対照語彙表・金田	17
	1125	まがる	まがる	曲			19575	I	古典対照語彙表・金田	43
	1126	まくる		捲る					大西	3
	1127	まさる	まさる	勝			19716	I	古典対照語彙表・金田	4
	1128	まざる		混る					大西	1
	1129	まじる	まじる	混			19744	II	古典対照語彙表・金田	3
	1130	まつる	まつる	祭			19888	I	古典対照語彙表・金田	1
	1131	まもる	まもる	守			20064	II	古典対照語彙表・金田	2
	1132	まわる	まはる	廻			19995		古典対照語彙表	4
	1133	みいる	みいる	見入			20197		古典対照語彙表	0
	1134	みとる	みとる	見取			20609		古典対照語彙表	3
	1135	むしる	むしる	笔			20947	I	古典対照語彙表・金田	13
	1136	めぐる	めぐる	廻			21117	I	古典対照語彙表・金田	1
	1137	もどる	もどる	戻			21412	II	古典対照語彙表・金田	4
	1138	やどる	やどる	宿			21899	II	古典対照語彙表・金田	0
	1139	やぶる	やぶる	破			21923	II	古典対照語彙表・金田	91
	1140	ゆする	ゆする	揺			22248	I	古典対照語彙表・金田	15
	1141	ゆずる	ゆづる	譲			22273	I	古典対照語彙表・金田	1
	1142	よわる	よわる	弱			22836		古典対照語彙表	45
	1143	わたる	わたる	渡			23261	I	古典対照語彙表・金田	0.5
	1144	あきたる	あきたる	飽足			124		古典対照語彙表	0
	1145	あずかる		預る					大西	0.5
	1146	あつまる	あつまる	集			608		古典対照語彙表	18
	1147	あなどる	あなづる	侮			669		古典対照語彙表	30
	1148	あやまる	あやまる	誤			1034		古典対照語彙表	9
	1149	あやまる		謝る					大西	1
	1150	いひよる	いひよる	言寄			2315		古典対照語彙表	0.5
	1151	いろどる	いろどる	彩			2574		古典対照語彙表	0

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-ケ-リス	俚言形数
	1152	おこたる	おこたる	怠	四	ら	3957		古典対照語彙表	24
	1153	おしやる	おしやる	押遣			4079		古典対照語彙表	1
	1154	かさなる	かさなる	重			5806		古典対照語彙表	2
	1155	かたまる		固る				大西		8
	1156	くわわる	くははる	加			7695		古典対照語彙表	3
	1157	ことわる	ことわる	理・断			8917		古典対照語彙表	2
	1158	さえずる	さへづる	囁			10028		古典対照語彙表	13
	1159	さきちる	さきちる	咲散			9597		古典対照語彙表	0
	1160	さずかる		授る				大西		4
	1161	さだまる	さだまる	定			9866		古典対照語彙表	3
	1162	しづまる	しづまる	鎮・静			10673		古典対照語彙表	3
	1163	したたる	しだる	垂			10591		古典対照語彙表	5
	1164	たすかる		助る				大西		2
	1165	たたまる		畳る				大西		0
	1166	たちさる	たちさる	立去			13000		古典対照語彙表	4
	1167	たちよる	たちよる	立寄			13075		古典対照語彙表	4
	1168	たばかる	たばかる	謀			13300		古典対照語彙表	0
	1169	つたわる	つたはる	伝			14101		古典対照語彙表	0.5
	1170	つつまる		包る				大西		0
	1171	つらなる		連る				大西		1
	1172	とどまる	とどまる	止			14777		古典対照語彙表	5
	1173	なくなる	なくなる	無			15497		古典対照語彙表	40
	1174	ののしる	ののしる	喧・罵			16794		古典対照語彙表	22
	1175	はいいる	はひいる	這入			17376		古典対照語彙表	0
	1176	はさまる		挟る				大西		8
	1177	はじまる	はじまる	始			17062		古典対照語彙表	11
	1178	はばかり	はばかり	憚			17352		古典対照語彙表	3
	1179	ひろがる	ひろごる	拡			18392		古典対照語彙表	8
	1180	ふかまる		深る				大西		0
	1181	ふさがる	ふたがる	塞			18683		古典対照語彙表	10
	1182	へだたる	へだたる	隔			19094		古典対照語彙表	5
	1183	ほうむる	はふる	葬			17415		古典対照語彙表	2
	1184	まじわる	まじはる	交			19725		古典対照語彙表	2
	1185	みおくる	みおくる	見送			20236		古典対照語彙表	4
	1186	みかえる	みかへる	見返			20277		古典対照語彙表	3
	1187	みつかる		見付る				大西		3
	1188	むずかる	むつかる	憤			20983		古典対照語彙表	27
	1189	もうかる		儲る				大西		2
	1190	やすまる		休る				大西		1
	1191	わけいる	わけいる	分入			23162		古典対照語彙表	0
	1192	あやしがる	あやしがる	怪			1003		古典対照語彙表	0
	1193	あらたまる	あらたまる	改			1119		古典対照語彙表	1
	1194	あわれがる	あはれがる	哀			729		古典対照語彙表	4
	1195	おきあがる	おきあがる	起上			3827		古典対照語彙表	0.5
	1196	おしはかる	おしはかる	推量			4062		古典対照語彙表	1
	1197	おもいしる	おもひしる	思知			4999		古典対照語彙表	1
	1198	おもいやる	おもひやる	思遣			5131		古典対照語彙表	0
	1199	おもいよる	おもひよる	思寄			5138		古典対照語彙表	0
	1200	かしこまる	かしこまる	畏			5838		古典対照語彙表	2
	1201	くるしがる	くるしがる	苦			7865		古典対照語彙表	4
	1202	たづさわる	たづさはる	携			13100		古典対照語彙表	2
	1203	たちかえる	たちかへる	立帰			12979		古典対照語彙表	0
	1204	たちどまる	たちどまる	立止			13017		古典対照語彙表	4

活用 C-2 動詞語彙

優先	VLナンバ-	現代語形	古典語形	漢字表記	活用の類	活用の行	古典対照語彙表	アクセント類	テ-タ-ス	俚言形数	
	1205	たちのぼる	たちのぼる	立上	四	ら	13034		古典対照語彙表	0.5	
	1206	たてまつる	たてまつる	奉				13190		古典対照語彙表	1
	1207	とどこおる	とどこほる	滞				14764		古典対照語彙表	21
	1208	なきわたる	なきわたる	泣渡・ 鳴渡				15466		古典対照語彙表	0
	1209	ひっかかる		引掛る						大西	3
	1210	もちあがる		持上る						大西	5
	1211	よりかかる	よりかかる	寄掛				22775		古典対照語彙表	22
	1212	うけたまわる	うけたまはる	承				2666		古典対照語彙表	1
	1213	めづらしがる	めづらしがる	珍				21171		古典対照語彙表	1



## 琉球の視点

伊豆山敦子

### A 解説

#### 1. 伝統的琉球諸方言

奄美諸島から沖縄本島を経て先島諸島にいたる、南西諸島と呼ばれる地域の伝統的諸方言は、今日では消滅の危機に瀕している。

1940年の統計類によると、その人口は以下のものであった<sup>1</sup>。

奄美大島 11万、喜界島 2万、徳之島 4万6千、沖永良部 2万5千、与論 8600、

沖縄本島と離島 50万、宮古 6万5千、八重山 3万5千

沖縄本島の詳細：国頭郡 10万6千、中頭郡 14万6千、島尻郡 15万4千、那覇市 6万5千、  
首里市 1万9千

1950年の各地区の人口は次のようであった<sup>2</sup>。

沖縄 58万2611人、宮古 7万4,612人、八重山 4万3973人、大島 21万9,024人、計 92万余

この当時の成人人口は大体方言話者を意味していたと考えてよい。中高年の婦人達は殆ど方言で生活するのが普通であった。

2000年度の沖縄県統計年鑑によると、平成12年の県総人口は、132万1,024人。1950年から増加し続けている<sup>3</sup>。

しかし、現在では、人口は方言の話し手を意味してはいない。1950年の10才以上の人口は、1995年の55才以上にあたる。上述の統計年鑑によると、1995年、沖縄県の総人口127万3,440人中、55才以上の人口は、27万9,394人である。転出入を考え合わせると、方言話者は、この数より相当少ないと考えられる。仮に25万としよう。

この統計の市町村別は、10の市、本島の2郡37村、宮古郡5村、八重山郡2町、計54市町村に分かれているから、単純に25万人を54で割っても1町村あたり、4千600人程度である。

しかも、現在の行政区画と方言の違いとは一致しない。例えば石垣市の中には、市街地の方言の他に、川平、宮良、白保、その他異なる方言があり、竹富町という一つの中に、

---

<sup>1</sup> 世界言語概説，p. 317

<sup>2</sup> 注1と同じ。

<sup>3</sup> これは、沖縄県の統計だから、奄美諸島の人口は含まれていない。

黒島、竹富、小浜、波照間、鳩間、新城、古見、祖納、等々異なる方言がある。

同様に平良市の中には、狩俣のように異なる方言があり、下地町といっても、来間島のように異なる方言もある。

本島でも、今帰仁村のように大きな村は、与那嶺と天底で異なる。国頭村の中には、阿波、奥、辺土名、安田など各々異なる方言が多い。本島中部・南部の詳しい方言事情も、ほとんど報告されていない。こう考えると方言的には54行政区で割るわけにはいかない。

更にまた、方言の使用度は、その人の生活環境(その1世代前の両親との同居期間の有無、共通語地域での生活の長さなど)によって、異なっている。1世代前と違って、現在、共通語を用いないで公共生活をおくるわけにはいかないのである。無意識のうちに共通語に影響されるから、その選び分けが難しくなる。

このように考えれば、ある1方言の文法を調査するために、話者を探すのも難しくなってきた事情がわかるであろう。大都市の人口と小さな島の1集落の人口との差を思えば、話者の数が数人ということも珍しくないことが理解されるだろう。それ程、急速に話されなくなってきたのである。

このような理由で、今、琉球諸方言のどの方言にせよ、どの面にせよ、共時的研究は重要なのである。書かれることはなかったが、毅然とした1言語体系を持っている方言の研究は、日本語の研究にとっても、一般的な言語研究にとっても実り多いものにちがいない。そして、どこの方言も調査者としての「あなた」を待っているのである。

## 2. 琉球方言の文法

琉球方言の共時的文法研究は、残念ながら無いに等しい。教育のための研究書も作られたが、それらは方言話者が共通語を学ぶためのものであり、琉球諸方言を学ぶ為のものではなかった。つまり共通語の方からのみ、眺められていたのである。実用的な目的の為なのであるから、しかたがないことであった。

更に、方言研究は歴史的関心が先行して、限られた形だけが採り上げられ、論じられていた。特に音韻・語彙的な関心は強く、そのお陰で辞書は刊行されたが、文法を1言語システムとして研究されることは無いに等しかった。共通語(ないし上代語)に翻訳されることが主要であった。

動詞・形容詞など、活用する語に関する研究は本土の枠組みでのみ記述され、それ以外は殆ど顧慮されず、テンス・アスペクト・ムードなどは、本土方言と異なるにも関わらず殆ど研究されていない。

更に、琉球諸方言は変化に富んでいた。島嶼に広がっていたせいもあり、同じ琉球方言の中でも互いに解らないといわれるほどの違いさえある<sup>4</sup>。それらが、どのように異なり、どのように似ているか、文法的な枠組みで明示されたこともなかった。

近年まで、島々への交通に時間がかかり、十分な調査ができなかったのだから、これもしかたがないことかもしれないが、そのため、本土の国語・日本語研究者に十分な情報がな

---

<sup>4</sup> 同じ八重山でも、宮良の話者は、与那国方言はわからないし宮古方言も解らないと言う。

く、「日本語」の中で、琉球の諸方言がどのような位置をしめるのか、常に曖昧であった。

主要方言でさえ、文法書といえるものはないのである。つまりその方言を話したいと思っても、参考になるような研究書が殆ど無い(または、手に入らない)のが実情である。従って、方言自体に焦点を当てた共時的調査が緊急に期待されている。

### 3. 調査の着眼点

方言は話し言葉である。その方言を「話せるように」と思えば多くのことを調べたくなる。「話せる」ということには、音韻・語彙・文法以外の社会的心理的文化的要素等も含まれるが、その中から、文法的要素を抽出するという試みも、楽しい良い訓練である。

### 4. 研究の現状を示す基本的文献(刊行順)

- Chamberlain, Basil Hall (1895) “Essay in Aid of a Grammar and Dictionary of the Luchuan Language”. Tokyo, Z. P. Maruya & Co., Ltd
- 宮良当荘(1930)『八重山語彙 附八重山語総説』東洋文庫
- 岩倉市郎(1941)『喜界島方言集』中央公論
- 金城朝永(1944)『那覇方言概説』三省堂
- 服部四郎・金城朝永(1955)「琉球語」『世界言語概説 下巻』pp. 318-353 研究社
- 服部四郎(1959)『日本語の系統』岩波書店
- 服部四郎(1960)「奄美大島諸鈍方言の動詞・形容詞終止形の意義素」『言語学の方法』所収 pp. 401-412 岩波書店
- 鈴木重幸(1960)「首里方言の動詞のいいきりの形」『国語学』41
- 国立国語研究所(1963)『沖縄語辞典』大蔵省印刷局
- 平山輝男・中本正智(1964)『琉球与那国方言の研究』東京堂
- 平山輝男・大島一郎・中本正智(1967)『琉球先島方言の総合的研究』明治書院
- 柴田武(1972)『全国方言資料第10巻琉球編Ⅰ』pp. 17-55・『第11巻琉球編Ⅱ』pp. 24-60 日本放送協会
- 法政大学沖縄文化研究所(1975年～現在)『琉球の方言』(1～25号)
- 長田須磨・須山名保子(1977)『奄美方言分類辞典上巻・下巻』笠間書院
- 仲宗根政善(1983)『今帰仁方言辞典』角川書店
- 中松竹雄(1987)『琉球方言辞典』那覇出版社
- 亀井孝 et al. (1992)『言語学大事典』4巻『琉球列島の言語』pp. 771-814 三省堂
- 池間苗(1998)『与那国言葉辞典』私家版
- 生塩睦子(1999)『伊江島方言辞典』伊江村教育委員会

以上の文献でも解るように語彙集・辞書が多く、文法は、あっても形の記述が主体で、解説は極めて少ない。

## 5. 調査を始める前に

- (1) その方言関連の事を、何でもいいから好きになろう。例えば、そこの景色、海や空の色、食べ物、芸能、話者の方等々何でもいいから何か一つ。(たくさんならもっといい。)
- (2) 話者に会う方法もいくつかある。一般的には教育委員会に頼むことが多いが、筆者にはその経験がない。もし、筆者同様の普通の人なら、いろいろな方法がある。
  - ① 土地出身者でなければ、必ず宿を取らなければならないから、土地の人が経営する宿を選び、そこで紹介してもらう。
  - ② 小さな「しま(村)」なら、しまなかのお店(新しいスーパーではない)、郵便局、JA、等の方々、老人会の世話役の方、土地のタクシーやバスの運転手さん、島通いの船主さん等、その土地を知っている方との出会いから、協力して下さる話者が現れるだろう。
  - ③ インターネットにも土地の情報がある。要するに、どこに行っても「方言方言」と喚けばいい。「案ずるより産むが易し」だから、ご縁のあった話者との出会いを大切にしよう。
- (3) 「調査させて下さい」より「教えてください」にしよう。理由はあるが、単純に、もし自分が誰かに「あなたの言葉を調査させて下さい」と言われるのと「教えてください」と言われるのと、どちらが好ましいか考えてみよう。

後の資料の取り扱いや発表に関しても、話者は「先生」なのだ。全て許可をお願いしよう。
- (4) 少なくとも話者の名前・年齢・男女別は記そう。それを発表するかどうかは別問題。前述のように許可を得よう。消滅の危機に瀕した言語の場合年齢は大切だから、発表できるように理解を得よう。男女別もできれば発表させて貰おう。
- (5) 方言調査以外の雑談も、調査に関係ないと思わないで楽しく聞こう。すぐ、例文作りなどに役立つし、話者の背景を知ること大切。また、親しみも増える。
- (6) 「あなたの話者を信じなさい。」基本的に、話者が間違えることはない。間違えるのは調査者の方だ。質問の仕方が悪かったり、解釈が悪かったり、話者の状態を観察せず無理したり、それから人間だから一寸したミスがあるのは当然だと思わなかったり等々。
- (7) 必ず録音をしよう。できれば、初めから終わりまで全部(勿論許可が必要)。
- (8) 解ったことがあった時は、話者の方にも伝わるように喜びを表そう。何を喜んでいるのか良く解らなくても、相手も同様に嬉しくなるものだし、感謝も伝わる。
- (9) 調査時は、気楽になるような雰囲気になろう。方言は普段着なのだから、調査者も普段着でやろう。話者が思わず同輩知人に話す積りになれるように。
- (10) 言葉だけではなく、話者の表情その他も大切である。自信ありげか、興味なさそうか、昔懐かしそうか等々。解釈や、今後の調査の参考になる。
- (11) 調査が、思うほどは、うまくいかなくても、こう思うことにしよう。「何かが好きになり、誰かと交流できたのは得がたい事だった。自分で方言に接することができただけでも収穫だった。この次は、この土台の上で、何かが得られるに違いない」と。そして例外なくその通りになる。

## 6. 調査を始める時

- (1) 具体的な人と場を設定する。「書く」「書かない」・・・というのは、既に抽象化である。抽象化は話者の仕事ではない。それは、調査者の仕事なのだ。(話者の内省を大切にすることとは違う。話者の内省は勿論尊重する。)
- (2) 会話する人物を少なくとも **3人**設定しよう。話し手、聞き手、それ以外。
- (3) 話し言葉では、ただ「書く」ということはない。何か書きたいものを見て「書く。」と言ったのか、「書く？」と尋ねたのか、誰が誰に、どんな時、言ったのか明瞭にする。
- (4) 肯定・否定・質問などは、本土共通語と同じだと思わず、丁寧に調べる。
- (5) 無い形、無い表現などは、「無い」ということを確かめておく。これこそ文献資料と異なる、フィールドワークの有利な点なのだ。
- (6) 敬語を調べたいのであれば、基礎的なものから調べた方がいい。現在では、既に、日常あまり方言を使わない場合が多いので、子供の時を思い出すように設定した方が好都合だろう。親兄弟姉妹・親しい親戚とその子供達の中から選ぶのが無難。夫婦間は敬語を使うことがあるから、注意。(親から子へ、夫から妻へ、が無難)

## B 項目

### 調査項目

注記のない実例は、八重山(石垣宮良)方言である。それ以外からも適宜異なる方言を採用し、未発表の事実も採用した。諸方言の共時的研究は未だ不十分だから、これらの項目以外も必要になるだろう。調査者に期待するところは大きい。

### 1. 表記

琉球方言は変化に富んでいる上、調査もまだ不十分だから、音韻が決定されていない方言もある。先行研究の記述が納得いかない時もある。その時は、音韻の決定が先決だと拘ることはない。それは疑問のままにして、先へ進もう。文法的な事実から観察が精密になったり、解釈ができたりすることもある。とにかく一応の簡略音声表記を心がけよう。

ここでは印刷の都合で次のように書き換える。

Φ→hw/hu, f→sj, dz/z→z, ʒ/ɟ→zj, ʃ→c, g→g, ŋ→G, 成節鼻音→N, 成節無声子音→Q, 無気喉頭化音→大文字, その他変種には大文字を随時使う。

### 全く知識のない方言を調査する際の注意事項

- (1) 各方言間で音声面も異なりはするが、先行研究で大まかな見当をつけておく。但しそれにとらわれると、かえって難しくなることがある。自分の耳を信頼しよう。
- (2) 基礎語彙(名詞)を集め、音韻的な問題点がどこにあるか大体的見当をつける。
- (3) 本土方言の形の上での対応語を常に意識しておく。
- (4) 話者の内省(音の異同)を尊重する。調査者は意識的に発音して、話者が「いい」と言ってくれるまで、練習する。すぐ出来なくても努力だけはする。
- (5) その音(韻)の見本となる単語を見つけておき、疑問の時には、それを照合する。
- (6) 音韻論的解釈が十分出来なくても先に進もう。常に完璧は目指すけれど、到達できるかどうかは神仏の分野だと……。進むうちに解ることもある。言語は体系なのだから。

### 2. 代名詞

通常のとおり、1人称、2人称それぞれの単数・複数形を採取する。

- (1) 代名詞の形は語形変化する。私、私は、私の、私が、私を、私も等々の各変化形を取る。無助詞独立形は、「もしもし」と呼ばれ「私？」という場合。戸の外で(最近は電話で)、声で自分だと知らせる「誰？」への答えなど。2人称も同様にする(多くの場合平行的な形ではない)。

宮良の例を図示する。助詞つきは与那国からの例示である。

宮良	1人称	2人称	自己称	3人称	再帰
単数	ba:~banu	wa:~wanu	×	uri	na:ra
複数	banda:	wada:	baga:	uQta:	naQta:
うち	baNca	waQca	baga:	×	naQca

(与那国) uja Nda iri kuja aGa iruN. Nda munu, aGa munu  
 それはあんたがして これは 私がする あなたの物 私の物  
ano: aTa ja buranuN. Nda aTa ja bu: na: ?  
 私は 明日は 居ない お前は 明日は いるか  
anu ja numanuN. ×aGa ja (普通に勧められた時)  
 私 は 飲まない  
Nda Ga buru na ? aGa ja buranuN. u Ga buruN do.  
 あんた が 折るの か 私 は 折らない 彼 が 折る よ  
 kari Ga ja buttaNtiN aGa ja buranuN.  
 彼 が は 折っても 私 は 折らない

- (2) 3人称は一寸難しい。指示代名詞との兼ね合いがある。3系列(コソア)のうちの一つが人称代名詞である可能性もある。単数複数が形態的に区別されることも頭に入れておく。現場指示と文脈指示。物も人も共通に指せるかどうか。文脈指示に多出するものに注意する。3系列のうち1系列は、人を指し難いということもよくある。
- (3) 1人称単数形「私」に当たる語が2個(以上)ある方言もある。それも文体的に異なるのではない。その場合は、複数形も各々単数形に対応して2形ある。歴史的に重要だから形だけでも採集する。また、「私はしない」と「私がする」の「私」が異なる方言もある。

(来間) aga kakadi ⇐ baga kakadi  
 私が 書く 私が 書く  
baga kakadi / aga kakadi aba kakadjan (×baga kakadjan)  
私が 書く 私が 書く 私は 書かない

- (4) 1人称複数形は特に注意する。あなた(達)に対する「私達」(baNda:)と、彼(等)に対する「私達(自己称)」(baga:)とが異なる(しかもさまざまなレベルで)方言が多い
- ① 「彼等は…するけど私達は…しよう。」(敵味方に分かれる場合など)
- ② 新しいお嫁さんに「ここが私達の畑(お墓)だよ」と教える。他人に言う時と比較。  
 (来間) du:ta: paka (pari). baNta: paka (pari)  
 自分達の 墓 畑 私達の (まだ家族と認められていない感じ)
- ③ 孫に「お家に行こう」。友達に「家に行こう」。うち」にどう言うか。  
 бага: ge: hara. baNca ge: hara.  
 家 に行こう(孫に言う) うち に行こう(他人に言う)
- ④ 他村に嫁ぐ娘に「私達の(村)の風習はこうだけど、あちらは…」

- (5) 3人称の再起代名詞的なものの存在を単数複数形(**na:ra, natta:**)ともに確かめる。(1・2人称にも同じ形があるのか、違う形を使うのかも確かめる。)

単・複を確かめるのには、個人使用の物と家族使用の物(家は普通複数)を考える。

「黙って持っていっちゃった」と思い違いする。「Aさんは自分のを持って行ったんだよ。」

(与那国) uja sa: munu.

それは 彼自身の物 (彼が自分の物を持っていった)

借りた鍋 nabi を持っていった人がいる。勝手に持っていったかと思って、

A: kari Ga mutti hjuN. B: je: ure: sji: munu

彼 が 持って行った えー あれは 彼ら自身(彼のうち)のもの

- (6) 文体的に異なる形—例えば2人称の敬語形—があるときは序にそれに伴う「はい」に当たる返事の形も採っておくと便利

(沖縄語辞典) ?jaa, naa, ?uNzu 他

返事(はい)の例(辺土名) u:, o:, i:, 3種類がある。

- (7) 指示詞

単数 kuri (uri) kari 人を指せるかどうか

複数 kuQta: (uQta:) kaQta:

場所 kuma (uma) kama ① こっちへお出で。②一寸そこまで。

- (8) 副詞的代名詞(こう、そう、ああ)

指示詞と必ずしも並行的でない。

aNzji, kaNzji, (×kuNzji, ×uNzji)

そう こう

### 3. 名詞(固有名詞) 補助詞

基礎語彙表を使って調べる。勿論、動詞などと同時に調査してもいいが、調査を単純化するために、何十個くらいは知っていた方が便利である。基礎語彙表になくても次のような語彙は心がけておく。

十二支 :年齢が正確にわかるという利点もある。(お年寄りには数え年の場合もある)

数え方 (一つ、二つ…一人、二人…一束、一回…)

次の音の対応語: ワ行音(井草、亥、苧、襟など)、

エ段の音を含む語 イ段の音を含む語

語頭のハ行音対応語～カ行音対応語

ガ行音対応語

ラ行音(特に音節リ)

- (1) 助詞「は」相当の語が接する時、名詞の語末音節は形を変えることが多い。それを先ず調べる。そのためには例文の作り易さから人名を用いるといい。その場合、嘗ては(昭和10年位まで)、戸籍名の他に方言名を持つのが常だったから、それを採取しながら

「誰々はいる」「誰々はいない」のようにすると楽しい。人名は最終音節に限られているかもしれないが、全体の見当がつくから、その後で名詞の語末音節(含む成節的子音)全部を調べる。これにより、逆に名詞の語末音が判明することもある。

(平良西仲)

長母音 V:→+ ja sjinsji:先生→sjinsji: ja

短母音 a→a: pana花→pana:, u→o: fumo,雲→fumo:, i→ja: ami,雨→amja:

子音 m→mma, num蚤→numma, n→nna, in犬→inna, v→vva, pav蛇→pavva

子音 Z(2重母音の後部要素として記されることが多い)

Z→zza, maZ米→mazza, piZ針→pizza, tuZ鳥→tuzza

長子音 m:→mma, m:芋→mma(:)

短母音 I -bl + -za kabI紙→kabIza -gl + -za mugI麦→mugIza

-kl + -za kakI垣→kakIza kl + -sa iskakI石垣→iskakIza

-sl→ssa junusI人名→junussa- tsI→-ttsa matsI人名→mattsa

-zl→-ttsa tuzI妻→tuttsa

- (2) 「これは…だ」という時も同様なことがある方言もある。

(黒島)ure: nu: ja. (これは何か)に対する返事

sabaN nawaja:. kiN na waja:. sa: jawaja:. pe: jawaja:. ki: jawaja.

茶碗だ 着物だ 茶だ 緋だ 木だ

hata waja:. para waja:. usje waja:. izo waja:.

肩(hata)だ 針(parI)だ 牛(usji)だ 魚(izu)だ

- (3) 「へ」相当の語が接する時も同様なことが起こる方言もある。

(黒島) hama-ha, iso-ho, hanu piso ho, usje he, iN ha

あそこへ 磯へ あの人(pisu)へ, 牛(usji)へ, 犬(iN)へ

- (4) 「が」相当の語の接し方も注意する。多くの方言で、物と人で異なる。代名詞を含め留意しておく。

(沖縄語辞典) wa: ga, ari ga, siNsii ga, tui nu, tiida nu,

私が 彼が 先生が 鳥が 太陽が

- (5) 琉球の諸方言には「…だ」に相当するコプラがある。(2)であげたのがその一例だから、名詞と一緒に採集してもいい。動詞のように語形変化をするから注意。また、「ある」と同じ語がその役を担う方言もある。言い切る時は普通現れない方言もある。

(言語学大辞典他)

首里	今帰仁	平良	石垣	与那国	名瀬
jaN	eN~jar-	jaI	jaN	aN	zja~?a-

## 4. 動詞

### 常時必要な予備知識

- ①日本語動詞の5段・上下1段活用。「する」「来る」「ある」「いる」など変格活用動詞。
- ②日本語5段活用動詞終止形末尾母音の直前の子音(または母音)

③先に調べた代名詞の知識（行為者が誰かにより動詞形が異なる）

### 注意事項

- ① 語形変化を調べながらテンス・アスペクト・ムード等にも気を配る。各分野集中というのもいいが、それでは話者も楽しくない。ある程度は総合的にやって、見当がついてから各分野を集中的にしたほうが調査者も話者も慣れる。
- ② 本土方言の形と **1対1** に対応するとは限らない。重要動詞(含変格活用動詞)は特に注意。勿論文法的範疇も **1対1** に対応するとは限らない。対応しないと思って始めた方が安全である。
- ③ 本土 **5** 段活用対応動詞、上下 **1** 段活用対応動詞、「する」「来る」「ある」「いる」など変格活用動詞は、常時注意している。**5** 段動詞は、語幹末子音が軟口蓋音である方が区別(口蓋化・非口蓋化)を持っている可能性が高い。
- ④ 「書く・書かない・書きたい・書く時・書けば・書け・書いた・書いて」などから始めても場合によってはいいが、それでは話者が楽しくない。調査者も共時的に大切な形を取りこぼす。なるべく臨場感があるような場面を設定した方がいい。既述したように、話者の内省は大切にすが、抽象化を話者に求めてはならない。
- ⑤ 琉球諸方言では、多くの場合、話し手が重要である。話し手の **modus** 的な面(認識、判断のあり方)を常に注意する。自分(**1** 人称)の行為か、相手(**2** 人称)の行為か、話し合っている二人に無関係な他者(**3** 人称)の行為か常に確かめる。質問文の時に明瞭になることが多い。
- ⑥ 話し手が、その行為を見て(経験して)いるかどうかということは常に重要である。更に話し手が確認したかどうかも重要である。

### 項目

(1) **3** 人(以上)を設定する。その行為と話し手は、どういう関係であるかをはっきりさせておく。①話し手の行為か、②話し手とそれに属する人の行為か、③話し相手の行為か、④第3者の行為か。⑤物(現象)の行為—「咲く」「降る」「(風が)吹く」「枯れる」—か、など。

① ba: kakuN. /?      ③ wa: kakuN? × wa: kakuN.      ④ atsuko kakuN. /?  
私 書く。/?      あんた書く?      あんた書く。      敦子 書く。/?

② baNda: kakuN.      baga: kakuN? × baga: kakuN.      cf. baga: kaka.      ba: kaka.  
私達 書く      私達 書く?      私達 書こう      私 書こう

③ wa: kakuN? 答えて① ba: kakanu.      × ba: kakanu do:.  
あんた書く?      私 書かない。

② baga: kakuN? 答えて baga: kakanu do:.      × baga: kakanu.  
私達 書く?      私達 書かない。

⑤ hana sakuN. /? 答えて sakuN.  
花 咲く。/?      咲く

①話し手とそれ以外では異なることが多い。

(平良西仲)肯定と否定

(a) ta: ga kakadi? 誰が書くのという質問に答えて

baga kakadi. atsuko ga du kakI (gamata). ×atsuko ga kakadi

私が 書く 敦子が 書く

(b) kaki 返事して kakamba. / kakadjan. (話し手本人)

書け 書かない 書かない

しかし karja: kakan ×kakadjan

彼は 書かない

(2) 質問がどんな風にできるか。2 人称主体では、質問だけが可ということもある。①質問にならない形もある。②話し相手の行為と 3 人称の行為、③行為の確認、見ながらか、見えていないか④ 3 人称の行為を見ながら確認質問ができるかどうか。内省の参考例も付した。

① ba: atugani kakjaN. ×wa: atugani kakjaN./? ×atsuko: atugani kakjaN?

私は 後で 書く

② (久場)

(a) ?ja: kacumi? しかし (×)(?) atsuko kacumi?

あんた書く 敦子 書く この時は以下の方が好ましい

atsuko ja kacuga ja: 答えて kacu isani

敦子 は 書くかな 書くんじゃない

(b) 敦子と一緒に隣室で手紙を書いているが、途中で出て来た人に

?ja: tigami kaco:mi? (動作見えない)

あんた手紙 書いている

atsuko kaco:ti:?

×atsuko kaco:mi?

敦子 書いていた

敦子 書いてる

(c) ?ja: tigami kaci:?

× atsuko kaci:?

あんた手紙書いた(書き終わったと思っている)

atsuko kacuti: ?

敦子 書いてた (敦子が見ているのを見たか)

③ (a) taraNdaru muno: wa: kakiN? kakiN.

頼んだ 物は あんた書いてる? 書いてる (動作は見えない)

(b) wa: kakiN? (動作は見えない) ×wa: kakiN? (動作が見えている時)

あんた書いてる?(戸に遮られて見えない) 書いているのを見ながらでは不可。

(c) wa: tigami du kakiru? wa: tigami kaki duru? (共に動作が見えている)

あんた手紙を書いているの?あんた手紙書いているの(書かなくてもいいのに)

④ (a) A: atsuko: nakiN? B: nakiN.

敦子 泣いてる? 泣いてる。(泣いているらしい後姿を見ながら)

そこで、敦子の所に行って ×atsuko: wa: nakiN? (動作は見えている)  
敦子 あんた泣いてる

内省「wa: nakiN? というと泣くことを楽しんでいるような気がする。」

(b) (久場)泣いている人のところに行って 見ながら確認の質問はできない。

nu:ga naco:ru × ?ja: naco:mi ?

どうして泣いてるの あんた泣いてるの?

内省「泣くことを要求しているような気がする。泣くべきなのに泣いていないのか」

(c) (久場)第3者どうしても、動作を見ながらでは(b)同様 × atsuko naco:mi ?

A: are: naciru uNna: B: naco:Ndo:

彼は 泣いているのね 泣いているよ(理由が良くわかっている)

- (3) 疑問詞のある質問文。いわゆる係り結びの形だが、注意して調べる。行為が具体的に決まっているかにどうかにより、異なることがある。係りを必ずしも必要としない。既に決定していても話し手が知らない場合に注意。質問文の動詞形と答えの動詞形にも注意する。

① ta: du kaku? atsuko Ndu kaku. no:du kaku? ba: unu zI: du kaku.  
誰が 書くの 敦子が 書く。 何を 書く 私 この 字を 書く。

② ta: du kakja? atsuko Ndu kakjaN.  
誰が 書くの。 敦子 が 書くの。(敦子が書くことが既に決まっている)

① zI: ja no: sa:ri (du) kaku? hudi sa:ri (du) kaku.  
字は 何 で 書くの。 筆 で 書く。

② kunu zI: ja no:sa:ri (du) kakja? hudi sa:ri (du) kaku. × kakja  
この 字 は 何 で 書くの 筆 で 書く

② (平良西仲) ta: ga kakja:? 答えて kai / бага du kakI (ga mata). × kakadi  
誰 が 書くの (書く人が決まっている) 彼 / 私 が 書く

③ (平良西仲) no:ju ga kakacca. 答えて tigami ju. (du kakI)  
何を 書くの 手紙 を × kakadi × kakacca

- (4) 話し手がその行為(行動)を「見て(直接経験)」いるかどうかは重要である。基本的に見ていないというのは無いという方言が多い。多くの琉球方言では、現在時制とは話し手の認識の上にあるのだが、過去というのも無限ではない。過去とは、話し手の経験中の過去であって、それ以外は伝聞にしなければならないという方言も多い。

① ami nu huiriki mukaina: kuN\_co:

雨 が 降ってるから 迎えに 来るってよ (電話で言付けがあった)

② ba: maridakeNja kazji Ndu hukida co:. Cf. kIno: kazji Ndu hukida.

私の生まれた時は風が吹いていたんだと 昨日は 風 が 吹いた

- (5) 相手を見ながら確かめる場合は、いわゆる係り結びがあるから、構文的に注意が必要である。他動詞と自動詞を意識的に調べる。

wa: tigami du kakiru? wa: du tigami kakiru? wa: tigami kaki duru?

あんた手紙を書いているの あんたが 手紙書いているの あんた手紙書いてなんかいる

× wa: du nakiru?                      ? wa: naki duru?  
 あんたが泣いてるの                      あんた泣いてなんかいるの(泣くこと無いのに)

- (6) 「死ぬ」も必要だが「縁起が悪い」からなるべく鼠やゴキブリに例をとる。無意思動詞として「咲く」「降る」などとの共通性があることもある。

ba: tigami kakiruNkeN wa: ikite ku:. ba ikite kuNkeN wa: tigami kakiruN?  
 私 手紙 書いている間 あんた 行って来い 私 行って来る間あんた手紙書いている  
 ×ba: sjiniruN. ×ujaNco: siniruN. ×ami huiruN. ×hana sakiruN.  
 私 死んでいる 鼠は 死んでいる 雨 降っている 花 咲いている

- (7) 動作を見ているか、見ていないか。また、相手から自分の行動が見えているかどうかが必要な条件であることは多い。「電話で話す(見えない)」というのも使い甲斐がある。確認しながら話すことになる。

①A: taraNdaru muno: kakiN?                      B: kakiN. (道端、戸を隔てて等の会話)  
 頼んだ 物は 書いている                      書いている

A(電話で): no: du hi: uru. (hi:ru 可)      cf. 対面では普通 no: du hi:ru.  
 何を している                      何を している

taraNdaru muno: kakiN?      B: kaki uruN. (kakiN 可、対面では kikiN)  
 頼んだ もの 書いている                      書いている

A: atsuko: kakiN? (Aからは見えない)      B(見て): kaki duru. (kakiN 可)  
 敦子は 書いている                      書いている

- ②見ながらの叙述(質問文になるかどうかとも確かめる)

wa: kakiso:.                      ba: kakaNtiN misjaN.  
 あんたが書いている      私は 書かなくて いい (相手が書いているのを見ながら)

ba: kakiso:.                      wa: kakana:rja. (自分が書きながら)  
 私 書いているの      あんた 書かないで

- (8) その行為が話し手にとって、望ましいか望ましくないか。意に反するか。同じ動作でも、異なることがある。

- ①(辺土名)

(a) 敦子のお母さんが亡くなったので、友人がその親類の人に尋ねる。

友人: atsuko maco:ti: na. ×nakiti:na      親類: naco:taN.  
 敦子 泣いてたか                      泣いてた

(b) 敦子が非行少女で親に反抗して家出していた。ところが、親が亡くなったので帰ってきた。そこで同居の親類の人に尋ねる。

A: atsuko nakiti:na      ×naco:ti:na                      親類: nakitaN  
 敦子 泣いてたか                      泣いてた

A: arigaN nakite:ssa ja: ×nace:ssa ja:  
 あれまでも 泣いたんだね      泣いたんだね

(b)は泣く行為が望ましい(ちゃんと泣いた)。

- ② ×wa: hwa: ja nakiN? (体が弱くて泣く力もない子が泣いてるかという時は可)  
 あんたの子は泣いてる (ちゃんと泣いてるか)
- ③ unu bi:ca: mata ki:CaN. Cf. atsuko ki:Ta.  
 この酔っ払いまた来ちゃった 敦子 来た (敦子を待っていた)
- ④. **kakaba mucu harja.** × **sInaba** (代わりに sInuKa:)  
 書いたら持って行け 死んだら(死にたがっているよう)
- (9) 話し手の判断と叙述。及びその質問のあり方。
- ① jagati ami hwo:N./? しかし ×ami hwo:N?  
 間もなく雨 降る(黒雲を見ながら) 雨 降る
- ② atsuko kakIso:. wa: higu kakja. × atsuko kakIso:?  
 敦子 書くよ あんた早く書け
- ③ (平良西仲) kai ga kakIm do: . Cf. kai ga du kakI (ga mata). (彼が書く)  
 彼が 書くよ (ほら今書こうとしてるよ。あんた早く行って書け)
- (10) 初めての判断であるか(発見)、期待していたことであるか。思いがけないことか。  
 遠くから来る人を見て、それが敦子だとわかった時、  
 atsuko juN. atsuko jaruN. atsuko jarjaN. atsuko jare:rjaN.  
 敦子 だ 敦子なんだ 敦子なんだった 敦子 なんだったんだ
- (11) 日常的な、習慣的なことかどうか。
- ① ba: mainitsI sjiNbuN jumuN.  
 私 毎日 新聞 読む
- ② ba: gaQko: ge: haru.  
 私 学校 へ 行く(今学校へ行く子供が母に言う)
- ③ (平良西仲) ba: ja mainitsI tigami ju kakI. cf. бага kakadi. kari ga du kakI.  
 私は毎日 手紙 を 書く 私 書く 彼が 書く
- (12) 過去のな時制では、先ず過去の語(昔、昨日、去年、…の時)との共存を見る。  
 mukasa: ju: tigami kakIda. kInu du kakIda.  
 昔は よく 手紙 書いた 昨日 書いた  
 (上記は 1・3 人称ともに可、しかし書いたのを見知っていなければならない。同様な時は、見知っていない場合についても調べる。)
- (13) 順番にする行動。(もう書いたか、まだか)  
 全員が順番に黒板に出て書くことになっている。先生が生徒に確かめて、  
 先生: wa: kakiTa? 生徒: me:da kakanu.  
 あんた書いた(書き終わったか) まだ 書かない(てない)(生徒は書きに出る)  
 Cf. 隣室で書いている人々のうち一人が途中で出て来た。もう済んだのかと思い、  
 A: wa: kakiTa? B: me:da kakanu.  
 あんた書いた まだ 書かない(てない)(書いている途中)
- (14) 瞬間的な認識。赤ちゃんが縁側から「落ちる」「落ちた」などが便利。瞬間動詞でも、その落ちた(上から離れる時)／起きた(目を開けた時)を確かめることも心がける



(g) 忘れていた場所に来て思い出し、 ba: manta Nga ke:N.  
私 前 に 来た(ことがある)

(h) 犬の足跡があつて床が汚れている。 iN nuNdu arage:ru.  
犬 が 歩いたんだ

(17) 使役には、直接の使役と、人に言ってやらせる間接の使役の接辞がある。一段対応動詞に注意

- ① kak-u- 書く kaka-hu- 書かせる kaka-sjimiru- 人に言って書かせる  
② uk-iru- 起きる uka-hu- 起こす uka-sjimiru- 人に言って起こす  
③ ak-iru- 開ける × aki-sjimiru- 人に言って開けさせる

### 書く(実例は石垣宮良方言)

例文は、話者との兼ね合いで場面を設定する。ある程度すると話者の方も面白がり、「こんな人もいるから」と条件をつけたり、後回しにしたり、遠慮したりといろいろな形、表現が出てくる。それらを整理して、次は形の規則性の方から確認していく。参考を記す。

●何か書くことになった。(学校・会合・黒板に、書類を、記録等々わいわいがやがや)

①「誰が書く?」「私が書く。」「私も書く。」「あんた書きなさい。」「何を書くの?」  
“ta: du kaku?” “ba: du kaku.” “banuN kakuN.” “wa: kakja.” “no: du kaku.”

②「あんたも書く?」「私は書かない。」「書けばいいのに。」「じゃ、書こう。」「  
“wanuN kakuN?” “ba: kakanu.” “kakja: misja:ru munu.” “anzuKa: kakuN.”

③「あんた書きたい?」「書きたくない。」「書く人がいないなら、私が書くよ」  
“wa: kakIpusuN?” “kakIpusanu.” “kaku pItu urana:Ka: ba: kakuN.”

●「敦子が書くよ」「敦子が書く?」「敦子は書かないよ」「敦子は書くだろう」  
“atsuko: kakuN.” “atsuko: kakuN?” “atsuko: kakanu.” “atsuko: kaku hazI.”

●書く人を敦子に決めたところで、光子が入ってきて問う。

「誰が書くの?」「敦子が書くんだよ」  
“ta: du kakja?” “atsuko Ndu kakjaN.”

●希望者が多い。「みんなで書こう」  
“(baga:) ma:zoN kaka”

●グループ対抗「あの人達は早く書くけど、私達はゆっくり書こう」  
“uQta: hajamari kakabaN baga: jurQtu kaka na:.”

●順番に書くことになった。  
「あんたもう書いた?」「まだ書いてない」「あんたは?」「書いた」  
“wa: kakiTa?” “me:da kakanu.” “wa: kakiTa?” “kakiTa.”

「敦子は書いた?」「書いたよ。」  
“atsuko: kakiTa?” “kakiTa.”

●「敦子は書いた?」「今書いてるよ。」「陽子は書いてた?」「書いてる(のを見た)。」  
“atsuko: kakiTa?” “nama du kakiru.” “jo:ko: kakida?” “kakida.”

●書いたものを見ながら

「これは誰が書いたの」「敦子が書いたの(敦子が書くのを見た)」

“kure: ta: du kake:ru?” “atsuko Ndu kakIda.”

「これは誰が書いたの」「名前があるから、敦子が書いたんだ(書くのは見ていない)」

“kure: ta: du kake:ru?” “na: nu ariki, atsukoN du kake:ru na:?”

●道端で出会って、「頼んだもの書いてる?」「書いてる」

“taraNdaru muno: kakiN?” “kakiN”

その書類を取りに行く。「頼んだの書いた?」「書いてある。」

“taraNdaru muno: kake:N?” “kake:N.”

取りに来た時まだ書いている最中

戸を隔てて見えないとき “nama kakiN.” 見えるとき “nama du kakiru”

●「頼んだもの書かなくてよくなった。書いちゃった?」「あら。書いちゃった。」

“taraNdaru muno: kakaNtiN misjaN. wa: kakiCaN?” “agajo: kakiCaN.”

●「何処で書く?」、「何で書く?」、「どう書く?」

“zImaNga du kaku?” “no: sa:ri du kaku” “no:ba hi du kaku/kakja:?”

このくらいでひとまず整理して足りない形を調べる。

例えば 書く **kakiN** : **kakuN**,

: : **(kakiruN)**

起きる **ukiN** : **ukiruN**,

**(× ukuN)**

4 形の上表のように見れば、**kakiruN**, **ukuN**, があるかどうか知りたくなる。すると、**kakiruN** は限られた用法でも実在するが、**ukuN** は無いということがわかる。勿論状況に応じて他の動詞を用いることも心がける。

## 5 . 形容詞

### 注意事項

- ①語幹と語尾に注目する。
- ②語尾の形に注意する。方言により異なる。

### 項目

(1) 語尾が動詞と同様か異なるか。違った語尾があるか。どのような違いか。

- |                        |           |                     |             |
|------------------------|-----------|---------------------|-------------|
| ① sane- <u>he-N</u>    | 嬉しい(と感ずる) | kake:- <u>N</u>     | 書いてある(と認める) |
| sane-he:- <u>da-ru</u> | 嬉しい       | kake:- <u>da-ru</u> | 書いてある       |
| sane-he:- <u>da</u>    | 嬉しかった     | kake:- <u>da</u>    | 書いてあった      |

②2 種の語尾(佐和田)

- |                            |     |                                  |          |
|----------------------------|-----|----------------------------------|----------|
| (a) pukaras <u>Imunu</u> : | 嬉しい | pukaras <u>Imunu</u> <u>atam</u> | 今日は嬉しかった |
| (b) pukaras <u>Ikam</u>    | 嬉しい | pukaras <u>Ikam</u>              | 嬉しかった    |

③(伊良部)

Nmaham 美味しい(食べてから言う) Nmamunu  
 fufumunu 黒い × fufuham

④(黒島) haijaN 美しい sanijaN うれしい  
 akahaN 赤い ma:haN うまい

⑤形容詞語尾の母音が、語幹末音と呼応することがある。

語幹	a	u/o	i/e	I	i:
語尾	-haN	-hoN	-heN	-saN	-sjaN

takahaN(広い), pisohoN(広い), kaiheN(美しい), si:saN(すっぱい), p:sjaN(寒い)

(2) 主観的形容詞(大体シク活用に対応)と客観的形容(大体ク活用に対応)が形として異なる(首里、黒島)場合もあるが、接辞で異なる時もある。

① ba: saneheN. atsuko: sanehe huN. × atsuko saneheN.

私 嬉しい 敦子は 嬉しくする(喜ぶ)

② ba: sanehe: du aQta. atsuko: sanehe: du sIta.

私 嬉しかった 敦子は 嬉しくした(喜んだ)

×ba: sanehe: du sIta. ×atsuko: sanehe: du aQta.

(3) この「する」を意味する動詞との結合は琉球方言に広くあるので注意する。

(4) 動詞と同様な語尾を持つ場合は動詞との整合性に注意する。

kju: ja pi:sjadaru. 外に出て冷たい風にあたって pi:sjaN.  
 今日 寒い 寒い

以上

### 方言文法調査ガイドブック

科学研究費基盤研究(B) (2)

「文法体系のバリエーションに関する対照方言学的研究」  
(1998-2001年度, 課題番号 10410097) 研究成果報告書

科学研究費基盤研究(B) (1)

「方言における文法形式の成立と変化の過程に関する研究」  
(2002-2005年度, 課題番号 14310196)

発行 2002年3月 (2002年12月増刷)

編者 大西拓一郎

連絡先 115-8620 東京都北区西が丘 3-9-14 国立国語研究所  
大西拓一郎 TEL 03-5993-7630

電子メール takoni@kokken.go.jp

# 方言文法調査ガイドブック

可能	渋谷勝己
自発	渋谷勝己
ボイス	日高水穂
テンス・アスペクト	木部暢子・沖裕子・井上文子
条件表現	三井はるみ
接続詞	沖裕子
格助詞	小林隆
モダリティ	井上優
活用	大西拓一郎
琉球の視点	伊豆山敦子